

日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シタルトキハ船長ハ最初ニ到着シタル地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

前二項ノ規定ニ從ヒテ假船舶國籍證書ヲ請受クルコト能ハサルトキハ其後最初ニ到着シタル地ニ於テ之ヲ請受クルコトヲ得

第十四條

日本船舶カ滅失若クハ沈没シタルトキ、解撤セラレタルトキ又ハ日本ノ國籍ヲ喪失シ若クハ第二十條ニ掲クル船舶トナリタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ抹消ノ登録ヲ爲シ且遲滞ナク船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ六個月間分明ナラサルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ船舶所有者カ抹消ノ登録ヲ爲ササルトキハ管海官廳ハ一個月内ニ之ヲ爲スヘキコトヲ催告シ正當ノ理由ナクシテ尙其手續ヲ爲ササルトキハ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲スコトヲ得

第十五條

日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者カ其取得地ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域内ニ船舶港ヲ定メサルトキハ其管海官廳ノ所在地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ船長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス但捕獲ヲ避ケントスル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ此限ニ在ラス

日本船舶カ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ニ非サル旗章ヲ掲ケタルトキ亦前項ニ同シ

第二十三條

第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス

第二十四條

官吏ヲ欺キ船舶原簿ニ不實ノ登録ヲ爲サシメタル者ハ二月以上三年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リテ處斷ス

第二十五條

第六條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條

第七條ノ規定ニ從ヒテ日本ノ國旗ヲ掲ケサルトキハ船長ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條

第七條ニ定メタル事項ヲ船舶ニ標示セサルトキ又ハ第八條乃至第十二條若クハ第十四條ノ規定ニ違反

第十六條 外國ニ於テ船舶ヲ取得シタル者ハ其取得地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條

外國ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有效期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

日本ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有效期間ハ六個月ヲ超ユルコトヲ得ス

前二項ノ期間ヲ超ユルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ更ニ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十八條

船舶カ船籍港ニ到着シタルトキハ假船舶國籍證書ハ有效期間滿了前ト雖モ其效力ヲ失フ

第十九條

第十一條乃至第十四條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第二十條

前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶及ヒ端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第二十一條

前條ニ掲ケタル船舶ノ船籍及ヒ其積量ノ測定ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條

日本船舶ニ非スシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日

シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條

第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ノ規定ハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條

第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ニ定メタル罪ニ付テハ刑法數人共犯ノ例ヲ適用セス

第三十條

第二十七條ノ場合ニ於テ刑法〔第七十八條乃至第八十條〕ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ罪ヲ論スヘカラサルトキハ其法定代理人ヲ罰ス

第三十一條

第二十七條ノ規定ハ船舶管理人又ハ商會社其ノ他ノ法人ノ代表者若クハ清算人ニ之ヲ適用ス

第三十二條

管海官廳ノ事務ハ外國ニ在リテハ日本ノ領事又ハ貿易事務官之ヲ行フ

第三十三條

本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス〔明治四十四年十月一日ヨリ施行〕

第三十四條

船舶ノ登記ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第三十三條

本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス〔明治四十四年十月一日ヨリ施行〕

第三十四條

船舶ノ登記ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム



明治十九年法律第一號登記法中船舶ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

**第三十五條** 商法第五編ノ規定ハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テセサルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラス

**第三十六條** 明治三年正月二十七日布告商船規則、同十二年第五號布告、同年第十九號布告、同十四年第十二號布告其他ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

**第三十七條** 本法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ登錄ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從ヒテ船舶國籍證書ヲ請受クルマテハ登簿船免狀又ハ船鑑札ハ船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス

**第三十八條** 本法施行ノ際登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキ場合ニ於テハ其假免狀ハ有效期間ノ滿了ニ至ルマテハ假船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス但船舶カ船籍港ニ到著シタルトキハ此限ニ在ラス

第一章 總 則

**第一條** 本則ニ於テ船舶ノ種類ト稱スルハ汽船、帆船ノ別ヲ謂フ

機械力ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶ハ蒸氣ヲ用ユルト否トニ拘ハラズ之ヲ汽船ト看做ス  
主トシテ帆ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶ハ機關ヲ有スルモノト雖モ之ヲ帆船ト看做ス

**第二條** 淺深船ハ推進器ヲ有セザレハ之ヲ船舶ト直做サス

**第三條** 船籍港ハ市町村ノ名稱ニ依ル但市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ市町村ニ準スヘキ區劃ノ名稱ニ依ル

船籍港ト爲スヘキ市町村及之ニ準スヘキ區劃ハ船舶ノ航行シ得ヘキ水面ニ接シタルモノニ限ル

船籍港ハ當該船舶所有者ノ住所、若シ住所カ前項ノ規定ニ該當セザルトキハ其最寄ノ地ニ之ヲ定ムヘシ但住所カ日本ニナキ場合其他已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス

船舶所有者前項但書ノ認可ヲ受ケントスル時ハ其住所ヲ管轄スル管海官廳又ハ領事ヲ經由シ申請書ヲ提出スヘシ  
**第四條** 左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

登簿船假免狀ノ有效期間カ滿了シタルトキト雖モ已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ船長ハ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

**第三十九條** 第十四條ノ規定ハ本法施行前ニ同條ニ掲ケタル事由カ生シタルモ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサル場合ニ之ヲ準用ス但同條ニ定メタル二週間ノ期間ハ船舶所有者カ本法施行前ニ事實ヲ知りタルトキト雖モ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

本法施行前ニ踪跡ヲ失ヒタル船舶ニシテ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサルトキ亦同シ

前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

**第四十條** 本法施行前ヨリ存否カ分明ナラサル船舶ニシテ未タ舊法ノ期間カ經過セサルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル六個月ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

**第四十一條** 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

◎船舶法施行細則(明治三十二年六月十二日 逓信省令第二十四號)

書ノ受有前ト雖モ最寄管海官廳ノ認可ヲ受ケ船舶ヲ航行セシムルコトヲ得

- 一 試運轉ノトキ
  - 二 積量ノ測度ヲ受ケントスルトキ
  - 三 正當ノ事由アルトキ
- 管海官廳ニ於テ前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ前項第一號ノ場合ヲ除クノ外第六號書式ノ航行認可書ヲ交付ス

**第五條** 左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ受有前ト雖モ船舶ニ國旗ヲ掲クルコトヲ得

- 一 祝日、大祭日但外國ノ祝祭日ニ付テハ其國ノ港ニ碇泊スル場合ニ限ル
- 二 前號ノ外祝意又ハ敬意ヲ表スルトキ
- 三 進水ノトキ
- 四 前條ノ規定ニ依リ船舶ヲ航行セシムルトキ

**第六條** 船舶ノ積量若クハ登錄ニ關スル事項又ハ其標示ヲ照査スル爲必要アリト認ムルトキハ検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨檢スルコトヲ得

**第七條** 本則ノ規定ニ依リ管海官廳ニ書類ヲ差出スヘキ場合ニ於テ代理人ヲ使用スルトキハ其權限ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ



第二章 積量ノ測度

第八條 船舶法第四條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請セントスル者ハ附録第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ申請書ノ外造船地、造船者、進水ノ年月及船舶ノ原名ヲ證スル書面ヲ差出サシムルコトヲ得

總噸數約五百噸以上ニシテ旅客ヲ搭載セントスル船舶ニ付テハ管海官廳ハ前項ノ書面ノ外尙船體中心線縱截面圖及各甲板平面圖ヲ差出サシムルコトヲ得

第八條ノ二 前條ノ申請者カ支那ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル帝國法人ナルトキハ大正十四年勅令第三百二十七號(大正十四年法律第五十二號支那ニ於ケル帝國法人ノ所有スル船舶等ニ關スル件施行ニ關スル勅令)第一條ノ規定ニ依ル領事官ノ認定ヲ受ケタルコトヲ證スル書面ヲ申請書ニ添付スルコトヲ要ス

第八條ノ三 船舶法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ改測ヲ申請セントスルモノハ申請書ニ改測ヲ受ケントスル部分及改測ノ爲メ検査官吏ノ臨檢ヲ受ケントスル場所ヲ記載シ管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第十三條 外國ニ於テ船舶ノ積量ノ測度又ハ改測ヲ行ヒタル場合ニ在リテハ富該官廳ハ遲滞ナク船舶積量ヲ管轄スル管海官廳ニ關係書類ヲ送付スヘシ

支那ニ船籍港ヲ定ムル船舶ニ對シ大正十四年勅令第三百二十七號第三條第二項但書ニ依リ內國ノ管海官廳ニ於テ積量ノ測度ヲ行ヒタル場合亦前項ニ同シ

第十四條 船舶報ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域外ニ在ル船舶ニ付積量ノ測度又ハ改測ノ申請アリタル場合ニ於テ第九條第一項但書ノ事由ニ依リ船舶ヲ其管轄區域內マテ航行セシムルコト能ハサルトキハ該官廳ハ船舶所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ第十二條及第十二條ノ二ニ規定スル事務ヲ囑託スルコトヲ得

第十五條 (削除)

第十六條 國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ內國ニ於テ製造スル船舶ニ付テハ其竣工前ト雖モ最寄管海官廳ニ積量ノ部分測度ヲ申請スルコトヲ得

第十條第十二條及第十二條ノ二第一項ノ規定ハ前項ノ場合ニ於テ

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

第八條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 積量ノ測度又ハ改測ハ船舶検査執行地ニ於テ之ヲ行フ但船舶ノ構造、航路ノ狀況又ハ其他ノ事由ニ依リ船舶ヲ検査執行地マテ航行セシムルコト能ハサル場合ニ於テ管海官廳ノ認可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第十條 積量ノ測度又ハ改測ヲ申請スル者ハ測度又ハ改測ヲ受クルニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第十一條 (削除)

第十二條 管海官廳ニ於テ積量ノ測度又ハ改測ノ申請ヲ受ケタルトキハ検査官吏ヲシテ船舶ニ臨檢シ附録第二號書式ノ船舶件名書及別ニ定ムル書式ノ船舶積量測度表ヲ調製セシムヘシ

第十三條ノ二 管海官廳ハ積量ノ測度ヲ行ヒタル場合ニ在リテハ船舶件名書ノ謄本ヲ申請書ニ交付シ第八條第二項ノ規定ニ依リ差出シタル書面アルトキハ之ヲ還付スヘシ

管海官廳ハ積量ノ改測ヲ行ヒタル場合ニ於テ既ニ登録シタル事項ニ變更アリト認メタルトキハ其變更ニ係ル事項ヲ申請者ニ通知スヘシ

合ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ船舶件名書ノ謄本ヲ申請者ニ交付スルトキハ同時ニ船舶積量測度表ノ謄本ヲ交付スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ船舶件名書及船舶積量測度表ノ謄本ヲ受ケタル者第八條ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ該謄本ヲ申請書ニ添付スヘシ

第三章 船舶ノ登録

第十七條 船舶法第五條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ登録ヲ爲スニハ申請書ニ登記ノ謄本ヲ添へ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第十七條ノ二 管海官廳ハ前條ノ申請書ヲ受ケタルトキハ關係書類ヲ調査シ長二十メートル以上ノ船舶ニ在リテハ左ノ事項ヲ船舶原簿ニ登録ス

- 一 番號
- 二 信號符字
- 三 種類
- 四 船名
- 五 船籍港
- 六 船質
- 七 帆船ノ帆裝



- 八 上甲板梁上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長
- 九 船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅
- 十 長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ舷側ニ於ケル上面ニ至ル深
- 十一 總噸數
- 十二 總積量
  - 上甲板下ノ積量
  - 上甲板上蔽圍シタル場所ノ積量
  - 船首樓ノ積量
  - 船橋樓ノ積量
  - 船尾樓ノ積量
  - 甲板室ノ積量
  - 艙口ノ超過積量
  - 機關室ノ積量
  - 其他ノ場所ノ積量
- 十三 控除積量
  - 船員常用室ノ積量
  - 荷足水艙ノ積量
  - 機關室ノ積量

- 帆船ノ帆庫ノ積量
- 其他ノ場所ノ積量
- 十四 純積量
- 十五 純噸數
- 十六 機關ノ種類及數
- 十七 推進器ノ種類及數
- 十八 造船地
- 十九 造船者
- 二十 進水ノ年月
- 二十一 原名
- 二十二 所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルトキハ各共有者ノ持分
- 長二十メートル未滿ノ船舶ニ在リテハ前項第一號乃至第十一號、第十四號乃至第二十二號ノ事項及左ノ事項ヲ登録ス
- 一 總積量
  - 上甲板下ノ積量
  - 上甲板上蔽圍シタル場所ノ積量
- 二 控除積量

第十七條ノ三 信號符字ハ「アルハベツト」

四文字ヲ以テ之ヲ表示ス

信號符字ハ總噸數百噸以上ノ船舶ニ之ヲ點附ス總噸數百噸未滿ノ船舶ニ付テハ船舶所有者ノ申請ニ依リ信號符字ヲ點附シ又ハ取消スコトヲ得

第十七條ノ四 信號符字ノ點附又ハ取消ハ之ヲ官報ニ告示ス

第十八條 船舶ノ名稱ヲ變更セントスル者ハ其事由ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第十九條 管海官廳ニ於テ船舶ノ名稱ノ變更ヲ許可スルハ左場ノ合ニ限ル

- 一 前所有者ノ氏名、名稱又ハ之ト同一ト認ムヘキ名稱ヲ有スル船舶ヲ取得シタルトキ
- 二 船舶ノ名稱ニ番號ヲ冠附シ又ハ冠附シタル番號ヲ變更若クハ削除スルトキ
- 三 所有者ニ於テ船舶ノ名稱ノ爲メニ著シキ不便ヲ受ケルトキ

第二十條 甲管海官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ變更スル場合ニハ甲管海官廳ニ變更ノ登録ヲ申請スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ甲管海官廳ハ其船舶ニ關スル船舶原簿

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

ノ謄本及其附屬書類ヲ乙管海官廳ニ移送シ該船舶原簿ヲ閉鎖ス

船舶原簿ノ謄本ニハ現存セル登録ノミヲ謄寫ス  
乙管海官廳ハ第二項ノ規定ニ依リ移送ヲ受ケタル謄本ニ依リ其船舶原簿ニ登録ヲ移ス

第二十一條 船籍港甲管海官廳ノ管轄區域内ヨリ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シタルトキハ管海官廳ハ申請ヲ待タス前條第二項乃至第四項ノ手續ヲ爲ス

第二十二條 第十七條ノ二第二項第三號、第六號、第七號、第十六號又ハ第十七號ノ事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ變更ノ登録ヲ爲サントスル者ハ變更ニ係ル新舊事項ヲ申請書ニ列記シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ検査官吏ヲシテ船舶ニ臨檢シ附錄第二號書式ニ準シ船舶件名書ヲ調製セシムヘシ但第二十三條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請書ニ臨檢報告書ヲ添附シテ差出シタルトキハ此限ニ在ラス

第二十三條 船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域外ニ船舶ノ所在スル場合ニ於テ前條ノ登録ヲ爲サントスルトキ



ハ船舶所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ臨檢ヲ申請シ臨檢報告書ノ交付ヲ受クルコトヲ得

前項ノ臨檢報告書ハ前條第一項ノ申請書ニ之ヲ添附スヘシ

第二十四條

第十二條ノ第二項ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ變更ノ登録ヲ爲サントスル者ハ變更ニ係ル新舊事項ヲ申請書ニ列記シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第二十五條

船舶所有者ノ變更アリタルトキハ新所有者ハ申請書ニ變更ノ事實ヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證ヲ添附シテ變更ノ登録ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ハ船舶所有者ノ氏名若クハ名稱、住所又ハ共有者ノ持分ノ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條

行政區畫、其名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船舶原簿ニ記載シタル行政區畫、其名稱又ハ地番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス字又ハ其名稱ノ變更アリタルトキ亦同シ

第二十七條

船舶法第十四條第一項ノ規定ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲サントスル者ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ抹消ノ登録ヲ爲シタルコトヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟

證ヲ添ヘ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合及船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲シタル場合ニ於テ管海官廳ハ其船舶原簿ヲ閉鎖ス

第二十七條ノ二

船籍港ヲ管轄スル登記所ヨリ抹消ノ登録ヲ爲シタル旨ノ通知ナキ船舶ニ付船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲シタルトキハ當該管海官廳ハ遲滞ナク左ノ事項ヲ其登記所ニ通知スヘシ

- 一 船舶ノ種類、名稱及總噸數
- 二 船舶所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 三 抹消ノ登録ヲ爲シタル原因
- 四 抹消ノ登録ヲ爲シタル年月日

第二十八條

船舶所有者ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ疏明シ登録ノ訂正ヲ申請スヘシ

第二十九條

何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請シ又利害ノ關係アル部分ニ限り船舶原簿ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第四章 船舶國籍證書及假船舶國籍證書

第三十條

管海官廳ニ於テ第十七條ノ二ニ依リ船舶ノ登録ヲ爲シタルトキハ附錄第三號書式ノ船舶國籍證書ヲ申請者ニ交付ス

第三十一條

船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セントスル者ハ變更ノ登録ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第三十二條

第二十六條ノ規定ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第三十三條

船舶國籍證書ノ毀損ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ船舶國籍證書ノ滅失ニ依リ更ニ之ヲ請受ケントスルトキ亦同シ

第三十四條

第三十一條又ハ前條ノ申請ヲ受ケタル管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交付ス但第二十二條第一項ノ場合ニ於テハ乙管海官廳之ヲ交付ス

第三十五條

船舶國籍證書ノ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付アリタルトキハ遲滞ナク舊證書ヲ返還スヘシ

第三十六條

船舶法第十三條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ請受ケントスル船長ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ假船舶國籍證書ニ記載スヘキ事項ヲ證明スルニ必要ナル書類アルトキハ其書類ヲ添ヘ當該管海官廳ニ差出スヘシ

船舶國籍證書ノ毀損又ハ船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ依リ前項ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ假船舶國籍證書ノ交付アリタルトキハ遲滞ナク船舶國籍證書ヲ返還スヘシ

第三十七條

船舶法第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ請受ケントスル者ハ第五號書式ノ申請書ニ所有權ノ取得ヲ證スル書面ヲ添ヘ當該管海官廳ニ差出スヘシ

第三十七條ノ二

假船舶國籍證書ノ書式ハ附錄第四號書式ニ依ル

第三十八條

假船舶國籍證書ノ有効期間ハ其船舶ノ船籍港ニ回航セントスル場合ニ於テハ到達スヘキ期間ヲ標準トシ其ノ他ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得ル期間ヲ標準トシ船舶法第十七條ニ定ムル期間内ニ於テ當該管海官廳之ヲ定ム

第三十九條

假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生



シタルトキハ申請書ニ新舊事項ヲ列記シ最寄管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ  
第三十二條乃至第三十五條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

**第四十條** 假船舶國籍證書ハ其效力ヲ失ヒタルトキ又ハ船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ最寄管海官廳ニ返還スヘシ

**第四十一條** 本章ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ説明スヘシ

船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スベキ場合ニ於テ返還セサルトキハ其無効ナルコトヲ官報ニ公告ス

**第四十二條** 船舶所有者ニ於テ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ説明シ訂正ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ

**第四十二條ノ二** 船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ英譯書ヲ請受ケントスル者ハ最寄管海官廳ニ之ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ英譯書ヲ交付スヘシ

英譯書ノ書式ハ別ニ之ヲ定ム

**第四十二條ノ三** 第四十二條ノ規定ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ英譯書ニ之ヲ準用ス

**第四十二條ノ四** 船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ英譯書ヲ受有スル者ハ原證書ヲ返還スルトキ之ヲ管海官廳ニ返還スヘシ但毀損ニ依リ原證書ヲ返還スル場合ハ此限ニ在ラス

**第五章 國旗及船舶ノ標示**

**第四十三條** 船舶ハ左ノ場合ニ於テ國旗ヲ後部ニ掲クヘシ

- 一 帝國軍艦ヨリ要求セラレタルトキ
- 二 帝國ノ燈臺又ハ海岸望樓ヨリ要求セラレタルトキ
- 三 外國ノ港ヲ出入スルトキ
- 四 外國貿易船帝國ノ港ヲ出入スルトキ
- 五 法令ニ別段ノ定アルトキ

**第四十四條** 船舶ニ標示スヘキ事項及其標示方法ハ左ノ如シ

- 一 船首兩舷ノ外部ニ船名、船尾外部ノ見易キ場所ニ船名及船籍港名ヲ十センチメートル以上ノ國字ヲ以テ記スルコト

ナク其標示ヲ改ムヘシ

**第六章 登録稅、手数料及旅費**

**第四十八條** 登録稅法ノ規定ニ從ヒ登録稅ヲ納付スルニハ左ノ區別ニ依リ相當ノ收入印紙ヲ貼用シタル登録稅納付書ヲ登錄ノ申請書ニ添ヘテ差出スヘシ

- 一 第十七條ノ場合ニ於テハ登録稅法第四條第一項第一號
- 二 船籍港以外ノ登録事項ノ變更ニ依リ登録ヲ爲ス場合ニ於テハ登録稅法第四條第一項第四號
- 三 第二十七條ノ場合ニ於テハ登録稅法第四條第一項第三號
- 四 船籍港變更ノ場合ニ於テハ登録稅法第四條第一項第二號

**第四十九條** 登録稅法第四條第一項第四號ニ付テハ第十七條ノ二各號ノ事項ノ變更ヲ以テ每一箇トス

**第五十條** 登録稅納付書ニハ船舶ノ名稱、總噸數及稅金額ヲ記載シ登録稅法第四條第一項第四號ノ場合ニ於テハ變更ノ箇數ヲモ記載スヘシ

**第五十條ノ二** 船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲シタル場合ニ於テハ當該管海官廳ハ遲滞ナク左ノ事項ヲ船舶所有者ノ住所又ハ船舶管理人ノ住所ヲ管轄スル稅務署ニ通知スヘシ

**第四十五條** (削除)

**第四十六條** 船舶ノ標示ハ明瞭ニシテ久ニ耐ユル方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

**第四十七條** 標示スヘキ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞

二 中央部船梁其他適當ノ所ニ船舶ノ番號、總噸數及純噸數ヲ彫刻シ又ハ之ヲ彫刻シタル板ヲ釘著スルコト

三 船首及船尾ノ外部兩側面ニ於テ喫水ヲ示ス爲船底ヨリ最大喫水線以上ニ至ルマテ二十センチメートル毎ニ十センチメートルノ重刺比亞數字ヲ以テ喫水尺度ヲ記シ數字ノ下端ハ其數字ノ表示セル喫水線ト一致セシムルコト

四 長二十メートル以上ノ船舶ニ在リテハ積量測定ニ於テ純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除シタル室及場所ノ見易キ所ニ其室名又ハ使用ノ目的ニ相當スル名稱ヲ記スルコト

特殊ノ構造ヲ有スル爲前項ノ規定ニ依リ難キ船舶ニ在リテハ検査管吏ノ相當ト認ムル方法ニ依リ前項ノ事項ヲ標示スルコトヲ得

第一項第三號ニ依ル喫水尺度ノ外英尺ニ依リ喫水尺度ヲ標示スル場合ニ於テハ羅馬數字ヲ以テ之ヲ記載スヘシ



- 一 船舶ノ種類、名稱及總噸數
- 二 船舶所有者又ハ船舶管理人ノ住所、氏名又ハ名稱
- 三 抹消ノ登録ヲ爲シタル年月日
- 四 登録稅額

第五十條ノ三 船舶法第四條又ハ同法第九條ノ規定ニ依リ

船舶ノ積量ノ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ附錄船舶積量測度手數料表ニ定ムル測度手數料ヲ納付スヘシ

申請人ノ都合ニ依リ測度ノ申請ヲ取下ケ又ハ船舶カ測度ヲ要セサルモノトナリタル場合ト雖測度著手後ナルトキハ測度手數料ヲ徵收ス改測ノ場合ニ付亦同シ

第五十條ノ四 前條ノ測度手數料ハ其金額ニ相當スル收入

印紙ヲ測度手數料納付書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ  
前項ノ測度手數料納付書ニハ船舶ノ名稱、汽船、機關ヲ有スル帆船又ハ機關ヲ有セサル帆船ノ區別、總噸數（長二十メートル未滿ノ船舶ニ在リテハ總噸數ノ外ニ其長）、新規測度、全部改測又ハ一部改測ノ區別及手數料額ヲ記載スヘシ又一部改測ノ場合ニシテ測度甲板下全部ノ改測ヲ受ケタルトキハ尙其ノ旨ヲモ附記スヘシ

第五十一條 左ノ場合ニ於テハ各號ニ相當スル手數料ヲ納

付スヘシ

- 一 船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請スルトキ 一枚ニ付二十錢
- 二 船舶原簿ノ閱覽ヲ請求スルトキ 一回ニ付二十錢
- 三 汽船ノ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受ケントスルトキ 二圓
- 四 前號ノ證書ノ英譯書ノ交付ヲ受ケントスルトキ 四圓
- 五 帆船ノ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受ケントスルトキ 一圓
- 六 前號ノ證書ノ英譯書ノ交付ヲ受ケントスルトキ 二圓

二圓

前項ノ手數料ハ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ第一號及第二號ノ場合ニ於テハ申請書ニ、第三號乃至第六號ノ場合ニ於テハ手數料納付書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

第五十二條 登録稅又ハ手數料納付ノ爲メ書類ニ貼用シタル

收入印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スベキモノトス但納付者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ケナシ

第五十三條 検査官吏カ船舶所有者ノ申請ニ依リ船舶検査

執行地以外ニ出張スルトキハ船舶所有者ハ當該管海官廳

ノ指定スル所ニ從ヒ検査官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納付スヘシ

船舶安全法施行規則第八十四條第一項ノ場合ニ於テ出張シタル検査官吏ノ臨檢ヲ受クルトキハ其旅費ハ相互ニ之ヲ通算ス

第五十三條ノ二 本則ノ規定ニ依ル手數料及旅費ハ官廳又

ハ公共團體ニ對シテ之ヲ徵收セス

第七章 罰 則

第五十四條 本則ノ規定ニ依リ船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ英譯書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ其義務ヲ怠リタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第五十五條 本則ハ船舶法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（明治四十四年十月一日ヨリ施行）

第五十六條 明治二十六年ニ遞信省令第三號、同年三月遞信

省令第六號失踪船取扱規則、同年同遞信省告示第八十五號及明治二十九年四月遞信省令第三號登簿船免狀取扱規則

ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第五十七條 船舶法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

スル船舶ニシテ船舶法ノ規定ニ依リ登録ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クヘキモノノ所有者ハ登簿噸數十五噸以上又ハ積石數百五十石以上ノ船舶ニ付テハ船舶法施行ノ後始テ定期検査又ハ特別検査ヲ申請スルトキ當該検査官廳ニ、登簿噸數十五噸未滿ノ汽船及検査ヲ要セサル船舶ニ付テハ船舶施行ノ日ヨリ起算シ二年内ニ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ積量ノ測度ヲ申請スヘシ

前項ノ船舶ニシテ登簿船免狀又ハ船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ前項ノ規定ニ拘ハラス遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ前項ノ申請ヲ爲スヘシ

第五十八條 第十條及第十二條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ

準用ス  
前項ノ規定ニ依リ船舶ニ臨檢シタル検査官吏ハ積量ノ測度ノ一部省略スルコトヲ得

第五十九條 前條ノ規定ニ依リ積量ノ測度ヲ受ケタル船舶

ノ所有者ハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ登録及船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ  
前項ノ申請ハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル申請書ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ



- 一 船舶ノ番號、名稱及積量
- 二 船籍港
- 三 船舶共有者ニ在リテハ各共有者ノ住所、氏名又ハ名稱及持分

第六十條 前條ノ申請書ニハ左ニ掲クル書面ヲ添付スヘシ

- 一 登記ノ謄本
- 二 機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ汽機及汽鐘ノ製造者ニ於テ其製造ノ年月日ヲ證スル書面
- 三 船鑑札ヲ受有スル船舶ニ在リテハ當該地方官廳ニ於テ原名、製造地、進水ノ年月日及造船者ノ氏名又ハ名稱ヲ證スル書面

第六十一條 管海官廳ニ於テ第五十九條ノ申請ニ依リ登録

ヲ爲ストキハ登録船免狀又ハ船鑑札ニ記載シタル製造年月ヲ以テ進水ノ年月日ト看做ス

第六十二條 登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ遲滞ナク該免狀ヲ最寄管海官廳ニ返還スヘシ

第六十三條 第五十四條ノ罰則ハ前條ノ義務ヲ怠リタル船舶鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ遲滞ナク該鑑札ヲ原地方官廳ニ返還スヘシ

第五條 船舶積量測定法第十二條ノ規定ニ依リ改測ニ依リ船舶國籍證書又ハ其英譯書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル爲メ其書換ヲ申請スル場合ニ於テハ第五十一條ノ規定ニ依ル手数料ヲ徵收セス

前項ノ申請ト同時ニ船名、船籍港、所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及持分以外ノ事項ノ變更ニ依リ船舶國籍證書又ハ其英譯書ノ書換ヲ申請スル場合ニ付亦前項ニ同シ

第六條 船舶積量測定法第十二條ノ規定ニ依リ改測ノ場合ニ於テハ第五十三條ノ規定ニ依リ旅費ヲ徵收セス

第七條 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付本令施行ノ際現ニ受有スル船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ハ本令ノ爲メ其效力ヲ妨ケラルルニトナシ

前項ノ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載シタル事項中外板ノ材料、船骨ノ材料、又ハ橋ノ數ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ遲滞ナク證書ノ書換ヲ申請スヘシ前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ第五十一條ノ規定ニ依ル手数料ヲ徵收セス

附 則(大正十年遞信省令第六號)

本令ハ大正十年三月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前積量ノ測定又ハ改測ヲ申請シタル船舶ニ付テハ

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

船舶所有者ニ之ヲ適用ス

第六十四條 船舶法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ハ登録ヲ了ルマテ第四十四條又ハ第四十五條ノ標示ヲ爲ササルコトヲ得

第六十五條 第四十條及第五十四條ノ規定ハ船舶法施行ノ際受有スル假免狀ニ之ヲ準用ス

附 則(大正三年遞信省令第十八號)

第一條 本令ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本令施行ノ際現ニ船舶原簿ニ登録シタル船籍港ニ付テハ第三條第二項ノ規定ニ適合セサルモノト雖モ當該船舶力引續キ其他ニ船籍ヲ置ク場合ニ限り従前ノ例ニ依ル

第三條 第十七條ノ二ノ規定ニ依リ登録ヲ爲スヘキ事項、第二十二條及第二十四條ノ規定ニ依リ變更ノ登録ヲ爲スヘキ事項並船舶件名書、船舶國籍證書及假船舶國籍證書ノ書式ハ船舶積量測定法第十二條ノ規定ニ依リ改測前ノ船舶ニ付テハ従前ノ例ニ依ル

第四條 本令公布前積量ノ測定又ハ改測ヲ申請シタル船舶ニ付テハ本令施行後其測定又ハ改測ヲ了リタル場合ニ於テモ第五十條ノ三ノ規定ニ依リ測定手数料ヲ徵收セス

仍従前ノ例ニ依ル

附 則(昭和七年遞信省令第八號)

第一條 本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本令施行ノ際現ニ受有スル船舶國籍證書ハ昭和九年六月三十日マテ、假船舶國籍證書ハ其證書ニ記載スル有効期間内其效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第三條 積量測定ニ關スル従前ノ規定ニ依リ積量ノ測定ヲ爲シタル船舶ノ登録、國籍證書及假國籍證書ノ交付並標示ニ付テハ昭和九年六月三十日マテ仍従前ノ規定ニ依ルコトヲ得

第四條 石數ヲ以テ積量ヲ登録シタル船舶ニ關シテハ石數船改測規則ニ依リ改測ヲ受クルマテ第二十七條ノ二、第五十條又ハ第五十條ノ二ニ規定スル事項ニ付仍従前ノ規定ニ依ル

第五條 従前ノ規定ニ依リ噸數ヲ以テ積量ヲ登録シタル船舶ニ付テハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ昭和九年六月三十日(無線電信ノ施設ヲ有スル船舶ニ在リテハ昭和八年十二月二十八日)マテニ船舶所有者ノ申請ヲ俟タズシテ船舶原簿ヲ書換ヘ且船舶國籍證書ヲ書換交付ス

石數ヲ以テ積量ヲ登録シタル船舶ニシテ石數船改測規則



ニ依リ改測ヲ受ケタルモノニ付テハ船舶港ヲ管轄スル管  
海官廳ハ船舶所有者ノ申請ヲ俟タヌシテ船舶原簿ヲ書換  
ヘ且船舶國籍證書ヲ書換交付ス

三條第三項ノ規定ニ適合セサルモノト雖モ當該船舶カ引續  
キ其地ニ船舶ヲ置ク場合ニ限り從前ノ例ニ依ル  
(附錄略ス)

船舶所有者前二項ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ノ交付ヲ受  
ケタルトキハ遲滞ナク舊船舶國籍證書ヲ返還スヘシ

第一條 總噸數二十噸未満ノ船舶ハ左ニ掲クルモノヲ除ク  
外日本ニ船舶港ヲ定メ船鑑札ヲ受有スヘシ

第六條 本令施行ノ際現ニ登録シタル船舶ノ信號符字ニ付  
テハ前條第一項ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ノ書換交付ヲ  
受クルマテ仍從前ノ規定ニ依ル

第二條 總噸數五噸未満ノ帆船  
一端舟其ノ他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權  
ヲ以テ運轉スル舟

第七條 第五條ニ依ル船舶國籍證書ノ書換及之ニ基ク英譯  
書ノ書換並登記ノ申請ニ要スル船舶原簿ノ謄本又ハ抄本  
ノ交付ニ付テハ手数料ヲ徵收セス

第二條 船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ノ所有者ハ第一號書式ノ  
船鑑札交付申請書ヲ船舶港ヲ管轄スル地方官廳ニ差出ス  
ヘシ

本令施行ノ際登記登録ヲ要セサル船舶カ昭和六年法律第  
六號施行ノ結果登記登録ヲ要スルモノト爲リタル場合ニ  
於ケル船舶國籍證書及假船舶國籍證書ノ交付ニ付テハ手  
數料ヲ徵收セス

依リ高幅共十センチメートル以上ノ文字ヲ以テ明瞭ニ之  
ヲ現ハシ船名及道府縣名又ハ領事館ノ所在地名ハ國字、  
船鑑札番號ハ亞刺比亞數字ト爲スヘシ但シ府縣名ヲ記ス  
場合ニ於テ「府」又ハ「縣」ノ文字ハ之ヲ省略スヘシ

第八條 石數船改測規則ニ依ル積量ノ改測ニ付テハ測度手  
數料及旅費ヲ徵收セス

第五條 船鑑札ハ船舶ニ備置キ船長其ノ他船舶ヲ指揮スル  
者之ヲ保管シ當該官吏ニ於テ檢閲ヲ求ムルトキハ之ヲ拒  
ムコトヲ得ス

附 則(昭和八年遞信省令第三十二號)  
本令ハ昭和八年八月十日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際現ニ船舶原簿ニ登録シタル船舶港ニ付テハ第  
一積量ニ關スル證明書ヲ添付スヘシ

第六條 船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ又  
ハ船鑑札カ毀損シタルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事  
由ヲ疏明シ書換ヲ申請スヘシ

積量ニ關スル證明書ヲ添付スヘシ

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ積量ノ變更ニ係  
ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第一項ノ申請者カ支那ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル  
帝國法人ナルトキハ大正十四年勅令第三百二十七號第一  
條ノ規定ニ依ル領事官ノ認定ヲ受ケタルコトヲ證明スル  
書面ヲ申請書ニ添付スヘシ

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更ニ係  
ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第三條 地方官廳ニ於テ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ船舶  
ノ積量ヲ測度スヘシ但前條第二項ノ證明書ヲ差出シタル  
トキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更ニ係  
ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第四條 地方官廳ニ於テ前條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測  
度ヲ爲シタルトキ又ハ第二條第二項ノ規定ニ依リ差出シ  
タル證明書ヲ適當トナリ認メタルトキハ第二號書式ノ船  
鑑札ヲ交付スヘシ

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更ニ係  
ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第四條ノ二 船鑑札ヲ受有スル船舶ハ船體外部ニ於テ船首  
兩舷ニ船名、船尾ノ見易キ所ニ船舶ノ所屬道府縣名(支  
那ニ船舶港ヲ定メタル船舶ニ在リテハ船舶港ヲ管轄スル  
領事館ノ所在地名)及船鑑札番號ヲ標示スヘシ

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更ニ係  
ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

特殊ノ構造ヲ有スル船舶ニシテ前項ノ規定ニ依リ難キモ  
ノニ付テハ當該官吏ノ相當ト認ムル方法ニ依リ前項ノ事  
項ヲ標示スルコトヲ得

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更ニ係  
ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

前二項ノ標示ハ塗料ノ使用其ノ他久シキニ耐ユル方法ニ

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更ニ係  
ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更ニ係  
ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更ニ係  
ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更ニ係  
ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更ニ係  
ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更ニ係  
ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更ニ係  
ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更ニ係  
ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更ニ係  
ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更ニ係  
ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更ニ係  
ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更ニ係  
ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更ニ係  
ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ



第三條ノ但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

**第八條** 甲地方官廳ノ管轄区域内ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙地方官廳ノ管轄区域内ニ變更スルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ説明シ甲地方官廳ニ轉籍ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ甲地方官廳ハ遲滞ナク前項ノ申請書ニ船鑑札臺帳ノ謄本、積量ノ測度ニ關スル書類ヲ添付シテ其ノ旨乙地方官廳ニ通知スヘシ

**第九條** 行政區畫變更ノ爲船籍港カ甲地方官廳ノ管轄区域内ヨリ乙地方官廳ノ管轄区域内ニ轉屬シタルトキハ甲地方官廳ハ申請ヲ待タズ遲滞ナク船鑑札臺帳ノ謄本、積量ノ測度ニ關スル書類ヲ乙地方官廳ニ送付スヘシ

行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船鑑札ニ記載シタル區畫、名稱又ハ番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス但前項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

**第十條** 船鑑札カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ説明シ再交付ヲ申請スヘシ

**第十一條** 地方官廳カ第六條若ハ前條ノ申請ヲ受ケタル場合、第八條第二項ノ通知ヲ受ケタル場合又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ船鑑札臺帳ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル場合

ニ於テ船鑑札ヲ交付スヘキモノト認ムルトキハ之ヲ船舶所有者ニ交付スヘシ

**第十二條** 左ニ掲クル場合ニ於テハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ説明シ船鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

一 船舶カ滅失若ハ沈没シタルトキ又ハ解撤セラレタルトキ

二 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ又ハ船舶ノ存否カ六箇月間分明ナラサルトキ

三 船舶カ船舶法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ受有スヘキモノトナリタルトキ又ハ本則ノ規定ニ依リ船鑑札ヲ受有スルコトヲ要セサルモノト爲リタルトキ

前條ノ規定ニ依リ船鑑札ノ交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ之ト引換ニ舊鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ船鑑札ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ説明スヘシ

**第十三條** 船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ニシテ船舶検査法ノ適用ヲ受クルモノノ所有者ハ管海官廳ニ積量ノ測度又ハ改測ヲ申請スルコトヲ得

**第十四條** 地方官廳又ハ管海官廳ハ隨時當該官吏ヲ船舶ニ臨視セシメ必要アリト認ムルトキハ積量ノ改測又ハ標示

ノ改定ヲ爲サシムヘシ

**第十五條** 第一條、第四條ノ二、第五條、第六條第一項、第八條第一項、第十條又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

**第十五條ノ二** 本令ニ於テ地方官廳ノ事務ハ支那ニ在リテハ日本ノ領事館之ヲ行フ

附 則

**第十六條** 本則ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

**第十七條** 明治二十九年<sup>三</sup> 逓信省令第二十五號船鑑札規則

ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

**第十八條** 本則施行ノ際現ニ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者ハ本則施行ノ日ヨリ五箇年内ニ於テ地方長官ノ定ムル期間内ニ更ニ船鑑札ノ交付ヲ申請シ現ニ受有スル船鑑札ヲ返還スヘシ

前項ノ期間内ト雖モ本則ノ規定ニ依リ船鑑札ノ書換又ハ再交付ヲ要スルトキハ遲滞ナク前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條、第三條及第四條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

**第十九條** 本則施行ノ際現ニ受有スル船鑑札ハ本則ノ規定ニ從ヒ更ニ船鑑札ヲ受有スルニ至ルマテ本則ニ定ムル船

鑑札ト同一ノ効力ヲ有ス

**第二十條** 第十二條ノ規定ハ本則施行前ニ同條ニ掲ケタル事由カ生シタルモ未タ船鑑札ヲ返還セサル場合ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ同條第一項ニ定ムル期間ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

**第二十一條** 前條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則 (大正二年逓信省令第八十八號)

本令施行ノ際現ニ受有スル船鑑札ハ本令ノ爲其ノ効力ヲ妨ケラルルコトナシ

本令施行前ニ船舶國籍證書ヲ受有スヘキモノトナリタル船舶ニ付テハ船鑑札規則第十二條第一項ニ定ムル期間ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附 則 (大正十一年逓信省令第三十九號)

本令ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ大正十一年十二月三十一日迄本令ノ施行ヲ猶豫ス

附 則 (昭和七年逓信省令第九號)

**第一條** 本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス



**第二條** 本令施行ノ際現ニ受有スル船鑑札ハ昭和九年六月三十日マテ其ノ効力ヲ妨ケラレルコトナシ

**第三條** 従前ノ規定ニ依リ噸數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ船籍港ヲ管轄スル地方官廳ハ昭和九年六月三十日マテニ船舶所有者ノ申請ヲ俟タスシテ船鑑札ヲ書換交付ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ石數船改測規則ニ從ヒ地方長官ノ定ムル所ニ依リ積量ノ改測ヲ受ケタルトキハ船籍港ヲ管轄スル地方官廳ハ船舶所有者ノ申請ヲ俟タスシテ船鑑札ヲ書換交付ス  
船舶所有者前二項ノ規定ニ依リ船鑑札ノ交付ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク舊船鑑札ヲ返還スヘシ(第一號書式及第二號書式略ス)

◎支那ニ於ケル帝國法人ノ所有スル船舶等ニ關スル件(大正十四年十二月二十一日 法律第五十二號)

支那ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル帝國法人ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ二分ノ一以上、合資會社及株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ二分ノ一以上、株式會社ニ在リテハ取締役ノ二分ノ一以上、其ノ他ノ法人ニ在リテハ

代表者ノ二分ノ一以上カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶ハ勅令ノ定ムルモノニ限り船舶法第一條ノ規定ニ拘ラス之ヲ日本船舶トス  
前項ノ日本船舶及支那ニ住所ヲ有スル日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶ノ船籍港及積量測定ニ關シテハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

◎支那ニ於ケル帝國法人ノ所有スル船舶等ニ關スル法律ノ施行ニ關スル件(大正十四年十二月二十一日 勅令第三百二十七號)

**第一條** 大正十四年法律第五十二號ニ依リテ日本船舶タルコトヲ得ル船舶ハ同法ニ規定スル帝國法人ニシテ日本船舶ヲ所有スルニ適スルコトニ付其ノ本店又ハ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル領事官ノ認定ヲ受ケタルモノノ所有ニ屬スルモノニ限ル

**第二條** 前條ノ帝國法人日本船舶ヲ所有スルニ適セザルニ至リタルトキハ其ノ本店又ハ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル領事官ハ前條ノ認定ヲ取消スコトヲ得

**第三條** 第一條ノ帝國法人又ハ支那ニ住所ヲ有スル日本臣民ハ其ノ所有スル船舶中總噸數五百噸未滿ニシテ支那ノ湖川港灣ノミヲ航行スルモノニ付支那ニ船籍港ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ支那ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ所有者ハ其ノ船籍港ヲ管轄スル領事官ニ船籍ノ積量ノ測定又ハ改測ヲ申請スルコトヲ要ス但シ支那外ニ於テ取得シタル船舶ヲ支那ニ於ケル船籍港迄航行セシムルトキハ取得地ヲ管轄スル管海官廳又ハ領事官ニ其ノ船舶ノ積量ノ測定ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ支那ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ所有者ハ其ノ船籍港ヲ管轄スル領事官ニ船籍ノ積量ノ測定又ハ改測ヲ申請スルコトヲ要ス但シ支那外ニ於テ取得シタル船舶ヲ支那ニ於ケル船籍港迄航行セシムルトキハ取得地ヲ管轄スル管海官廳又ハ領事官ニ其ノ船舶ノ積量ノ測定ヲ申請スルコトヲ得

**第四條** 前條第一項ノ規定ニ依リテ支那ニ船籍港ヲ定メタル船舶ヲ天災事變其ノ他止ムコトヲ得サル事由ニ因リ支那ノ湖川港灣外ニ航行セシムルトキハ船舶所有者ハ船籍港ヲ管轄スル領事官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

**第五條** 第三條第一項ノ規定ニ依リテ支那ニ船籍港ヲ定メタル船舶ニ付船舶法ヲ適用スル場合ニ於テハ同法中管海官廳トアルハ支那駐在領事官、同法第十五條及第十七條中日本トアルハ支那、同法第十三條、第十六條及第十七條

條中外國トアルハ支那外トス

前項ノ支那駐在領事官ノ事務ハ支那外ニ在リテハ管海官廳又ハ領事官之ヲ行フ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎船舶積量測定法(大正三年三月三十一日 法律第三十四號)

**第一條** 船舶ノ積量ハ船舶ノ内法容積ヲ測定シ之ヲ定メ容積ノ單位ハ立方メートルトス

**第二條** 甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ上甲板ヲ、三層以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ最下層甲板ヨリ第二層ニ在ル甲板ヲ測定甲板トス

**第三條** 甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ測定甲板下ノ積量ニ測定甲板ノ積量ヲ、甲板三層以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ測定甲板下ノ積量ニ測定甲板上各甲板間ノ積量及上甲板上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ總積量トス但シ左ニ掲グル場所ニシテ上甲板上ニ在ルモノノ積量ハ之ヲ總積量ニ算入セス

一 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主機關ト連結セザル副汽鐘副汽機ニ供用セラレル場所



- 二 機關室、操舵室、賄室及出入口室
- 三 採光通風ニ要スル場所及便所
- 四 主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所

前項ニ掲クル機關室ノ積量ハ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ總積量ニ算入スルコトヲ得

甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷端以下ノ積量ニ舷端以上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ總積量トス

**第四條** 總積量ヨリ左ニ掲クル場所ノ積量ヲ控除シタルモノヲ純積量トス但シ總積量ニ算入セサル場所ノ積量ハ之ヲ控除セス

- 一 船員常用室及海圖室
- 二 荷足水艙
- 三 機關室
- 四 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主唧筒ト連結シタル副汽罐副汽機ニ供用セラルル場所
- 五 水夫長倉庫
- 六 帆船ノ帆庫
- 七 主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各號

ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所

**第五條** 前二條ニ掲クル場所ノ限域ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

**第六條** 純積量ノ算定ニ付機關室ノ積量トシテ總積量ヨリ控除スヘキ積量ハ左ノ割合ニ依リ之ヲ定ム

- 一 螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ積量カ總積量ノ百分ノ十三ヲ超ユ百分ノ二十未滿ナルトキハ總積量ノ百分ノ三十二、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ積量カ總積量ノ百分ノ二十ヲ超ユ百分ノ三十未滿ナルトキハ總積量ノ百分ノ三十七
  - 二 前號ニ該當セサル場合ニ於テハ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ積量ニ其ノ四分ノ三、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ積量ニ其ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノ但シ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ前號ノ割合ニ依ルコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ算定シタル積量カ純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ機關室以外ノ場所ノ積量ヲ總積量ヨリ減シタル積量ノ百分ノ五十五ヲ超ユルトキハ之ヲ百分ノ五十五ニ止ム

**第七條** 純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ帆庫ノ積量カ總積量ノ百分ノ二十五ヲ超ユルトキハ之ヲ百分ノ二十五ニ止ム

**第八條** 總積量又ハ純積量ヲ噸(三百五十三分ノ千立方メートル)ヲ以テ表シタル物ヲ夫夫總噸數又ハ純噸數トス

**第九條** 積量測度ノ方法ハ主務大臣之ヲ定ム

**第九條ノ二** 主務大臣ハ長二十メートル未滿ノ船舶ノ積量ノ測度ニ付第二條乃至第七條ノ規定ニ拘ラス別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附 則

**第十條** 本法ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

**第十一條** 明治十七年布告第十號船舶積量測度規則ハ之ヲ廢止ス

**第十二條** 舊法ニ依リ噸數ヲ以テ積量ノ測度ヲ受ケタル船舶ニ付テハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ積量ヲ改測ス

**第十三條** 前條ノ規定ニ依ル改測前ニ於テ船舶法第九條ノ申請ニ因リ積量ヲ改測スル場合ニ於テハ舊法ニ依リ之ヲ測度スルコトヲ得

**第十四條** 舊法ニ依リ測度シタル船舶ノ積量ハ本法ノ測度方法ニ依リ之ヲ改測スル迄本法ニ依リ測度シタルモノト

看做ス

**第十五條** 本法公布前造船獎勵法ニ依リ認許證書ノ交付ヲ申請シ本法施行前其ノ交付ヲ受ケ製造ニ著手シタル船舶ノ噸數ハ造船獎勵法第二條ノ規定ノ適用ニ付テハ舊法ニ依ル

**第十六條** 本法施行ノ際現ニ遠洋航路補助法ニ依リ補助航海ニ使用スル船舶ノ噸數ハ同法ノ適用ニ付テハ其ノ補助年限内舊法ニ依ル

**第十七條** 本法施行ノ際現ニ遠洋漁業獎勵法ニ依リ遠洋ニ於ケル漁獵業又ハ漁獲物ノ處理運搬業ニ使用スル船舶ノ噸數ハ同法ノ適用ニ付テハ獎勵金下付許可期間内舊法ニ依ル

**第十八條** 第十二條ノ規定ニ依リ改測ヲ爲シタル爲登記又ハ登録ヲ爲ス場合ニ於テハ登録稅ヲ課セス

**第十九條** 所有權及船舶管理人以外ノ事項ニ付登記アル船舶力第十二條ノ規定ニ依リ又ハ船舶法第九條ノ申請ニ因リ改測セラレタル爲登記スヘカラサル船舶ト爲リタルキト雖仍其ノ事項ニ付登記ノ存スル間ハ之ニ關スル登記及所有權ニ關スル登記ヲ爲スヘキモノトス

附 則 (昭和六年法律第六號)



第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和七年六月勅令第八十一號ヲ以テ同年同月二十日ヨリ施行）

第二條 従前ノ規定ニ依リ測量シタル船舶ノ總噸數又ハ登簿噸數ハ各之ヲ本法ニ依リ測量シタル總噸數又ハ純噸數ト看假ス

第三條 従前ノ規定ニ依リ石數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船舶ノ積量測量ニ付テハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ積量ヲ改測スル迄仍従前ノ規定ニ依ル

第四條 他ノ法令中登簿噸數トアルハ之ヲ純噸數トス

第五條 船舶ガ本法施行ノ結果登記登録ノ變更又ハ抹消ヲ要スル船舶ト爲リタル爲其ノ登記登録ヲ爲ス場合ニ於テハ登録稅ヲ課セズ本法施行ノ際登録ヲ要セザル船舶ガ本法施行ノ結果新ニ登記登録ヲ要スル船舶ト爲リタル爲其ノ登記登録ヲ爲ス場合亦同ジ

第六條 所有權及船舶管理人以外ノ事項ニ付登記アル船舶ガ本法施行ノ結果登記スヘカラサル船舶ト爲リタルトキト雖モ仍其ノ事項ニ付登記ノ存スル間其ノ事項ニ關スル登記及所有權ニ關スル登記ヲ爲スヘキモノトス  
船舶ニ設定セラレタル質權ハ該船舶ガ本法施行ノ結果登記

記スヘキ船舶ト爲リタルトキト雖モ其ノ效力ヲ害セララルコトナシ

◎石數船改測規則（昭和七年四月十一日）  
（逓信省令第十一號）

第一條 昭和六年法律第六號附則第三條ニ掲クル船舶ハ本令施行ノ日ヨリ二年以内ニ其ノ積量ノ改測ヲ受クヘシ

第二條 前條ノ船舶ノ所有者ハ改測ヲ受ケムトスル管海官廳ニ船舶ノ番號、船名、船籍港、積石數、改測ノ爲臨檢ヲ受ケムトスル場所及本令ニ依リ改測ヲ申請スル旨ヲ記載シタル改測ノ申請書ヲ差出スヘシ

第三條 改測ヲ行ヒタル管海官廳力當該船舶ノ船籍港ヲ管轄セザル場合ニ於テハ該管海官廳ハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ關係書類ヲ送付スヘシ

第四條 前二條ノ規定ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニハ之ヲ適用セス

第五條 前條ノ船舶ノ改測ニ付テハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

附 則

本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和七年六月二十七日ヨリ施行）

◎船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト外國政府間取極ノ件

大正十一年九月十八日  
逓信省令第五十六號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト丁抹國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ左ノ條規ヲ定メ大正十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス  
丁抹國相當官憲ニ於テ千八百九十五年四月一日以後交付シタル船舶積量測量ニ關スル證書ヲ有スル丁抹國船舶ハ帝國諸港ニ於テ積量ヲ測量スルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ハ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト見做ス

大正十二年六月八日  
逓信省令第五十二號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト英國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ左ノ條規ヲ定メ大正十二年六月二十日ヨリ之ヲ施行ス  
英國相當官憲ニ於テ千八百九十五年一月一日以後交付シタル船舶積量測量ニ關スル證書ヲ有スル英國船舶ハ帝國諸港

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

ニ於テ其ノ積量ヲ測量スルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ハ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス

大正十三年五月三十日  
逓信省告示第七百八十一號

船舶積量測量ニ關スル米國法規ハ我法規ト實質的ニ一致スルモノト認メラレ且米國政府ハ商務長官ノ訓令ヲ以テ互認ノ趣旨ニ基キ米國各港ニ於テ帝國船舶ノ積量ヲ測量スルコトナク其ノ受有スル船舶積量測量ニ關スル證書記載ノ噸數ヲ其ノ儘承認セルニ依リ米國相當官憲ノ發給シタル船舶積量測量ニ關スル證書ヲ受有スル米國船舶ハ帝國各港ニ於テ其ノ積量ヲ測量スルコト無ク其ノ證書記載ノ噸數ハ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス  
明治三十年五月逓信省告示第三百三十八號ハ之ヲ廢止ス

昭和四年六月一日  
逓信省令第十七號

獨逸國相當官憲ニ於テ千八百九十五年七月一日以後交付シタル船舶積量測量ニ關スル證書ヲ有スル獨逸國船舶ハ帝國諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測量スルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ハ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス



本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
明治三十三年九月選信省令第七十四號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

昭和四年九月五日  
選信省令第三十三號

「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦相當官憲ニ於テ千九百二十三年十月十日以後交付シタル船舶積量測定ニ關スル證書ヲ有スル「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦船舶ハ帝國諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測定スルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ハ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス  
本令ハ昭和四年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス  
明治四十三年三月選信省令第五號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治四十五年六月十五日  
選信省令第三十三號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト和蘭國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ左ノ條規ヲ定メ明治四十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス  
和蘭國政府ニ於テ千八百七十五年八月二十一日及千八百九

十九年九月十八日付勅令海船積量測定規則ニ依リ測定シ千八百九十九年十月二十日以後交付シタル公正積量證書ヲ有スル和蘭國船舶並千九百二年一月三日以後交付シタル公正積量證書ヲ有スル西洋形蘭領印度船舶ハ帝國諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測定スルコトナク其ノ證書ニ記載スル登簿噸數ハ日本船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

明治三十五年三月二十七日  
選信省令第十一號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト瑞典及諾威國兩政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ左ノ條規ヲ定メ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 千八百七十五年三月三十一日以後瑞典國政府ニ於テ交付シタル船舶積量測定證書ヲ受有スル瑞典國ノ帆船ハ帝國諸港ニ於テ其積量ヲ測定スルコトナク其證書ニ記載スル登簿噸數ニ瑞典國ノ法令ニ依リ控除シタル部分ニシテ帝國ノ船舶積量測定規則ニ依リハ控除ヲ許ササルモノノ噸數ヲ合セタルモノヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

第二條 千八百八十一年三月三十一日以後瑞典國政府ニ於テ交付シタル船舶積量測定證書ヲ受有スル瑞典國ノ汽船

第二條 船舶ハ左ニ掲グル事項ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一 船體
- 二 機關
- 三 帆裝
- 四 排水設備
- 五 操舵、繫船及揚錨ノ設備
- 六 救命及消防ノ設備
- 七 居住設備
- 八 衛生設備
- 九 航海用具
- 十 危險物其ノ他ノ特殊貨物ノ積附設備
- 十一 荷役其ノ他ノ作業ノ設備
- 十二 電氣設備
- 十三 前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ定ムル事項

第三條 千八百九十三年十月一日以後諾威國政府ニ於テ交付シタル船舶積量測定證書ヲ受有スル諾威國ノ汽船又ハ帆船ハ帝國諸港ニ於テ其積量ヲ測定スルコトナク其證書ニ記載スル登簿噸數ヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

◎船舶安全法 (昭和八年三月十五日 法律第十一號)

第一條 日本船舶ハ本法ニ依リ其ノ堪航性ヲ保持シ且人命ノ安全ヲ保持スルニ必要ナル施設ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得ズ

第三條 遠洋區域ヲ航行スル船舶又ハ近海區域ヲ航行スル



總噸數百五十噸以上ノ船舶ハ命令ノ定ムル所ニ依リ滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要ス但シ漁獵、曳船、海難救助、浚渫又ハ測量ニノミ使用スル船舶其ノ他主務大臣ニ於テ特ニ滿載吃水線ヲ標示スル必要ナシト認ムル船舶ハ此ノ限ニ在ラズ

**第四條** 左ニ掲グル船舶ハ無線電信法ニ依ル無線電信ヲ施設スルコトヲ要ス

一 遠洋區域又ハ近海區域ヲ航行スル總噸數千六百噸以上ノ船舶

二 遠洋區域又ハ近海區域ヲ航行スル旅客船（十二人ヲ超ユル旅客定員ヲ有スル船舶）

三 總噸數百噸以上ノ漁船

前項ノ規定ニ依リ無線電信ノ施設ヲ要スル船舶ト雖モ航海ノ目的其ノ他ノ事情ニ依リ主務大臣ニ於テ已ムコトヲ得ズ又ハ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ施設スルコトヲ要セズ

**第五條** 船舶所有者ハ第二條第一項ノ規定ノ適用アル船舶ニ付同條第一項各號ニ掲グル事項、第三條ノ船舶ニ付滿載吃水線、第四條ノ船舶ニ付無線電信ニ關シ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ區別ニ依ル検査ヲ受クベシ

一 初メテ航行ノ用ニ供スルトキ又ハ第十條ニ規定スル有効期間滿了シタルトキ行フ精密ナル検査（定期検査）

二 定期検査ト定期検査トノ中間ニ於テ命令ノ定ムル時期ニ行フ簡易ナル検査（中間検査）

三 臨時ニ特殊ノ用途ニ使用スルトキ行フ検査（特殊船検査）

四 前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ行フ検査（臨時検査）

**第六條** 本法施行地ニ於テ製造スル長サ三十メートル以上ノ船舶ノ製造者ハ第二條第一項ノ規定ノ適用アル船舶ニ付同條第一項第一號、第二號及第四號ニ掲グル事項、第三條ノ船舶ニ付滿載吃水線ニ關シ船舶ノ製造ニ著手シタル時ヨリ検査（製造検査）ヲ受クベシ但シ主務大臣ニ於テ已ムコトヲ得ズ又ハ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

本法施行地ニ於テ製造スル長サ三十メートル未滿ノ船舶ノ製造者ハ其ノ船舶ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ製造検査ヲ受クルコトヲ得

本法施行地ニ於テ製造スル船舶用機關ノ製造者ハ備附ク

ベキ船舶ノ特定前ト雖モ其ノ機關ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ受クルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依ル検査ニ合格シタル事項ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ検査ヲ省略ス

**第七條** 第五條又ハ前條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依ル検査ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ

前條第三項ノ規定ニ依ル検査ハ船舶用機關ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ

**第八條** 主務大臣ノ認定シタル日本ノ船級協會（以下單ニ船級協會ト稱ス）ノ検査ヲ受ケ船級ノ登録ヲ爲シタル船舶ニシテ旅客船ニ非ザルモノハ其ノ船級ヲ有スル間第二條第一項第一號乃至第五號第十號乃至第十二號ニ掲グル事項及滿載吃水線ニ關シ管海官廳ノ検査ヲ受ケ之ニ合格シタルモノト看做ス

**第九條** 管海官廳ハ定期検査ニ合格シタル船舶ニ對シテハ其ノ航行區域（漁船ニ付テハ從業制限）、最大搭載人員、制限汽壓及滿載吃水線ノ位置ヲ定メ船舶検査證書ヲ交付ス

管海官廳ハ特殊船舶検査ニ合格シタル船舶ニ對シテハ特殊

船舶検査證書ヲ交付ス

管海官廳ハ第六條ノ規定ニ依ル検査ニ合格シタル船舶又ハ船舶用機關ニ對シテハ合格證明書ヲ交付ス

前條ノ船舶ニ付船級協會ノ定メタル制限汽壓及滿載吃水線ノ位置ハ管海官廳ニ於テ之ヲ定メタルモノト看做ス

**第十條** 船舶検査證書ノ有効期間ハ四年トス但シ命令ヲ以テ定ムル小形船ニ付テハ四年以内ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間トス

船舶検査證書ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ニ於テハ其ノ有効期間滿了後五月迄ハ仍其ノ效力ヲ有ス

船舶検査證書ハ中間検査又ハ臨時検査ニ合格セザル船舶ニ付テハ之ニ合格スル迄其ノ效力ヲ停止ス

第八條ノ船舶ノ受有スル船舶検査證書ハ其ノ船舶カ當該船舶ノ登録ヲ抹消セラレ又ハ旅客船ト爲リタルトキハ其ノ有効期間滿了ス

**第十一條** 船舶ニ付管海官廳ノ検査ヲ受ケタル者検査ニ對シ不服アルトキハ其ノ事由ヲ具シ主務大臣ニ再検査ヲ申請スルコトヲ得

再検査ヲ申請シタル者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ關係部分ノ原狀ヲ變更スルコトヲ得ズ



**第十二條** 管海官廳ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ船舶ニ臨檢セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ證明スベキ證票ヲ携帯スベシ

管海官廳ハ本法ニ違反シタル事實アリト認ムルトキハ船舶ノ航行停止其ノ他ノ處分ヲ爲スコトヲ得

**第十三條** 船舶乗組員二十人未滿ノ船舶ニ在リテハ其ノ二分ノ一以上、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ乗組員十人以上ガ命令ノ定ムル所ニ依リ當該船舶ノ堪航性又ハ居住設備衛生設備其ノ他ノ人命ノ安全ニ關スル設備ニ付重大ナル缺陷アル旨ヲ申立テタル場合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ事實ヲ調査シ必要アリト認ムルトキハ前條第二項ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

**第十四條** 日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ左ニ掲グルモノニハ勅令ヲ以テ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用ス

- 一 本法施行地ノ各港間又ハ湖川港灣ノミヲ航行スル船舶
- 二 日本船舶ヲ所有シ得ル者ノ借入レタル船舶ニシテ本法施行地ト其ノ他ノ地トノ間ノ航行ニ從事スルモノ
- 三 前各號ノ外本法施行地ニ在ル船舶

五 滿載吃水線ヲ超エテ載荷シタルトキ

六 無線電信ノ施設ヲ要スル船舶ヲ其ノ施設ナクシテ航行ノ用ニ供シタルトキ

七 中間檢査ヲ受クベキ場合ニ於テ之ヲ受ケズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

八 前各號ノ外船舶檢査證書ニ記載シタル條件ニ違反シテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ特殊船舶檢査證書ニ記載シタル條件ニ違反シテ船舶ヲ特殊ノ用途ニ使用シタルトキ

九 管海官廳ノ許可ヲ受ケズシテ檢査ヲ受ケタル事項ニ變更ヲ爲シ又ハ其ノ事項ニ變更アリタルニ拘ラズ適當ノ措置ヲ爲サズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

**第十九條** 詐僞其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ第九條ニ掲グル證書ヲ受ケタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

**第二十條** 船舶所有者又ハ船長第十二條又ハ第十三條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

**第二十一條** 正當ノ事由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シテ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

**第十五條** 主務大臣ニ於テ前條第三號ニ掲グル船舶ノ所屬地ノ本法ニ該當スル法令ヲ相當ト認メタルトキハ之ニ基キタル船舶ノ堪航性又ハ人命ノ安全ニ關スル證書ハ本法ニ依リ交付シタル證書ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ規定ハ本法ニ依リ交付シタル證書ノ效力ヲ認メザル國ニ屬スル船舶ニ付テハ之ヲ適用セズ

**第十六條** 船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

**第十七條** 滿載吃水線ノ標示ヲ穩蔽、變更又ハ抹消シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

**第十八條** 船舶所有者又ハ船長左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ船舶所有者及船長ヲ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 船舶檢査證書ヲ受有セズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ特殊船舶檢査證書ヲ受有セズシテ船舶ヲ特殊ノ用途ニ使用シタルトキ
- 二 航行區域ヲ超エ又ハ從業制限ニ違反シテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ
- 三 制限汽壓ヲ超エテ汽鐘ヲ使用シタルトキ
- 四 最大搭載人員ヲ超エテ旅客其ノ他ノ者ヲ搭載シタルトキ

**第二十二條** 船舶乗組員虛僞ノ申立ヲ爲シ管海官廳ヲシテ第十三條ノ規定ニ依ル調査ヲ爲サシメタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

**第二十三條** 船級協會ノ職員第八條ニ掲グル船舶ニ付第二條第一項第一號乃至第五號、第十號乃至第十二號ニ掲グル事項又ハ滿載吃水線ノ檢査ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

**第二十四條** 船級協會ノ職員ニ前條ニ掲グル檢査ニ關シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

**第二十五條** 本法及本法ニ基ク命令ニ依リ船舶所有者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者カ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用シ國又ハ道



府縣市町村其ノ他ノ公共團體カ船舶所有者ナルトキハ之ヲ適用セズ

**第二十六條** 本法及本法ニ基ク命令中船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ在リテ船舶管理人ヲ置キタルトキハ之ヲ船舶管理人ニ、船舶貸借ノ場合ニ在リテハ之ヲ船舶借入人ニ適用シ又船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ適用ス

**第二十七條** 船舶ノ衝突豫防ニ關シ船舶ノ遵守スベキ船燈ノ表示、航法、信號其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ船舶ニハ海軍艦船ヲモ包含ス

**第二十八條** 危險物ノ運送禁止、遭難者救助、救命艇手、操練及操舵命令ニ關スル事項竝ニ危險及氣象ノ通報其ノ他船舶航行上ノ危險防止ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

**第二十九條** 前二條ニ規定スル事項ヲ除クノ外地方長官ハ第二條第一項ノ規定ヲ適用セザル船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ナル規則ヲ設クルコトヲ得

附 則

**第三十條** 本法施行ノ期日ハ第二條第一項第十一號ニ關スル規定、同條同項第十二號ニ關スル規定、第二十七條ノ規定竝ニ他ノ一般規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
(昭和九年勅令第十二號ヲ以テ同年三月一日ヨリ施行)

**第三十一條** 船舶検査法、船舶滿載吃水線法、船舶無線電信施設法及明治六年第二百九十二號布告ハ前條ノ一般規定施行ノ日ヨリ、海上衝突豫防法ハ第二十七條ノ規定ノ施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

**第三十二條** 第二條第一項ノ規定ハ左ニ掲グル船舶ニハ當分ノ内之ヲ適用セズ

- 一 總噸數二十噸未満ノ帆船
- 二 總噸數二十噸未満ノ漁船
- 三 平水區域ノミヲ航行スル帆船

**第三十三條** 船舶滿載吃水線法ニ依リ滿載吃水線ノ標示ヲ要セザリシ船舶ニシテ本法ニ依リ其ノ標示ヲ要スルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ滿載吃水線ニ關スル検査ヲ受クル迄之ヲ標示セザルコトヲ得

**第三十四條** 本法施行前ニ生ジタル事項ニ付テハ仍舊法ニ依ル但シ船級協會ノ認定其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

◎船舶安全法施行令(昭和九年二月一日)

(勅令第十三號)

**第三十五條** 船舶検査法ニ依リ船舶検査證書若ハ假證書ヲ受有スル船舶又ハ之ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供スル船舶ニハ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ル迄船舶検査、滿載吃水線及無線電信施設ニ關シ仍舊法ニ依ル

- 一 航行期間滿了ノ爲船舶検査法ニ依リ検査ヲ受クベキトキ
- 二 船舶検査法ニ依リ船舶検査證書又ハ假證書ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供シ得ザルニ至リタルトキ
- 三 船舶滿載吃水線法ニ依リ滿載吃水線ノ指定ヲ受クベキトキ

**第三十六條** 前條ノ船舶同條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ受クベシ

前項ノ検査ニ合格シタル船舶ニハ船舶検査證書ヲ交付ス但シ其ノ有効期間ハ四年以内ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間トス

前項ノ有効期間ノ滿了ハ第五條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ第十條ノ規定スル有効期間ノ滿了ト看做ス

**第三十七條** 他ノ法令中航路定限、遠洋航路、近海航路、沿海航路又ハ平水航路トアルハ各之ヲ航行區域、遠洋區域、近海區域、沿海區域又ハ平水區域トス

**第一條** 船舶安全法第一條乃至第五條、第七條第一項、第八條、第九條第一項第二項第四項、第十條乃至第十二條、第十六條乃至第二十一條、第二十三條乃至第二十六條及第二十九條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條各號ノ一ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

**第二條** 船舶安全法第十三條及第二十二條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條第一號又ハ第二號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

**第三條** 遞信大臣漁船ニ關シ左ニ掲グル事項ニ付法律勅令ノ制定改廢案ヲ閣議ニ提出シ若ハ省令ノ制定改廢ヲ爲サントスルトキ又ハ漁船ニ關シ船舶安全法第二十九條ノ認可ヲ爲サントスルトキハ豫メ農林大臣ニ議スベシ

- 一 船舶ノ構造設備及之ニ關スル法ノ適用範圍
- 二 滿載吃水線ノ標示及無線電信施設ニ關スル法ノ適用範圍
- 三 船舶ノ從業制限
- 四 船舶検査ノ種類、時期及機關

附 則



本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス  
外國船舶検査規則ハ之ヲ廢止ス

船舶安全法第三十二條乃至第三十六條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條第一號又ハ第二號ニ掲グルモノニ、同法第三十二條及第三十三條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條第三號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ船舶安全法第十四條第三號ニ掲グルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ本令施行後一年ヲ限リ本令ニ依ラザルコトヲ得

◎海事代願人取締規則(明治四十一年十二月九日 逕信省令第五十二號)

第一條 海事代願人トハ他人ノ委任ニ因リ管海官廳ニ對シテ海事ニ關スル申請其他ノ手續ヲ爲スヲ業務トスル者ヲ謂フ

本則ニ於テ管海官廳ト稱スルハ海事代願人カ業務ヲ行フ地ヲ管轄スル逕信局又ハ逕信局海事部出張所ヲ謂フ

第二條 海事代願人ハ管海官廳ノ許可ヲ受クヘシ

管海官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ海事代願人カ取扱ハントスル業務事項ニ關シ試験ヲ行フコトアルヘシ

第三條 海事代願人ハ左ニ掲クル書類ヲ管海官廳ニ差出シ

許可ヲ申請スヘシ

一 申請書

二 履歷書

三 戶籍謄本

四 第四條第二號及第三號ニ該當セサルコトヲ證スル書面

申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一 氏名

二 本籍地

三 住所

四 出生ノ年月日

五 事務所及出張所ノ名稱及所在地

六 取扱ハントスル業務事項

法人カ第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニハ申請書、定款及代表者ノ氏名書ヲ管海官廳ニ差出シ申請書ニハ法人ノ名稱及前項第五號並ニ第六號ノ事項ヲ記載スヘシ

第四條 左ニ掲クル者ハ前條ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス

一 未成年者

二 六年以上ノ懲役若クハ禁錮、之ヨリ重キ刑又舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ復權セサル者及六年未滿ノ懲役

若クハ禁錮又ハ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行ヲ終ラス又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ラサル者

三 家資分散若クハ破産ノ宣言ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

四 本則ノ規定ニ依リ許可ヲ取消サレタル者

第五條 海事代願人其業務事項ヲ増加シ又ハ之ヲ變更セントスルトキハ管海官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 海事代願人ハ手数料其他何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス業務ノ取扱上委任者ヨリ受クル報酬ニ關スル規程ヲ定メ管海官廳ノ許可ヲ受クヘシ其之ヲ變更セントスル場合亦同シ

第七條 海事代願人ハ許可ヲ受ケタル範圍ヲ超エテ報酬ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 海事代願人ハ業務ノ取扱上使ケタル印鑑ヲ管海官廳ニ届出ツヘシ其之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第九條 海事代願人ハ事件簿ヲ事務所及出張所ニ備ヘ左ニ掲クル事項ヲ之ニ記載スヘシ

一 件名

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

三九三

許可ヲ申請スヘシ

一 申請書

二 履歷書

三 戶籍謄本

四 第四條第二號及第三號ニ該當セサルコトヲ證スル書面

申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一 氏名

二 本籍地

三 住所

四 出生ノ年月日

五 事務所及出張所ノ名稱及所在地

六 取扱ハントスル業務事項

法人カ第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニハ申請書、定款及代表者ノ氏名書ヲ管海官廳ニ差出シ申請書ニハ法人ノ名稱及前項第五號並ニ第六號ノ事項ヲ記載スヘシ

第四條 左ニ掲クル者ハ前條ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス

一 未成年者

二 六年以上ノ懲役若クハ禁錮、之ヨリ重キ刑又舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ復權セサル者及六年未滿ノ懲役

若クハ禁錮又ハ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行ヲ終ラス又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ラサル者

三 家資分散若クハ破産ノ宣言ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

四 本則ノ規定ニ依リ許可ヲ取消サレタル者

第五條 海事代願人其業務事項ヲ増加シ又ハ之ヲ變更セントスルトキハ管海官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 海事代願人ハ手数料其他何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス業務ノ取扱上委任者ヨリ受クル報酬ニ關スル規程ヲ定メ管海官廳ノ許可ヲ受クヘシ其之ヲ變更セントスル場合亦同シ

第七條 海事代願人ハ許可ヲ受ケタル範圍ヲ超エテ報酬ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 海事代願人ハ業務ノ取扱上使ケタル印鑑ヲ管海官廳ニ届出ツヘシ其之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第九條 海事代願人ハ事件簿ヲ事務所及出張所ニ備ヘ左ニ掲クル事項ヲ之ニ記載スヘシ

一 件名

第六編 交通及通信 第一款 交通 第二項 船舶

三九三

許可ヲ申請スヘシ

一 申請書

二 履歷書

三 戶籍謄本

四 第四條第二號及第三號ニ該當セサルコトヲ證スル書面

申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一 氏名

二 本籍地

三 住所

四 出生ノ年月日

五 事務所及出張所ノ名稱及所在地

六 取扱ハントスル業務事項

法人カ第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニハ申請書、定款及代表者ノ氏名書ヲ管海官廳ニ差出シ申請書ニハ法人ノ名稱及前項第五號並ニ第六號ノ事項ヲ記載スヘシ

第四條 左ニ掲クル者ハ前條ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス

一 未成年者

二 六年以上ノ懲役若クハ禁錮、之ヨリ重キ刑又舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ復權セサル者及六年未滿ノ懲役

若クハ禁錮又ハ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行ヲ終ラス又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ラサル者

三 家資分散若クハ破産ノ宣言ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

四 本則ノ規定ニ依リ許可ヲ取消サレタル者

第五條 海事代願人其業務事項ヲ増加シ又ハ之ヲ變更セントスルトキハ管海官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 海事代願人ハ手数料其他何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス業務ノ取扱上委任者ヨリ受クル報酬ニ關スル規程ヲ定メ管海官廳ノ許可ヲ受クヘシ其之ヲ變更セントスル場合亦同シ

第七條 海事代願人ハ許可ヲ受ケタル範圍ヲ超エテ報酬ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 海事代願人ハ業務ノ取扱上使ケタル印鑑ヲ管海官廳ニ届出ツヘシ其之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第九條 海事代願人ハ事件簿ヲ事務所及出張所ニ備ヘ左ニ掲クル事項ヲ之ニ記載スヘシ

一 件名



トキ  
四 第四條第二號又ハ第三號ニ該當シタルトキ  
第十二條 海事代願人廢業若クハ死亡シタルトキ又ハ行衛  
不明ト爲リタルトキハ廢業ノ場合ニハ本人、其他ノ場合  
ニハ其家族又ハ戸主ヨリ遲滞ナク之ヲ管海官廳ニ届出ツ  
ヘシ法人カ海事代願人タル場合ニ於テ解散シタルトキハ  
其清算人ヨリ遲滞ナク之ヲ管海官廳ニ届出ツヘシ

第十三條 管海官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ海事代願人  
ヲシテ組合ヲ設ケシムルコトヲ得

第十四條 本則ハ明治四十二年一月十日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

第一章 總 則  
第二章 船員手帳  
第三章 船 長  
第四章 海 員  
第五章 紀 律

第三項 船 員

◎船員法(明治三十二年三月八日  
法律第四十七號)

第一章 總 則  
第二章 船員手帳  
第三章 船 長  
第四章 海 員  
第五章 紀 律

其ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス船員手帳カ毀損シタルト  
キハ船員ハ遲滞ナク其ノ書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十條 船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ船員手帳カ滅失又  
ハ毀損シタルトキハ船員カ日本ニ到看シタル後遲滞ナク  
船員手帳ノ交付又ハ書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十一條 第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合  
ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ船員手帳ノ交付又ハ書換ヲ  
申請スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 船員カ廢業ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク管海官廳  
ニ其ノ船員手帳ヲ返還スルコトヲ要ス

第十三條 船長ハ海員ヲ指揮、監督シ及ヒ船中ニ在ル者ニ  
對シ其ノ職務ヲ行フニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十四條 船長ハ管海官廳ノ命令アリタルトキハ商法第五  
百六十二條第一項ニ掲ケタル書類ヲ提出スルコトヲ要ス

第十五條 船舶カ港灣ヲ出入スルトキ、狹隘ナル水路ヲ通  
過スルトキ其ノ他危險ノ虞アルトキハ船長ハ甲板ニ在リ  
テ自ラ船舶ヲ指揮スルコトヲ要ス

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員



**第十六條** 日本ト外國トノ間又ハ外國各港ノ間ヲ航行スル船舶カ外國ノ港ニ入港シ又ハ日本ニ到着シタルトキハ船長ハ二十四時間内ニ其ノ港ノ管海官廳、若シ其ノ港ニ管海官廳ナキトキハ其ノ後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ航海日誌ヲ提出シテ其ノ檢閲ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ船舶カ入港ノ時ヨリ十二時間内ニ發航スル場合ニハ之ヲ適用セス

管海官廳ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員、旅客其ノ他船中ニ在リタル者ヲ呼出シテ訊問ヲ爲スコトヲ得

**第十七條** 左ノ場合ニ於テハ船長ハ最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ
- 二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ
- 三 衝突其ノ他ノ海難カ生シタルトキ
- 四 船舶カ捕獲セラレタルトキ
- 五 船中ニ於テ死亡シタル者アリタルトキ

船舶カ豫定セサル港ニ寄港シタルトキ又ハ前項第二號乃至第五號ニ掲ケタル事由カ碇泊中ニ生シタルトキハ船長ハ其ノ港ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其ノ最後初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

ヲ爲スコトヲ要ス

前條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

**第十八條** 前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テハ船長ハ報告書ヲ作り其ノ認證ヲ申請スルコトヲ得

**第十九條** 船舶ニ急迫ノ危険アルトキハ船長ハ人命、船舶及ヒ積荷ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客、海員其ノ他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非サレハ其ノ指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

**第二十條** 船舶カ衝突シタルトキハ船長ハ互ニ人命及ヒ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且船舶ノ名稱、船籍港、發航港及到達港ヲ告グルコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危険アルトキハ此ノ限ニ在ラス

**第二十一條** 船長カ航海中救援ヲ求ムル船舶ヲ認メタルトキハ人命ヲ救フコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危険アルトキハ此ノ限ニ在ラス

**第二十二條** 海員カ船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ其ノ船中ニ在ル遺産ヲ保管スルコトヲ要ス

**第二十三條** 外國ニ駐在スル日本ノ公使、領事又ハ貿易事務官カ法令ノ定ムル所ニ依リ日本臣民ヲ日本ニ送還スヘキコトヲ命シタルトキハ船長ハ正當ノ理由アルニ非サレ

ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

送還ノ費用ノ償還ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

**第二十四條** 船長ハ其ノ指揮セントスル船舶ニ乗込ム前ニ其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ就職ノ認證ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ就職ノ認證ヲ得タル船長カ其ノ職ヲ退キタルトキハ遲滞ナク退職ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

**第二十五條** 船長カ死亡シタルトキ、船舶ヲ去リタルトキ又ハ之ヲ指揮スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ他人ヲ選任セサルトキハ運航ニ從事スル海員ハ其ノ職掌ノ順位ニ從ヒテ船長ノ職務ヲ行フ

**第四章 海 員**

**第二十六條** 海員ノ雇入若クハ雇止ヲ爲シ又ハ雇入契約ノ更新若クハ變更ヲ爲シタルトキハ管海官廳ニ海員名簿ヲ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

**第二十七條** 管海官廳カ公認ヲ爲スニハ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者雙方ニ讀開カセタル後之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス但海員ノ雇止ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由アルトキハ當事者ノ一方カ出頭セサルトキト

雖モ公認ヲ爲スコトヲ得

當事者カ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル若シ署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ氏名ヲ代書セシメ捺印スルヲ以テ足ル

前項ノ規定ニ依リ捺印セス又ハ氏名ヲ代署セシメ若クハ捺印シタル場合ニ於テハ海員名簿ニ其ノ事由ヲ附記スルコトヲ要ス

**第二十八條** 當事者ハ正當ノ理由アル場合ニ限り代理人ヲシテ公認ヲ受ケシムルコトヲ得

**第二十九條** 公認アリタルトキハ海員ハ遲滞ナク其ノ船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

**第三十條** 海員ノ雇止ニ關シテ爭アルトキハ當事者ノ一方ハ管海官廳ニ其ノ事由ヲ申立テ雇止ノ公認ヲ申請スルコトヲ得

管海官廳カ前項ノ申請ヲ正當ナリト認メタルトキハ當事者雙方ヲ呼出タシ海員名簿及船員手帖ヲ提出セシメテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ要ス

當事者ノ一方カ出頭セサルトキハ管海官廳ハ相手方ノ申



立ニ因リテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ海員名簿及ヒ船員手帖ニ其ノ事由ヲ記載スルコトヲ要ス前二項ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ海員名簿又ハ船員手帖ノ提出ヲ強制スルコトヲ得

**第三十一條** 船長ハ海員ノ雇入期間中其ノ船員手帖ヲ保管スルコトヲ要ス

**第三十二條** 海員カ雇入期間中脱船シタルトキハ船長ハ遲滞ナク管海官廳ニ其ノ海員ノ船員手帖ヲ返還スルコトヲ要ス

**第三十三條** 海員ハ雇止アリタル場合ニ於テハ船長ニ對シ其ノ職務ノ執行又ハ品行ニ關スル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

**第三十四條** 海員名簿カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ更ニ海員名簿ヲ作り之ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條及ヒ第二十八條ノ規定ハ海員名簿及ヒ船員手帖カ共ニ滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ公認ヲ申請スルトキハ此ノ限ニ在ラス

**第三十五條** 海員カ雇入期間中第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リテ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ

其ノ交付又ハ書換アリタルトキハ海員ハ遲滞ナク第二十九條ニ定メタル手續ヲ爲スコトヲ要ス

**第五章 規 律**

**第三十六條** 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ懲戒スルコトヲ得

- 一 海員カ上長ニ對シテ尊敬又ハ從順ノ道ヲ失ヒタルトキ
- 二 海員カ其ノ職務ヲ怠リタルトキ
- 三 海員カ他ノ海員ノ職務執行ヲ妨ケタルトキ
- 四 海員カ喧嘩シタルトキ
- 五 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ船舶ヲ去リタルトキ又ハ船長カ指定シタル時迄ニ歸船セザリシトキ
- 六 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ點火又ハ焚火シタルトキ
- 七 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ端艇ヲ使用シタルトキ
- 八 海員カ食料又ハ飲料ヲ濫費シタルトキ
- 九 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ酒類ヲ所持スルトキ又ハ吸煙シタルトキ
- 十 海員カ酩酊シテ事ヲ省セサルトキ
- 十一 其ノ他海員カ船中ノ秩序ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ

**第三十七條** 懲戒ハ左ノ四種トス

- 一 監禁
- 二 上陸禁止
- 三 加役
- 四 減給

**第三十八條** 監禁ハ三日以下トシ船中ノ一室ニ拘置ス

上陸禁止ハ七日以下トス此ノ期間ニハ船舶ノ碇泊日數ノミヲ算入ス

加役ハ七日以下トシ常務時間外ニ於テ役務ニ服セシム但一日二時間ヲ超ユルコトヲ得ス

減給ハ給料月額十分ノ一以下トス

**第三十九條** 前條第一項乃至第三項ノ期間ニハ初日ヲ算入ス

**第四十條** 懲戒ノ適用ハ行爲ノ輕重ニ從ヒ船長之ヲ定ム但二種以上ノ懲戒ヲ併科スルコトヲ得ス

**第四十一條** 海員カ兇器、爆發若クハ發火シ易キ物、劇藥其ノ他ノ危險物又ハ酒類ヲ所持スルトキハ船長ニ於テ其ノ物ヲ保管又ハ放棄スルコトヲ得

**第四十二條** 海員カ人身又ハ船舶ニ危害ヲ及ホスヘキ行爲ヲ爲サントスルトキハ船長ハ必要ノ期間内其ノ海員ノ身

體ヲ拘束スルコトヲ得

**第四十三條** 船長ハ必要アルトキハ旅客其ノ他船中ニ在ル者ニ對シテモ前二條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

**第四十四條** 海員ハ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込マサルトキ又ハ船長ノ許可ヲ得スシテ之ヲ去リタルトキハ船長ハ乗船ヲ強制スルコトヲ得

**第四十五條** 船長ノ命令ニ服從セサル者アル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ船長ハ海軍ノ艦船、地方官廳又ハ管海官廳ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

**第六章 罰 則**

**第四十六條** 詐僞ノ所爲ヲ以テ船員手帖ノ交付ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ(重禁錮)ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

詐僞ノ所爲ヲ以テ海員名簿ニ公認ヲ受ケ又ハ船員手帖ニ認證ヲ受ケタル者亦同シ

**第四十七條** 第七條、第九條、第十條、第十二條、第二十九條、第三十二條又ハ第三十五條ノ規定ニ反シ船員手帖ノ交付、訂正若クハ公認ノ認證ヲ申請シ又ハ船員手帖ヲ返還スルコトヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス



第四十八條 虚偽ノ海員名簿又ハ船員手帳ヲ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ(重禁錮)ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

公認ヲ受ケタル海員名簿又ハ認證ヲ受ケタル船員手帖ヲ増減、變換シテ行使シタル者亦同シ

第四十九條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十日以上六月以下ノ(重禁錮)ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 船長カ正當ノ理由ナクシテ商法第五百六十二條第一項ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘサルトキ又ハ之ヲ毀棄シタルトキ
- 二 船長カ第十四條ノ規定ニ反シテ書類ノ提出ヲ拒ミタルトキ
- 三 船長カ商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ掲ケタル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 四 船長カ第十七條第一項又ハ第二項ノ場合ニ於テ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキ

第五十條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 船長カ商法第五百六十一條ノ検査ヲ爲サスシテ發航

ヲ爲シタルトキ

二 船長カ船舶ヲ安全ニ碇泊セシメ且商法第五百六十三條ノ規定ニ從ヒ其ノ職務ヲ委任セスシテ船舶ヲ去リタルトキ

三 船長カ第十五條ノ規定ニ反シテ甲板ニ在ラサルトキ

四 船長カ必要ナクシテ豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

第五十一條 船長カ第十六條第一項、第十七條第一項、第二項、第二十二條又ハ第三十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條 船長カ第十九條ノ規定ニ違反シタルトキハ二月以上五年以下ノ(重禁錮)ニ處ス

第五十三條 船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡ササルトキハ一年以上三年以下ノ(重禁錮)ニ處シ又ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ告知ヲ爲ササルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 船長カ第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ十一日以上一年以下ノ(重禁錮)ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 海員カ雇入手續ノ終ハリタル後正當ノ理由ナクシテ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込マサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 船長カ第五章ニ定メタル處分ヲ爲スニ當タリ海員ニ助力ヲ爲スヘキコトヲ命シタル場合ニ於テ海員カ其ノ命令ニ服從セサルトキハ十一日以上六月以下ノ(輕禁錮)ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十三條 船員、旅客其ノ他船中ニ在リタル者カ本法ノ規定ニ依リ管海官廳ヨリ呼出シテ受ケ又ハ書類ノ提出ヲ命セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セサルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十四條 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ二十四時間以上船中ニ在ラサルトキハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス海員カ脱船シタルトキハ十一日以上六月以下ノ(重禁錮)ニ處ス

第六十五條 船長カ正當ノ理由ナクシテ船舶ヲ遺棄シタルトキハ一年以上二年以下ノ(重禁錮)ニ處ス  
船長カ外國ニ於テ正當ノ理由ナクシテ海員ヲ遺棄シタル

第五十五條 船舶ニ急迫ノ危險アル場合ニ於テ海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ其ノ船舶ヲ去リタルトキハ十一日以上三年以下ノ(重禁錮)ニ處ス

第五十六條 第十九條又ハ第二十條ノ場合ニ於テ船長カ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ爲スニ當タリ海員カ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十一日以上二年以下ノ(重禁錮)ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條 船長カ第二十三條第一項ノ規定ニ反シテ送還ノ命令ヲ拒ミタルトキハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條 船舶所有者又ハ船長カ第二十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十九條 船長カ第三十三條ニ定メタル證明書ヲ交付セズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シタル證明書ヲ交付シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 船長カ第三十四條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス



トキハ一月以上一年以下ノ(重禁錮)ニ處ス  
**第六十六條** 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ兇器、爆發又ハ發火シ易キ物、劇藥其ノ他ノ危險物ヲ所持スルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

**第六十七條** 故ナク船體若クハ機關ノ要部ヲ毀損シ又ハ重要ナル屬具ヲ毀損若クハ放棄シタル者ハ十一日以上三年以下ノ(重禁錮)ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
前項ノ罪ヲ犯シ因テ船舶ノ運行ヲ妨ケタルトキハ一等ヲ加ヘ船舶ヲ覆没シ又ハ人ヲ死ニ致シタルトキハ(重懲役)ニ處ス

**第六十八條** 船舶ノ運航ヲ妨クル目的ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ(重懲役)ニ處シ因テ船舶ヲ覆没シ又ハ人ヲ死ニ致シタルトキハ刑法(第六十九條)ノ例ニ依リテ處斷ス

**第六十九條** 海員カ上長ニ對シテ脅迫ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ  
刑法(第三百二十九條)ノ規定ハ前項ノ場合ニハ之ヲ適用セス

**第七十條** 海員カ上長ニ對シテ毆打創傷ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

**第七十一條** 船長カ旅客、海員其ノ他船中ニ在ル者ニ對シテ其ノ職權ヲ濫用シ又ハ虐待ヲ爲シタルトキハ十一日以上三月以下ノ(重禁錮)ニ處シ又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ前條ノ例ニ依リテ處斷ス

**第七十二條** 海員カ相黨與シテ左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ各號ノ區別ニ依リテ處斷シ首魁ハ一等ヲ加フ  
一 職務ニ服セス又ハ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十日以上六月以下ノ(重禁錮)ニ處ス  
二 脫船シタルトキハ一月以上一年以下ノ(重禁錮)ニ處ス  
三 第六十九條又ハ第七十條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本條ノ例ニ照ラシ一等ヲ加フ

**第七十三條** 船員カ著シク其ノ職務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損若クハ覆没シ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上五年以下ノ(重禁錮)ニ處シ又ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

**第七十四條** 本章ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代ハリテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

**第七十五條** 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(明治四十四年十月一日ヨリ施行)  
石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ關シテハ勅令ヲ以テ別ニ本法施行ノ期日ヲ定ムルコトヲ得(明治三十二年六月勅令第二百四十一號ヲ以テ三十四年七月一日ヨリ施行)

**第七十六條** 明治十二年第九號布告西洋形船海員雇入雇止規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但本法施行前ニ同規則ニ定メタル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ其ノ罰則ヲ適用ス

**第七十七條** 船員ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要セス  
前項ノ期間經過ノ後ハ船員ハ遲滞ナク船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

**第七十八條** 從來ノ海員名簿ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ商法ニ定メタル海員名簿ト同一ノ効力ヲ有ス  
前項ノ期間内ニ公認アリタルトキハ其ノ期間經過ノ後ト雖モ其ノ後始メテ公認アル迄ハ從來ノ海員名簿ハ仍ホ其効力ヲ有ス

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

キハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

**第七十一條** 船長カ旅客、海員其ノ他船中ニ在ル者ニ對シテ其ノ職權ヲ濫用シ又ハ虐待ヲ爲シタルトキハ十一日以上三月以下ノ(重禁錮)ニ處シ又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ前條ノ例ニ依リテ處斷ス

**第七十二條** 海員カ相黨與シテ左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ各號ノ區別ニ依リテ處斷シ首魁ハ一等ヲ加フ  
一 職務ニ服セス又ハ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十日以上六月以下ノ(重禁錮)ニ處ス  
二 脫船シタルトキハ一月以上一年以下ノ(重禁錮)ニ處ス  
三 第六十九條又ハ第七十條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本條ノ例ニ照ラシ一等ヲ加フ

**第七十三條** 船員カ著シク其ノ職務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損若クハ覆没シ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上五年以下ノ(重禁錮)ニ處シ又ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

**第七十四條** 本章ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代ハリテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

**第七十五條** 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(明治四十四年十月一日ヨリ施行)  
石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ關シテハ勅令ヲ以テ別ニ本法施行ノ期日ヲ定ムルコトヲ得(明治三十二年六月勅令第二百四十一號ヲ以テ三十四年七月一日ヨリ施行)

**第七十六條** 明治十二年第九號布告西洋形船海員雇入雇止規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但本法施行前ニ同規則ニ定メタル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ其ノ罰則ヲ適用ス

**第七十七條** 船員ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要セス  
前項ノ期間經過ノ後ハ船員ハ遲滞ナク船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

**第七十八條** 從來ノ海員名簿ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ商法ニ定メタル海員名簿ト同一ノ効力ヲ有ス  
前項ノ期間内ニ公認アリタルトキハ其ノ期間經過ノ後ト雖モ其ノ後始メテ公認アル迄ハ從來ノ海員名簿ハ仍ホ其効力ヲ有ス

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

第一章 總 則

**第七十九條** 本法ノ規定ニ依リ管海官廳カ行フヘキ事務ニ付テハ主務大臣ハ市町村長、市制又ハ町村制ヲ施行セザル地方ニ在リテハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ其ノ事務ヲ行ハシムルコトヲ得

**第八十條** 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

◎船員法施行細則(明治三十二年六月十二日 逕信省令第二十五號)

**第一條** 船員法又ハ本則ノ規定ニ依ル申請ハ特ニ明文ヲ掲クル場合ヲ除ク外書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得  
**第二條** 代理人ニ依リテ前條ノ申請ヲ爲ストキハ代理人ハ其ノ權限ヲ證スル書面ヲ管海官廳ニ差出スヘシ  
**第三條** 船員法及本則中最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ト稱スルハ最初ニ到着シタル管海官廳アル港ノ管海官廳ヲ謂フ  
**第四條** 本則第二章乃至第四章ノ事務ハ管海官廳ニ於テ當事者ノ申請ニ依リ理由アリト認ムルトキハ休暇日ト雖モ之ヲ行フコトアルヘシ

第二章 船員手帖



**第五條** 船員法第三條第一項又ハ第六條ニ依リ船員手帖ノ交付ヲ申請セントスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ最寄管海官廳ニ差出スヘシ

船員法第三條第二項但書ノ場合ヲ除ク外申請者ハ同項ニ掲クル事項ヲ證スル戸籍吏ノ書面其ノ他ノ公正證書ヲ申請書ニ添附スヘシ但申請書ニ其證明ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

**第六條** 未成年者ハ前條ノ規定ニ從フ外左ノ事項ヲ記載シ

- 一 未成年者ノ氏名及本籍地
- 二 船員ト爲ルコトヲ許シタル旨
- 三 船員ト爲ルコトヲ許シタル年月日
- 四 法定代理人ノ本籍地及住所

**第七條** 船員法第七條ニ依リ船員手帖ノ訂正ヲ申請セントスル者ハ船員手帖ヲ添ヘ同法第三條第二項但書ノ場合ヲ除ク外訂正ヲ要スル事項ヲ證スル戸籍吏ノ書面其ノ他ノ公正證書ヲ最寄管海官廳ニ差出スヘシ

**第八條** 船員法第九條又ハ第十條ニ依リ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請セントスル者ハ第十一號書式ノ申請書ヲ最寄管海官廳ニ差出シ且書換ヲ申請スル場合ニハ船員手帖

ヲモ差出スヘシ

第五條第二項及第六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但船員法第十一條但書ノ場合ハ此ノ限ニアラス  
海員雇入期間中第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニハ申請書ニ船長連署スルコトヲ要ス

**第八條ノ二** 船員カ船舶ニ乗組マムトスルトキハ船員手帳ニ新ニ撮影シタル自己ノ寫眞(名刺形又ハ手札形、單獨ニ新ニ撮影シタル自己ノ寫眞、半身脫帽臺紙ナキモノ)ヲ添ヘ最寄管海官廳ニ差出スヘシ管海官廳ニ於テハ船員手帖ニ前項ノ寫眞ヲ貼附シ年月日記載シタル後之ヲ當該受有者ニ還付ス

前二項ノ規定ハ船員手帳ニ貼附シタル寫眞カ滅失若ハ毀損シ又ハ貼附ノ日ヨリ十年ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用ス

**第九條** 船員法第十二條又ハ第三十二條ニ依リ船員手帖ヲ返還セントスル者ハ其ノ事由ヲ疏明シ最寄管海官廳ニ船員手帖ヲ差出スヘシ

**第九條ノ二** 雇入期間中行衛不明トナリタル海員ノ雇止ヲ爲シタル者ハ其雇止公認ヲ申請シタル管海官廳ニ該海員ノ船員手帖ヲ差出スヘシ若之ヲ差出スコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ疏明スヘシ

他人ノ船員手帖ヲ保管スル者該船員手帖受有者ノ所在不明ニシテ之ヲ本人ニ還付スル能ハサルトキハ最寄管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ船員手帖ヲ受領シタル管海官廳ハ受領ノ日ヨリ一箇年内ニ本人又ハ代理人ヨリ交付ノ請求ヲキトキハ之ヲ廢棄スヘシ

**第九條ノ三** 海員カ最後雇止ノ公認ヲ受ケタル日ヨリ引續キ三年間雇入ノ公認ヲ受ケサルトキハ其ノ受有スル船員手帖ハ之ヲ無効トス雇入雇止ノ公認ヲ受クルヲ要セサル船員カ最後下船ノ日ヨリ引續キ三年間乗船セサルトキ亦同シ

雇入雇止ノ公認ヲ受クルヲ要セサル船員ハ乗船又ハ下船ノ日ヨリ十四日以内ニ第十二號又ハ第十三號書式ニ依リ最寄管海官廳ニ届出ヲ爲スヘシ但シ船長就職又ハ退職ノ認證ヲ申請シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ乗船若ハ下船ノ届出又ハ退職認證ノ申請ヲ爲ササルトキハ第一項ノ期間ハ船員手帖交付ノ日又ハ最後乗船ノ届出若ハ最後就職認證ノ申請書ニ掲クル乗船若ハ就職ノ日ヨリ之ヲ起算ス

**第十條** 船員手帖餘白ナキニ至リタルトキハ船員ハ現ニ受

有スル船員手帖ヲ最寄管海官廳ノ檢閱ニ供シ更ニ其交付ヲ申請スヘシ

**第十一條** 本章ニ掲クル申請ハ日本ニ於ケル管海官廳ニ之ヲ爲スヘキモノトス

**第十二條** 船員手帖ノ様式ハ第二號書式ニ依ル

**第三章 船 長**

**第十三條** 船長ハ海員名簿、屬具目錄、航海日誌又ハ旅客名簿ヲ船中ニ備ヘタルトキ遲滞ナク書式ニ從ヒ必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ

前項ニ依リ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ遲滞ナク之ヲ訂正スヘシ

**第十四條** 左ノ場合ニ於テ船長ハ事實ノ發生後遲滞ナク書式ニ從ヒ航海日誌ニ事實ノ顛末、發生ノ年月日時、場所其他關係ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ
- 二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ
- 三 衝突其ノ他ノ海難ニ罹リタルトキ
- 四 豫定セサル港ニ寄港シタルトキ
- 五 船舶ニ急迫ノ危険アリタル爲メ船長ニ於テ船舶ヲ去リタルトキ



六 船長ニ於テ海員ヲ徵戒シタルトキ  
七 船員法第四十一條乃至第四十四條ニ依リテ處分ヲ爲シタルトキ

第十七條 管海官廳ニ於テ船員法第十六條第一項ニ依リ航海日誌ノ檢閲ヲ爲シタルトキハ之ニ檢閲ヲ爲シタル旨及檢閲ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ船長ニ還付ス

八 船員法第四十五條ニ依リ援助ヲ求メタルトキ  
九 船中ニ於テ犯罪アリタルトキ  
十 船中ニ於テ出生アリタルトキ

第十八條 船員法第十七條第一項又ハ第二項ノ報告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス  
前項ノ書面及船員法第十八條ノ報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

十一 船中ニ於テ死亡アリタルトキ及死亡者ノ遺産ヲ處分シタルトキ  
十二 前各號ニ掲クル場合ノ外船中ニ於テ異常ノ事變發生シタルトキ

一 船舶ノ番號、種類、名稱及總噸數  
二 船籍港  
三 船舶所有者ノ住所、氏名又ハ名稱  
四 船長ノ氏名、住所並海技免狀ノ種類及機關ニ關スル事項ニ付テハ機關ノ種類、公稱馬力、機關長ノ氏名、住所並海技免狀ノ種類

第十五條

船長ハ旅客乗船シタルトキハ其ノ乗船後、下船シタルトキハ其ノ下船後遲滯ナク旅客名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載スヘシ

第十九條

報告書ノ認證ハ報告書ニ認證ヲ爲シタル旨及認證ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ爲ス

第十六條

本章ニ掲クル書類ヲ記載スルニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタルトキハ欄外ニ其ノ旨及字數ヲ記載シ船長之ニ認印シ訂正又ハ削除シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ様抹消スヘシ

第二十條

船員船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ遲滯ナ長之ニ認印スヘシ

第二十一條

船長ハ戶籍法ノ規定ニ依リ死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ戶籍吏、公使又ハ領事ニ送付スル場合ニ於テハ其ノ港ノ管海官廳、其ノ港ニ管海官廳ナキトキハ其ノ後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ遺産目録ヲ差出スヘシ

第二十二條ノ二 船員法第二十三條第一項ニ依リ日本臣民ヲ送還スヘキコトヲ命セラレタル船長カ公使、領事又ハ貿易事務官ノ指定シタル港ニ到着シタルトキハ其港ニ於ケル警察署ニ送還ノ事由ヲ説明シ被送還者ヲ引渡スヘシ

ク重立チタル海員二名以上ノ立會ヲ以テ其ノ遺産ヲ取調ヘ遺産目録ヲ作ルヘシ  
遺産目録ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印シ遺産ノ取調ニ立會ヒタル海員之ニ連署スルコトヲ要ス  
一 死亡シタル海員ノ氏名、本籍地、住所及死亡ノ年月日時  
二 遺産ノ品名及各品ノ數量、若シ金錢ナルトキハ其ノ金額  
三 遺産目録ヲ作リタル年月日

第二十二條ノ一 前項ニ依リ被送還者ヲ引渡シタル船長カ被送還者ヨリ送還費用ノ償還ヲ得サルトキハ被送還者ノ氏名、出生年月日、出生地、身分、本籍地、住所、扶養義務者ノ氏名、住所及送還ノ事實ヲ記載シタル書面ヲ作り之ヲ被送還者ヲ引渡シタル警察署ニ提出シテ其ノ證明ヲ申請スルコトヲ得  
船長カ明治三十三年勅令第四百十五號ノ規定ニ依リ臺灣總督府、北海道廳又ハ府縣ニ送還費用ノ請求ヲ爲ス場合ニハ請求書ニ前項ノ書類ヲ添付スヘシ

第二十三條

船長カ就職又ハ退職ノ認證ヲ申請セントスルトキハ就職ノ場合ニハ第九號書式退職ノ場合ニハ第十號書式ノ申請書ニ就職又ハ退職及其年月日ヲ證スル書面ヲ添ヘテ船員手帖ヲ最寄管海官廳ニ提出スヘシ

就職ノ認證ヲ申請セントスル場合ニハ船長ハ前項ノ規定

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

第二十二條 前條ニ依リ遺産目録ヲ受ケタルトキハ管海官

録ヲ差出スヘシ



ニ從フ外其ノ海技免狀ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供スヘシ  
第二十四條 第十九條ノ規定ハ前條ノ認證ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四章 海員

第二十五條 海員雇入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ雇入港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其ノ後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ  
一 第三號書式ノ申請書  
二 被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其免狀

第二十六條 海員名簿及前條第一號ノ書面ニ被雇者ノ氏名及之ニ關スル事項ヲ記載スルニハ左ノ順序ニ從フヘシ  
第一 甲板部海員  
第二 機關部海員  
第三 事務部海員

同一ノ部ニ屬スル海員間ニ在リテハ上長ヲ先ニスヘシ

第二十七條 當事者代理人ヲシテ海員雇入ノ公認ヲ受ケシメントスルトキハ其ノ理由ヲ記載シ且其權限ヲ證スル書面ヲ代理人ニ交付シ代理人ハ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ  
第二十八條 海員雇入ノ公認ヲ爲スニ當リ管海官廳ニ於テ

海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者ニ讀開カスニハ被雇者ニ付テハ第二十六條ノ順序ニ依リ之ヲ爲ス  
當事者ヲシテ署名捺印セシムルニハ雇者ヲ先ニシ被雇者ヲ後ニス被雇者間ニ在リテハ第二十六條ノ順序ニ依ル

第二十九條 被雇者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ海員雇入ノ公認ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第二十五條第二號ノ書類ト共ニ之ヲ雇者ニ還付ス  
第三十條 船員法第二十九條ニ依リ雇入ノ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ船員手帖ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ公認ヲ爲シタル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ但シ機關部員以外ノ者ニアリテハ機關ノ欄ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

第三十一條 船員法第三十五條ニ依リ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ書式ニ從ヒ船員手帖ニ現在ノ契約條項其ノ他ノ事項ヲ記載シ最寄管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ船長ハ現在ノ契約條項ヲ記載シタル海員名簿ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第三十二條 船員法第六條ニ依リ船員手帖ノ交付ヲ申請シタル者其ノ雇入期間中船員手帖ノ交付アリタルトキハ遲滯ナク前條第一項ノ手續ヲ爲シ公認ノ認證ヲ申請スヘシ  
前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 左ノ場合ニ於テハ海員雇止ノ公認ヲ申請スヘシ  
一 海員雇入期間力滿了シタルトキ  
二 海員力死亡シタルトキ  
三 海員雇入契約ヲ解除シタルトキ  
四 海員雇入契約力終了シタルトキ  
五 雇入期間中ニ船舶力船員法ノ適用ヲ受クルコトヲ要セサルニ至リタルトキ

第三十四條 海員雇止ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ前條ニ掲クル事實ノ發生シタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中其事實發生シタルトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ  
一 第四號書式ノ申請書  
二 被雇者ニ關シ記載ヲ爲シタル航海日誌

第三十五條 第二十六條乃至第二十八條及第三十條ノ規定ハ海員雇止ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第三十五條ノ二 管海官廳アラサル港ニ於テ雇止メラレタ

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

ル海員ハ船長ニ對シ左ノ事項ヲ記載シタル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得  
一 雇入年月日  
二 職務  
三 雇止年月日  
四 雇止事由  
五 雇止地

前項ノ請求ヲ受ケタル船長ハ證明書ヲ作り署名捺印シテ之ヲ請求者ニ交付シ其ノ後第三十四條及第三十五條ニ依リ該海員ノ雇止公認ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其公認アリタル管海官廳ノ名稱及年月日ヲ該海員ニ通知スヘシ  
第一項ニ掲クル海員カ前項ノ證明書及雇止公認ノ通知ヲ受ケタルトキハ船員手帖ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ前項ノ證明書及通知書ヲ添ヘ其ノ後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ提出シテ雇止公認ノ認證ヲ申請スヘシ  
第三十六條 被雇者總員又ハ船員法第二十七條第一項但書ノ場合ニ在リテハ出頭シタル當事者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ海員雇止ノ公認ヲ爲シタル年月日並當事者ノ一方出頭セスシテ公認ヲ爲シタルトキハ其事由ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第三十四條第二



號ノ書類ト共ニ之ヲ雇者ニ還付ス

**第三十七條** 船員法第三十條第一項ニ依リ雇止ノ公認ヲ申請スル者ハ其ノ申立ヲ確ムヘキ證憑アルトキハ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

**第三十八條** 管海官廳ニ於テ船員法第三十條第二項ニ依リ當事者雙方ヲ呼出シタルトキハ當事者ノ爭ニ關シ各申立ヲ爲サシムヘシ此ノ場合ニ於テ申請者ノ相手方ハ其申立ヲ確ムヘキ證憑アルトキハ之ヲ提出スルコトヲ得

**第三十九條** 管海官廳ニ於テ前條ノ手續ヲ爲シタル後申請ヲ理由アリトスルトキハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項、船員法第三十條ニ依リ海員雇止ノ公認ヲ爲シタルコト及公認ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ雇者ニ還付ス

**第四十條** 海員雇入契約更新ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ更新ヲ爲シタル港ノ管海官廳、其ノ港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中更新ヲ爲シタルトキハ其ノ後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

- 一 第五號書式ノ申請書
- 二 第二十五條第二號ノ書類

三 第三十四條第二號ノ書類

**第四十一條** 海員雇入契約變更ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ變更ヲ爲シタル港ノ管海官廳、其ノ港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中變更ヲ爲シタルトキハ其ノ後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一 第六號書式ノ申請書  
二 契約ノ變更被雇者ノ職務ニ係ル場合ニ於テ被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其免狀

**第四十二條** 第二十六條乃至第二十九條ノ規定ハ海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス

**第四十二條ノ二** 海員雇入契約ヲ更新若ハ變更ノ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ船員手帖ノ相當欄ニ更新又ハ變更ノ年月日、場所及其要旨ヲ記載シ公認ヲ爲シタル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

**第四十三條** 海員雇入雇止又ハ雇入契約ノ更新若ハ變更ノ公認ノ認證ヲ申請シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿又ハ船長ノ證明書ニ依リ船員手帖ノ記載事項ヲ調査シ正當ト

提出スヘシ

- 一 第七號書式ノ申請書
- 二 第二十五條第二號ノ書類

三 被雇者ノ船員手帖現存スルトキハ其手帖前項ノ海員名簿ニハ現ニ雇入期間中ニ係ル海員ニ付テ書式ニ定ムル事項及原管海官廳ニ海員名簿ヲ提出スル場合ニ在リテハ被雇者總員ノ氏名、其他ノ場合ニ在リテハ前項ニ依リ提出スル船員手帖ヲ受有スル被雇者ノ氏名ヲ之ニ記載スヘシ

第二十六條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

**第四十五條** 第二十七條及第二十八條ノ規定ハ被雇者全部又ハ一部ノ船員手帖滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ前條ノ海員名簿ヲ提出スルトキハ此ノ限ニアラス

**第四十六條** 船員法第三十四條第一項ノ申請ニ依リ公認ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ同項ノ公認ヲ爲シタルコト及公認ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第四十四條第二號及第三號ノ書類ト共ニ之ヲ船長ニ還付ス

**第四十七條** 第十六條第一項ノ規定ハ認印及欄外ノ記載ニ關スル規定ヲ除ク外第二十五條第三十條第三十一條第三

認ムルトキハ船員手帳ニ公認ノ認證ノ年月日及第三十一條、第三十二條又ハ第三十五條ノ二ノ場合ニ在リテハ公認ノ認證ノ事由ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シ雇止ノ場合ニハ之ヲ海員ニ還付シ其他ノ場合ニハ之ヲ雇者ニ交付ス

**第四十三條ノ二** 船員カ船員手帖ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ法令ニ特別ノ規定ナキ場合ニ於テモ管海官廳ニ申請シテ船員手帖ニ原手帖ニ記載アリタル事項ニ關スル認證ヲ受クルコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲スニハ認證ヲ受クヘキ事項ヲ船員手帖ニ記載シテ提出シ公認アリタル海員名簿、船長ニ於テ證明シタル海員名簿ノ謄本、毀損シタル船員手帖又ハ相當官廳ノ證明書ヲ管海官廳ノ檢閲ニ供スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ認證ノ申請ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ前項ノ書類ニ依リ新し手帖ノ記載事項ヲ調査シ正當ト認ムルトキハ前條ノ手續ニ依リ且認證ノ事由ヲ記載シテ認證ヲ爲ス



十二條第三十四條第三十五條第四十條第四十一條又ハ第四十四條第二項ニ依リ海員名簿又ハ船員手帖ニ記載ヲ爲スニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニハ管海官廳ニ於テ公認又ハ公認ノ認證ヲ爲スニ當リ之ニ認印スルニアラサレハ文字ノ訂正、挿入又ハ削除ハ其效ヲ有セス

後之ヲ當該申請者ニ還付ス  
(奥書文例)  
右證明ス  
年月日

第五章 手数料

管海官廳名印

**第四十七條ノ二** 管海官廳ハ年月日及管海官廳ノ名稱ヲ刻シタル印ヲ以テ第十七條、第十九條、第二十四條、第二十九條、第三十六條、第三十九條、第四十二條第一項、第四十三條、第四十三條ノ二第三項、第四十六條ノ年月日ノ記載及捺印ニ代フルコトヲ得

**第四十八條** 公認及公認ノ認證ハ管海官廳ニ於テ當事者ノ申請ニ依リ理由アリト認ムルトキハ管海官廳外ノ場所ニ於テ之ヲ行フコトアルヘシ

**第四十八條ノ二** 兵役法施行令第七十八條第二項ノ規定ニ依リ身體検査ヲ受ケントスル船員ハ自ら最寄管海官廳ニ出頭シ船員手帖ニ第十四號書式ニ依リ船長ノ證明シタル徵兵身體検査ニ關スル乗船證明書ヲ添ヘ提出スヘシ  
管海官廳ニ於テハ前項ノ證明書ニ貼附シタル寫眞ノ左肩ニ官廳印ヲ押捺シ左ノ文例ニ依リ證明ノ奥書ヲ爲シタル

- 第四十九條** 手数料ノ額左ノ如シ
- 一 船員手帳ノ交付又ハ書換 一部ニ付 二十錢
  - 二 船員手帳ノ訂正 (但シ行政區劃ノ變更ニ依ル場合ヲ除ク) 船員法第三條第二項ノ事項 一箇ニ付 五錢
  - 三 報告書ノ認證 一通ニ付 一圓
  - 四 船長就職又ハ退職ノ認證 一件ニ付 二十錢
  - 五 公認 被雇者一人ニ付 十錢
- 但シ船員法第三十四條ノ場合ニ於テハ
- 六 公認ノ認證 被雇者一人ニ付 五錢
  - 外國ニ於テ手数料ヲ納付スヘキトキハ其ノ額ハ左ノ規定ニ依ル 一件ニ付 五錢
  - 一 報告書ノ認證 一通ニ付 二圓
  - 二 船長就職又ハ退職ノ認證 一件ニ付 四十錢
  - 三 公認 被雇者一人ニ付 二十錢

但シ船員法第三十五條ノ場合ニ於テハ

- 被雇者一人ニ付 十錢
- 四 公認ノ認證 一件ニ付 十錢
- 前二項ノ手数料ハ第四條又ハ前條ノ場合ニ於テハ前項ニ定ムル所ノ二倍トス

**第五十條** 前條第一項第一號ノ手数料ハ第八號書式ノ手数料納付書ニ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納付スヘシ  
前條第一項第二號乃至第六號ノ手数料ハ逓信大臣ノ告示スル場所ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ、其ノ他ノ場所ニ於テハ現金ヲ以テ之ヲ納付スヘシ  
前二項ニ依リ貼用シタル印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但申請者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ

十圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

**第五十二條** 本則ハ船員法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**第五十三條** 從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ被雇者(海員)氏名、浦役人檢印及事故摘要ノ欄ヲ除ク外其各欄ニ相當ノ事項ヲ記載スヘシ

**第五十四條** 前條ノ場合ニ於テハ雇者ハ明治年月日雇主ト記載シタル下、被雇者ハ被雇者(海員)氏名ノ欄ニ署名捺印スヘシ

**第五十五條** 從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇止ノ公認ヲ申請セントスルトキハ本則施行前ニ雇入ノ公認ヲ受ケタル者ナルト否トヲ問ハス雇止ノ事由、場所及年月日ヲ之ニ記載スヘシ

**第五十六條** 前條ノ規定ハ從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ヲ申請セントスル場合ニ之ヲ準用ス

**第五十七條** 前二條ノ場合ニ於テ當事者ヲシテ署名捺印セシムルニハ各條ノ記載ヲ爲シタル次行ニ之ヲ爲サシムヘシ

第六章 罰 則

**第五十一條** 第十三條第二項第二十條第一項第二十一條第二十二條ノ二第一項第三十一條第二項又ハ第三十二條ニ違反シタル者第二十二條ノ命令ニ違反シテ管海官廳ニ遺産ヲ差出サ、ル者又ハ第三十五條ノ二第二項ニ定メタル證明書ノ交付又ハ公認ノ通知ヲ爲ササル者ハ二圓以上二



第五十八條 海員ノ雇止、雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認

ニ關シ第三十六條第三十九條第四十二條又ハ第四十六條ニ依リ管海官廳ニ於テ爲スヘキ記載及捺印ハ前條ノ署名捺印ヲ爲シタル次行ニ之ヲ爲ス

第五十九條 船員法施行ノ日ヨリ六ヶ月間ニ海員雇止ノ公認

認ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ左ノ事項ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シタル書面ヲ海員ニ交付スヘシ

一 船舶ノ名稱、番號、積量、船籍港及船舶所有者ノ氏名又ハ名稱

二 海員ノ氏名及本籍地

三 雇入ノ公認アリタル年月日、場所、海員ノ從事シタル職務及給料

四 雇止ノ公認アリタル年月日、場所及雇止ノ事由

第六十條 從來ノ海員名簿ニシテ二葉以上ノ用紙ヲ綴合セタルモノニハ管海官廳ニ於テ公認ヲ爲ストキ其ノ各葉ニ契印スヘシ

第六十一條 第四章中海員名簿ニ關スル規定ハ前八條ニ於テ特ニ明文ヲ掲グル場合ヲ除ク外從來ノ海員名簿ニ付テ之ヲ準用ス

第六十二條 最後ノ雇止ノ公認アリタルコトヲ證スル海員

雇止證書又ハ第五十九條ノ書面ハ船員法施行後六ヶ月間ニ雇入ノ公認ヲ受クル場合及該期間満了後初メテ雇入ノ公認ヲ受クル場合ニ雇者ヨリ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ  
前項ニ依リ提出シタル海員雇止證書又ハ第五十九條ノ書面ニハ管海官廳ニ於テ雇入ノ公認ヲ爲シタルトキ其裏面ニ公認ノ年月日及船舶ノ名稱ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ雇者ニ還付スヘシ

附 則(大正十二年遞信省令第八十四號)

本令ハ大正十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ汽船ニ乗組メル者ハ遲滞ナク第八條ノ二

第一項ノ例ニ準シ其手續ヲ爲スヘシ

本令施行前交付ヲ受ケタル船員手帖ニ付テハ第九條ノ三第

一項ニ定ムル期間ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附 則(昭和五年遞信省令第二十號)

本令ハ昭和五年五月十日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年六月遞信省令第二十五號第二號書式ニ依ル船員

手帖ハ當分ノ間仍之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ船員手帖ヲ以テ雇入ノ公認ノ認證ヲ申請セントスル

場合ニ於テハ機關ノ種類及公稱馬力ハ「積量」ノ欄ニ手當ハ

「給料」ノ欄ニ併列シテ之ヲ記載スヘシ

(第一號書式乃至第十四號書式略ス)

◎管海官廳ノ事務ヲ行フ市町村長等

(明治三十二年六月十二日 遞信省令第二十六號)

船員法第七十九條ノ規定ニ依リ左ノ市町村長(戶長)及之ニ準スヘキ者ヲシテ管海官廳ノ事務ヲ行ハシム

北海道

室蘭市長 岩内郡岩内町長 留萌郡留萌町長 天鹽郡天

鹽町長 宗谷郡稚内町長 根室郡根室町長

京都府

與謝郡宮津町長 加佐郡舞鶴町長

神奈川縣

三浦郡三崎町長 足柄下郡二箇村 組合長

兵庫縣

三原郡福良町長 津名郡江井町長 飾磨郡飾磨町長 赤

穂郡阪越町長 城崎郡港村長

長崎縣

佐世保市長 西彼杵郡崎戸町長 南高來郡口之津町長

北松浦郡平戸町長 北松浦郡相浦町長 南松浦郡玉之浦

町長 下縣郡嚴原町長 上縣郡佐須奈村長

千葉縣

銚子市長 夷隅郡勝浦町長 安房郡館山北條町長

茨城縣

那珂郡湊町長 久慈郡久慈町長

三重縣

四日市市長 度會郡大湊町長 度會郡南海村長 志摩郡

鳥羽町長 志摩郡の矢村長 北牟婁郡尾鷲町長 北牟婁

郡引本町長 志摩郡濱島町長 南牟婁郡鶴殿村長 南牟

婁郡荒坂村長 南牟婁郡南輪内村長

愛知縣

知多郡半田町長 知多郡起滑町長 寶飯郡三谷町長

静岡縣

賀茂郡下田町長 賀茂郡稻取町長 賀茂郡田子村長 田

方郡伊東町長 志太郡燒津町長 磐田郡掛塚町長

岩手縣

上閉伊郡釜石町長 下閉伊郡宮古町長

青森縣

下北郡大湊町長 八戶市長

山形縣

酒田市長

秋田縣



第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

南秋田郡土崎港町長 山本郡能代港町長 南秋田郡船川港町長

和歌山縣 長 吉敷郡井關村長

福井縣 敦賀郡敦賀町長 阪井郡三國町新保村組合長

新宮市長 海草郡湊村長 海草郡濱中村長 日高郡白崎村長 西牟婁郡田邊町長 西牟婁郡串本町長 東牟婁郡勝浦町長

石川縣 能美郡安宅町長 右川郡金石町長 羽咋郡福浦村長 鹿島郡七尾町長

島根縣

通摩郡温泉津町長 周吉郡西郷町長 知夫郡黒木村長

德島市長 勝浦郡小松島町長 那賀郡橋町長 那賀郡富岡町長 那賀郡椿村長 海部郡三岐田町長

岡山縣

和氣郡片上町長 兒島郡下津井町長 兒島郡宇野町長

香川縣 高松市長 綾歌郡坂出町長 仲多度郡多度津町長 愛媛縣

廣島縣

廣島市長 吳市長 尾道市長 安藝郡音戸町長 賀茂郡安登村長 豊田郡幸崎町長 豊田郡御手洗町長 豊田郡木ノ江町長 豊田郡田野浦村長 豊田郡東野村長 豊田郡中野村長 御調郡三庄町長 沼隈郡浦崎村長

今治市長 温泉郡西中島村長 越智郡波止濱町長 越智郡東伯方村長 喜多郡長濱町長 宇和島市長 南宇和郡東外海村長 西宇和郡川之石町長 新居郡新居濱町長 八幡濱市長

山口縣

徳山市長 宇部市長 萩市長 大島郡久賀町長 大島郡和田村長 大島郡安下庄町長 大島郡小松町長 熊毛郡上關村長 熊毛郡麻里府村長 都濃郡下松町長 防府市

高知縣 長岡郡三里村長 安藝郡室戸町長 安藝郡甲浦町長 吾川郡浦戸村長 高岡郡須崎町長 高岡郡宇佐町長 幡多郡下田町長 幡多郡清水町長 福岡縣

福岡市長 八幡市長 三潁郡大川町長

佐賀縣

唐津市長 東松浦郡呼子町長 西松浦郡山代町長 小城郡芦荊村長

熊本縣

宇土郡三角町長 天草郡阿村長

沖繩縣

那覇市長

新潟縣

中頸城郡直江津町長 佐渡郡兩津町長 佐渡郡小木町長

大分縣

北海部郡佐賀關町長 北海部郡臼杵町長 北海部郡津久見町長 北海部郡保戸島村長 南海部郡佐伯町長

宮崎縣

宮崎郡赤江町長 南那珂郡油津町長 南那珂郡南郷村長 兒湯郡美々津町長 東臼杵郡細島町長 東臼杵郡東海村長

富山縣

下新川郡魚津町長 上新川郡東岩瀨町長 下新川郡石田村長

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

第六編 交通及通信 第一款 交通 第三項 船員

◎海難其ノ他ノ事實届出方

(昭和八年五月二十五日 逓信省令第二十三號)

第一條 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當シタルトキハ當該船舶ノ船長、船長不在ナルトキハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ於テ其ノ地若シ其ノ地ニ當該官公署ナキトキハ其ノ後最初ニ到着シタル地ノ管海官廳、警察官署又ハ市町村役場、外國ニ在リテハ領事館又ハ貿易事務館ニ其ノ旨届出ツヘシ但シ船員法第十七條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス一 船舶ヲ放棄シタルトキ



二 自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ又ハ之ヲ沈没セシメタルトキ

三 人ヲ殺傷シタルトキ

四 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メタルトキ

五 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

六 亂醉粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

第二條 前條各號ニ該當スル事實アリタルコトヲ認知シ又ハ其ノ事實アリト思料スル者ハ其ノ所在地ニ於テ前條ニ掲クル官公署ニ其ノ旨届出ツヘシ

第三條 第一條ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年遞信省令第十九號ハ之ヲ廢止ス

◎船員最低年齡法(大正十二年三月三十日法律第三十五號)

第一條 本法ハ勅令ノ定ムル場合ヲ除クノ外沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス

第二條 十四歳未満ノ者ハ船員トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル船舶又ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ教習船ニ於テ兒童ニ爲サシムル作業ニ之ヲ適用セス

第二條ノ二 十八歳未満ノ者ハ石炭夫又ハ火夫トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ十八歳以上ノ者ヲ雇入ルルコト能ハサル港ニ於テハ十六歳以上ノ者ニ限リ之ヲ雇入レ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ十八歳以上ノ者一人ニ代ヘ十六歳以上ノ者二人ヲ雇入ルルコトヲ要ス

專ラ日本各港間ヲ航行スル船舶ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラス主務大臣ノ定ムル所ニ依リ十六歳以上ノ者ヲ使用スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ主トシテ蒸汽以外ノモノニ依リ推進スル船舶又ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ教習船ニ於テ年少者ニ爲サシムル作業ニ之ヲ適用セス

第三條 十八歳未満ノ者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ船舶内労働ニ適スルコトヲ證明シ且醫師ノ署名シタル健康證明書ヲ有スルニ非サレハ船員トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ緊急已ムヲ得サル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ依リ健康證明書ヲ有セサル者ヲ使用シ

タルトキハ船長ハ最初ニ到着シタル港ニ於テ前項ノ健康證明書ヲ得シムルノ手續ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ健康證明書ヲ受クルコト能ハサル者ハ之ヲ引續キ使用スルコトヲ得ス

第一項ノ健康證明書ノ有効期間ハ之ヲ一年トス航海中其期間滿了スルトキハ該航海ノ終了迄其ノ效力ヲ有スルモノト看做ス

前三項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル場合ニ之ヲ適用セス

第四條 十八歳未満ノ者ヲ船員トシテ使用スル場合ニ於テハ船長ハ其ノ本籍、氏名及生年月日ヲ記載シタル名簿ヲ調製シ船舶内ニ備付クルコトヲ要ス但十六歳以上ノ者ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ右名簿調製セサルコトヲ得

第五條 當該官吏ハ船舶ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

第六條 船員、船員タラムトスル者、船舶所有者又ハ船長ハ船員又ハ船長タラムトスル者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第七條 第二條、第二條ノ二又ハ第三條ノ規定ニ違反シタ

ル船舶所有者又ハ船長ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ニ該當スル者未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ其ノ者ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

第一項ノ規定ニ該當スル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ第二條又ハ第三條ノ規定ニ違反スル行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第八條 第四條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 本法ニ於テ船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ於テハ船舶管理人ニ、船舶賃貸借ノ場合ニ於テハ船舶賃借人ニ之ヲ適用ス

第十條 本法ハ罰則ヲ除クノ外國、府縣、市町村其ノ他之ニ準スヘキ者ノ使用者タル場合ニ之ヲ適用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十二年十一月)



勅令第四百八十一號ヲ以テ同年十二月十五日ヨリ施行)  
本法施行ノ際十四歳未満ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付第二條ノ規定ハ之ヲ適用セズ  
本法施行ノ際十八歳未満ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付雇入期間ノ滿了迄第三條ノ規定ハ之ヲ適用セズ雇入期間滿了ノ際航海中ノ者ニ付テハ該航海ノ終了迄之ヲ適用セズ

附 則(昭和二年法律第二號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和三年二月勅令第十二號ヲ以テ同年同月二十日ヨリ施行)  
本法施行ノ際十八歳未満ノ者ヲ石炭夫又ハ火夫トシテ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付第二條ノ二ノ規定ハ之ヲ適用セズ

◎船員最低年齢法施行令(大正十二年十一月二十日勅令第四百八十二號)

第一條 船員最低年齢法第二條ノ二及第三條ノ規定ハ漁業ニ従事スル船舶又ハ總噸數二十噸未満若ハ積石數二百石未満ノ船舶ノ船員ニ之ヲ適用セズ  
第二條 船員最低年齢法第四條ニ定ムル名簿ハ漁業ニ従事スル船舶又ハ總噸數二十噸未満若ハ積石數二百石未満ノ

船舶ニ在リテハ十六歳以上ノ船員ニ付之ヲ調製スルコトヲ要セズ

第三條 船員最低年齢法ハ同法第二條ノ二及第三條ノ規定ヲ除クノ外總噸數三十噸未満又ハ積石數三百石未満ノ漁業ニ従事スル船舶ノ船員ニ之ヲ適用セズ

附 則

本令ハ大正十二年法律第三十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十二年十二月十五日ヨリ施行)

◎船員職業紹介法(大正十一年四月十二日法律第三十八號)

第一條 本法ハ命令ノ定ムル場合ヲ除クノ外沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル船舶ニ乗組ムヘキ船員ノ職業紹介ニ之ヲ適用ス  
本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項ニ掲クル者以外ノ船員ノ職業紹介ニ之ヲ適用スルコトヲ得

第二條 船員職業紹介事業ヲ行ハムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 船員職業紹介ニ關シ必要アリト認ムルトキハ政府ニ於テ職業紹介事業ヲ行フコトヲ得  
政府ハ勅令ノ定ムル補助金ヲ支給シテ公益ヲ目的トスル

法人其ノ他ノ團體ヲシテ職業紹介事業ヲ行ハシムルコトヲ得

第四條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス其ノ報酬トシテ手数料其ノ他ノ財産上ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス

第五條 船員職業紹介事業ノ管理及連絡統一ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 船員職業紹介事業ノ經營ニ關シ船員職業紹介委員會ヲ置ク遞信大臣之ヲ監督ス

船員職業紹介委員會ノ組織及職務權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 船員職業紹介事業ハ遞信大臣之ヲ監督ス

監督官廳ハ船員職業紹介事業ノ監督上必要ナル場合ニ於テハ業務ニ關スル諸般ノ報告ヲ爲サシメ、書類帳簿ヲ徴シ及實地ニ就キ業務又ハ會計ヲ檢閲スルコトヲ得

第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
一 許可ヲ受ケスシテ船員職業紹介事業ヲ行ヒタル者  
二 船員職業紹介ヲ爲シ其ノ報酬トシテ手数料其ノ他ノ

財産上ノ利益ヲ受ケ又ハ他人ヲシテ受ケシメタル者  
本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ船員職業紹介ヲ爲ス者強請シテ職業ノ紹介ヲ爲シタルトキ亦前項ノ例ニ同シ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年十一月勅令第四百九十七號ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行)

本法施行ノ際現ニ無料ノ船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ本法施行後二月以内ニ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ

本法施行ノ際現ニ有料又ハ營利ヲ目的トスル船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當分ノ内其ノ事業ヲ繼續スルコトヲ得

◎船舶職員法(明治二十九年四月七日法律第六十八號)

第一條 日本船舶ニハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規定ニ依リ船舶職員ヲ乗組マシムヘシ但シ船舶安全法第二條第一項ノ規定ヲ適用セサル船舶ハ此ノ限ニ在ラス

船舶職員ト稱スルハ船長、一等運轉士、二等運轉士、三等運轉士、機關長、一等機關士、二等機關士及三等機關



士ヲ謂フ

第二條 海技免狀ヲ有スル者ニアラサレハ船舶職員タルコトヲ得ス

第三條 海技免狀ハ左ノ十二種トス

甲種船長

甲種一等運轉士

甲種二等運轉士

乙種船長

乙種一等運轉士

乙種二等運轉士

丙種船長

丙種運轉士

機關長

一等機關士

二等機關士

三等機關士

選信大臣ハ海技免狀ノ效力ニ制限ヲ加ヘタルモノヲ授與スルコトヲ得

第四條 各船舶ニ乗組マシムヘキ船舶職員ノ定員及其ノ免狀ノ種類ハ第一號表ニ依ル

第一號表ニ定ムル免狀ハ命令ノ定ムル所ニ依リ他ノ種類ノ免狀ヲ以テ代用スルコトヲ得

第五條 海技免狀ハ選信大臣ノ定ムル試験規程ニ依リ體格検査及學術試験ヲ受ケ合格シ且海技免狀原簿ニ登録ヲ受ケタル者ニ授與ス

海軍艦船艇ニ乗組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シ又ハ船舶ノ運航若ハ機關ノ運轉ニ關スル學術ヲ教授スル學校ノ所定ノ課程及練習ヲ卒リ選信大臣ニ於テ學術試験ニ合格スト認ムル者ニハ學術試験ヲ行ハスシテ相當ノ免狀ヲ授與スルコトヲ得  
小形船舶ニ乗組ム船舶職員ノ有スヘキ海技免狀ハ選信大臣ノ定ムル所ニ依リ學術試験ヲ行ハスシテ之ヲ授與スルコトヲ得

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ船舶職員タルコトヲ得ス又前條ノ體格検査及學術試験ヲ受クルコトヲ得ス  
一 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者  
二 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者  
三 瘋癲、白痴、身體不具其ノ他精神又ハ身體ニ缺陷ヲ有シ執職ニ不適當ナル者

四 海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者

五 海技免狀ノ行使停止中ノ者

六 破産者ニシテ復權ヲ得サル者

選信大臣ハ海技免狀受有者ニシテ前項第三號ニ該當スルノ疑アルモノニ就キ管海官廳ヲシテ體格検査ヲ執行セシムルコトヲ得

第七條 左ニ掲グル船舶ニ付テハ命令ヲ以テ其ノ職員ニ關シ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

一 外國各港間ノミヲ航行スル船舶

二 漁獵其ノ他特殊ノ目的ニ專用スル船舶

三 特殊ノ構造ヲ有スル船舶

第八條 此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ相當スル船舶職員ヲ乗組マシメサルトキハ船舶所有者、船舶共有ノ場合ニ於テハ船舶管理人、船舶賃借ノ場合ニ於テハ船舶借入人ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シテ船舶職員ト爲リタル者、海技免狀ノ行使ノ假停止若ハ差押中其ノ職務ヲ執リタル者又ハ海技免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第九條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法併合罪ノ例ヲ用キ

前條第一項ノ罰則ハ船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶借入人カ法人ナルトキハ其ノ代表者、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ船舶ノ管理ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條ノ二 此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ日本船舶ニ非サル船舶ニシテ船舶安全法第十四條各號ニ掲グルモノニ準用スルコトヲ得

第九條ノ三 朝鮮總督ノ授與シタル海技免狀ニシテ選信大臣ニ於テ第五條ノ規定ニ依リ授與シタルモノト同等ト認メタルモノハ之ヲ第五條ノ規定ニ依リ選信大臣ノ授與シタル海技免狀ト看做ス

第九條ノ四 地方長官ハ船舶安全法第二條第一項ノ規定ヲ適用セサル船舶ニ於テ船舶職員ニ該當スル職務ヲ執ル者ノ資格ニ關シ選信大臣ノ認可ヲ受ケ必要ナル規則ヲ設クルコトヲ得

第十條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス



第十一條 明治十三年第二十八號布告及明治十四年第七十五號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二條 明治九年第八十二號布告、同年第九十四號布告及明治十四年第七十五號布告ニ依リ授與シタル免狀ハ第二號表ニ依リ各相當ノ免狀ト交換スヘシ其ノ交換ノ手續及時期ハ遞信大臣之ヲ定ム

第十三條 此ノ法律ハ施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限り積石數百五十石以上ノ帆船ニハ之ヲ適用セス

第十四條 遞信大臣ハ積石數百五十石以上ノ帆船ニ乗組ミ三箇年以來其ノ運航ヲ掌リ且此ノ法律施行ノ際現ニ船長ノ職ヲ執リ年齡二十歳以上ノ者ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限り試験ヲ用キスシテ相當ノ海技免狀ヲ授與スルコトヲ得

第十五條 遞信大臣ハ第一號表中近海航路ニシテ登簿噸數五百噸未満ノ汽船及沿海航船ニシテ登簿噸數二百噸以上ノ汽船ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限り二等機關士ノ免狀ヲ有スル者ニ機關長ノ職ヲ執ラシメ又一等機關士ヲ乗組マシメサルコトヲ得

附 則 (昭和四年法律第四十六號)  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
(昭和五年二月勅令第二十五號ヲ以テ同年五月十日ヨリ施行)  
本法施行ノ際現ニ船舶職員トシテ就職中ノ者ハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依リ本法施行後引續キ同一ノ船舶ニ於テ同一ノ職ヲ執ル期間内ニ限り仍從前ノ例ニ依リ就職スルコトヲ得  
本法ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ之ヲ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス  
附 則 (昭和八年法律第十二號)  
本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
(昭和九年勅令第十八號ヲ以テ昭和九年三月一日ヨリ全部施行)  
(第一號及第二號表略ス)

船舶職員法適用ノ件 (大正元年十月十日勅令第三十一號)

船舶職員法ハ日本ノ沿岸又ハ湖川港内ノミヲ航行スル外國船員ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ大正二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

海員懲戒法 (明治二十九年四月七日法律第六十九號)

第一章 總 則

第一條 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フヘシ

- 一 正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ
  - 二 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ自他ノ船舶ヲ間ハス之ニ損害ヲ加ヘ若ハ之ヲ沈没セシメタルトキ
  - 三 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シタルトキ
  - 四 海難ニ罹リ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ
  - 五 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メ正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ
  - 六 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
  - 七 亂醉粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ
- 第二條 懲戒ハ左ノ三種トス
- 一 免狀行使ノ禁止

二 免狀行使ノ停止

三 譴責

第三條 前條懲戒ノ適用ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ海員審判所之ヲ定ム

第四條 免狀行使ノ停止ハ一月以上三年以下トス

第五條 海員審判所ハ左ノ原因アルトキハ審判ヲ行ハス

一 確定裁決

二 時效

第一條各號ニ該當スル者ハ廢業ノ故ヲ以テ懲戒ヲ免ルコトヲ得ス

第六條 時效ノ期間ハ審判ヲ受クヘキ事件ノ生シタル日ヨリ五年トス

第七條 海員審判所ノ審判ニ關シ此ノ法律ニ規程ナキモノニ付テハ刑事訴訟法ノ規程ヲ準用ス

第二章 海員審判所ノ組織及管轄

第八條 海員審判所ハ地方海員審判所及高等海員審判所ノ二トス

地方海員審判所ハ船舶司檢所ニ置キ高等海員審判所ハ遞信省ニ置ク

第九條 海員審判所ニハ審判所長、審判官、理事官及書記ヲ置ク



審判所長、審判官、理事官及書記ノ定員並其ノ任用ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

**第十條** 地方海員審判所ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併せて三人高等海員審判所ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併せて五人ノ列席會議ヲ以テ之ヲ行フ

**第十一條** 地方海員審判所ノ管轄區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

**第十二條** 審判ニ付スヘキ事件ノ管轄權ハ其ノ事件ノ生シタル船舶ノ定繫場ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス  
同一ノ事件ニ付二箇以上ノ地方海員審判所管轄權ヲ有スルトキハ其ノ事件ノ生シタル地ニ最モ近キモノノ管轄トス

**第十三條** 地方海員審判所ノ理事官又ハ被審人ハ其ノ事件ヲ他ノ地方海員審判所ニ移付スルノ申請ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ申請ヲ爲ス者ハ審判期日前ニ管轄海員審判所ヲ經由シテ高等海員審判所ニ申請書ヲ差出スヘシ  
高等海員審判所ハ前項ノ申請アリタル場合ニ於テ審判上便宜ナリト認ムルトキハ其ノ決定ヲ以テ他ノ地方海員審判所ニ該事件ヲ移付スルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テ該事件ハ移付ヲ受ケタル地方海員審判

所ノ管轄權ニ屬ス

**第十四條** 高等海員審判所ハ左ノ場合ニ於テ理事官又ハ被審人ノ申請書ニ依リ何レノ海員審判所ニ於テ本件ヲ審判スルノ權アルヤヲ決定ス  
一 權限アル地方海員審判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ審判權ヲ行フコトヲ得サルトキ  
二 以上ノ地方海員審判所審判權ヲ有シ又ハ有セストノ確定裁決ヲ爲シタルトキ

**第三章 審判前ノ手續**

**第十五條** 船舶司檢所司檢官、同司檢官補、警察官吏、市町村長及浦役人ニ於テ此ノ法律ニ依リ審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ直ニ其ノ事實ヲ詳記シ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ

**第十六條** 領事官及貿易事務官帝國外ニ於テ前條ノ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ證據ヲ集取シ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ

**第十七條** 理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ證據ヲ集取シ又必要ニ應ジ實地臨檢スルトヲ得

**第十八條** 理事官ハ職權ヲ以テ審判ノ開始ヲ地方海員審判

所ニ申立ツヘシ  
前項ノ申立ヲ爲スコトキハ證據其ノ他必要ノ書類ヲ添附スヘシ

**第四章 地方海員審判所ノ審判**

**第十九條** 地方海員審判所ハ理事官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ審判ヲ開始スヘキヤ否ヤヲ決定ス但シ職權ヲ以テスル場合ニ於テハ理事官ノ意見ヲ聽クヘシ  
開始決定ハ理事官及被審人ニ之ヲ通知スヘシ

**第二十條** 地方海員審判所ニ於テ下調ヲ必要ナリト決定スルトキハ審判所長ハ審判官ニ其ノ下調ヲ命スヘシ

**第二十一條** 下調ノ命ヲ受ケタル審判官ハ被審人ヲ呼出シテ之ヲ訊問スルコトヲ得  
受命審判官ハ必要ナル證據ヲ集取スヘシ  
受命審判官ハ證人、鑑定人ヲ呼出シ又ハ通事ヲ命シ若ハ臨檢ヲ爲スコトヲ得

**第二十二條** 被審人若ハ證人正當ノ理由ナクシテ受命審判官ノ呼出ニ應セサルトキハ受命審判官ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ引致セシムルコトヲ得  
引致狀ハ理事官ノ命令ニ因リ勾引狀執行ノ手續ヲ準用シテ之ヲ執行ス

**第二十三條** 被審人逃走シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ受命審判官ハ免狀行使ノ假停止ヲ爲シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得

**第二十四條** 被審人又ハ證人疾病其ノ他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スルコト能ハサルコトヲ疏明スルトキハ受命審判官ハ其ノ所在ニ就テ之ヲ訊問シ若ハ他ノ地方海員審判所ニ其ノ訊問ヲ囑託スルコトヲ得

**第二十五條** 受命審判官下調ヲ終リタルトキハ調書及一切ノ證據ヲ審判所長ニ差出シ審判所長ハ直ニ之ヲ理事官ニ送付スヘシ  
理事官ハ三日以内ニ意見ヲ付シ其ノ書類ヲ審判所長ニ還付スヘシ

**第二十六條** 地方海員審判所ハ下調ヲ十分ナリト思料スルトキハ審判ヲ繼續スルヤ否ヤヲ決定スヘシ  
審判ヲ繼續スヘシト決定スルトキハ審判期日ヲ定メ被審人ヲ呼出スヘシ  
審判ヲ繼續セスト決定スルトキハ被審人ヲ放免スヘシ

**第二十七條** 審判ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ地方海員審判所ノ決定ニ依リ其ノ公開ヲ停止ス

**第二十八條** 第二十一條乃至第二十四條ハ地方海員審判所



ノ審判ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス

**第二十九條** 開廷中秩序ノ維持ハ審判長ニ屬ス審判長ハ審判ヲ妨クル者又ハ不當ノ言語ヲ發スル者ヲ退廷セシムルコトヲ得

**第三十條** 被審人及證人ノ訊問ハ審判長之ヲ爲ス

審判官及理事官ハ審判長ニ告ケ被審人及證人ヲ訊問スルコトヲ得

**第三十一條** 理事官ハ審判ニ立會ヒ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得

**第三十二條** 被審人ハ補佐人ヲ用ウルコトヲ得但シ地方海員審判所ノ認許シタル者ニ限ル

**第三十三條** 地方海員審判所ハ呼出ヲ受ケタル被審人審判期日ニ出頭セサルトキハ闕席裁決ヲ爲スヘシ但シ被審人ノ疾病其ノ他ノ故障ニ依リ審判ヲ行フコト能ハサルトキハ決定ヲ以テ其ノ審判ヲ延期又ハ中止スルコトヲ得

**第三十四條** 刑事裁判手續中ハ被審人ニ對シ審判ヲ開始スルコトヲ得ス

被審人刑事訴追ヲ受ケタルトキハ其ノ事件ノ判決ヲ終ルマテ審判ヲ中止スヘシ

**第三十五條** 理事官及被審人ハ本案ノ裁決アルマテ何時ニ

テモ管轄違又ハ審判ヲ行フヘカラサルノ申立ヲ爲スコトヲ得

地方海員審判所ハ職權ヲ以テ管轄違又ハ審判ヲ行フヘカラサルノ言渡ヲ爲スコトヲ得

**第三十六條** 地方海員審判所ニ於テ前條ノ申立ヲ却下シタルトキハ本案ノ裁決ヲ待タス直ニ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

**第三十七條** 裁決ニハ其ノ理由及證據ヲ明示スヘシ

**第三十八條** 裁決及裁決始末書ノ原本ハ審判ヲ爲シタル地方海員審判所之ヲ保存スヘシ

**第五章 高等海員審判所ノ審判**

**第三十九條** 理事官及被審人ハ地方海員審判所ノ裁決ニ對シ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

**第四十條** 控告ノ期間ハ裁決言渡アリタル日ヨリ七日トス闕席裁決ニ對スル控告ノ期間ハ被審人自ラ裁決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十四日トス

**第四十一條** 控告ヲ爲スニハ其ノ申立書ヲ原地方海員審判所ニ差出スヘシ

原地方海員審判所ハ直ニ該申立書及一件書類ヲ高等海員審判所ニ送付スヘシ

**第四十二條** 高等海員審判所ノ審判ニ付テハ地方海員審判所ノ審判ニ關スル規程ヲ適用ス

**第四十三條** 高等海員審判所ハ控告ヲ理由アリトスルトキハ原裁決ヲ取消シ更ニ裁決ヲ爲スヘシ

控告ヲ理由ナシトスルトキハ裁決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

**第六章 執行處分**

**第四十四條** 懲戒ハ裁決確定ノ後之ヲ執行ス

**第四十五條** 免狀行使ノ禁止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ期間滿了ノ後之ヲ本人ニ還付スヘシ

免狀行使ノ禁止若ハ停止ヲ言渡サレタル者海員審判所ニ免狀ヲ差出ササルトキハ海員審判所ハ其ノ免狀ヲ無効ト爲シ官報ニ告示スヘシ

**第七節 罰 則**

**第四十六條** 海員審判所又ハ受命審判官ヨリ證人トシテ呼出サレタル者及鑑定又ハ通事ノ爲呼出サレタル者正當ノ

理由ナクシテ呼出ニ應セス若ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ二圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

**第四十七條** 證人トシテ海員審判所ニ呼出サレタル者偽證ヲ爲シタルトキ及鑑定又ハ通事ノ爲海員審判所ニ呼出サレタル者詐偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ(重禁錮)ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

**附 則**

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ裁決言渡ニ至ラサル前ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

**第四十八條** 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

**第四十九條** 海員審判所ノ事務章程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

**第五十條** 此ノ法律施行ノ際西洋形船舶長運轉手機關手免狀規則第十條ニ依リ審問中ノ事件ハ此ノ法律ニ依リ管轄權ヲ有スル地方海員審判所ノ管轄トス其ノ既ニ審問ノ判定ヲ受ケタルモノハ第五章ノ規程ニ依リ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得



第四項 航海

◎水先法(明治三十二年三月十四日法律第六十三號)

- 第一條 水先人ハ水先免狀ヲ有スルコトヲ要ス  
水先人ニアラサル者ハ水先區ニ於テ船舶ノ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ス
- 第二條 水先免狀ハ左ノ條件ヲ具備スル者ニ授與ス  
一 帝國臣民ナルコト  
二 主務大臣ノ定ムル試験規定ニ依リ試験ニ合格シタルコト
- 第三條 水先人名簿ニ登録セラレタルコト
- 第三條 左ノ各號ニ該當スル者ハ水先人タルコトヲ得ス  
一 滿二十三年ニ達セサル者及滿六十年以上ノ者  
二 剝奪公權者  
三 家資分散者及破産者  
四 瘋癲白痴者及身體不具又ハ羸弱ニシテ業務ヲ營ムニ不適當ナル者  
五 水先免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者
- 第四條 水先人ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ業

務ヲ營ムコトヲ得ス

- 一 公權ヲ行フコトヲ停止セラレタルトキ
- 二 水先免狀ノ行使ヲ停止若ハ假停止セラレ又ハ之ヲ差押ヘラレタルトキ
- 第五條 水先人其ノ業務ニ從事スルトキハ水先免狀及水先法令書ヲ携帯スヘシ  
水先人ハ當該官吏若ハ公吏ノ命令ニ依リ又ハ水先人ヲ要招シタル船長ノ要求ニ依リ水先免狀又ハ水先法令書ヲ開示スヘシ
- 第六條 水先人其ノ業務ニ從事スル爲水先船ニ乗組ミタルトキハ晝間ニ在リテハ水先旗ヲ掲揚シ夜間ニ在リテハ海上衝突豫防法第八條ノ規定ニ依ルヘシ
- 第七條 水先人ヲ要招セントスルトキハ船長ハ水先信號ヲ爲スヘシ
- 第八條 水先人水先信號ヲ認メタルトキハ直ニ要招ニ應スヘシ  
二艘以上ノ船舶ニ於テ同時ニ水先信號ヲ爲シタルトキハ水先人ハ自己ニ最モ近キ船舶ノ要招ニ應スヘシ  
二艘以上ノ船舶ニ於テ同時ニ水先信號ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ中ニ危難ニ罹リタル船舶アルトキハ水先人ハ前

項ノ規定ニ拘ラス該船舶ノ要招ニ應スヘシ

- 第九條 二人以上ノ水先人同時ニ要招ニ應シタルトキハ其ノ何レヲシテ水路ヲ嚮導セシムヘキカハ船長ノ選擇スル所ニ依ル
- 第十條 水先人水先船ヲ去リタルトキハ水先旗ヲ撤去スヘシ
- 第十一條 水先人水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ乗込ミタルトキハ其ノ氏名及水先人タルコトヲ船長ニ告知スヘシ
- 第十二條 水先人水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ乗込ミタルトキハ船長ハ水先信號ヲ撤去シ船舶ノ名稱、船舶所有者ノ氏名、船籍港、積量及喫水ヲ水先人ニ告知シ且水先人ノ要求アルトキハ其ノ證明書類ヲ開示スヘシ
- 第十三條 水先人ハ同時ニ二艘以上ノ船舶ノ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ス但シ船舶運航ノ自由ヲ得ヌ又ハ水先人ヲ得ル能ハサル爲其ノ船舶ト水路ヲ嚮導スヘキ船舶ト曳綱ヲ以テ聯結セラレタルトキハ此ノ限ニアラス
- 第十四條 水先人水路ヲ嚮導シタルトキハ船長ニ對シ水先案内料ヲ請求スル權利ヲ有ス  
前條但書ノ場合ニ於テハ水先人ハ各艘ノ船舶ニ付前項ノ權利ヲ有ス

第十五條 水先案内料ハ命令ヲ以テ定ムル額ヲ超過スルコトヲ得ス

- 第十六條 水先人ハ水先修業生一名ニ限り水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ之ヲ伴フコトヲ得但シ二名以上ヲ伴ハントスルトキハ船長ノ承諾ヲ經ヘシ
- 第十七條 水先區、水先旗ノ様式及水先信號ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十八條 主務大臣ハ水先區ヲ指定シテ水先人ノ員數ヲ制限シ水先人組合ヲ設ケシメ又ハ水先船ノ免狀及鑿裝ニ關シ必要ナル規定ヲ設ケタルコトヲ得
- 第十九條 水先人其ノ業務ニ從事スルニ當リ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ海員審判所ハ裁決ヲ以テ之ヲ懲戒ス  
一 過失、懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ船舶ニ損害ヲ加ヘ又ハ之ヲ沈没セシメタルトキ  
二 過失、懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタルトキ  
三 業務ヲ怠リ又ハ業務上ノ義務ニ違反シタルトキ  
四 亂醉、粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ  
水先人組合ニ屬スル水先人其ノ組合規約中命令ノ規定ニ



依り懲戒ニ付スヘキ事項ニ違反シタルトキ前項ニ同シ

**第二十條** 前條ニ依り審判ニ付スヘキ事件ノ管轄ハ其ノ水

先人ノ住所ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

前項ノ事件海員懲戒法ノ規定ニ依り審判ニ付スヘキ事件

ト關聯スルトキハ前項ノ管轄ハ海員懲戒法ニ依ル事件ヲ

管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

**第二十一條** 水先人ノ懲戒ニ關シ此ノ法律ニ規定ナキモノ

ニ付テハ海員懲戒法ノ規定ヲ準用ス

**第二十二條** 水先人其ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ

之ヲ沈没セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上

三年以下ノ(重禁錮)ニ處シ又ハ五十圓以上六百圓以下ノ

罰金ニ處ス

水先人ニアラサル者水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シ因テ船舶

ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈没セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルト

キ亦前項ニ同シ

**第二十三條** 左ノ各號ニ該當スル者ハ二圓以上二百五十圓

以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ規定ニ違反シテ水先人ノ業務ヲ營ミタル者

及之ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタル者

二 第八條第二項第三項又ハ第十三條ノ規定ニ違反シタ

ル者

三 第十五條ノ規定ニ違反シテ水先案内料ヲ授受シタル

者

四 水先免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者

五 詐僞ノ目的ヲ以テ船舶ノ喫水若ハ積量ニ付水先人ニ

對シ不實ノ告知ヲ爲シ又ハ喫水ノ標識ヲ變更シタル者

六 水路ノ嚮導ヲ要求セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由

ナクシテ之ニ應セサル者又ハ之ニ應シタルモ正當ノ理

由ナクシテ水路ヲ嚮導セサル者

七 水路ノ嚮導ヲ要求シタル場合ニ於テ正當ノ理由ナク

シテ水先人ヲシテ水路ヲ嚮導セシメ又ハ正當ノ理由

ナクシテ水先人ヲ水先區外ニ伴ヒタル者

八 水先人ニアラスシテ水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シタル

者

**第二十四條** 左ノ各號ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ

罰金ニ處ス

一 第五條第六條第十條第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ

違反シタル者

二 水先人ヲ要招スル爲ニアラスシテ水先信號又ハ之ト

誤認シ易キ信號ヲ爲シタル者

テ其ノ職務ヲ行フ者ニ亦之ヲ適用ス

附 則

**第二十八條** 此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(明治三十二年七月勅令第三百五十六號ヲ以テ同年八月

四日ヨリ施行)

**第二十九條** 明治十一年第三十七號布告ハ此ノ法律施行ノ

日ヨリ之ヲ廢止ス

**第三十條** 明治十一年第三十七號布告ニ依リテ授與シタル

水先免狀ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ此ノ法律ニ依リテ

授與スル水先免狀ト交換ス

前項ノ交換ヲ了スルマテハ舊水先免狀ハ該免狀ニ記載ス

ル水先區中此ノ法律ニ依リテ定メタル水先區ニ該當スル

部分ニ限り之ヲ代用スルコトヲ得

舊水先免狀ヲ有スル者第三條ノ各號ニ該當スルトキハ前

二項ノ規定ヲ適用セス

**第三十一條** 此ノ法律施行前ヨリ其ノ施行後マテ引續キ水

路ヲ嚮導スル場合ニ於テハ水先案内料ハ明治十一年第三

十七號布告ニ依リテ之ヲ算定スヘシ

**第三十二條** 第十九條第二十條及第二十一條ノ規定ハ左ノ

各號ニ該當スル場合ニ於テ亦之ヲ適用ス

三 水先人第十六條ノ規定ニ依リ水先修業生ヲ伴ヒタル

場合ニ於テ之ヲ拒ミタル者又ハ同條但書ノ規定ニ違反

シテ水先修業生ヲ伴ヒタル者

四 第十八條第一項ニ依リ定ムル規定ニ從ヒテ水先船ヲ

嚮導セス又ハ水先船免狀ヲ有セスシテ水先船ヲ使用シ

タル者

五 水先人ニアラスシテ水先旗若ハ之ト誤認シ易キ旗ヲ

船舶ニ掲揚シ又ハ海上衝突豫防法第八條ノ點燈及信號

ヲ爲シタル者

六 水先人ニアラスシテ第十八條第一項ニ依リ定ムル規

定ニ從ヒテ嚮導シタル水先船又ハ之ト誤認シ易キ船舶

ヲ使用シタル者

**第二十五條** 船長水先區ニ於テ水先人ニアラサル者ヲシテ

水路ヲ嚮導セシメタルトキハ命令ヲ以テ定メタル當該水

先區ノ水先案内料ト同額以上二倍以下ノ罰金ニ處ス

**第二十六條** 水路ヲ嚮導セシメサレハ航行危險ナル場合ニ

於テ水先人ヲ得ル能ハサルカ爲水先人ニアラサル者ニシ

テ水路ヲ嚮導セシメタルモノナルトキハ前條及第二十三

條第八號ノ規定ヲ適用セス

**第二十七條** 此ノ法律中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代ハリ



- 一 明治十一年第三十七號布告ニ依リテ審問ヲ要スルモノニシテ此ノ法律ニ依リ懲戒スヘキ行爲此ノ法律施行前ニ發生シ其ノ施行後ニ至リテ發覺シタルトキ
- 二 前號ノ行爲此ノ法律施行ノ際審問中ナルトキ
- 第三十三條 此ノ法律施行後五年間ヲ限リ主務大臣ハ第二條第一號ノ規定ニ拘ラス水先免狀ヲ授與スルコトヲ得前項ニ依リ授與シタル水先免狀ハ前項ノ期間滿了ノ後ト雖其ノ效力ヲ失フコトナシ

◎水先法施行細則(明治三十二年七月二十九日 遞信省令第三十三號)

第一章 登録及免狀

- 第一條 水先人試験ニ合格シタル者ハ試験ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ水先區ノ名稱、本籍地、出生ノ年月日及合格ノ年月日ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ登録ヲ申請スヘシ
- 第二條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ水先人名簿ニ登録シ第一號書式ノ水先免狀ヲ申請人ニ授與ス
  - 一 水先區ノ名稱
  - 二 氏名

- 三 本籍地
- 四 出生ノ年月日
- 五 試験ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱
- 六 合格ノ年月日
- 第三條 前條第二號及第三號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ水先人ハ其ノ事實アリタル日ヨリ十日以内ニ變更ニ係ル新舊事項ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ變更ノ登録ヲ申請スヘシ
- 變更ノ登録ヲ申請スル者ハ登録事項ノ變更ヲ證スル戶籍吏ノ書面、外國人ニ在リテハ本國領事ノ書面ヲ申請書ニ添付スヘシ
- 第四條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ變更ノ登録ヲ爲シ水先免狀ヲ書換ヘ之ヲ水先人ニ交付ス水先人前項ノ免狀ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ舊免狀ヲ遞信省ニ返還スヘシ
- 第五條 水先人左ノ各號ニ該當スルトキハ其事實アリタル日又ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日以内ニ其事由ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ抹消ノ登録ヲ申請スヘシ
  - 一 日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキ
  - 二 滿六十年ニ達シタルトキ

- 三 水先法第三條第二號乃至第五號ノ事項ニ該當シタルトキ
- 四 水先人試験規程ノ規定ニ依リ試験無効トナリタルトキ
- 五 廢業シタルトキ

水先人失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ現ニ水先免狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ抹消ノ登録ヲ申請スル者ハ水先免狀ヲ申請書ニ添付シテ之ヲ遞信省ニ返還スヘシ但水先法第三條第五號ノ事項ニ該當シ抹消ノ登録ヲ申請スル場合ハ此ノ限ニアラス

第六條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキ抹消ノ登録ヲ爲ス

- 遞信省ハ左ノ場合ニ於テハ抹消ノ登録ヲ爲ス
  - 一 抹消ノ登録ヲ申請スヘキ場合ニ於テ規定ノ期間内ニ之ヲ爲ササルトキ
  - 二 詐僞ノ所爲ヲ以テ水先免狀ヲ受ケタルコト發覺シタルトキ
  - 三 海員審判所ニ於テ水先免狀ヲ無効ト爲シタルトキ
  - 四 水先免狀ノ水先區カ新ニ授與スル水先免狀ノ水先區ニ包含セラルルニ至リタルトキ

- 遞信省ハ前項ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲シタルトキハ當該免狀ノ受有者又ハ保管者ニ之ヲ通知ス
- 前項ノ通知ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク該免狀ヲ遞信省ニ返還スヘシ
- 第六條ノ二 遞信省ニ於テ水先人水先法第三條第四號ノ事項ニ該當スルヤ否ヤヲ決定スル必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ其體格検査ヲ執行ス
- 第七條 水先人ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク其事由ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ登録ノ訂正ヲ申請スヘシ
- 遞信省ニ於テ登録ニ錯誤又遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ旨ヲ水先人ニ通知ス
- 前二項ノ規定ハ水先免狀ニ記載シタル事項ニ錯誤又ハ遺漏アリタル場合ニ之ヲ準用ス
- 第八條 水先免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ水先人ハ其事實アリタル日ヨリ十日以内ニ其事由ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ再交付ヲ申請スヘシ
- 水先免狀ノ再交付ヲ申請スル者ハ手数料一圓ヲ納付スヘシ
- 第九條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ更



ニ水先免狀ヲ水先人ニ交付ス  
水先人前項ノ免狀ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ舊免狀ヲ  
遞信省ニ返還スヘシ但水先免狀滅失シタル場合ハ此ノ限  
ニアラス

前項ニ依リ提出シタル水先免狀ハ公權停止ノ期間内管海  
官廳之ヲ保管シ期間満了ノ後之ヲ水先人ニ還付ス

第二章 水先區

第十三條 水先區ヲ甲乙ノ二種ニ分ツ

甲種水先區ハ左ノ十二區トス

- 一 東京灣水先區 安房國洲ノ崎ヨリ相模國城ヶ島西端  
ヲ經テ諸磯崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 二 隅田川水先區 武藏國品川舊第三砲臺ヨリ品川掛燈  
浮標ヲ經テ洲崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 三 和泉灘水先區 紀伊國田倉崎ヨリ淡路國生石鼻ニ引  
キタル線及淡路國江崎ヨリ播磨國明石川口ノ西岸ニ引  
キタル線ヲ以テ境界トス
- 四 内海水先區 紀伊國田倉崎ヨリ淡路國生石鼻ニ引キ  
タル線、淡路國潮崎ヨリ阿波國大磯崎ニ引キタル線、  
伊豫國佐田岬ヨリ高島ヲ經テ豊後國地蔵崎ニ引キタル  
線及長門國網代崎ヨリ筑前國岩屋崎ニ引キタル線ヲ以  
テ境界トス
- 五 下關水先區 豊前國部崎ヨリ北東ニ引キタル線及筑  
前國岩屋崎ヨリ長門國網代崎ニ引キタル線ヲ以テ境界  
トス

第十條

第一條第三條又ハ第八條ノ申請ヲ爲ス者ハ登録稅  
又ハ手數料ニ相當スル收入印紙ヲ納付書ニ貼用シ之ヲ申  
請書ニ添付スヘシ

前項ニ依リ貼用シタル印紙ハ管海官廳ニ於テ消印スヘキ  
モノトス但申請人ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナ  
シ

第十一條

第三條第一項第五條第一項第二項第七條第一項  
又ハ第八條第一項ニ依リ申請書ヲ遞信省ニ差出スニハ水  
先人ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第十二條

水先人公權ヲ行フコトヲ停止セラレタルトキハ  
其裁判確定後遲滞ナク本人又ハ水先免狀ノ保管者ヨリ左  
ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ水先免狀ヲ前條ノ管海官  
廳ニ提出スヘシ

- 一 公權停止ノ理由
- 二 公權停止ノ期間
- 三 裁判ヲ言渡シタル裁判所ノ名稱

六 長崎港水先區

肥前國福田崎ヨリ伊王島北端ニ引キ  
タル線及同國沖ノ島南端ヨリ香燒島南端ヲ經テ深堀ニ  
引キタル線ヲ以テ境界トス

區トシテ其ノ内ノ一區ヲ選定シ遞信大臣ニ届出ツヘシ

第三章 水先案内料

第十四條

甲種水先區ノ水先案内料ハ總噸數千噸又ハ千噸  
未滿ニシテ噸水十噸又ハ十噸未滿ノ船舶ニ付キテハ第一  
號表ニ定ムル所ニ依リ總噸數千噸若クハ千噸未滿又ハ噸  
水一噸若クハ一噸未滿ヲ増ス毎ニ同表ニ定ムル額ニ百分  
ノ六ヲ加フ

第十五條

前條ニ於テ噸水ト稱スルハ各水先區ニ付キ水先  
人水路ヲ嚮導スル爲メ船舶ニ乗組ミタルトキヨリ其嚮導  
ヲ終ルマテノ間ニ於テ船首又ハ船尾ノ有シタル最深ノ喫  
水ヲ謂フ

第十六條

水先人第一號表及第二號表ニ掲クル各航路ノ一  
部ヲ嚮導シタルトキハ其水先案内料ハ全部ニ對スル水先  
案内料ノ範圍内ニ於テ船長ト協定スヘシ

第十七條

水先人水路嚮導中海難其他不可抗力ニ依リ第一  
號表及第二號表ニ掲クル各航路ノ全部ヲ嚮導スルコト能  
ハサルトキハ水先案内料ハ嚮導シタル里程ノ割合ニ應ス  
ヘキモノトス

第十三條ノ二

二區以上ノ水先免狀ヲ有スル者ハ專屬水先

乙種水先區ハ左ノ一區トス

伏木港水先區 越中國伏木港燈臺ヲ中心トシテ一海里  
半ノ半徑ヲ有スル圓圖ノ一弧ヲ以テ境界トス

界トス

十二 四日市港水先區 伊勢國楠崎ヨリ正東三海里半ノ  
點ヨリ楠崎及揖斐川口突堤南端ニ引キタル線ヲ以テ境

十一 名古屋港水先區 伊勢國木曾川口突堤南端ヨリ南  
東ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

十 小樽港水先區 後志國平磯岬ヨリカヤシバ岬ニ引キ  
タル線ヲ以テ境界トス

九 室蘭港水先區 膽振國エンルム崎ヨリ大黒島ヲ經テ  
ホテイシ崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

八 函館港水先區 渡島國尾花岬ヨリ葛登支岬ニ引キタ  
ル線ヲ以テ境界トス

七 島原海灣水先區 肥前國國崎ヨリ肥後國鶴瀬崎ニ引  
キタル線ヲ以テ境界トシ三角港ヲ包含セシム

六 長崎港水先區 肥前國福田崎ヨリ伊王島北端ニ引キ  
タル線及同國沖ノ島南端ヨリ香燒島南端ヲ經テ深堀ニ  
引キタル線ヲ以テ境界トス



第四章 水先旗及水先信號

第十八條 水先旗ハ第一號様式ニ依ル

第十九條 水先旗ハ水先法第六條ノ場合ニ於テハ橋頭、旗竿又ハ帆ノ上部其ノ他見易キ所ニ之ヲ掲揚スヘシ

第二十條 水先旗汚染又ハ毀損シテ水先旗タルコトヲ認メ難キニ至リタルトキハ水先人ハ新ニ之ヲ調製スヘシ

第二十一條 水先法第七條ノ水先信號ハ晝間ニ在リテハ第一號若クハ第二號ヲ用ヒ又ハ之ヲ併用シ夜間ニ在リテハ第三號若クハ第四號ヲ用ヒ又ハ之ヲ併用シテ爲スヘシ

- 一 前橋ニ船首旗又ハ國旗ヲ掲揚スルコト
- 二 萬國普通信號書ニ掲クル水先信號ヲ表示スルコト
- 三 十五分間毎ニ青色焰光ヲ發射スルコト
- 四 須臾ノ間隙ヲ以テ凡ソ一分間亮明ノ白燈ヲ上甲板ノ舷部ニ於テ表示スルコト

第五章 水先船ノ免狀及鑿裝

第二十二條 水先船ハ左ノ條件ヲ具備スヘシ

- 一 船體ノ外部ハ黑色ト爲スコト
- 二 船側及大帆ノ上部ニ於テ水先船タルコトヲ明瞭ニ表示スルコト

第二十三條 水先人水先船ヲ使用スルトキ水先船免狀ヲ受

有スヘシ

第二十四條 水先人水先船免狀ヲ受有セントスルトキハ水先船ノ種類、名稱、綱具ノ裝置、長、幅、深及積量ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

水先船水先人ノ所有ニ屬セサルトキハ其ノ所有者ハ前項ノ申請書ニ連署スヘシ

第二十五條 管海官廳ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ水先船ヲ検査セシメ適當ト認ムルトキハ第二號書式ノ水先船免狀ヲ授與ス

第二十六條 水先船免狀ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ水先人ハ其事實アリタル日ヨリ十日以内ニ新舊事項ヲ記載シタル書面ヲ管海官廳ニ差出シテ水先船免狀ノ書換ヲ申請スヘシ

第四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 水先船免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ水先人ハ其事實アリタル日ヨリ十日以内ニ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ管海官廳ニ差出シテ再交付ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ更ニ水先船免狀ヲ水先人ニ交付ス

申請ヲ爲ス者ハ手数料一圓ヲ納付スヘシ

第十條ノ規定ハ前項ノ手数料ヲ納付スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 管海官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ水先船ニ臨檢セシメ現狀完全ナラスト認ムルトキハ其ノ使用ヲ停止シテ必要ナル修理又ハ設備ヲ命スルコトヲ得

水先人前項ノ命令ニ違反シテ水先船ヲ使用シ又ハ其修理若クハ設備ヲ爲ササルトキハ水先船免狀ハ其效力ヲ失フ

第三十條 水先船使用スヘカラサルニ至リタルトキ又ハ其使用ヲ廢シタルトキハ水先人ハ其ノ事實アリタル日ヨリ十日以内ニ事由ヲ具シ水先船免狀ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

第三十條ノ二 本章ニ於テ管海官廳ト稱スルハ水先人ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ謂フ

第六章 水先法令書

第三十一條 水先法令書ハ遞信省ヨリ之ヲ水先人ニ交付ス

第三十二條 水先法令ニ改正アリタルトキハ遞信省ハ改正ニ係ル條項ノミヲ記載シタル書類又ハ改刷シタル水先法令書ヲ水先人ニ交付ス

第三十三條 水先人改正ニ係ル條項ノミヲ記載シタル書類

ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ヲ水先法令書ニ綴込ムヘシ

水先人改刷シタル水先法令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ舊法令書ヲ返還スヘシ

第三十三條ノ二 第五條ニ依リ抹消ノ登錄ヲ申請スルトキ又ハ第六條第三項ニ依リ抹消登錄ノ通知ヲ受ケタルトキハ水先免狀ト共ニ水先法令書ヲ返還スヘシ

第十二條ニ依リ水先免狀ヲ管海官廳ニ提出スルトキハ水先法令書ヲ添附スヘシ

水先人海員審判所ニ於テ水先免狀行使ノ停止ヲ言渡サレ該免狀ヲ海員審判所ニ差出ストキハ水先法令書ヲ添附スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ水先法令書ハ管海官廳又ハ海員審判所之ヲ保管シ公權停止若クハ免狀行使ノ停止期間滿了ノ後之ヲ還付ス

第三十四條 第八條第一項第九條及第十二條ノ規定ハ水先法令書滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條 水先法令書ハ遞信省ノ印ヲ捺シタルモノニアラサレハ其效力有セス

第七章 水路嚮導ノ證明

第三十六條 水先人水路ノ嚮導ヲ終リタルトキハ左ノ事項



ヲ記載シ得ヘキ様調製シタル書面ニ署名捺印シテ之ヲ船長ニ提出スヘシ

一 船舶ノ名稱、國籍、所有者、積量及喫水

二 水路ヲ嚮導シタル區域

三 水路ノ嚮導ヲ始メ及之ヲ終リタル日時

四 水先案内料ノ額

船長ハ前項ノ書面ニ前項ノ事項ヲ記入シ且署名捺印シテ之ヲ水先人ニ交付スヘシ若シ文字ヲ削除、訂正又ハ挿入シタルトキハ之ニ認印スヘシ

水先人水先法第十三條但書ノ規定ニ依リ二艘以上ノ船舶ノ水路ヲ嚮導シタルトキハ各船ノ船長ニ對シ第一項ノ手續ヲ爲シ各船ノ船長ハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ運航ノ自由ヲ得ヌ又ハ水先人ヲ得ル能ハサリ船舶ノ船長ハ其ノ事由ヲ前項ノ書面ニ附記スヘシ

**第三十七條** 水先法第十六條ニ依リ水先人水先修業生ヲ伴ヒ乗船シタルトキハ水先人ハ水先修業生ヲシテ前條第一項第一號乃至第三號ノ事項ヲ記載シ得ヘキ様調製シタル書面ニ署名捺印セシメ之ヲ船長ニ提出スヘシ

船長ハ前條第二項及第三項ニ準シ前項ノ書面ニ署名捺印シテ之ヲ水先人ニ交付シ水先人ハ之ヲ水先修業生ニ交付

**第四十三條** 組合規約ヲ議決シタルトキハ創立委員ハ遲滞

ナク其成案ヲ逕信大臣ニ差出シ其認可ヲ申請スヘシ

**第四十四條** 第四十一條ノ場合ニ於テ意見數說ニ分レ定數

ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ創立委員ハ各意見ヲ具シ逕信大臣ノ裁決ヲ申請スヘシ

**第四十五條** 組合規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 組合ノ名稱
- 二 組合長其他組合ノ役員ニ關スルコト
- 三 組合員ノ營業ニ關スルコト
- 四 組合ノ風紀秩序ニ關スルコト
- 五 組合ノ會計ニ關スルコト
- 六 組合ノ會議ニ關スルコト
- 七 水先修業生ノ資格等ニ關スルコト
- 八 其他組合ノ處理ニ關シ必要ナルコト

**第四十六條** 水先人組合ニ組合長一名ヲ置クヘシ

水先人組合ニ組合副長又ハ其他ノ役員ヲ置クコトヲ得

組合長其他組合ノ役員ハ組合員ノ選舉ニ依リ上任シ其任期ハ三年以内トス

組合長組合副長ノ内一人ハ組合員以外ノ者ヲ選舉スルコトヲ得

スヘシ

**第三十八條** 水先人ハ水先修業生ノ請求ニ依リ其ノ修業ニ關スル證明書ヲ交付スヘシ

**第八章 水先人組合**

**第三十九條** 水先人組合ハ當該水先區ノ水先人ヲ以テ組合員トス但二區以上ノ水先免狀ヲ有スル者ハ專屬水先區ノ組合員トス

**第四十條** 逕信大臣ニ於テ水先人組合ヲ設クヘキコトヲ命シタルトキハ當該水先區ノ水先人ヲ指名シ創立委員ヲ命ス

**第四十一條** 創立委員ハ組合規約ヲ起草シテ之ヲ當該水先區ノ水先人ノ會議ニ附スヘシ  
創立委員ハ會日ヨリ二週間前ニ各水先人ニ組合規約案ヲ添ヘ會日及會場ヲ通知スヘシ

組合規約ハ當該水先區ノ水先人總員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ之ヲ議決スルコトヲ得ヌ  
水先人ハ代理人ヲ以テ意見ヲ表示スルコトヲ得

**第四十二條** 會議ノ通知ヲ受ケタル水先人會議ニ出席セス若クハ代理人ヲ出席セシメサルトキハ規約ノ成案ニ同意シタルモノト看做ス

**第四十七條** 組合長ハ本則及組合規約ニ依リ其ノ職務ニ屬

セシメタル事務ヲ行フ

組合副長又ハ其他ノ役員ハ組合長ヲ補佐シ其事故ニ依リ職務ヲ行フ能ハサル場合ニハ之ヲ代理ス

**第四十八條** 逕信大臣組合規約ヲ認可シタルトキハ其旨ヲ

創立委員ニ通告ス

創立委員ハ前項ノ通告ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ組合

長其他組合ノ役員ノ選舉ヲ行ヒ其上任確定シタルトキハ遲滞ナク其氏名ヲ逕信大臣ニ報告スヘシ

創立委員ノ職務ハ前項ノ届出ヲ爲スニ依リテ終了ス

**第四十九條** 組合長ハ上任後遲滞ナク組合ノ事務所ヲ定ム

ヘシ

組合長ハ事務所ヲ定メタル日ヨリ三日以内ニ其所在地ヲ逕信省ニ届出ツヘシ事務所ノ所在地ヲ變更シタルトキ亦

同シ

**第五十條** 組合規約ヲ變更セントスルトキハ組合長ハ其成案及變更ヲ要スル事由ヲ具シ逕信大臣ノ認可ヲ申請スヘシ

第四十一條乃至第四十四條ノ規定ハ組合規約ヲ變更セントスル場合ニ之ヲ準用ス



第五十一條 組合長其他組合ノ役員更迭シタルトキハ新任

者ノ氏名及更迭ノ事由ヲ具シ之ヲ逓信大臣ニ届出ツヘシ  
前項ノ届出ハ組合長ヨリ之ヲ爲スヘシ但組合長ノ更迭シ  
タル場合ニ在リテハ新舊組合長ノ連署ヲ以テ之ヲ爲スヘ  
シ

第五十二條 組合長ハ毎年一月前一年間ニ於ケル組合員ノ

營業ニ關スル狀況及組合ノ會計ニ關スル事項ヲ逓信省ニ  
報告スヘシ

第五十三條 第四十九條第二項第五十條第一項第五十一條

第一項及第五十二條ノ申請、届出又ハ報告ヲ爲スニハ事  
務所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第五十四條 逓信大臣ハ組合規約ノ改正ヲ命シ水路ノ嚮導

ニ關スル事項ヲ組合ニ諮問シ必要ト認ムルトキハ其事項  
ヲ審議スル爲メ組合會議ヲ開クヘキコトヲ命シ又ハ當該  
官吏ヲシテ組合ノ會議ニ臨視セシムルコトヲ得

第五十五條 水先人第四十五條第三號又ハ第四號ニ依リ組

合規約ニ記載シタル事項ニ違反シタルトキハ海員審判所  
ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フ  
水先人前項ノ所爲アリタルトキハ組合長ハ組合ノ事務所  
ヲ管轄スル管海官廳ニ其始末ヲ申告スヘシ

第五十六條 前條第二項ノ申告ヲ爲ス場合ニハ申告者ハ成

ルヘク證據及事實參考トナルヘキ事物ヲ提出スヘシ

第九章 雜 則

第五十七條 水先人其業務ニ從事スルニ當リ海難ニ罹リタ

ルトキハ遲滞ナク管海官廳又ハ警察官署ニ其始末ヲ届出  
ツヘシ

第五十八條 船長ハ其使用シタル水先人水先法第十九條第

一項ノ各號ニ該當スト認ムルトキハ航海日誌及機關室日  
誌ノ寫ヲ添へ前條ノ官廳又ハ官署ニ其始末ヲ申告スヘシ

第五十九條 水先人其業務ヲ開始セントスルトキハ當該水

先區内應招ニ便宜ノ場所ニ事務所ヲ定メ之ヲ逓信省ニ届  
出ツヘシ

水先人事務所ヲ變更シタルトキハ其事實アリタル日ヨリ  
十日以内ニ之ヲ逓信省ニ届出ツヘシ

水先人組合ノ成立シタルトキハ組合ノ事務所ヲ以テ各組  
合員ノ事務所ト爲スヘシ

第五十九條ノ二 二區以上ノ水先免狀ヲ有スル者其專屬水

先區ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク逓信大臣ニ届出ツヘシ

第五十九條ノ三 水先人其業務以外ノ業務ニ從事セントス

ルトキ又ハ二月以上其業務ヲ休止セントスルトキハ其事  
スヘシ

第四十九條及第五十九條ノ届出又ハ第六十條ノ報告ハ港  
務部ノ所在地ニ在リテハ當該港務部ニモ之ヲ爲スヘシ

第十章 罰 則

第六十二條 第三條第四條第二項第五條第六條第四項第七

條第一項及第三項第八條第一項第九條第二項第十二條第  
一項第十三條ノ二第十九條第二十條第二十六條第二十七  
條第一項第三十條第三十三條第三十三條ノ二第一項乃至  
第三項第三十四條第三十六條乃至第三十八條第四十一條  
第一項第四十三條第四十四條第四十八條第二項第四十九  
條乃至第五十二條第五十五條第五十七條乃至第五十九  
條第一項第五十二條第五十九條ノ三乃至第六十一條又ハ  
第六十一條ノ二第二項ニ違反シタル者ハ二圓以上二十五  
圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第六十三條 本則ハ水先法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十四條 水先法第三十條第一項ニ依リ同法ニ依リテ授  
與スル水先免狀ト交換スヘキ舊水先免狀ヲ有スル者ハ同  
法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ其住所ヲ管轄スル管海官廳  
ヲ經由シ舊免狀ノ寫ヲ添へ書面ヲ逓信省ニ差出シテ免狀

由ヲ具シ其事務所ノ所在地ヲ管轄スル逓信局長ノ許可ヲ  
受クヘシ

第六十條 水先人水先區ニ於テ左ノ事項アルコトヲ認メタ

- 一 ルトキハ直ニ其狀況ヲ逓信省ニ報告スヘシ
- 一 航路、航路標識ニ異變アルコト
- 二 航路ノ妨害トナルヘキモノノ存在スルコト
- 三 其他航行上危險ノ虞アル事實アルコト

第六十一條 水先人ハ毎年一月前一年間ニ於テ水路ヲ嚮導

シタル船舶ニ關シ第三十六條第一項ノ事項ヲ記載シタル  
書面ヲ逓信省ニ差出スヘシ  
第五條第一項各號ニ該當シ抹消ノ登録ヲ申請スル者ニ在  
リテハ其際前回報告以後ニ於ケル前項ノ書面ヲ該抹消登  
録申請書ト共ニ差出スヘシ第五條第二項ニ該當シ抹消ノ  
登録ヲ申請スル者亦同シ

第六條第三項ニ依リ抹消登録ノ通知ヲ受ケタル者ハ水先  
免狀ト共ニ前項ノ書面ヲ差出スヘシ

前三項ノ書面ニハ第三十六條第二項ノ書面ヲ添附スヘシ

第六十一條ノ二 第五十九條、第五十九條ノ二、第六十條

及第六十一條ノ届出又ハ報告ヲ爲シ若クハ書面ヲ差出ス  
ニハ水先人ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由







備考

帆船水先案内料ハ當該航路ニ於ケル汽船水先案内料ニ其ノ百分ノ八十ヲ加ヘタル額トス但シ機關ヲ有スル帆船ニ在リテ機關ヲ使用スルトキハ帆船水先案内料ノ範圍内ニ於テ船長ト協定スヘシ

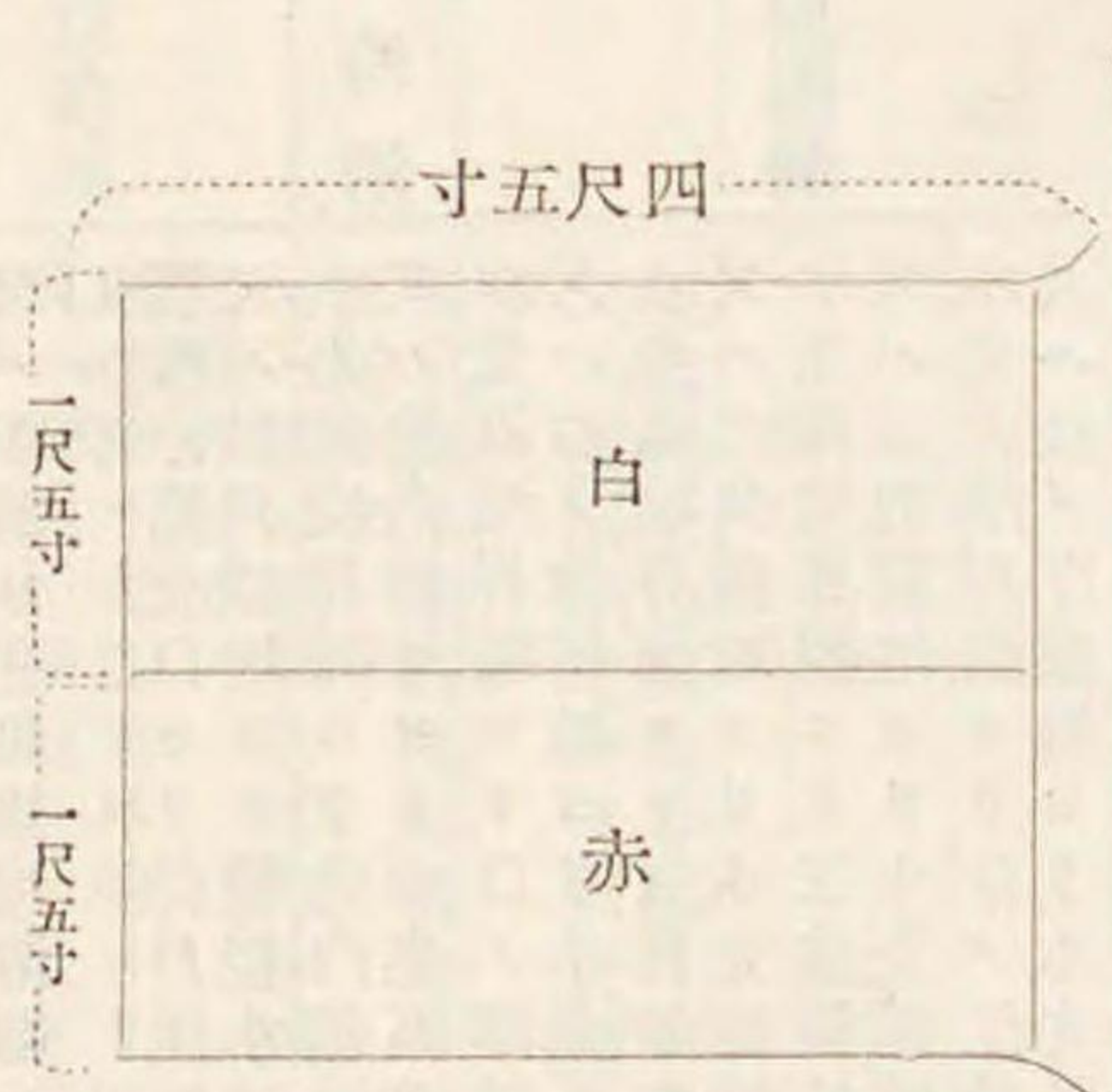
第二號表

水先區及航路	總噸數	喫水	汽船水先案内料
伏木港	千噸未滿	十二呎未滿	八六円
水先區境界	千噸以上	十二呎以上	八六円
線ヨリ港内	二千噸未滿	十四呎未滿	二〇
水先區境界	二千噸以上	十四呎以上	二〇
線ヨリ港内	三千噸未滿	十六呎未滿	二六
水先區境界	三千噸以上	十六呎以上	二六
線ヨリ港内	四千噸未滿	十八呎未滿	三〇
水先區境界	四千噸以上	十八呎以上	三〇
線ヨリ港内	五千噸未滿	二十呎未滿	三六
水先區境界	五千噸以上	二十呎以上	三六
線ヨリ港内	六千噸未滿	二十呎未滿	四二
水先區境界	六千噸以上	二十呎以上	四二
線ヨリ港内	七千噸未滿	二十二呎未滿	四八
水先區境界	七千噸以上	二十二呎以上	四八
線ヨリ港内	七千噸以上	二十二呎以上	四八

備考

第一號樣式

帆船水先案内料ハ當該航路ニ於ケル汽船水先案内料ニ其ノ百分ノ八十ヲ加ヘタル額トス但シ機關ヲ有スル帆船ニ在リテ機關ヲ使用スルトキハ帆船水先案内料ノ範圍内ニ於テ船長ト協定スヘシ



◎航路標識條例 (明治二十一年十月十一日)

**第一條** 航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲メ政府ニ於テ之ヲ設置スルモノトス

**第二條** 土地ノ形狀又ハ狀況ニ由リテハ地方稅又ハ區町村費ヲ以テ航路標識ヲ設置スルコトヲ得此場合ニ於テハ地方長官ニ於テ遞信大臣ノ許可ヲ受クヘシ

從來私設ノ航路標識ハ免許年限間之ヲ繼續スルコトヲ得遞信大臣ニ於テ前二項ノ航路標識不完全ニシテ危害アリト認メタルトキハ之ヲ變更又ハ撤去セシムルコトヲ得

政府ニ於テ直接管理ヲ必要トスルトキハ相當ノ價格ヲ以テ第一項第二項ノ航路標識ヲ買上ルコトヲ得

**第三條** 航路標識ヲ損壞シ又ハ移轉シ又ハ其性質ヲ變更シ又ハ之ヲ蔽遮スヘキ所爲ヲナシ又ハ遞信大臣ノ指定シタル區域内ニ於テ航路標識ノ燈光若クハ警號ト誤認シ易キ所爲ヲナシタル者ハ十一日以上三年以下ノ(重禁錮)ニ處シ又ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

**第四條** 航路標識ニ船袋其ノ他ノ物ヲ繫キ又ハ衝突セシメ又ハ攀躋シ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

◎公設航路標識業務規則 (昭和七年八月五日)

**第一條** 道府縣又ハ市町村ノ管理スル航路標識(以下公設航路標識ト稱ス)ノ業務ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外本令ニ依リ之ヲ執行スヘシ

**第二條** 公設航路標識ニ於テハ晝標(燈火ヲ點セサル航路標識ニシテ霧信號ニ非サルモノヲ謂フ)以下是ニ做フ(一)ヲ除クノ外看守長及一名以上ノ看守員ヲ置キ當該航路標識ノ業務ヲ執行セシムヘシ但シ使用機器ノ種類又ハ建設若ハ碇置場所ノ關係等ニ依リ燈臺局ノ認可ヲ受ケ看守長一名ノミヲ置キ又ハ附近航路標識ノ管理ニ屬セシムルコトヲ得

**第三條** 看守長ハ當該航路標識ノ從業員ヲ監督シ諸般ノ事務ヲ掌理ス

看守長ハ燈臺局又ハ同局ノ指定スル燈臺ニ於テ看守業務ノ傳習ヲ受ケ成業シタルモノナルコトヲ要ス但シ同局ニ於テ特ニ其ノ必要ナキモノト認定シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

**第四條** 前條第二項ニ定ムル看守業務ノ傳習ヲ受ケ成業シタル者ニハ適任證ヲ付與ス



前條第二項但書ニ定ムル認定ヲ受ケタル者ニハ認定證ヲ付與ス

適任證及認定證ノ書式ハ別表ニ依ル

第五條 第三條ノ傳習期間ハ一ヶ月以上三ヶ月以内トス但シ時宜ニ依リ伸縮スルコトアルヘシ

第六條 傳習ニ要スル一切ノ費用ハ本人若ハ當該道府縣市町村之ヲ負擔スルモノトス

第七條 看守長、看守員又ハ看視人ヲ採用シタルトキハ遲滞ナク燈臺局ニ届出ツヘシ之ヲ解免シタルトキ亦同シ前項ノ採用届ニハ履歷書ノ寫ヲ添付スヘシ看守長ニ付テハ適任證若ハ認定證ノ寫ヲモ添付スヘシ

第八條 公設航路標識用品中左ニ掲グルモノハ燈臺局ノ檢定又ハ認可ヲ經タルモノニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

燈籠、燈器(但シ電球ヲ除ク)、照光器、回轉裝置、點滅裝置、瓦斯發生裝置、浮標體、霧信號用機器  
前項ニ依リ檢定又ハ認可ヲ經タル機器ニシテ其ノ要部ヲ修繕シ又ハ之ニ加工シタルトキ亦前項ニ同シ

第九條 公設航路標識中夜標(燈火ヲ點スル航路標識ヲ謂フ)ニハ豫備燈器一組ヲ備付クヘシ但シ同種ノ機器ヲ用

◎航路標識ノ位置變更廢停具申

及報告方(明治二十一年十月三十一日 逓信省訓令第十號)

第一條 航路標識條例第二條第一項ニ依リ地方稅又ハ區町村費ヲ以テ航路標識ヲ設置セントシ地方長官ニ於テ遞信大臣ノ許可ヲ請フトキハ左ノ書類ヲ具スヘシ

- 一 航路標識設置位置及其ノ近傍實測地圖
- 二 航路標識圖面及其ノ構造方法並費用調書
- 三 一ヶ年間入港スヘキ日本形船西洋形船員數及其石數噸數並其ノ最大船舶石數又ハ噸數概算調書

其ノ位置ヲ變更セントスルトキハ第一項ノ書類又其性質ヲ變更セントスルトキハ第二項ノ書類ヲ具シ遞信大臣ニ經伺ノ上之ヲ變更スヘシ

第二條 前條航路標識ヲ設置シ若クハ其位置又ハ性質ヲ變更シ或ハ之ヲ停止若クハ廢止スルトキハ當省ヨリ告示スヘキヲ以テ地方長官ハ豫メ其ノ實施期限ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ

第三條 船舶緊留等ノ爲メ棧橋又ハ埠頭ニ設置スル標識ハ航路標識ト誤認シ易キ虞アルヲ以テ其ノ設置變更等ハ都テ地方長官ニ於テ遞信大臣ニ經伺ノ上若シ航路ニ障礙ア

ウルニ基以上ノ航路標識ヲ管理スル場合ニ在リテハニ基ニ對シ豫備燈器一組ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

電燈ヲ光源トスル公設航路標識ニハ非常用トシテ適當ナル燈器ヲ備付クヘシ

第十條 公設航路標識業務ノ開始、廢止、休止又ハ標識異變ノ發生及復舊ハ其ノ都度燈臺局ヘ電報スヘシ

第十一條 公設航路標識外部ノ定色塗裝ハ褪色又ハ剝脫ノ爲認識困難トナラサル前ニ施行スヘシ

第十二條 浮標ハ常時其ノ位置及現狀ニ注意シ必要ニ應シ復舊交換又ハ修補スヘシ

第十三條 航路標識業務ニ關シ本令ニ規定ナキ事項ハ總テ燈臺局及同局派遣視察官吏ノ指示スル處ニ依ルヘシ

附則

本令ハ昭和七年八月二十日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十二年<sup>三</sup>月<sup>三</sup>日逓信省令第三號北海道廳府縣及區町村立航路標識看守條規ハ之ヲ廢止ス

從前ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル證書ハ本令施行ノ日ヨリ六月以内ニ所持ノ證書ニ履歷書及戶籍抄本ヲ添付燈臺局ヘ提出シ本令ノ定ムル證書ノ交付ヲ受クヘシ

(別表略ス)

リト認ムルトキハ變更又ハ撤去ヲ命スヘキ旨趣ヲ以テ之ヲ許可スヘシ

◎燈標私設禁止ノ件(明治十八年六月五日 太政官布達第十一號)

明治五年<sup>十</sup>月<sup>三</sup>百<sup>二</sup>十二號布達ヲ廢止シ自今燈標私設ヲ禁止ス

但既設燈標ニシテ從前船舶ヨリ其ノ費用ヲ徵セサルモノハ來ル明治二十八年ヲ限リ廢止シ其費用徵收願濟年限ナキモノハ此際相當ノ期限ヲ定メ更ニ工部省ヘ願出スヘシ右布達候事

◎私設航路標識取締條規(明治二十二年三月十四日 逓信省令第二號)

第一條 私設航路標識建設人ニ於テ標識ノ位置又ハ性質ヲ變更セント欲スルトキハ其事由ヲ具シ管轄廳ヲ經由シテ遞信大臣ニ願出ツヘシ

第二條 前條航路標識ノ位置又ハ性質ヲ變更シ或ハ之ヲ停止若クハ廢止セントスルトキハ其實施期限ヲ定メ二箇月以前管轄廳ヲ經由シテ遞信大臣ニ届出ツヘシ

第三條 私設航路標識建設人ハ標識看守上ニ付遞信省(燈臺局)又ハ(同局)派遣ノ視察官吏ヨリ教示スルコトアル



トキハ之ヲ遵守スヘシ

第四條 私設航路標識ニシテ燈費ヲ徵收スルモノハ建設人ニ於テ帳簿ヲ備ヘ其徵收額及維持費支出額ヲ記載シ置キ遞信省〔燈臺局〕派遣視察官吏ノ檢閲ヲ受クヘシ

◎私築燈標ノ燈費取立ニ關スル件

(明治十九年六月二十九日 逓信省令第十八號)

私築燈標ノ燈費ハ海軍艦船及燈臺視察船ヨリ取立ルヲ得ス

◎船舶通報規則 (明治四十年九月二十六日 逓信省令第四十四號)

第一條 船舶通報ヲ別テ左ノ三種トス

- 一 通過報
  - 二 信號報
  - 三 海難報
- 第二條 通過報トハ特ニ指定スル燈臺ノ沿海ヲ通過スル船舶ニ關シ和文電報ヲ以テ請求者ニ左ノ事項ヲ通知スルモノヲ謂フ
- 一 船名
  - 二 通過時分
  - 三 通過ノ方向

第三條 信號報トハ船舶ノ所有者又ハ賃借人ト當該船舶ノ船長トノ間ニ於ケル通信ニシテ特ニ指定スル燈臺ニ於テ其ノ沿海ヲ通過スル當該船舶ト信號ニ依リ送受スルモノヲ謂フ

第三條ノ二 海難法トハ特ニ指定スル電信局所ニ於テ船舶ノ遭難又ハ航行ノ安全ニ關スル無線電信又ハ無線電話ニ依ル通信トモノヲ除クニ依リ知得シタル船舶ノ遭難、委棄又ハ漂流ニ關スル左ノ事項ヲ和文電報ヲ以テ請求者ニ通知スルモノヲ謂フ

- 一 船名 必要アルトキハ船舶ノ種類、國籍又ハ所有者名ヲ附記ス
  - 二 災厄ノ日時 遭難ノ日時又ハ遭難、委棄若ハ漂流ノ事實ヲ知得シタル日時
  - 三 船舶ノ位置
  - 四 災厄ノ狀況 遭難、委棄又ハ漂流ノ別及其ノ狀況
- 第四條 通過報ノ取扱ヲ望ム者ハ左ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ其ノ電報ヲ配達スヘキ電信局所ニ差出スヘシ
- 一 船名及信號符字
  - 二 國籍
  - 三 船舶所有者名 (若船舶カ賃借中ノモノナルトキハ船舶ノ賃借人名)

四 燈臺名

四ノ二 通過ノ方向

五 請求者

(若請求者カ受信者ニ非サルトキハ併セテ受信者)ノ住所氏名

前項ノ場合ニ於テ請求者カ該船舶ノ所有者又ハ賃借人ニ非サルトキハ第十九條第一項ノ規定ニ依リ國旗及信號符字ヲ掲クル旨記載シタル船舶所有者モノナルトキハ其ノ賃借人ノ承諾書ヲ添付スヘシ

臨時ニ通過報ノ取扱ヲ望ム者ハ第一項各號ノ事項ノ外尙豫定通過日時ヲ記載スヘシ

第五條 通過報ノ取扱ヲ望ム者ハ登記料トシテ一會計年度毎ニ金二圓ヲ前條ノ電信局所ニ納付スヘシ但シ臨時ニ其ノ取扱ヲ望ム者ハ此ノ限リニ在ラス

前項ノ登記料ハ毎年度分ヲ其ノ前年度ノ末日十五日前迄ニ納付スヘシ但シ初年度分ハ請求書差出ノ際之ヲ納付スヘシ

第六條

通過料ノ料金左ノ如シ

- 一 登記料ヲ納付シタル者ニ對シテハ一通毎ニ

内地相互間

金二十錢

第六編 交通及通信 第一款

交通 第四項

航海

内地臺灣樺太及朝鮮相互間 金二十五錢

二 登記料ヲ納付セサル者ニ對シテハ一通毎ニ

内地相互間

金三十錢

内地臺灣樺太及朝鮮相互間

金四十錢

夜間 日没ヨリ日出ト通過ノ船舶ニ對スル通過報ノ料金ハ前項料金ノ二倍トス

前二項ノ料金ハ配達ノ際受信者ヨリ之ヲ徵收ス

第七條

第四條ノ請求ヲ受ケタル電信局所ニ於テ豫定通過日時切迫ノ爲燈臺ニ電報ヲ以テ通知ヲ要スルトキハ請求者ハ其ノ電報ノ料金ヲ前納スヘシ

第八條 第四條ノ請求書ニ記載セル船舶カ燈臺ノ沿海ヲ通過シタル場合ト雖該燈臺ニ於テ其ノ船名ヲ知リ得サリシトキ又ハ全ク船舶ノ通過ヲ知リ得サリシトキハ通過報ヲ發セサルコトアルヘシ

第九條

信號報ノ取扱ヲ望ム船舶ノ所有者又ハ賃借人ハ豫メ左ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ其ノ電報ヲ配達スヘキ電信局所ニ差出スヘシ

- 一 船名及信號符字
- 二 國籍
- 三 船舶所有者名 (若船舶カ賃借中ノモノナルトキハ船舶ノ賃借人名)



四 燈臺名  
五 請求者ノ住所氏名

第十條 信號報ノ取扱ヲ望ム者ハ登記料トシテ一會計年度毎ニ金二圓ヲ前條ノ電信局所ニ納付スヘシ

前項ノ登記料ハ毎年度分ヲ其ノ前年度ノ末日十五日前迄ニ納付スヘシ但初年度分ハ請求書差出ノ際之ヲ納付スヘシ

第十一條 信號報ノ料金左ノ如シ

信號料 一通ニ付 金一圓  
電報料又ハ郵便料 實費

船舶ヨリ發スル信號報ノ料金ハ之ヲ受信者ヨリ徵收ス

第十二條 船舶ノ所有者又ハ賃借人信號報ヲ發セムトスルトキハ和文電報書法ニ從ヒ相當事項ヲ賴信紙ニ記載シ之ヲ第九條ノ電信局所ニ差出スヘシ但シ之ニ關スル郵便切手ハ賴信紙ニ貼附スヘカラス

前項ノ場合ニ於テ郵便ニ依リ燈臺ニ送達ヲ望ムトキハ同時ニ其ノ旨ヲ申出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ適宜ノ用紙ニ記載スルコトヲ得

第十三條 電信局所ニ於テ前條ノ信號報ヲ受ケタルトキハ指定ノ方法ニ依リ之ヲ燈臺ニ傳送シ燈臺ニ於テ之ヲ船舶

ニ傳達ス

第十四條 船舶ニ於テ信號報ヲ發セムトスルトキハ其ノ旨ヲ燈臺ニ信號スヘシ但シ信號報ノ受信者ハ第十條ノ登記料ヲ納付シタル者ニ限ル

第十五條 燈臺ニ於テ前條ノ信號報ヲ受ケタルトキハ和文電報ヲ以テ之ヲ第九條ノ電信局所ニ傳送シ電信局所ハ之ヲ受信者ニ配達ス

第十六條 燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ傳達スルハ其ノ到達ノ日ヨリ十日以内ニ限ル

第十七條 船舶ニ傳達シ能ハサル信號報ノ料金中信號料ハ納付人ノ請求ニ依リ之ヲ還付ス

第十八條 燈臺ノ船舶トノ間ニ於ケル信號ハ晝間ニ限り之ヲ行ヒ其ノ方法ハ國際通信書ノ定ムル所ニ依ル但シ船舶ノ所有者又ハ賃借人ノ請求ニ依リ燈臺ニ於テ夜間通過ノ信號ヲ受クルコトアルヘシ

第十九條 通過報又ハ信號報ニ關係ヲ有スル海上ノ船舶ハ特ニ指定シタル燈臺ニ接近シタルトキハ國旗及信號符字ヲ掲クヘシ

前條但書ニ依リ夜間通過ノ信號ヲ爲サムトスルトキハ船舶ノ所有者又ハ賃借人ハ特定信號ヲ定メ豫メ燈臺局ノ承

認ヲ經ルコトヲ要ス

第十九條ノ二 海難報ノ取扱ヲ望ム者ハ左ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ其ノ電報ヲ配達スヘキ電信局所ニ差出スヘシ

一 船名及信號符字

二 國籍

三 船舶所有者名 (若船舶力賃貸借中ノモノナルトキハ船舶ノ賃借人名)

四 發信電信局所名

五 請求者ノ住所氏名

第十九條ノ三 第十條ノ規定ハ海難報ニ之ヲ準用ス

第十九條ノ四 海難報ノ料金ハ電報ノ字數ニ應シ一般私報ノ料金ヲ課ス

前項ノ料金ハ配達ノ際受信者ヨリ之ヲ徵收ス

第十九條ノ五 電信局所ニ於テ第三條ノ二各號ノ事項中知得シ得サルモノアルトキハ當該事項ノ通報ヲ爲サス又ハ海難報ヲ發セサルコトアルヘシ

第二十條 本令中料金ノ徵收又ハ還付ニ關シ明文ナキ事項ハ凡テ明治三十三年九月遞信省令第四十六號電報規則ノ規定ヲ準用ス

第二十一條 第四條第一項、第九條又ハ第十九條ノ二ノ各號ニ掲クル事項ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ船舶通報ノ請求者其ノ取扱ヲ罷メムトスルトキハ請求書ヲ差出シタル電信局所ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

受信者住所ノ異動ニ依リ配達電信局所ヲ異ニスルニ至リタル時ハ其ノ船舶通報取扱ノ請求ハ消滅シタル物ト看做ス但シ同一市町村内ニ於ケル受信者住所ノ異動ニ依リ配達電信局所ヲ異ニスルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 船舶通報ハ内地小笠原島相互間小笠原島除ク

臺灣樺太及朝鮮相互間ニ發受スルモノニ限ル

第二十三條 燈臺以外ノ場所ニ於テ通過報又ハ信號報ノ取扱ヲ爲ストキハ本令ヲ準用ス

附 則

第二十四條 本令ハ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎船舶通報事務取扱燈臺

(明治四十年九月二十七日 遞信省官令第五百九十二號)

左記ノ燈臺ニ於テ本年十月一日ヨリ船舶通報ニ關スル事務ヲ取扱フ



犬吠埼 下總國  
犬吠埼

劔埼 東京海灣  
劔埼 劔埼

(明治四十一年十二月二十四日  
海防省告示第八百六十八號)

(明治四十二年七月十七日  
海防省告示第六百七十三號)

◎船舶通航信號、潮流信號ノ件

左記ノ燈臺ニ於テ明治四十一年一月一日ヨリ船舶通報ニ關スル事務ヲ取扱フ  
但夜間通過ノ信號ハ之ヲ取扱ハス

内海沿岸中特ニ指定スル場所ニ信號所ヲ置キ通過船舶ニ對シ左記ノ規定ニ依リ船舶通航信號、潮流信號又ハ兩信號ヲ爲サシム

- 稚内 北見國野寒岬
- 日ノ御埼 紀伊水道東側日ノ御埼
- 尻矢埼 津輕海峽ノ東口
- 佐多岬 大隅國ノ南端小岩島
- 金華山 陸前國金華山ノ南東端
- 神埼 對馬國ノ南端
- 潮岬 紀伊國潮岬
- 大瀨埼 五島列島福江島ノ南西端

(明治四十一年五月二十五日  
海防省告示第五百五十七號)

下關海峽西口六連島燈臺ニ於テ本年六月一日ヨリ船舶通報ニ關スル事務ヲ取扱フ  
紀伊水道東側日ノ御埼燈臺ニ於テハ船舶通報ニ關シ夜間通過ノ信號ヲ取扱ハサル處(明治四十年三月遞信省告示第八百六十八號參照)本年六月一日ヨリ其取扱ヲ開始ス

- 一 船舶通航信號ハ信號所ノ附近ニ於ケル船舶ノ動靜ニ關シ之ヲ爲ス但シ各信號所ニ付テ特ニ定ムル場合、縱帆ノミヲ裝置スル帆船力群走セサル場合及構權ヲ以テ運轉スル船ニ關スル場合ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 二 船舶通航信號ハ左ノ三種ニ分チ晝間ニ在テハ黑色ノ船舶通航信號塔ニ白色ノ記號ヲ表示シ夜間ニ在テハ該塔ニ燈ヲ掲ケテ之ヲ爲ス(附圖參照)
- 第一種 晝間ニ在テハ前塔ニ圓形ヲ表示シ夜間ニ在テハ該塔ニ不動白色燈ヲ掲ケルモノ
- 第二種 晝間ニ在テハ中央燈ニ三角形ヲ表示シ夜間ニ在テハ該塔ニ明暗紅色燈ヲ掲ケルモノ
- 第三種 晝間ニ在テハ後塔ニ方形ヲ表示シ夜間ニ在テハ該塔ニ不動紅色燈ヲ掲ケルモノ

前塔ト稱スルハ信號所見張所ノ上部ニ在ルモノ、中央塔ト稱スルハ前塔ノ後方ニ在ルモノ、後塔ト稱スルハ最後ニ在ルモノヲ謂フ

三 潮流信號ハ左ノ四種ニ分チ晝間ニ在テハ白色柱ノ頂ニ於テ一端ニ紅色圓形板、他端ニ黑色矩形板ヲ有スル白色桿ノ位置ヲ轉換シ夜間ニ在テハ白色ノ潮流信號塔ニ燈ヲ掲ケテ之ヲ爲ス(附圖參照)

- 第一種 晝間ニ在テハ矩形板ヲ上端トシテ桿カ約三十度ニ傾斜シ夜間ニ在テハ白色不等分明暗燈ヲ掲ケルモノ
- 第二種 晝間ニ在テハ矩形板ヲ上端トシテ桿カ約七十度ニ傾斜シ夜間ニ在テハ白色等分明暗燈ヲ掲ケルモノ
- 第三種 晝間ニ在テハ圓形板ヲ上端トシテ桿カ約三十度ニ傾斜シ夜間ニ在テハ紅白不等分互光燈ヲ掲ケルモノ
- 第四種 晝間ニ在テハ圓形板ヲ上端トシテ桿カ約七十度ニ傾斜シ夜間ニ在テハ紅白等分互光燈ヲ掲ケルモノ

四 潮流信號ハ同方向ノ潮流力流レ始メテヨリ流レ止ムマ

第六編 交通及通信 第一款 交通 第四項 航海

テノ間ニ於テ最初ノ約三分ノ一ニ相當スル期間ヲ初期、次ノ約三分ノ一ニ相當スル期間ヲ中央期、最後ノ約三分ノ一ニ相當スル期間ヲ末期トシテ之ヲ爲ス

- 五 信號機ノ故障其ノ他ノ事由ニ依リ信號ヲ爲スコトヲ得サルトキハ左ニ定ムル所ニ從ヒ信號ヲ爲ス  
船舶通航信號ヲ爲スコトヲ得サルトキ  
晝間 國際借號旗第一代表旗ノ下ニWヲ旗竿ニ掲ケ  
夜間 紅燈一箇ヲ前後ノ各信號塔ニ掲ケ  
潮流信號ヲ爲スコトヲ得サルトキ  
晝間 圓形板ヲ上端トシテ桿ヲ直立ス  
夜間 綠燈一箇ヲ潮流信號塔ニ掲ケ
- 六 潮流信號ヲ爲ササル信號所ハ夜間信號所ノ位置ヲ示ス爲メ其ノ中央塔ニ明暗白色燈ヲ掲ケ但シ第二項ノ船舶通航信號ヲ爲ス場合及前項ニ依リ燈ヲ掲ケル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
- 七 航路ニ異變アルトキ、航行危險ノ虞アルトキ其ノ他船舶ノ航行ニ關シ必要アルトキハ信號所ハ晝間ニ限り國際通信書ニ依リ信號ヲ爲スコトアルヘシ(附圖略ス)

◎信號所設置(明治四十二年七月十七日  
海防省告示第六百七十四號)



下關海峽部埼、火ノ山下、赤坂及臺場鼻ニ信號所ヲ置キ明治四十二年八月十五日ヨリ明治四十二年七月遞信省告示第六百七十三號及左記ノ規定ニ依リ信號ヲ開始ス

一 部埼信號所及臺場鼻信號所ニ於テハ船舶通航信號及潮流信號ヲ爲シ火ノ山下信號所及赤坂信號所ニ於テハ船舶通航信號ヲ爲ス

二 左ニ掲クル船舶ノ動靜ニ關シテハ船舶通航信號ヲ爲サス

一 下關、門司間ノミ航行スル汽船  
二 下關海峽及其ノ附近ヲ航行スル汽艇、發動機船及小形汽船

三 船舶通航信號ノ意義ハ別表ニ依ル

四 潮流信號ハ早瀬瀬戸ニ於ケル潮流時期ヲ示シ其ノ意義ハ左ニ掲クル所ニ依ル

第一種 東流ノ初期又ハ末期

第二種 東流ノ中央期

第三種 西流ノ初期又ハ末期

第四種 西流ノ中央期

五 前項ニ於テ東流ト稱スルハ玄海灘ノ方ヨリ下關海峽ヲ周防灘ノ方ニ流ルル潮流、西流ト稱スルハ周防灘ノ方ヨリ

リ該海峽ヲ玄海灘ノ方ニ流ルル潮流ヲ謂フ  
(別表略ス)

(明治四十二年七月十七日 遞信省告示第六百七十五號)

來島海峽中渡島ニ信號所ヲ置キ明治四十二年八月十五日ヨリ明治四十二年七月遞信省告示第六百七十三號及左記ノ規定ニ依リ潮流信號ヲ開始ス

一 信號ハ中水道(八幡瀬戸)ニ於ケル中渡島西側ノ潮流時期ヲ示シ其ノ意義ハ左ニ掲クル所ニ依ル

第一種 南流ノ初期又ハ末期

第二種 南流ノ中央期

第三種 北流ノ初期又ハ末期

第四種 北流ノ中央期

二 前項ニ於テ南流ト稱スルハ安藝灘ノ方ヨリ燧灘ノ方ニ流ルル潮流、北流ト稱スルハ燧灘ノ方ヨリ安藝灘ノ方ニ流ルル潮流ヲ謂フ

(明治四十三年三月十五日 遞信省告示第三百二十一號)

内海三原瀬戸大濱埼及高根島ニ信號所ヲ置キ明治四十三年四月一日ヨリ明治四十二年七月遞信省告示第六百七十三號及左記ノ規定ニ依リ船舶通航信號及潮流信號ヲ開始ス

一 信號所附近ヲ航行スル汽艇、發動機船及小形汽船ノ動靜ニ關シテハ船舶通航信號ヲ爲サス

二 船舶通航信號ノ意義ハ別表ニ依ル

三 潮流信號ハ布刈瀬戸ニ於ケル潮流時期ヲ示シ其ノ意義ハ左ニ掲クル所ニ依ル

第一種 東流ノ初期又ハ末期

第二種 東流ノ中央期

第三種 西流ノ初期又ハ末期

第四種 西流ノ中央期

四 前項ニ於テ東流ト稱スルハ安藝灘ノ方ヨリ三原瀬戸ヲ備後灘ノ方ニ流ルル潮流、西流ト稱スルハ備後灘ノ方ヨリ該瀬戸ヲ安藝灘ノ方ニ流ルル潮流ヲ謂フ

(別表略ス)

◎水路告示中緊急ヲ要スル事項等ヲ無線電信ニ依リ放送スル件

(昭和八年十二月二十九日 遞信省告示第二千九百六十九號)

昭和九年一月一日ヨリ左記ニ依リ水路告示中緊急ヲ要スル事項及船舶航行上ノ危険警戒ニ必要ナル事項ヲ無線電信ニ依リ放送ス

大正三年三月遞信省告示第八百三十六號及大正十五年一月遞信省告示第十七號ハ之ヲ廢止ス

一 放送事項、時刻及周波數

無線電信	放送事項	放送時刻	放送周波數
東京中央電信局	一 水路告示中緊急ヲ要スル事項 二 航路標識ノ設置改廢又ハ事故ニ關シ緊急ヲ要スル事項 三 航路ノ變化又ハ暗礁ニ關スル事項	午後九時五分	A 一電波三九kc 但シ場合ニ依リ三六・五kcノ周波數ニ依リ放送スルコトアルベシ



船舶無線電信	海 岸 局 (東京ヲ除ク)	一 水路告示中緊急ヲ要スル事項 二 航路標識ノ設置改廢又ハ事故ニ關シ緊急ヲ要スル事項 三 航路ノ變化又ハ暗礁ニ關スル事項 四 遺棄物、漂流物、流水又ハ難破船ニ關スル事項 五 暴風警報 六 其ノ他船舶航行上ノ危險警戒ニ必要ナル事項	一 通報入手ノ即刻 二 沈黙時間中ナリトキハ其ノ末及次ノ沈黙時間ノ終末 三 午後五時十八分	A 二電波五〇〇kc 但シ戸畑ハA 二電波三七〇〇kc、父島ハA 一電波八七kcトス
			一 通報入手ノ即刻 二 沈黙時間中ナリトキハ其ノ末及次ノ沈黙時間ノ終末 三 午後五時十八分	A 一電波一一六八〇kc A 一電波六〇八〇kc

分  
三 午後五時十八分

註

- (イ) 放送事項(暴風警報)ハ歐文ヲ使用ス但シ外國船舶無線電信ニ於テ受信ヲ必要トセサル事項ニ付テハ和文ヲ使用スルコトアルベシ
- (ロ) 暴風警報ハ海上暴風警報電報式ニ依リ之ヲ放送ス但シ東京中央電信局ニ於テ短波ヲ以テ放送スヘキ暴風警報ハ英語ニ翻譯シテ之ヲ放送ス
- (ハ) 海岸局ニ於ケルA 二電波五〇〇kcノ周波數ニ依ル放送ノ時刻ハ隣接局トノ混信ヲ避ケル爲若干異動スルコトアルヘシ
- (放送方法及放送事項記載例略ス)

◎海上衝突豫防法(明治二十五年六月二十三日法律第五號)

總則

本法ハ海洋ト海洋接續ノ場所トヲ間ハス凡ソ航洋船ノ運航シ得ヘキ水上ニ於ケル船舶ニ適用ス  
 本法中汽船ト雖帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用キサルトキハ帆船ト看做シ汽力ヲ用ウルトキハ帆ヲ用ウルト用キサルトノ別

第六編 交通及通信 第一款 交通 第四項 航海

ナク汽船ト看做スヘシ  
 本法中汽船トハ凡ソ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ  
 本法中船舶航行中トハ碇泊若ハ繫留又ハ座礁、膠沙ニ非サル場合ヲ謂フ

船燈

謂フ  
 本法中船燈ニ關シテ見得トハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ

第一條 船燈ニ關スル規定ハ天氣ノ如何ニ關セス日没ヨリ日出マテ必ス遵守スヘシ此ノ時間中ハ本法ニ定メタル船燈ノ外之ニ紛レ易キ燈ヲ掲クヘカラス

第二條 汽船ハ航行中必ス左ノ燈ヲ掲クヘシ

一 前牆若ハ其ノ前面ニ於テ又ハ前牆ヲ具ヘサルトキハ本船ノ前方ニ於テ船體上二十尺ヨリ低カラサル所ニ若シテ船幅二十尺ヲ超ユルトキハ其ノ船幅ヨリ低カラサル所ニ亮明ノ白燈一箇ヲ掲クヘシ然レトモ船體上四十尺以上ノ所ニ掲クルヲ要セス此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ錢盤ノ二十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ左右



舷外へ十點間ツ、即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様装置シ且少クモ五海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

二 右舷ニ綠燈ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鉞盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様装置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

三 左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鉞盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様装置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

四 本條第二項第三項ノ舷燈ニハ其ノ燈ヨリ前ニ少クモ三尺突出シタル隔板ヲ其ノ燈ノ内側ニ裝置シ右舷ノ綠光ハ左舷ニアル船ヨリ、左舷ノ紅光ハ右舷ニアル船ヨリ見得サル様ニ爲スヘシ

五 汽船航行中ハ本條第一項ニ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白燈一箇ヲ増掲スルヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ兩燈ヲ龍骨線上前後ニ隔テ其ノ前燈ヲ後燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ掲ケ其ノ前後ノ距離ハ上下ノ距離ヨリモ多キヲ要ス

第三條 汽船他船ヲ引キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ掲クルノ外ニ白燈二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ白燈ハ第二條第一項ノ白燈ト同一ノ構造ニシテ且同一ノ場所ニ掲クルヲ要ス然レトモ二艘以上ヲ引キテ航行スルトキハ其ノ引キタル船ノ船尾ト最後ニ引カル、船ノ船尾トノ距離六百尺以上ノ場合ニ於テハ右二箇ノ白燈ヨリ上方若ハ下方六尺ノ所ニ尙同種ノ白燈一箇ヲ増掲スヘシ

本條ノ引船ハ引カル、船舶ノ操舵目標トシテ烟突若ハ後塔ノ後面ヘ小形ノ白燈一箇ヲ掲クルヲ得但シ此ノ白燈ハ本船正横ヨリ前面ニ見得サル様ニ爲スヲ要ス

第四條 事變ノ爲運轉自由ヲ得サル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高サニ於テ最モ見得易キ所ニ(汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ)二箇ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ紅燈ハ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若ハ黑色ノ形象二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ

海底電信線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ於テ(汽船ナレハ其白燈ノ代リニ)三箇ノ燈ヲ上下ニ少クモ六尺ツヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ、紅光ハ右舷ヨリ見得ス且成ルヘク各舷正横後ノ二點ヨリ後方ヘ見得サル様ニ爲スヲ要ス

第七條 總積量四十噸未滿ノ汽船總積量二十噸未滿ノ帆船及櫓權ヲ以テ運轉スル船航行中ハ必スシモ第二條第一項第二項第三項ニ規定シタル燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ若之ヲ掲ケサルトキハ必ス左ノ規定ニ依ルヘシ

一 四十噸未滿ノ汽船  
甲 船ノ前部又ハ烟突若ハ其ノ前面ニ於テ舷線上九尺ヨリ低カラス且最モ見得易キ所ニ第二條第一項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲クヘシ

乙 第二條第二項第三項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ綠光ノ二舷燈ヲ掲クルカ又ハ船首ヨリ各舷正横後ノ二點マテ右舷ハ綠光ノ左舷ハ紅光ノ射光ヲ及スヘク製造シタル兩色燈一箇ヲ掲クヘシ但シ此ノ燈ハ白燈ヨリ少クモ三尺下方ニ掲クルヲ要ス

ツヲ隔テ連掲スヘシ但シ此ノ燈三箇ノ内上下ノ二箇ハ紅色中央ノ一箇ハ白色ニシテ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺以上ノ形象三箇ヲ上下ニ少クモ六尺ツツヲ隔テ連掲シ其ノ上下ノ二箇ハ紅色球形ヲ用キ中央ノ一箇ハ白色堅菱形ヲ用ウヘシ

本條ノ船舶全ク運轉セサルトキハ舷燈ヲ掲クヘカラス然レトモ運轉スルトキハ必ス之ヲ掲クヘシ

本條規定ノ燈及形象ハ運轉自由ヲ得スシテ他船ノ航路ヲ避クル能ハサルノ信號ト認ムヘシ

本條ノ信號ハ難船信號ト混同スヘカラス難船信號ハ第三十一條ニ於テ之ヲ規定ス

第五條 航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ第二條第二項第三項ノ舷燈ノミヲ掲クヘシ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ掲クヘカラス

第六條 小形船航行中天氣ノ模様ニ因リ綠紅ノ二舷燈ヲ掲置キ難キトキハ何時ニテモ使用シ得ヘキ様點火シテ之ヲ手近カニ備ヘ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其ノ舷燈ヲ他船ヨリ最モ見得易キ様各舷ニ表示ス



二 汽艇ハ第一項甲ノ白燈ヲ舷線上九尺ノ所ヨリ下方ニ掲クルヲ得然レトモ其ノ白燈ハ乙ノ兩色燈ヨリ高キヲ要ス

三 二十噸未満ノ帆船ハ帆ヲ用ウルト櫓樞ヲ用ウルトニ拘ハラス一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用キタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ他船我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス

四 櫓樞ヲ以テ運轉スル船ハ櫓樞ヲ用ウルト帆ヲ用ウルトニ拘ハラス白色ノ燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ臨時之ヲ表示スヘシ本條ノ諸船ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ掲クルニ及ハス

**第八條** 水先船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアルトキハ他船ニ要スル燈ヲ表示セス周回ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ櫓頭ニ掲ケ且十五分時ヲ超エサル短時ノ間際ヲ以テ閃火一箇若ハ數箇ヲ發スヘシ

水先船ニハ點火シタル舷燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示ス爲メ短時ノ間際ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

一 無甲板船即チ全部張詰メタル甲板ニ因リテ海水ノ浸入ヲ防カサル船夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出スル漁具ノ端ト本船トノ水平上ノ距離カ百五十尺以内ナルトキハ周回ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲ケヘシ

無甲板船夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出スル漁具ノ端ト本船トノ水平上ノ距離カ百五十尺ヲ超ユルトキハ周回ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲ケ且我船ノ他船ニ近寄り行クトキ又ハ他船ノ我船ニ近寄り來ルトキハ其ノ白燈ノ下方ニ少クモ三尺ヲ隔テ且漁具ノ結著シタル方向ニ於テ水平上少クモ五尺ヲ隔テ白燈一箇ヲ増表スヘシ

二 第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外流シ網ヲ用キテ漁業ニ從事スル船舶ハ網ノ全部又ハ一部水中ニ投下シアル間ハ最モ見得易キ所ニ白燈二箇ヲ掲ケヘシ此ノ兩燈ハ上下ノ距離六尺ヨリ少カラス十五尺ヨリ多カラス且龍骨線ニテ測リタル前後ノ距離五尺ヨリ少カラス十尺ヨリ多カラサル様其ノ一燈ヲ他燈ノ下方ニ裝置シ其ノ下燈ハ網ノ方向ニ掲ケヘシ此ノ兩燈ハ周回少クモ三海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス  
總積量二十噸未満ノ帆走漁船ハ地中海及日本國並ニ韓

但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス水先人ヲ要招スル船舶ハ直付ケスヘキ水先船ハ白燈ヲ櫓頭ニ掲クル代リニ臨時之ヲ表示シ又前項ノ舷燈ノ代リニ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用キタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ前項ノ規定ニヨリ之ヲ使用スルヲ得  
免許水先人ノ業務ニ專用スル水先汽船水先業務ノ爲メ其營業所ニアリテ碇泊セサルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ櫓燈ノ下方八尺ノ所ニ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ紅燈一箇ヲ増掲シ且航行中ノ船舶ニ要スル舷燈ヲ掲ケヘシ  
前項ノ水先汽船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアリテ碇泊スルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ前項ノ規定ニヨリ紅燈ヲ増掲スヘシ但舷燈ヲ掲ケヘカラス

**第九條** 漁船ハ航行中特ニ本條ニ規定アル場合ヲ除ク外其ノ積量ニ相當スル航行中ノ船舶ニ對シテ規定シタル燈ヲ掲クルカ又ハ之ヲ表示スヘシ

水先船其ノ營業所ニアルモ水先業務ニ從事セサルトキハ其ノ積量ニ相當スル他船ト同様ノ燈ヲ掲ケヘシ  
國ノ沿海ニ於テハ必シモ兩燈中其ノ下燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ之ヲ掲ケサルトキハ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ同一ノ位置（網又ハ漁具ノ方向ニ於テ）ニ表示スヘシ

第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外延繩ヲ用キテ漁業ニ從事スルニ當リ延繩ヲ結著シ又ハ之ヲ曳入ルル船舶ニシテ碇泊セス又ハ第八ニ依リ停留セサルモノハ流シ網ヲ用キテ漁業ニ從事スル船舶ト同一ノ燈ヲ掲ケヘシ其ノ延繩ヲ延ヘ又ハ曳繩ヲ用ウルモノハ其ノ船ノ種類ニ應ジ航行中ノ汽船又ハ帆船ニ對シテ規定シタル燈ヲ掲ケヘシ

總積量二十噸未満ノ帆走漁船ハ地中海及日本國並ニ韓國ノ沿海ニ於テハ必シモ兩燈中其ノ下燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ之ヲ掲ケサルトキハ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ同一ノ位置（釣繩ノ方向ニ於テ）表示スヘシ  
四 打タセ網（總テ海底ニ漁具ヲ曳クモノヲ包含ス）ヲ用キテ漁業ニ從事スル船舶ハ左ノ規定ニ依ルヘシ



甲 汽船ハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ三色ノ燈籠一箇ヲ掲ケ尙其ノ下方六尺ヨリ少カラス十二尺ヨリ多カラサル所ニ白色ノ燈籠一箇ヲ増掲スヘシ此ノ三色燈ハ船ノ正首ヨリ左右各二點マテハ白色其レヨリ各舷正横後ノ二點マテ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スヘク製造シ且装置スルヲ要シ又白燈ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スヘク製造シタルモノタルヲ要ス

乙 帆船ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スヘク製造シタル白色ノ燈籠一箇ヲ掲ケ且他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メ最モ見得易キ所ニ白色ノ閃火又ハ炬火一箇ヲ表示スヘシ  
甲及乙ニ規定シタル諸燈ハ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

五 桁網ヲ用キテ牡蠣採取ニ従事スル船舶其ノ他桁網ヲ用キテ漁業ニ従事スル船舶ハ打タセ網ヲ用キテ漁業ニ従事スル船舶ト同一ノ燈ヲ掲ケ及之ヲ表示スヘシ  
六 漁船ハ本條ニ規定シタル燈ヲ掲ケ及之ヲ表示スル外何時ニテモ閃火ヲ用キ且漁業用ノ燈火ヲ用ウルヲ得

テ號鐘ヲ鳴ラスヘシ總積量二十噸未滿ノ漁船ハ必スシモ此ノ信號ヲ爲スヲ要セス然レトモ之ヲ爲ササルトキハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ適宜他ノ有效ナル音響信號ヲ爲スヘシ

十 網延繩又ハ打タセ網ヲ用キテ漁業ニ従事スル船舶航行中晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ藍其ノ他ノ信號ヲ掲ケ近寄り來ル他船ニ其ノ漁業中ナルコトヲ表示スヘシ若シ碇泊中ノ船舶漁具ヲ投下セルトキハ他船ノ近寄り來タルトキ同様に信號ヲ他船ノ航過シ得ル舷側ニ於テ表示スヘシ

本條ニ依リ特ニ規定シタル燈ヲ掲ケ又之ヲ表示スルヲ要スル船舶ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ掲クルニ及ハス

第十條 他船ニ追越サレムトスル船舶ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發スヘシ  
本條ニ從テ表示スヘキ白燈ハ豫メ船尾ニ掲置クヲ得然レトモ此ノ燈ハ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノニシテ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ鉞盤ノ十二點間ヲ照スヘク製造シ船ノ正後ヨリ左右ヘ六點間宛射光ノ及フヘキ様隔板ヲ裝置シ成ルヘク舷燈ト同一ノ高サニ掲クヘシ

七 長サ百五十尺未滿ノ漁船碇泊中ハ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲クヘシ

長サ百五十尺以上ノ漁船碇泊中ハ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲ケ且第十一條ニ規定シタル白燈一箇ヲ増掲スヘシ  
長サ百五十尺未滿ナルト百五十尺以上ナルトヲ問ハス碇泊中ノ漁船漁網其ノ他ノ漁具ヲ結著シタルトキハ他船ノ我船ニ近寄り來ルトキ碇泊燈ノ下方少クモ三尺ヲ隔テ且漁網其ノ他ノ漁具ノ方向ニ於テ水平上少クモ五尺ヲ隔テ白燈一箇ヲ増表スヘシ

八 漁船漁業ニ従事中漁具ノ岩礁其ノ他障礙物ニ纏著シタル爲メ停留スルトキハ晝間ニアリテハ第十ニ規定スル晝間信號ヲ引下シ夜間ニアリテハ碇泊船ト同一ノ燈ヲ表示シ又霧中降雪其ノ他暴雨中ハ碇泊船ニ對シテ規定シタル霧中信號ヲ爲スヘシ(第十五條第四項及末項參照)

九 霧中降雪其ノ他暴雨中流シ網打タセ網桁網又ハ延繩ヲ用キテ漁業ニ従事スル總積量二十噸以上ノ船舶ハ汽船ニアリテハ汽笛若ハ汽角帆船ニアリテハ號角ヲ用キ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ一聲ヲ發シ之ニ續キ

第十一條 長サ百五十尺未滿ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上ヨリ二十尺ヲ超エサル所ニ白燈一箇ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス  
長サ百五十尺以上ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上二十尺以上四十尺以下ノ所ニ前項ノ白燈一箇ヲ掲ケ且船尾若ハ其ノ最寄ニ於テ前方ノ燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ同種ノ白燈一箇ヲ掲クヘシ

本條船舶ノ長サハ本船籍證書面ノ長サニ依ルヘシ  
船路若ハ其ノ最寄ニ於テ乗揚ケタル船舶ノ本條白燈ノ外尙第四條第一項ニ規定シタル紅燈二箇ヲ掲クヘシ

第十二條 各船他船ノ注意ヲ喚起スル爲必要ナリトスルトキハ本法ニ規定シタル船燈ノ外尙閃火ヲ發シ或ハ難船信號ト混同セサル爆裂信號ヲ發スルヲ得

第十三條 本法船燈ノ規定ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラレル船舶ニ増掲スル列位燈及信號燈ニ關シ各國政府ニ於テ特ニ制定シタル規則ノ施行ヲ妨ケス又船舶所有主ニ於テ其ノ國政府ノ許可ヲ受ケ登簿公告ノ手續ヲ經テ私用スル識別信號ノ使用ヲ妨ケス

第十四條 汽船晝間ニ帆ノミヲ以テ運轉スルモ其ノ烟突ヲ



引下ケサルトキハ前方ノ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黒球若ハ黒色形象一箇ヲ掲クヘシ

霧中信號

第十五條 航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲スニハ左ノ信號器ヲ用ウヘシ

汽船ハ汽笛若ハ汽角

帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ霧中號角

本條中長聲トハ四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ謂フ

汽船ハ汽力其ノ他之ニ代用スヘキモノニ因リ發聲スル適

當ノ汽笛若ハ汽角ヲ音響ノ妨害物ナキ所ニ裝置シ且號鐘

及機關ノ作用ニ因リ發聲スル適當ノ霧中號角ヲ備フヘシ

又總積量二十噸以上ノ帆船ハ汽船同様ノ號鐘及霧中號角

ヲ備フヘシ

霧中降雪其ノ他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シ

タル信號ヲ爲スヘシ

一 汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲

ヲ一發スヘシ

二 汽船航行中運轉ヲ止メテ速力ヲ有ダサルトキハ二分

時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ二發スヘシ但シ其

ノ二發ノ間隙ハ大約一秒時タルヲ要ス

第十六條 霧中降雪其ノ他暴雨中ハ各船現時ノ狀況ニ注意

霧中速力

シ適度ノ速力ヲ以テ進行スヘシ

汽船其ノ正横ヨリ前面ニ方リテ他船ノ霧中信號ヲ聞キ其

ノ所在ヲ定メ得サルトキハ成ルヘク機關ノ運轉ヲ止メ全

ク衝突ノ虞ナキニ至ルマテ其ノ運航ニ注意スヘシ

航方

衝突ノ危險ハ其ノ現況ニヨリ我船ニ近寄り來ル他船ノ方

位ヲ看守シテ之ヲ豫知スルヲ得若其ノ方位儘ニ變更スル

ヲ認メサルトキハ危險アルモノト知ルヘシ

第十七條 二艘ノ帆船互ニ近寄りテ衝突ノ虞アルトキハ其

ノ一船ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避クヘシ

一 一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避ク

ヘシ

二 左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船

ノ航路ヲ避クヘシ

三 一杯ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シカラサ

ルトキハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避ク

ヘシ

四 一杯ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シキトキ

ハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ

五 船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十八條 二艘ノ汽船正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢フ

三 帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正横後ニ風ヲ受ケタルトキハ三聲ヲ連發スヘシ

四 船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ大約

五秒時間劇シク號鐘ヲ鳴ラスヘシ

五 他船ヲ引キテ運航スル船舶、海底電信線ノ布設若ハ

引揚ニ從事スル船舶及航行中運轉自由ヲ得スシテ近寄

リ來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハサルカ又ハ本法ニ遵テ運

轉シ能ハサル船舶ハ本條第一項及第三項ニ規定シタル

信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ三聲ヲ

連發シ即チ長聲ヲ一發シタル後直ニ短聲ヲ二發スヘシ

又他船ニ引カレテ運航スル船舶モ此ノ信號ヲ爲スハ妨

ナシト雖モ他ノ信號ヲ爲スヘカラス

六乃至九(削除)

總積量二十噸未滿ノ帆船ハ必スシモ前數項ニ規定シタル

信號ヲ爲スヲ要セス然レトモ其ノ信號ヲ爲サルトキハ

一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ適宜他ノ音響信號ヲ爲

スヘシ

テ衝突ノ虞アルトキハ兩船トモ鐵路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他

船ノ左舷ノ方ヲ行過スヘシ

本條ハ兩船正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢フテ衝突ノ

虞アルトキニ限り適用スヘシ兩船各々其ノ鐵路ヲ保チテ

互ニ替リ行クトキニハ適用スヘカラス

本條ヲ應用スヘキ場合ハ兩船共ニ正シク眞向又ハ幾ント

眞向ニ行逢ヒタルトキ即チ晝間ニアリテハ我船ノ橋ト他

船ノ橋ト一直線又ハ幾ント一直線ニ見ユルトキ夜間ニア

リテハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ見ルトキニ限ルヘシ

本條ハ晝間他船ノ我鐵路ヲ横切リテ我船ノ前面ニ見ユル

トキ又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠

燈他船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見ス

シテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ヲ見スシテ綠燈ヲ見ルトキ又ハ綠

紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ルトキハ適用ス

ヘカラス

第十九條 二艘ノ汽船互ニ航路ヲ横切リ衝突ノ虞アルトキ

ハ他船ヲ右舷ニ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十條 帆船ト汽船ト互ニ近寄り衝突ノ虞アルトキハ汽

船ヨリ帆船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條 本法航方ニ依リ二船ノ内一船ヨリ他船ノ航路

ヲ避クルトキハ他船ニ於テ其ノ鐵路及速力ヲ保ツヘシ但



シ他船ニ於テ天氣密濛又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ航路ヲ避クル船ノ處置ノミニテハ衝突ヲ避ケ能ハサル程兩船接近シタルコトヲ認ムルトキハ自ラ亦臨機衝突ヲ避クルニ至當ノ處置ヲ爲スヘシ

**第二十二條** 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ船ハ成ルヘク他船ノ前面ヲ横切ルヘカラス

**第二十三條** 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ汽船ハ他船ニ近寄りタルトキ時宜ニ應シテ速力ヲ緩メ若ハ運轉ヲ止メ又ハ後退スヘシ

**第二十四條** 總テ他船ヲ追越ス船ハ本法航方中前數條ノ規定ニ拘ラス他船ノ航路ヲ避クヘシ

總テ他船ノ兩舷正横後ノ二點以外即チ夜間ニアリテ舷燈ヲ見難キ位置ヨリ其ノ船ヲ追越サントスル船舶ハ之ヲ追越船ト爲シ其ノ後兩船ノ位置ニ變更ヲ來スモ其ノ追越船ヲ以テ本法ノ航路横切船ト爲サス故ニ其ノ船ハ他船ヲ全ク追越シ了ルマテ他船ノ航路ヲ避クヘキモノトス  
晝間他船ヲ追越サムトスル船舶ニシテ前項ニ記載シタル方位ノ内外ヲ辨知シ難キモノハ本船ヲ追越船ト看做シテ他船ノ航路ヲ避クヘシ

**第二十五條** 汽船狹隘ノ水道ニ於テ無難ニ通航シ得ルトキ

サルモノトス

特 例

**第三十條** 本法ハ行政官廳ニ於テ規定シタル港、川其ノ他内海ノ運航ニ關スル特別規則ノ施行ヲ妨ケス

難船信號

**第三十一條** 危難ニ罹リテ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船舶ハ左ノ信號ヲ同時又ハ別々ニ使用スヘシ

晝間信號

- 一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ砲又ハ其ノ他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス
- 二 萬國船舶信號書ニ掲載スルNCノ難船信號ヲ表示ス
- 三 方形旗ノ上又ハ下ニ球若ハ之ニ類似ノモノヲ掲クル
- 四 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

夜間信號

- 一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ砲又ハ其ノ他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス
- 二 船上ノ發焰(タール桶、油樽等)ヲ燃焼スルノ類
- 三 星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭ヲ一次一發ツツ度々打揚ク

ハ其ノ中流ノ右側即チ本船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ

**第二十六條** 航行中ノ帆船ハ網或ハ繩ヲ用ヒテ漁業ニ従事スル帆船ノ航路ヲ避クヘシ但シ漁船ト雖狼ニ他船ノ通航スヘキ線路ヲ妨クヘカラス

**第二十七條** 本法ヲ履行スルニ當リ運航及衝突ニ關シ百般ノ危險ニ注意スルハ勿論若危險切迫シテ本法ヲ履行シ能ハサル特殊ノ場合ニ於テハ其ノ危險ヲ避クル爲臨機ノ處置ヲ爲スコトニ注意スヘシ

航路信號

**第二十八條** 本條中短聲トハ大約一秒時間ノ發聲ヲ謂フ航行中ノ汽船他船ニ近寄り鐵路ヲ變セムトスルトキハ汽笛若ハ汽角ヲ以テ左ノ信號ヲ爲シ他船ニ我船ノ鐵路ヲ通知スヘシ

- 短聲一發 我船鐵路ヲ右舷ニ取ル
- 短聲二發 我船鐵路ヲ左舷ニ取ル
- 短聲三發 我船全速力ニテ後退ス

懈怠ノ責

**第二十九條** 本法ハ點燈、信號又ハ見張ノ怠リ其ノ他海員ノ常務又ハ臨機ノ處置ニ必要ナル注意ヲ怠リヨリ生シタル結果ニ付船、船主、船長海員ヲシテ其ノ責ヲ免レシメ

四 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

附 則

**第三十二條** 本法中船舶積量噸數ニ關シ日本形船ハ十石ヲ以テ一噸ニ通算ス

**第三十三條** 本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

**第三十四條** 明治十三年七月第三十五號布告海上衝突豫防規則同十四年五月第三十三號布告同規則追加同十八年八月第二十七號布告同規則改正追加ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

◎潜水艦作業中衝突等ノ危害豫防ノタメ船舶注意方(大正十三年四月十日 海軍省令第四號)

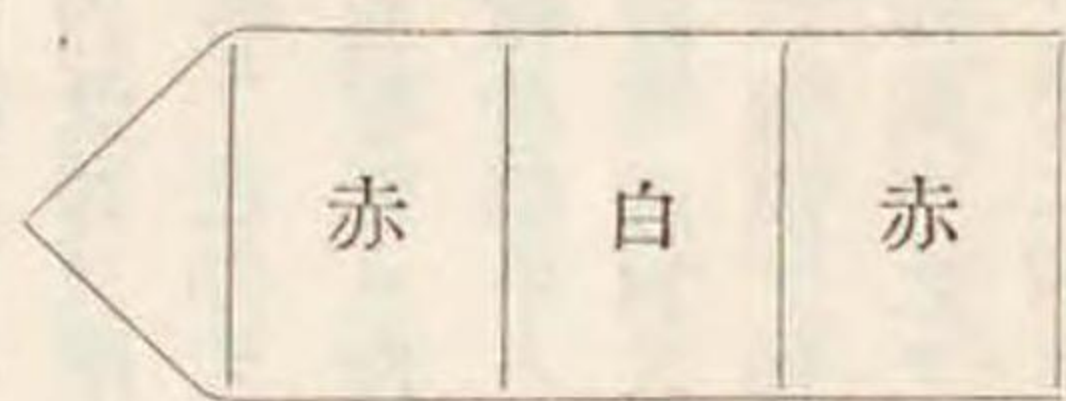
大正七年海軍省令第九號ヲ左ノ通改正ス

帝國領海内及其ノ附近ニ於テ潜水艦作業中認識困難ヨリ生スル衝突等ノ危害ヲ豫防スル爲潜水艦所在ノ海面ヲ通航シ若ハ同海面附近ニ作業スル船舶ハ左ノ諸號ニ注意スヘシ

- 一 潜水艦潛航中ハ一般水上船舶ニ對シ自艦ノ所在ヲ表示スル爲望望鏡頂又ハ假製橋頂ニ適宜帆布製又ハ金屬製ノ赤色方形標識ヲ掲ク
- 潜水艦作業中之ヲ隨伴スル鑑船アルトキハ該鑑船ニ於テB旗(赤旗)二箇ヲ連續橋頭又ハ桁端ニ掲揚シ以テ附近五哩以内ニ潜水艦作業中ナルヲ示シ又必要アルトキハ國際



左圖ノ如キ吹流一箇ヲ掲揚ス



- 通信書(信號篇)ニ依リ自船ヲ基點トシテ潜水艦ノ所在方位ヲ示ス
- 二 一般船舶前號ノ標識又ハ前號ノ信號ヲ掲揚スル艦船ヲ認メタルトキハ該標識又ハ該艦船ノ動靜及信號ニ注意シ且水面ノ見張ヲ最嚴ニシテ行動スヘシ
- 三 潜水艦ハ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外一般船舶ノ常用航路ヲ避ケ行動スヘキニ依リ一般船舶ハ可成常用航路以外ニ逸セサル様努ムヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎航空機作業、掃海作業、曳船作業  
及測量作業ニ從事中帝國海軍艦船

二掲揚スル信號ノ形式(大正十五年十二月七日海軍省令第二十號)

- 帝國海軍艦船、航空機作業、掃海作業、曳船作業及測量作業ニ從事中ハ衝突等ノ危險ヲ豫防スル爲左記ノ信號ヲ爲シ該艦船ノ運動自由ナラサルカ針路ノ變換困難ナルカヲ表示スルヲ以テ其ノ附近海面ヲ通航シ又ハ同海面ニ於テ作業スル船舶ハ之ニ注意スヘシ
- 一 航空機發著作業ニ從事中ノ艦船ハ晝間最見エ易キ所ニ

前項ノ信號ヲ爲セル艦船航進中ナルトキハ航空機發著作業中ナルヲ以テ其ノ前路ニ接近スルハ危險ナリ又該艦船停止セルトキハ航空機發著作業又ハ出入作業中ナルヲ以テ其ノ千米以内ニ接近スルハ危險ナリ

- 二 掃海作業中ノ艦船ハ最見エ易キ所ニ晝間ニ在リテハ直徑二尺ノ黑球一箇ヲ掲揚シ夜間ニ隻以上ノ場合ニ在リテハ周圍少クトモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ(白)(白)(紅)三個ノ燈ヲ上下ニ少クトモ四尺宛ヲ隔テテ連揚ス
- 前項ノ信號ヲ爲セル艦船單艦(艇)ノ場合ニハ掃海索ヲ其ノ左右斜後ニ曳航スルヲ以テ其ノ五百米以内ニ接近スルハ危險ナリ又該艦船對艦(艇)又ハ群艦(艇)ノ場合ニハ翼

端及後尾ノモノヨリ五百米以内ニ接近スルハ危險ナリ對艦(艇)ノ間ヲ航過セサル様特ニ注意スルヲ要ス

- 三 艦船他ノ艦船又ハ艦砲射撃用標的等ヲ曳航中又ハ其ノ曳索ヲ揚收中ハ晝間最見エ易キ所ニ直徑二尺ノ黑球三箇ヲ上下ニ少クトモ六尺宛ヲ隔テ連揚ス
- 前項ノ場合ニ於テ曳索上ヲ航過スルハ最危險ナリ
- 四 測量ノ爲停止中又ハ一定針路ヲ航行中ノ艦船ハ晝間最見エ易キ所ニ直徑二尺ノ黑球ノ下ニ少クトモ六尺ヲ隔テ

五旗(赤) (白) 一流ヲ連揚ス

◎水路誌改正ニ付報告要目ヲ定ム

(明治二十六年十二月二十八日 通省告示第百九十七號)

今般海軍省ニ於テ水路誌改正相成候ニ付テハ現時及ヒ將來共左記ノ事項ニ關シ經驗若クハ意見ヲ有スル船長、船員ハ勿論其他何人ト雖モ速ニ書面又ハ口頭ヲ以テ同省水路部當省管船局又ハ(最寄船舶司檢所)へ届出ツヘシ

報告要目

一 航路ニ關スル事項

甲地ヨリ乙地ニ至ル春季ニ於テハ如何ニ針路ヲ定ムルヲ普通トシ夏季、秋季又ハ冬季ニ於テハ之ヲ如何ニ變更ス

ヘキカ風潮ノ模様ニ依リ某地ヨリ某岬迄ノ間ハ如何之ヲ斟酌スヘキカ

一 港灣ニ關スル事項

右兩地ノ間ニ於テ颶風ヲ避クルハ何レノ港灣ヲ適當トスヘキカ其港灣ヲ認ムルニ最モ好キ目標ハ何ナルヤ入港ノ針路ハ如何ニシテ可ナルヤ入港ニ際シ危險ナキカ若シアラハ之ヲ避クルニ標準線ノ測定ハ如何ニ置其深淺及底質錨搔キノ良否ハ如何風波ヨリ生スル港灣ノ影響ハ如何港灣其特有ノ形勢ハ如何

一 海岸ニ關スル事項

此海岸ヲ航通スルニ平常ニ注意シ又天候ノ變化ニヨリ特ニ警戒スヘキ條件著明ノ目標ハ如何荒天ニ際シ避泊スヘキ場所竝ニ其錨地ハ如何海ノ深淺及季節ニヨリ霧、風、潮流、海流ノ影響ハ如何

一 羅針偏差ニ關スル事項

航行中天側ニヨリ何レノ地位ニ於テ羅針偏差ヲ確定セシヤ其偏差ハ如何特ニ羅針ニ變動ヲ起スコトナキヤ若シアリトセハ其場所竝變動ハ如何

一 海圖及ヒ水路誌ニ關スル事項

刊行ノ海圖又ハ水路誌等ニ記載スル事項ニ實驗上相違シ



若ハ未タ海圖又ハ水路誌等ニ記載セサル巖礁淺洲等アルヲ知ラハ成ルヘク詳細ニ且成ルヘク迅速ニ報告アラシコトヲ要ス

◎水難救護法 (明治三十二年三月二十九日法律第九十五號)

第一章 遭難船舶

第一條 遭難船舶救護ノ事務ハ最初ニ事件ヲ認知シタル市町村長之ヲ行フ

第二條 遭難船舶アルコトヲ發見シタル者ハ遲滞ナク最近地ノ市町村長又ハ警察官吏ニ報告スヘシ

警察官吏ニ於テ報告ニ接シタルトキハ市町村長ニ通知スヘシ

第三條 遭難船舶アルコトヲ認知シタルトキハ市町村長ハ直ニ現場ニ臨ミ救護ニ必要ナル處分ヲ爲スヘシ

第四條 警察官吏ハ救護ノ事務ニ關シ市町村長ヲ助ケ市町村長現場ニ在ラサルトキハ之ニ代リ其ノ職務ヲ執行スヘシ

第五條 救護ハ船長ノ意ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ市町村長ニ於テ船長ノ人命ヲ保護スル手段ヲ不充分ナリト認め又ハ船長ニ惡意アリト認めタル場合

ニハ之ヲ適用セス

第六條 市町村長ハ救護ノ爲人ヲ招集シ船舶車馬其ノ他ノ物件ヲ徵用シ又ハ他人ノ所有地ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ招集セラレタル者ハ市町村長ノ指揮ニ從ヒ救護ニ從事スヘシ

第七條 市町村長ハ救護ニ際シ必要ナラスト認めタル者、妨害ヲ爲シタル者又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者ヲ退去セシムルコトヲ得

市町村長ハ救護ニ際シ暴行ヲ爲シタル者ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得

市町村長前項ノ處分ヲ爲スニ當リ助力ヲ命セラレタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 市町村長ハ救護ニ際シ遭難物件ヲ隠匿シタル者アリト認めタルトキハ其ノ物件ヲ搜索シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ得

第九條 市町村長ハ遭難船舶其ノ他救上ケタル物件及前條ノ規定ニ依リ差押ヘタル物件ヲ保管スヘシ

前項ノ物件中ニ郵便物アルトキハ市町村長ハ遲滞ナク最近ノ郵便局ニ引渡スヘシ

第十條 船長ハ遭難後遲滞ナク船難報告書ヲ作り市町村長

ニ差出スヘシ但シ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ要セサル船舶又ハ湖川港灣ノミヲ限り航行スル船舶ノ遭難ニ付テハ此ノ限りニアラス

市町村長ハ報告書ノ事實ヲ審査シ相當ト認めタルトキハ船長ノ請求ニ依リ認證ヲ與フヘシ

市町村長ハ報告書ノ事實ヲ審査スル爲船内書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員、旅客其ノ他船中ニ在リタル者ヲ呼出シ訊問ヲ爲スコトヲ得

第十一條 市町村長ハ救上ケタル物件左ニ掲クル事項ノ一ニ該當スト認めタルトキハ之ヲ公賣シ其ノ代金ヲ保管スヘシ

- 一 物件久ニ耐ヘ難キコト又ハ著シク其ノ價格ヲ減スル虞アルコト
- 二 爆發物、容易ニ燃焼スヘキ物又ハ其ノ他ノ物件ニシテ保管上危險ノ虞アルコト
- 三 保管ノ費用其ノ物件ノ價格ニ超過シ又其ノ價格ニ比シ不相當ナルコト

前項ノ規定ニ依リ公賣ヲ爲サントスル場合ニ於テ船長其ノ地ニ在ルトキハ市町村長ハ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ市町村長ノ相當ト認めル擔保ヲ供シテ物件ノ引渡ヲ請求セ

サルトキハ公賣ニ付スヘキ旨ヲ船長ニ告示スヘシ

遭難船舶ノ所在地船籍港ナルトキハ前項ノ告知ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スヘシ

船長又ハ船舶所有者ニ於テ第二項ノ規定ニ依リ物件ノ引渡ヲ請求シタルトキハ公賣ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 救護ニ關係シタル者ハ市町村長ヨリ救護費用ノ支給ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ハ左ニ掲クル者ニハ之ヲ適用セス

- 一 救護セラレタル船舶ノ所有者又ハ其ノ船舶ノ船員
- 二 故意、懈怠又ハ過失ニ因リ遭難ヲ惹起シタル者
- 三 第五條ノ規定ニ違反シテ救護シタル者
- 四 救護ニ際シ妨害ヲ爲シ又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者
- 五 遭難物件ヲ持去リ又ハ其ノ引渡ヲ拒ミタル者

第十三條 左ニ掲クルモノヲ以テ救護費用トス

- 一 救護ニ關係シタル者ノ勞務ノ報酬
- 二 第六條ノ規定ニ依ル土地ノ使用又ハ物件ノ徵用ニ對スル補償
- 三 救上ケタル物件ノ運搬保管又ハ公賣ニ要シタル費用

第十四條 救護費用ノ支給ヲ受ケントスル者ハ市町村長ノ



指定スル期間内ニ其ノ金額ヲ申立ツヘシ  
前項ノ手續ヲ爲ササル者ハ救護費用ノ支給ヲ受クルコトヲ得ス

**第十五條** 救護費用ノ金額ハ命令ノ規定ニ依リ市町村長之ヲ定ム

市町村長ハ救護費用ノ金額ヲ船長ニ告知シ期間ヲ定メテ之ヲ納付セシムヘシ

遭難船舶ノ所在地船籍港ナルトキ又ハ船長在ラサルトキハ前項ノ告知ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スヘシ

**第十六條** 船長又ハ船舶所有者ハ救護費用ヲ納付シテ市町村長ノ保管ニ係ル金錢其ノ他ノ物件ノ引渡ヲ受クヘシ

船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ相當ト認ムル擔保ヲ供スルトキハ前項ノ金錢其ノ他ノ物件ノ全部若ハ一部ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

左ニ掲クル物件ハ前二項ノ規定ニ拘ラス其ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

- 一 船員ノ所持品
- 二 船員及旅客ノ食料
- 三 運送貨ヲ支拂フコトナクシテ船中ニ携帯スル旅客ノ手荷物

**第十九條** 救護其ノ效ヲ奏セサルトキハ救護費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

船長又ハ船舶所有者ハ救護費用ヲ納付セサル場合ニ於テ第十七條ニ定ムル手續ヲ爲シタル後市町村長ノ保管ニ係ル金錢ヲ以テ救護費用ヲ支辨スルニ足ラサルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給シ殘餘アルトキハ船長又ハ船舶所有者ニ之ヲ還付ス

**第二十條** 本章ノ規定ハ市町村長ノ招集ヲ待タスシテ救護ニ從事シタル者ニ亦之ヲ適用ス但シ市町村長ニ於テ救護ニ干與セサルトキハ此ノ限りニアラス

**第二十一條** 本章中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ亦之ヲ適用ス

**第二十二條** 第一條乃至第四條、第五條第一項第六條乃至第九條、第十二條乃至第十四條、第十五條第一項第二項、第十八條、第十九條第一項、第二十條及第二十一條ノ規定ハ海軍艦船其ノ他官廳ノ所有スル船舶ニ亦之ヲ準用ス

**第二十三條** 本章ノ規定ハ條約ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

**第二章** 漂流物及沈没品  
**第二十四條** 漂流物又ハ沈没品ヲ拾得シタル者ハ遲滯ナク

第六編 交通及通信 第一款 交通 第四項 航海

四 第十七條第二項ニ掲クル物件

市町村長ノ保管スル船舶又ハ積荷ヲ賣却シ抵當ト爲シ又ハ質入セントスルトキハ市町村長ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ市町村長必要アリト認ムルトキハ之ニ立會フヘシ

前項ノ處分ニ因リ取得シタル金錢其ノ他ノ物件ハ市町村長之ヲ保管スヘシ

市町村長ニ於テ第十一條又ハ前項ノ規定ニ依リ金錢ヲ保管スル場合ニ其ノ金錢救護費用ノ金額ニ達シタルトキハ直ニ其ノ金錢ヲ以テ救護費用ヲ支辨シ其ノ殘額ハ保管ニ係ル他ノ物件ト共ニ船長又ハ船舶所有者ニ引渡スヘシ

**第十七條** 船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ定メタル期間内ニ救護費用ヲ納付セサルトキハ市町村長ハ保管ノ物件又ハ擔保トシテ差出シタル物件ヲ公賣シ其ノ代金ヲ保管スヘシ

前項ノ規定ハ市町村長ニ於テ公賣ヲ爲スモ其ノ代金ヲ以テ公賣ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタル物件ニハ之ヲ適用セス

**第十八條** 市町村長ハ納付ヲ受ケタル金額又ハ其ノ保管ニ係ル金錢ヲ以テ救護費用ヲ支辨スヘシ

之ヲ市町村長ニ引渡スヘシ但シ其ノ物件ノ所有者分明ナル場合ニ於テハ拾得ノ日ヨリ七日以内ニ限り直ニ其ノ所有者ニ引渡スコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ拾得者ハ所有者ヨリ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十五分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其ノ價格ノ十分ノ一、沈没品ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額以内ノ報酬ヲ受クルコトヲ得

**第二十五條** 市町村長ハ引渡ヲ受ケタル物件ヲ保管スヘシ市町村長ハ前項ノ物件ヲ所有者ニ引渡スヘキ事ヲ公告スヘシ但シ其ノ所有者知レタルトキハ公告スヘキ事項ヲ直ニ其ノ所有者ニ告知スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ヲ須キサルコトヲ得

**第二十六條** 第十一條第一項ノ規定ハ漂流物及沈没品ニ之ヲ準用ス

**第二十七條** 市町村長ニ於テ第二十五條ノ公告又ハ告知ヲ爲シタル日ヨリ一箇年以内ニ限り所有者ハ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十五分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ十分ノ一、沈没品ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額並公告、



保管、公賣又評價ニ要シタル費用ヲ市町村長ニ納付シテ物件ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ拾得者ニ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十五分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ十分ノ一、沈没品ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額ヲ支給ス物件ノ價格ハ市町村長之ヲ定ム但シ鑑定人ヲシテ之ヲ評價セシムルコトヲ得

第二十八條 前條ノ期間内ニ所有者物件ノ引渡ヲ請求セサルトキ又ハ物件ノ引渡ヲ請求セサル意思ヲ表示シタルトキハ市町村長ヘ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ受クヘキコトヲ拾得者ニ告知スヘシ

拾得者ハ前項ノ期間内ニ公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用ヲ市町村長ニ納付シ物件ノ引渡ヲ受クルニ因リテ其ノ所有權ヲ取得ス

拾得者ニ於テ前項ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ受ケサルトキハ市町村長ハ其ノ物件ヲ公賣シ其ノ代金ヨリ前項ノ費用ヲ控除スヘシ此ノ場合ニ於テ殘餘アルトキハ國庫ノ取得トシ不足アルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給ス

第二十九條 警察官吏ニ於テ航路、錨地又ハ建造物ニ障害

三 第七條第三項ノ規定ニ違反シタル者

第三十二條 遭難船舶救護ノ場合ニ於テ妨害ヲ爲シタル者

ハ一月以上六月以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十三條 第十條第一項ノ手續ヲ爲スコトヲ怠リタル者

ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 詐偽ノ所爲ヲ以テ船難報告書ニ認證ヲ受ケタル者ハ十一月以上六月以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條ノ一 刑法〔第三百八十五條及第三百八十七條〕ノ規定ハ沈没品ニ亦之ヲ適用ス

第三十五條ノ二 漂流ノ物件ニ對シ現存スル記號ヲ塗抹毀損シ若ハ新ニ附記押捺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第三十六條 此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(明治三十二年七月勅令第三百五十七號ヲ以テ同年八月四日ヨリ施行)

第三十七條 明治三年二月二十九日不開港場規則難船救助心得方條目、明治四年四月十二日外國船漂著ノ節取扱

ヲ爲スト認メタル漂流物又ハ沈没品ヲ取除キタル場合ニ於テハ警察官吏ハ其ノ物件ヲ市町村長ニ引渡スヘシ

前項ニ依リ市町村長ニ於テ引渡ヲ受ケタル物件ニ付テハ第十一條第一項及第二十五條第二項ノ規定ヲ適用ス

第三十條 前條ニ依リ公告若ハ告知ヲ爲シタル日ヨリ一箇年以内ニ所有者物件ノ引渡ヲ請求シタルトキハ市町村長ハ所有者ヲシテ取除、保管及公告ニ要シタル費用ヲ納付セシメ之ニ其ノ物件ヲ引渡スヘシ

前項ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ請求スル者ナキトキハ市町村長ハ其ノ物件ヲ公賣シ其ノ代金ヲ以テ取除、保管、公告及公賣ニ要シタル費用ヲ支辨スヘシ此ノ場合ニ於テ殘餘アルトキハ國庫ノ取得トシ不足アルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給ス

第三章 罰 則

第三十一條 遭難船舶救護ノ場合ニ於テ左ノ各號ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 正當ノ理由ナクシテ市町村長ノ招集ニ應セス又ハ物件ノ徵用若ハ土地ノ使用ヲ拒ミタル者
- 二 第六條第二項ノ規定ニ違反シタル者

方、明治八年第六十六號布告及明治十年第五十五號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十八條 此ノ法律施行ノ際明治八年第六十六號布告ニ依リ處分中ノ事件ニ付テハ其ノ處分ヲ終ルマテ該布告ノ規定ヲ適用ス

第三十九條 此ノ法律ニ於ケル市町村長ノ事務ハ東京市、京都市及大阪市ニ於テハ區長之ヲ行ヒ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

◎北海道移住民渡航船舶取締規則

(明治三十一年八月十六日) (內務省令第八號)

第一條 北海道移住民一百名以上ヲ搭載セントスル船舶ハ其ノ都度左ノ事項ヲ掲記シ船長又ハ船舶所有者ヨリ所轄警察署ヘ届出ツヘシ其寄港及著港シタル場合亦同シ但一時間以内ノ寄港ニシテ移住民ヲ搭載セサル場合ハ此ノ限ニアラス

- 一 船名 船籍地 登簿噸數 旅客定員 船舶所有者及船長ノ氏名
- 二 發航ノ日時 寄港地著港地及其日時
- 三 搭載スル移住民ノ員數船賃及貨物運搬賃



四 食料ノ種類及其供給ノ方法

五 移住民又ハ回漕問屋旅人宿其他移住民ノ渡航ヲ周旋スル者ト特別ノ契約アルトキハ其契約

第二條 前條ノ届出ヲ受ケタル警察署ハ直ニ其船舶ヲ臨檢スヘシ

第三條 前條ノ臨檢ヲ爲シタル警察署ハ第一條各號ノ事項及發航日時ヲ直ニ其寄港地及著港地ノ各警察署ヘ通報スヘシ

第四條 第一條ノ船舶ハ第二條ノ臨檢ヲ受ケタル後ニアラサレハ發航スルコトヲ得ス

第五條 回漕問屋旅人宿其他移住民ノ渡航ヲ周旋スル者ハ移住民渡航ノ都度左ノ事項ヲ掲記シ所轄警察署ヘ届出ツヘシ  
但移住民十名以下ナルトキハ此ノ限りニ在ラス

一 船名及發航日時

二 移住民ノ員數船賃及渡航周旋料又ハ手数料

三 移住民又ハ船舶所有者若ハ船長トノ契約

四 移住民ヲ投宿セシメタルトキハ其月日

第六條 前條ノ渡航周旋料又ハ手数料ヲ不當ナリト認ムルトキハ所轄警察署ハ之ヲ低減セシムルコトヲ得

第七條 回漕問屋旅人宿其他移住民ノ渡航ヲ周旋スル者正當ノ理由ナクシテ第五條ノ發航日時ニ移住民ヲ出發セシメサルトキハ其出發延期ノ爲ニ生スル移住民ノ費用ヲ負擔スヘシ

第八條 回漕問屋旅人宿其他移住民ノ渡航ヲ周旋スル者第五條ノ船賃宿泊料渡航周旋料又ハ手数料ノ外何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス移住民ヨリ金錢又ハ物品ヲ受クルコトヲ得ス

第九條 左ニ掲グル事項ノ一ニ該當スル者ハ二十五日以下ノ(重禁錮)又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス  
一 第一條ノ届出ヲ爲サスシテ航行シ又同條若ハ第五條ノ場合ニ於テ虚欺ノ届ヲ爲シタル者  
二 第四條ノ臨檢以前ニ發航シタル者  
三 第五條ノ届出ヲ爲サスシテ周旋ヲ爲シタル者  
四 第八條ニ違背シ金錢又ハ物品ヲ受ケタル者  
五 船舶内ニ於テ天災其他避クヘカラサル事故ニ由ルニアラシテ飯食物ノ供給ヲ怠リタル者

第十條 前條ハ商會社ニ在リテハ其所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任ニアル社員取締役又ハ使用人ニ之ヲ適用ス

◎内海水道航行規則(昭和四年二月一日 逓信省令第三號)

第一條 本令ハ備讚瀬戸、來島海峡及下關海峡ニ於ケル船舶ニ之ヲ適用ス

備讚瀬戸 男木島燈臺ヨリ豊島ノ南端、大槌島ノ頂、小與島ノ南端、本島シヨケンボ鼻及黒鼻、佐柳島ノ南西端、二面島ノ頂、高見島板持鼻、沖ノ洲挂燈浮標、牛島九五米山ノ頂、三ツ子島燈臺、小瀬居島ノ頂及小槌島ノ頂ヲ經テ男木島ノ南端ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域

來島海峡 蒼社川口ノ東岸ヨリ大島タケノ鼻ニ引キタル線竝大下島アゴノ鼻ヨリ梶取鼻及大島宮ノ鼻ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域但シ今治ノ港域ヲ除ク  
下關海峡 部埼燈臺ヨリ四十五度(眞方位)二海里ノ點ヨリ部埼燈臺及滿珠島ノ頂ニ引キタル線、滿珠島ノ頂ヨリ串埼ニ引キタル線竝和合良島ノ頂ヨリ臺場鼻及堺鼻ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域但シ門司、下關及若松ノ港域ヲ除ク

第二條 船舶ハ左ノ各號ノ場合ヲ除クノ外航路筋ニ於テ碇泊又ハ停留スルコトヲ得ズ

一 衝突其ノ他急迫ノ危險ヲ避ケムトスルトキ

二 運轉自由ヲ得ザルトキ

三 人命又ハ船舶ノ救助ニ從事スルトキ

四 海底電信電話線又ハ航路標識ノ工事ニ從事スルトキ

五 水路ノ測量又ハ浚渫作業ニ從事スルトキ

六 所轄官廳ノ許可ヲ得テ難破物又ハ沈没物等ノ引揚其ノ他海中ノ工事ニ從事スルトキ

前項第二號乃至第五號ノ船舶晝間ニ於テ航路筋ニ碇泊スルトキハ法令ニ特ニ規定セル場合ヲ除クノ外最見易キ場所ニ黒球又ハ黒色ノ形象一個ヲ掲グベシ  
第一項第六號ノ船舶晝間ニ於テ航路筋ニ碇泊スルトキハ最見易キ場所ニ紅色ノ方旗ヲ掲グベシ  
前三項ノ規定ハ漁撈中ノ漁船ニハ之ヲ適用セズ但シ備讚瀬戸中小與島ノ南端ヨリ小瀬居島ノ頂ニ引キタル線以西ノ水域、來島海峡及下關海峡ニ於テハ漁撈中ノ漁船ヨリ通航船舶ノ進路ヲ避クルコトヲ要ス

第三條 船舶ハ安全ニ替リ行ク餘地ヲ有スル場合ニ非ザレバ他ノ船舶ヲ追越スコトヲ得ズ  
汽船他ノ汽船ノ右舷側ヲ航行シテ追越サムトスルトキハ汽笛又ハ汽角ヲ以テ一長聲ニ引續キ一短聲ヲ、其ノ左舷



側ヲ航行シテ追越サムトスルトキハ一長聲ニ引續キ二短聲ヲ發スベシ

第四條 海上衝突豫防法第七條第一項第三號、第四號、同

第九條第一項及同第十條第一項ノ規定ニ依リ臨機ニ表示スルヲ以テ足ル船燈ハ第一條ノ水域航行中ノ船舶ニ限り常ニ之ヲ掲ゲ置クベシ

第五條 汽船ハ備讚瀬戸ニ於テハ左ノ航法ニ依ルベシ

- 一 島嶼岬角等ノ爲前面ヲ望見スルコト困難ナル場所ニ於テハ其ノ島嶼岬角等ヲ右舷ニ見ル汽船ハ之ニ近寄り左舷ニ見ル汽船ハ之ニ遠ザカリテ航行スルコト
- 二 波節岩ハ東行又ハ西行スル汽船ハ之ヲ左舷ニ見テ航行スルコト

第六條 汽船ハ來島海峽ニ於テハ左ノ航法ニ依ルベシ

- 一 中水道ハ順潮ノ場合ニ限り又西水道ハ逆潮ノ場合ニ限り通航スルコト但シ小島波止濱間ノ水道ヲ通航スル汽船ハ順潮ノ場合ト雖西水道ヲ通航スルコトヲ妨ゲズ
- 二 前號ノ規定ニ依リ中水道ヲ通航スル汽船ハ龍神島、津島及アゴノ鼻ニ近寄り又西水道ヲ通航スル汽船ハ之ニ遠ザカリテ航行スルコト即チ行逢汽船ニ在リテハ南流ニ於テ互ニ右舷ヲ北流ニ於テ互ニ左舷ヲ相對シテ航過スル

モノトス

三 第一號但書ノ規定ニ該當スル汽船ハ海峽ノ西側（今治港防波堤燈臺、大濱燈臺、來島白石燈標）ニ近寄りテ航行スルコト

中水道又ハ西水道ヲ通航スル汽船ハ轉流時ニ在リテハ一ノ瀬鼻又ハ龍神島ニ竝航シタルトキヨリ中水道又ハ西水道ヲ通過シ終ル迄汽笛又ハ汽角ヲ於テ數回左ノ信號ヲ爲スベシ

中水道通航汽船 一長聲  
西水道通航汽船 二長聲

小島波止濱間ノ水道ヲ通航スル汽船ハ來島又ハ龍神島ニ竝航シタルトキヨリ西水道ヲ通過シ終ル迄汽笛又ハ汽角ヲ以テ數回三長聲ヲ發スベシ

第七條 前條ノ潮流ノ流向ニ付テハ中渡島潮流信號所ノ潮流信號ニ又之ニ依リ難キ場合ハ水路部刊行潮汐表ニ依ルモノトス

第八條 汽船ハ下關海峽ニ於テハ左ノ航法ニ依ルベシ

一 東口ヨリ西行スル汽船ハ火ノ山ノ頂ヨリ鳶ケ集鼻ニ引キタル線ニ達スル前門司埼燈標ヨリ滿珠島ノ頂ニ引キタル線以北ノ水域ニ入ルコト又東口ニ向ケ東行スル

汽船ハ下關高燈ヨリ三角山ノ頂ニ引キタル線ニ達スル前門司埼燈標ヨリ巖流島燈臺ニ引キタル線以北ノ水域ニ入ルコト

二 南水道ヨリ西行スル汽船又ハ南水道ニ向ケ東行スル汽船ハ前號ノ規定ニ拘ラス相互危險ナク通航シ得ル限度ニ於テ出來得ル限り門司埼ニ近寄りテ航行スルコト（若シ門司埼ニ近寄りテ航行シ能ハサルトキハ前號ノ規定ニ依リテ航行スルコト）

三 第一號ノ汽船行逢ヒタルトキハ互ニ左舷ヲ相對シテ航過スルコト

四 潮流ニ溯リ早鞆瀬戸（柁ヶ鼻ヨリ下關低燈ニ引キタル線及鷗ヶ鼻ヨリ火ノ山ノ頂ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域）ヲ通航スル汽船ハ潮流ノ速度（水路部刊行潮汐表及下關海峽潮流圖ニ依ル）ヲ超ヘ一時間三海里以上ノ速度ヲ保ツコト

五 下關高燈附近ト山底ノ鼻附近トノ間ニ於テハ航行ニ因リ生ズル波浪ノ爲海難其ノ他ノ事故ヲ生ゼザル程度ノ速度ニテ航行スルコト

帆船ハ早鞆瀬戸ニ於テハ縫航スベカラズ

第九條 船舶ハ船首ヲ回轉スル爲下關海峽ニ於テ投錨スル

トキハ晝間ニ在リテハ黒球又ハ黒色ノ形象一個ヲ、夜間ニ在リテハ海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ニ加ヘテ紅燈一個ヲ最見易キ場所ニ掲ゲベシ

第十條 門司港、下關港又ハ若松港ヨリ出港シタル汽船ニシテ下關海峽ノ東口ニ向ケ航行スルモノハ萬國船舶信號旗Eヲ、又西口ニ向ケ航行スルモノハ同Wヲ各下關海峽ノ航路筋ニ入ル迄前橋又ハ其ノ附近ノ最見易キ場所ニ掲ゲベシ但シ平水航路ヲ航路定限ト爲スモノハ此ノ限ニ在ラズ

門司港、下關港又ハ若松港ニ入港スル汽船ハ前橋又ハ其ノ附近ノ最見易キ場所ニ左ノ各號ノ規定ニ依リ萬國船舶信號旗ヲ掲ゲベシ但シ平水航路ヲ航路定限ト爲スモノハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 門司港ニ入港スルモノニシテ錨地指定ニ關スル特定信號ヲ掲ゲザルモノ  
壇ノ浦燈臺、山底ノ鼻間 J旗
- 二 下關港ニ入港スルモノ  
壇ノ浦燈臺、山底ノ鼻間 X旗
- 三 若松港ニ入港スルモノ  
山底ノ鼻、臺場鼻間 Y旗



附 則

本令ハ昭和四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎船舶ノ運航ニ關スル取締規則制定改廢報告方(明治四十四年三月二十一日)

船舶(汽船及汽船)ノ運航ニ關シ取締規則ヲ制定シ又ハ之ヲ改廢シタルトキハ其ノ都度遲滞ナク其ノ寫ヲ添ヘテ逕信省ニ之ヲ報告スヘシ但シ既ニ公布ニ係ル現行規則ハ來四月三十日迄ニ其ノ寫ヲ送付スヘシ

◎朝鮮、臺灣又ハ關東洲ニ船籍港ヲ定ムル船舶ニシテ戰時陸海軍ノ使用ニ供セラルルモノハ内地不開港場ニ寄港スルヲ得ルノ件(大正三年九月一日)

朝鮮、臺灣又ハ關東洲ニ船籍港ヲ定ムル船舶ニシテ戰時陸海軍ノ使用ニ供セラルルモノハ陸海軍ノ必要ニ因リ内地ノ不開港場ニ寄港スルコトヲ得

◎航路統制法(昭和十一年五月三十日)

第一條 本法ニ於テ海運業ト稱スルハ一般ノ需用ニ應ジ船舶ニ依リテ人又ハ物ヲ運送スル事業ヲ謂フ

第二條 本法ハ帝國臣民又ハ帝國法人ガ遠洋區域、近海區域又ハ勅令ヲ以テ定ムル沿海區域ニ於テ營ム海運業ニ之

ヲ適用ス

第三條 政府ハ海運業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ海運業者ニ對シ不當ナル競争ノ防止ニ關シ勸告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ勸告其ノ效ヲ奏セサル場合ニ於テ政府ハ必要アリト認ムルトキハ海運業者ニ對シ航路ノ經營ニ關スル協定ヲ爲スベキコトヲ命ジ又ハ航路ノ經營ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得

前項ノ航路ノ經營ノ禁止又ハ制限ハ實情ニ依リ己ムコトヲ得ズト認ムル場合ヲ除クノ外前項ノ規定ニ依リ命ゼラレタル協定成ラザル場合ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第四條 政府ハ運賃其ノ他ノ航路ノ經營條件ガ公益ニ反スト認ムルトキハ海運業者ニ對シ其ノ經營條件ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第五條 海運業者ハ命令ノ定ムル事項ヲ行政官廳ニ届出ゾベシ

第六條 行政官廳ハ第三條及第四條ノ規定ニ依リ措置ヲ爲ス爲必要アリト認ムルトハ海運業者ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ検査ヲ爲シ又ハ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條 帝國臣民又ハ帝國法人ニ非ザル者ノ營ム海運業ニ者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 第五條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十一年七月勅令第七十六號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行)

◎航路統制法施行令(昭和十一年七月十七日)

第一條 航路統制法第二條ノ沿海區域ハ左ニ掲グルモノトス

- 一 内地ト朝鮮トノ間ノ航路ノ存スル沿海區域
- 二 本州ト北海道又ハ樺太トノ間ノ航路ノ存スル沿海區域
- 三 國庫ヨリ費用ヲ補助スル航路ノ存スル沿海區域

第二條 航路統制法第三條及第八條ノ規定ハ同法第七條ニ掲グル海運業ニ付之ヲ準用ス

附 則

本令ハ昭和十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九條 第三條第二項ノ規定ニ依ル航路ノ經營ノ禁止若ハ制限ニ關スル命令又ハ第四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第六條ノ検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ同條ノ規定ニ依リ命セラレタル報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 海運業者ハ支配人其ノ他ノ代理人又ハ船長其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基ク命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十二條 本法又ハ本法ニ基ク命令ニ依リ海運業者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産

シテ其ノ資本ノ全部又ハ一部ガ帝國臣民又ハ帝國法人ニ屬スルモノニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ヲ準用ス

第八條 第三條第二項又ハ第四條ノ規定ニ依ル命令ヲ爲サントスルトキハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外航路統制委員會ノ議ヲ經ルコトヲ要ス

航路統制委員會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム



◎遠洋航路補助法(明治四十二年三月二十五日法律第十五號)

第一條 主務大臣ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル商事會社ニシテ運送業ヲ營ム者ニ本法ニ依リ航海補助金ヲ支給シ五年以内ノ期間ヲ限リ左ノ遠洋航路ニ於テ定期航海ニ從事セシムルコトヲ得但シ補助金額及年限ニ付テハ帝國議會ノ協贊ヲ求ムヘシ

- 一 歐洲航路
- 二 北米航路
- 三 南米航路
- 四 濠洲航路

本法ニ於テ補助航海ト稱スルハ前項ニ依リ定期航海ヲ謂フ

第二條 補助航海ニ使用スル船舶ハ總噸數三千噸以上ニシテ一時間十二海里以上ノ速力ヲ有シ主務大臣ノ定ムル造船規程ニ合格シ且帝國船籍ニ登録シタル船舶十五年以内ノ鋼製汽船ニ限ル

船舶ノ速力ハ主務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ算定ス

第三條 外國製造ノ船舶ハ補助航海ニ使用スルコトヲ得ス但シ帝國船籍ニ登録ノ際船齡五年以内ノ船舶ニシテ已ム

ヲ得サル事由ニ因リ其ノ使用ニ關シ主務大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 航海補助金ハ使用船舶總噸數一噸航海里數一千海里ニ付速力一時間十二海里ヲ有スルモノニ對シ五十錢以内、速力一時間一海里ヲ増ス毎ニ其ノ百分ノ十ヲ増シタル金額以内ニ於テ航路ノ狀況ニ應シ之ヲ支給ス但シ船齡五年ヲ超ユル船舶ニ對シテハ一年毎ニ其ノ百分ノ五ヲ遞減ス

外國製造ノ船舶ニ對シテハ前項ノ規定ニ依リ支給スヘキ航海補助金ノ半額ヲ支給ス

特ニ主務大臣ノ認可ヲ得タル設計ニ依リ製造シタル船舶又ハ定期航海ノ開始後五年ヲ經過セサル航路ニ使用スル船舶ニ對シテハ前二項ノ規定ニ依リ支給スヘキ航海補助金ノ百分ノ二十五以内ヲ増給スルコトヲ得

航海補助金ノ算定ニ於テハ航海里數ハ各港間ノ最近航路ニ依リ一噸未滿又ハ一海里未滿ノ端數ハ之ヲ除算ス

第五條 補助航海ニ於ケル旅客、貨物ノ運賃ハ主務大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ定ムヘシ

主務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ種類ヲ指定シ旅客、貨物ノ運賃ヲ低減セシムルコトヲ得

第六條 補助航海ニ使用スル船舶ニハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ郵便物及郵便用品ヲ無賃ニテ搭載シ無線電信ノ通信ニ關スル設備ヲ爲シ且通信事務又ハ航路視察ノ爲主務大臣ノ派出スル吏員ヲ無賃ニテ乗船セシムヘシ

第七條 補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ定期航海ノ維持ニ必要ナル施設ヲ爲スヘシ

第八條 補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ左ノ割合以内ニ於テ其ノ費用ヲ以テ航海修業生ヲ使用船舶ニ乗組マシムヘシ

- 總噸數三千噸以上五千噸未滿 四人
- 總噸數五千噸以上八千噸未滿 五人
- 總噸數八千噸以上 六人

第九條 補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ外國人ヲ其ノ本店若ハ支店ノ事務員又ハ使用船舶ノ職員ト爲スコトヲ得ス

外國ニ於テ死亡其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ使用船舶ノ職員ニ關員ヲ生シタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ補フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ補助航海ニ從事スル者又ハ船長ヨリ直ニ主務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十條 補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從

ヒ補助航海ニ關スル收支計算書及營業狀況報告書ヲ提出スヘシ

主務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ補助航海ニ從事スル者ノ本店、支店、代理店又ハ使用船舶ニ吏員ヲ派遣シ其ノ收支計算及營業狀況ヲ監査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ補助航海ニ從事スル者ハ當該吏員ノ求ムル所ニ從ヒ業務上一切ノ事項ヲ開申シ帳簿其ノ他一切ノ文書ヲ檢閱ニ供スヘシ

第十一條 主務大臣ハ相當ノ補償金額ヲ定メ補助航海ニ使用スル船舶ヲ公用ノ爲收用又ハ使用スルコトヲ得

補助航海ニ使用シタル船舶ニ付テハ最終ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三年間仍前項ノ規定ヲ適用ス

補償金額ニ對シ不服アル者ハ收用又ハ使用ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ出訴ハ船舶ノ收用又ハ使用ヲ停止セス

第十二條 補助航海ニ使用スル船舶ハ航海補助金ヲ受ケテ航海スル期間及最終ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ外國人ニ讓渡シ、貸渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得但シ其ノ船舶ニ對シ支給シタル航海補助金ヲ償還シタルトキ、天災其ノ他ノ不可抗力ニ因リ航行ニ堪ヘサルトキ又



ハ主務大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス  
第十三條 左ノ事項ハ主務大臣之ヲ定ム

- 一 補助航海ノ起點、終點及寄港地
- 二 使用船舶ノ數、總噸數、速力、船齡及代船ニ關スル事項
- 三 航海度數、航海日數及發著日時ニ關スル事項
- 四 航海補助金ノ支給方法
- 五 義務ノ不履行ニ基テ航海補助金ノ減給、停止、廢止、償還又ハ其ノ他ノ處分ニ關スル事項

第十四條 主務大臣ハ補助航海ニ從事スル者ノ義務ニ屬スル事項ニ付テハ直ニ其ノ代理人又ハ船長ニ命令ヲ下スコトヲ得

第十五條 第十一條ノ規定ニ依ル船舶ノ收用若ハ使用ヲ拒ミタル者又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ且當該船舶ニ對シ支給シタル航海補助金ニ相當スル金額ヲ償還セシム  
前項償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス  
第十六條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附 則

本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
航海獎勵法ハ之ヲ廢止ス但シ本法公布ノ際同法ニ依リ航海獎勵金ヲ受クル資格ヲ有スル船舶及同法ノ適用ヲ受クル爲製造中ノ船舶ニ關シテハ明治四十七年九月三十日迄同法ニ依リ航海獎勵金ヲ受クルコトヲ得  
前項但書ノ規定ニ依リ航海獎勵金ヲ受ケタル船舶ニ對シテハ本法ニ依リ航海補助金ヲ支給セス  
明治三十二年九月三十日以前ニ於テ帝國船籍ニ登録シタル外國製造ノ船舶ニ關シテハ第四條第二項ノ規定ヲ適用セス

第五項 道路鐵道及軌道

◎道路法 (大正八年四月十一日 法律第五十八號)

第一章 總 則

第一條 本法ニ於テ道路ト稱スルハ一般交通ノ用ニ供スル道路ニシテ行政廳ニ於テ第二章ニ依リ認定ヲ爲シタルモノヲ謂フ

第二條 左ニ掲クルモノハ道路ノ附屬物トシ道路ニ關スル本法ノ規定ニ從フ但シ命令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ

得

- 一 道路ヲ接續スル橋梁及渡船場
  - 二 道路ニ附屬スル溝、竝木、支壁、柵、道路元標、里程標及道路標識
  - 三 道路ニ接スル道路修理用材料ノ常置場
  - 四 前各號ノ外命令ヲ以テ道路ノ附屬物ト定メタルモノ
- 第三條 本法ニ於テ橋梁又ハ渡船場ト稱スルハ前條第一號ノ橋梁又ハ渡船場ヲ謂フ  
本法ニ於テ渡船場ト稱スルハ渡船ヲ包含ス  
第四條 本法ニ於テ他ノ工作物ト稱スルハ堤防、堰堤、護岸、鐵道用橋梁其ノ他命令ヲ以テ定ムル工作物ヲ謂フ  
第五條 本法ニ於テ道路ニ關スル工事ト稱スルハ道路ノ新設、改築及修繕ニ關スル工事ヲ謂フ  
第六條 道路ヲ構成スル敷地其ノ他ノ物件ニ付テハ私權ヲ行使スルコトヲ得ス但シ所有權ノ移轉又ハ抵當權ノ設定若ハ移轉ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス  
第七條 道路、沿道又ハ道路ノ附屬物ニ關スル本法ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ新ニ道路、沿道又ハ道路ノ附屬物ト爲ルヘキモノニ關シ之ヲ準用スルコトヲ得

第二章 道路ノ種類、等級及路線ノ認定

第八條 道路ヲ分チテ左ノ四種トス

- 一 國道
  - 二 府縣道
  - 三 市道
  - 四 町村道
- 第九條 道路ノ等級ハ前條記載ノ順序ニ依ル  
第十條 國道ノ路線ハ左ノ路線ニ就キ主務大臣之ヲ認定ス  
一 東京市ヨリ神宮、府縣廳所在地、師團司令部所在地、鎮守府所在地又ハ樞要ノ開港ニ達スル路線  
二 主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル路線  
第十一條 府縣道ノ路線ハ左ノ路線ニシテ府縣内ノモノニ就キ府縣知事之ヲ認定ス  
一 府縣廳所在地ヨリ隣接府縣廳所在地ニ達スル路線  
二 府縣廳所在地ヨリ府縣内郡市役所所在地ニ達スル路線  
三 府縣廳所在地ヨリ府縣内樞要ノ地、港津又ニ鐵道停車場ニ達スル路線  
四 府縣内樞要ノ地ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線  
五 府縣内樞要ノ港津ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要



ノ地又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

六 府縣内樞要ノ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有ス

ル樞要ノ地又ハ港津ニ達スル路線

七 數市町村ヲ連結スル重要ナル幹線ニシテ其ノ沿線地

方ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車

場ニ達スル路線

八 樞要ノ港津又ハ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有

スル國道又ハ府縣道ニ連絡スル路線

九 地方開發ノ爲必要ニシテ將來前各號ノ一ニ該當スヘ

キ路線

第十二條 削除

第十三條 市道ノ路線ハ市内ノ路線ニ就キ市長之ヲ認定ス

第十四條 町村道ノ路線ハ町村内ノ路線ニ就キ町村長之ヲ

認定ス

第十五條 市町村長ハ市町村ノ爲特ニ必要アル場合ニ限り

市町村外ノ路線ニ就キ地元市町村長ノ意見ヲ聞キ路線ノ

認定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ路線ニシテ市長ノ認定シタルモノハ市道ノ路線、

町村長ノ認定シタルモノハ町村道ノ路線トス

第十六條 上級ノ道路ト下級ノ道路ト路線カ重複スル場合

ニ於テハ其ノ重複スル部分ハ上級ノ道路トス

第三章 道路ノ管理

第十七條 國道ハ府縣知事、其ノ他ノ道路ハ其ノ路線ノ認

定者ヲ以テ管理者トス但シ勅令ヲ以テ指定スル市ニ於テ

ハ其ノ市内ノ國道及府縣道ハ市長ヲ以テ管理者トス

第十八條 道路ニシテ行政區劃ノ境界ニ係ルモノハ命令ノ

定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依ル管理者タル關係行政廳

ノ一ヲ以テ管理者ト爲スコトヲ得

道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル場合ニ於テハ其ノ道路

及工作物ノ管理ニ付前項ノ規定ヲ準用ス但シ私人ヲ管理

者ト爲スコトヲ得ス

第十九條 道路ノ區域ハ管理者之ヲ定ム

第二十條 道路ノ新設、改築、修繕及維持ハ管理者之ヲ爲

スヘシ

主務大臣必要アリト認ムルトキハ國道ノ新設又ハ改築ヲ

爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ道路管理者ノ權限ハ命令ノ

定ムル所ニ依リ主務大臣之ヲ行フ

第二十一條 道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル場合ニ於テ

ハ管理者ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ道路ニ關スル工事

ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得但シ

河川法第十條第一項ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ規定ニ依ル

第二十二條 他ノ工事又ハ行爲ノ爲必要ヲ生シタル道路ニ

關スル工事ハ管理者其ノ工事執行者又ハ行爲者ヲシテ之

ヲ執行セシムルコトヲ得

第二十三條 前二條ノ規定ニ依ル場合ノ外特別ノ事由アル

場合ニ於テハ管理者タル行政廳ハ下級行政廳又ハ私人ヲ

シテ道路ノ修繕ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維

持ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十四條 管理者ニ非サル者ハ管理者ノ許可又ハ承認ヲ

得テ道路ニ關スル工事ヲ執行シ又ハ道路ノ維持ヲ爲スコ

トヲ得

第二十五條 道路ニ關スル工事ノ爲必要ヲ生シタル他ノ工

事ハ管理者道路ニ關スル工事ト共ニ之ヲ執行スルコトヲ

得

第二十六條 管理者ニ非サル者ハ管理者ノ許可又ハ承認ヲ

得テ一定ノ期間橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スルコトヲ得ル橋梁

又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ得

前項ノ許可又ハ承認ヲ得タル者ハ徵收期間内橋梁又ハ渡

船場ノ維持及修繕ヲ爲スヘシ

第二十七條 管理者ハ特別ノ事由アル場合ニ限り橋錢又ハ

渡錢ヲ徵收スル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ得

第二十八條 管理者ハ交通ヲ妨ケサル限度ニ於テ道路ノ占

用ヲ許可又ハ承認スルコトヲ得

國ノ事業ニ付テハ當該官廳ハ主務大臣ト協議シテ前項道

路ノ占用ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル主務大臣ノ職權ノ一部ハ之ヲ地方長官

ニ委任スルコトヲ得

管理者ハ道路ノ占用ニ付占用料ヲ徵收スルコトヲ得但シ

前二項ノ規定ニ依ル占用ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 前條第一項ノ規定ニ依ル占用カ法令ニ依リ土

地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル公共ノ利益トナルヘキ

事業ニ係ルモノナル場合ニ於テ管理者正當ノ事由ナクシ

テ其ノ許可若ハ承認ヲ拒ミ又ハ不相當ナル占用料ヲ定メ

タルトキハ主務大臣ハ事業者ノ申請ニ依リ占用ヲ許可若

ハ承認シ又ハ占用料ヲ定ムルコトヲ得

第三十條 管理者ハ其ノ管理ニ屬スル道路ノ臺帳ヲ調製ス

ヘシ

臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 道路ノ構造、維持、修繕及工事執行方法ニ關



シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

**第三十二條** 道路ノ管理ノ爲必要ナル吏員ノ設置及其ノ職務權限ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

**第四章** 道路ニ關スル費用及義務

**第三十三條** 主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道其ノ他主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ハ國庫ノ負擔トス第二十條第二項ノ規定ニ依ル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ニ付亦同シ

前項ニ規定スルモノヲ除クノ外道路ニ關スル費用ハ管理ノ境界ニ係ル道路ニ關スル費用ノ負擔ニ付テハ關係行政廳ノ協議ニ依ル協議調ハサルトキハ主務大臣之ヲ決定ス

**第三十四條** 前條ノ場合ニ於テ道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌルモノナルトキハ其ノ費用ノ負擔ニ付テハ前條第二項但書ノ規定ヲ準用ス但シ河川法第三十條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ規定ニ依ル

**第四十條** 特ニ道路ヲ損傷スル原因ト爲ルヘキ事業ヲ爲ス者アル場合ニ於テ管理者ハ之カ爲ニ要スル道路ノ維持又ハ修繕ノ費用ノ一部ヲ其ノ事業者ニ負擔セシムルコトヲ得

**第四十一條** 道路ニ關スル工事ノ爲必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ管理者特別ノ事由アル場合ニ於テ他ノ工事ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムル場合ヲ除クノ外道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシム

**第四十二條** 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依ル義務ヲ履行スル爲必要ナル費用ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外義務者ノ負擔トス

**第四十三條** 道路ニ關スル費用ノ負擔金ハ費用負擔者カ道路ニ關スル工事ノ執行又ハ道路ノ維持ヲ爲ス場合ヲ除クノ外第三十三條第一項ノ主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道其ノ他主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スルモノニ在リテハ國庫、其ノ他ノモノニ在リテハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス  
前項ノ費用負擔者カ公共團體ナル場合ニ於テ之ヲ統轄スル行政廳又ハ行政廳タル管理者カ道路ニ關スル工事ノ執

**第三十五條** 第三十三條第二項ニ規定スル費用ニシテ國道ノ新設又ハ改築ニ要スルモノハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得特別ノ事由アル場合ニ於テ府縣道以下ノ道路ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ニ付亦同シ

**第三十六條** 第二十四條ノ規定ニ依ル道路ニ關スル工事若ハ道路ノ維持ニ要スル費用又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ設クル橋梁若ハ渡船場ニ關スル費用ハ許可又ハ承認ヲ得タル者ノ負擔トス

**第三十七條** 他ノ工事又ハ行爲ノ爲必要ヲ生シタル道路ニ關スル工事ノ費用ハ管理者他ノ工事又ハ行爲ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシム

**第三十八條** 特別ノ事由アル場合ニ於テハ第二十三條ノ規定ニ依ル道路ノ修繕ニ關スル工事又ハ道路ノ維持ニ要スル費用ハ管理者同條ノ下級行政廳ノ統轄スル公共團體又ハ同條ノ私人ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

**第三十九條** 道路ニ關スル工事ニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキハ管理者ハ其ノ者ヲシテ利益ヲ受クル限度ニ於テ道路ニ關スル工事ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

行又ハ道路ノ維持ヲ爲ストキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ費用負擔者之ヲ爲スモノト看做ス

**第四十一條** 規定ニ依ル負擔金ハ前二項ノ例ニ依リ國庫又ハ公共團體ノ收入トス

**第四十四條** 道路ノ占用料其ノ他道路ヨリ生スル收益ハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス但シ第二十六條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ得テ徵收スル橋錢又ハ渡錢ハ其ノ許可又ハ承認ヲ得タル者ノ收入トス

**第四十五條** 道路ニ關スル工事ノ爲必要アルトキハ管理者ハ沿道ノ土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ一時材料置場トシテ使用スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依ル立入り又ハ使用ヲ爲サムトスルトキハ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外豫メ土地ノ占有者ニ通知スルコトヲ要ス

**第四十六條** 非常災害ノ爲必要アルトキハ管理者ハ道路附近ニ居住スル者ヲ使役シ、道路附近ノ土地ヲ一時使用シ又ハ土石、竹木其ノ他物品ヲ使用若ハ收用スルコトヲ得

**第四十七條** 前二條ノ規定ニ依ル立入り、使用、使役又ハ收用ニ因リ現ニ生シタル損害ハ立入り、使用、使役又收用ノ後三月内ニ管理者之ヲ補償スヘシ







ル者ハ訴願スルコトヲ得

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

**第五十八條** 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付主務大臣又ハ管理者ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

**第五十九條** 第四十七條ノ規定ニ依リ補償ヲ受クヘキ者同條ニ規定スル期間内ニ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ補償ニ不服アルトキハ通知後六月内ニ、同條ノ規定スル期間内ニ其ノ決定ノ通知ヲ受ケサル場合ニ於テハ其ノ期間經過後六月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

**第七章 雜則**

**第六十條** 本法中府縣、府縣知事、府縣廳又ハ府縣道ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ道、道廳長官、道廳又ハ地方費道ニ關シ市、市長、市役所又ハ市道ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ區、區長、區役所又ハ區道ニ關シ郡役所ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ支廳、島ニ付テハ島廳ニ關

シ之ヲ適用ス

**第六十一條** 北海道ニ付テハ道路ノ種類、等級及路線ノ認定並第三十三條乃至第三十六條、第四十三條、第四十四條及第五十二條ノ規定ニ關シ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

**第六十二條** 道路ノ路線ノ認定ノ變更廢止其ノ他ノ場合ニ於テ不用ニ歸シタル道路及其ノ附屬物ヲ構成シタル物件並材料器具機械等ノ管理及處分ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ變更廢止ノ場合ニ於テ道路及其ノ附屬物ヲ構成シタル物件ハ勅令ヲ以テ定ムル期間ノ滿了スル迄第六條ノ規定ヲ之ニ準用シ土地收用法中第六十六條ノ規定及之ヲ準用スル規定ノ適用ニ付テハ不用ニ歸セサルモノト看做ス

**第六十三條** 左ニ掲クル法令ノ規定ハ本法ニ依ル道路ニ關シ之ヲ適用セス

- 一 明治四年十二月十四日布告治水修路架橋等運輸ノ便利ヲ興ス者ニ税金取立方許可ニ關スル件
- 二 明治十一年七月二十二日達郡區町村編制府縣會規則地方稅規則施行順序ニ關スル件第十二項

三 明治十二年二月二十七日達河港道路堤防橋梁費ヲ舊

慣ニ因リ支辨シ得ル件

四 陸地測量標條例第二條

五 水路測量標條例第二條

六 電信線電話線建設條例第一條、第四條及第五條

七 軍用電信法第四條第二項ノ規定ニ依リ準用スル電信

線電話線建設條例第一條、第四條及第五條

八 河川法第十條第二項、第十一條及第三十二條

九 砂防法第八條及第十六條

十 私設鐵道法第四十二條

十一 輕便鐵道法第五條ノ規定ニ依リ準用スル私設鐵道

法第四十二條

十二 電氣事業法第九條

十三 大正三年法律第三十七號

**附 則**

**第六十四條** 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム大正八年十月勅令第四百五十九號ヲ以テ九年四月一日ヨリ施行

**第六十五條** 左ニ掲クル法令ハ之ヲ廢止ス

- 一 明治五年第三百二十五號布告
- 二 明治六年第四百十六號布告

三 明治六年第四百十三號達

四 明治九年第六十號達

五 明治十八年第一號布達

六 明治二十年勅令第二十八號

**第六十六條** 本法施行前爲シタル處分及之ニ附シタル條件ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セサル限り本法ニ依リ爲シタル處分及之ニ附シタル條件ト看做ス

**第六十七條** 本法ニ依リ管理者ノ許可又ハ承認ヲ受クヘキ事項ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法ニ依リ管理者ノ許可又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス但シ管理者ハ本法施行ノ日ヨリ三月内ニ六月ヲ下ラサル期間ヲ指定シ其ノ期間經過後ハ許可又ハ承認ノ效力ヲ失フヘキ旨ヲ告示スルコトヲ得

**第六十八條** 本法施行前爲シタル處分ニ關スル訴願又ハ行政訴訟ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

**附 則** (大正十一年法律第三號)

本法中第二十條、第三十三條、第四十三條及第六十條ノ改正規定ノ施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年八月勅令第三百八十三號ヲ以テ同十二年四月一日ヨリ施行)其ノ他ノ規定ハ大正十年法律第六十三號第一條施行ノ日ヨリ



之ヲ施行ス(大正十二年四月一日)但シ同法附則但書ノ規定ニ依リ別ニ其ノ施行ノ期日ヲ定ムル府縣ニ付テハ其ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎道路法施行令(大正八年十一月五日勅令第四百六十號)

第一條 (削除)

第二條 府縣道以下ノ道路ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲サムトスルトキハ府縣道ニ付テハ府縣會、市道ニ付テハ市會、町村道ニ付テハ町村會ニ之ヲ諮問スヘシ但シ重要ナラサル變更又ハ廢止ニ付テハ此ノ限ニ在ラス前項ノ規定ニ依ル諮問ハ道路法第十七條但書ノ規定ニ依ル府縣道ニ付テハ府縣會及市會ニ之ヲ諮問スヘシ

第三條 國道ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第四條 府縣道以下ノ道路ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲シタルトキハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第五條 市町村長道路法第十五條ノ規定ニ依リ市道町村道ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲シタルトキハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル市町村長ハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スシ

第六條 前三條ノ告示ニハ路線名並路線ノ起點終點及重要ナル經過地ヲ表示スヘシ

第七條 府縣廳、師團司令部、鎮守府又ハ市役所ノ所在地ヲ國道又ハ府縣道ノ路線ノ起點終點ト爲ストキハ市町村ニ於ケル道路元標ノ位置ニ依ルヘシ

第八條 東京市ニ於ケル道路元標ノ位置ハ日本橋ノ中央トス

市町村ニ於ケル道路元標ノ位置ハ前項ニ規定スルモノヲ除クノ外府縣知事之ヲ定ム

第九條 道路元標ハ各市町村ニ一箇ヲ置ク道路元標ノ様式ハ内務大臣之ヲ定ム

第十條 道路元標ハ管理者之ヲ建設スヘシ等級ヲ異ニスル道路ニ係ルモノナルトキハ上級道路ノ管理者之ヲ建設スヘシ

第十一條 道路又ハ沿道ノ區域ヲ定メタルトキハ管理者タル行政廳ハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ内務大臣ノ指定スル道路附屬物ノ區域ヲ定メタルトキ亦同シ

第十二條 内務大臣道路法第二十條第二項ノ規定ニ依リ國道ノ新設又ハ改築ヲ爲ストキハ豫メ官報ヲ以テ其ノ道

路ノ路線名、區間及工事開始ノ期日ヲ告示スヘシ

前項ノ國道ノ新設又ハ改築ノ全部又ハ一部ヲ廢止又ハ終了スルトキハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ告示スヘシ

第十一條 道路ノ供用ヲ開始シ又ハ廢止スルトキハ管理者タル行政廳ハ豫メ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ内務大臣ノ指定スル道路附屬物ノ供用ヲ開始シ又ハ廢止スルトキ亦同シ

第十二條 道路法第二十六條ノ規定ニ依ル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ許可又ハ承認シタルトキハ管理者タル行政廳ハ地方ノ公布式ニ依リ設置者並橋錢又ハ渡錢ノ額及徵收期間ヲ告示スヘシ同法第二十七條ノ規定ニ依ル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルトキ亦同シ

第十三條 左ニ掲クルモノニ付テハ橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スルコトヲ得ス

- 一 軍隊
- 二 演習中ノ軍人軍屬
- 三 召集令狀若ハ召集傳達書ヲ所持シ應召ノ爲通行スル軍人又ハ召集令狀配達人
- 四 簡閱點呼令狀若ハ簡閱點呼傳達書ヲ所持シ簡閱點呼ニ參會スル爲通行スル軍人又ハ簡閱點呼令狀配達人

第六編 交通及通信 第一款 交通 第五項 道路鐵道及軌道

五 徵發ニ關スル令書配達人

六 徵發人夫及其ノ引率人

七 徵發物件及其ノ運搬人

八 勤務中ノ憲兵又ハ警察官吏

九 護送中ノ囚人又ハ刑事被告人及其ノ護送人

十 水火災警防ノ爲又ハ其ノ演習ノ爲通行スル當該官吏

吏員又ハ一定ノ服裝ヲ爲シタル消防夫水防夫

十一 尋常小學校ニ往復ノ兒童

十二 受持區内ニ勤務中ノ修路工夫

第十四條 橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スル者ハ徵收ノ場所ニ左ニ掲クル事項ヲ榜示スヘシ

- 一 設置者
- 二 橋錢又ハ渡錢ノ額
- 三 徵收期間
- 四 橋錢又ハ渡錢ヲ徵收セサル場合

第十五條 道路臺帳ヲ調製シタルトキハ管理者タル行政廳ハ地方ノ公布式ニ依リ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第十六條 他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル道路ニ關シ告示スヘキ事項ハ道路法第十八條第二項ノ規定ニ依リ他ノ工作物



ノ管理者タル行政廳ヲ以テ道路及工作物ノ管理者ト爲シタル場合ニ於テハ其ノ管理者同法第十七條ノ規定ニ依リ管理者タルヘキ行政廳ニ之ヲ通知シ通知ヲ受ケタル行政廳本令ニ依リ之ヲ告示スヘシ

**第十七條** 第五條ノ規定ハ道路法第十五條若ハ第十八條第一項ノ規定ニ依ル道路ニ關シ第十條、第十一條、第十二條若ハ第十五條ノ規定ニ依ル告示ヲ爲ス場合又ハ同法第十五條ノ規定ニ依ル道路ニ關シ前條ノ規定ニ依ル告示ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

**第十八條** 道路法第四十五條ノ規定ニ依ル通知ハ三日前行場所及日時ヲ指定シ之ヲ爲スヘシ

道路法第四十五條ノ規定ニ依リ邸内ニ立入ル場合ニ於テハ日出前日没後ハ占有者ノ意ニ反シテ立入ルコトヲ得ス

**第十九條** 道路ノ路線ノ認定者及道路ノ管理者ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ監督ス

- 一 市町村長認定者又ハ管理者ナルトキハ第一次ニ府縣知事、第二次ニ内務大臣
- 二 前號ニ規定スル以外ノ者認定者又ハ管理者ナルトキハ内務大臣

**第二十條** 左ニ掲クル事項又ハ其ノ變更、廢止若ハ取消ハ

ハ第一次ニ支廳長、第二次ニ道廳長官、第三次ニ内務大臣之ヲ監督ス

北海道ノ道路ニ付左ニ掲クル事項又ハ其ノ變更、廢止若ハ取消ハ道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

一 道路法第十五條ノ規定ニ依リ二市支廳管内以上ニ互ル道路ノ路線ヲ認定スルコト

二 道路法第三十七條又ハ第三十九條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ道ニ費用ヲ負擔セシムルコト

前三項ニ規定スルモノノ外北海道ニ付テハ本令中府縣、府縣知事、府縣廳、府縣會又ハ府縣道ニ關スル規定ヲ道、道廳長官、道廳、道會又ハ地方費道ニ關シ適用ス

附 則

**第二十四條** 本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正九年四月一日）

**第二十五條** 道路法施行ノ際認定スヘキ國道ノ路線ニ關シ豫メ道路會議ニ諮問シタルモノハ本令ニ依リ諮問シタルモノト看做ス

**第二十六條** 道路法施行ノ際認定スヘキ府縣道又ハ地方費道ノ路線ニ關シ本令公布後ニ於テ豫メ府縣會又ハ道會ニ諮問シタルモノハ本令ニ依リ諮問シタルモノト看做ス

内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 市長ヲ以テ管理者トスル國道又ハ府縣道ノ新設又ハ改築ヲ爲スコト

二 道路法第十五條ノ規定ニ依リ二府縣以上ニ互ル路線ヲ認定スルコト

三 道路法第二十四條ノ規定ニ依ル承認ヲ府縣ニ對シ爲スコト

四 道路法第十七條但書ノ市ノ市内道路ニ關シ同法第三十九條又ハ第四十條ノ規定ニ依リ負擔セシムル費用ノ負擔方法ヲ定ムルコト

五 道路法第三十七條又ハ第三十九條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ國ニ費用ヲ負擔セシムルコト

**第二十一條** (削除)

**第二十二條** 前二項ニ規定スルモノヲ除クノ外道路法第五十二條ノ規定ニ依リ認可ヲ受クヘキモノニ付テハ第一次監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

**第二十三條** 北海道ニ於テ支廳ノ所在地ヲ地方費道ノ路線ノ起點終點ト爲ストキハ市町村ニ於ケル道路元標ノ位置ニ依ルヘシ

北海道ノ道路ト路線ノ認定者又ハ管理者市町村長ナルトキ

道、市道、區道又ハ町村道ノ路線ノ認定ノ諮問ニ付亦同シ

**第二十七條** 市道、區道又ハ町村道ノ路線ノ認定ニ付テハ道路法施行ノ際ニ限り第六條ノ規定ニ拘ラス平面圖ヲ公衆ノ縦覽ニ供シ其ノ旨ヲ告示スルコトヲ得

前項ノ平面圖ニハ路線ノ位置並路線ノ交叉點及兩端ノ地番若ハ地先地番ヲ表示スヘシ別ニ地番圖書ヲ作製シ平面圖ニ添附スルコトヲ妨ケス

**第二十八條** 市區町村ニ於ケル道路元標ノ位置ニ付本令施行前道廳長官又ハ府縣知事ノ定メタルモノハ本令ニ依リ定メタルモノト看做ス

附 則

(大正十一年勅令第三百八十四號)

本令中第十條ノ二ノ規定並第十七條及第二十三條ノ改正規定ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス其ノ他ノ規定ハ大正十年法律第六十三號第一條施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十二年四月一日ヨリ施行）但シ同法附則但書ノ規定ニ依リ別ニ其ノ施行ノ期日ヲ定ムル府縣ニ付テハ其ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年法律第三號中第十一條ノ改正規定施行ノ際認定スヘキ府縣道ノ路線ニ關シ本令公布後ニ於テ豫メ府縣會ニ諮問シタルモノハ道路法施行令第二條ノ規定ニ依リ諮問シタルモノト看做ス



◎道路法第七條ノ規定ニ依ル同法ノ規定ノ準用等ノ件(大正八年十一月二十六日勅令第四百七十一號)

第一條 道路法第二十八條、第二十九條、第四十四條、第四十六條、第四十七條、第四十九條、第五十一條乃至第五十三條、第五十六條及第五十九條ノ規定並道路法施行令第二十二條ノ規定ハ道路又ハ其ノ附屬物ト爲ルヘキモノニ關シ之ニ準用ス

第二條 道路法第四十五條、第四十七條、第四十九條及第五十九條ノ規定並道路法施行令第十八條ノ規定ハ沿道ト爲ルヘキモノニ關シ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎賃取橋及渡船場設置ニ關スル件

(大正九年七月二十八日內務省令第二十三號)

第一條 道路法第二十六條ノ規定ニ依ル申請書ニハ左ノ圖書ヲ添附スヘシ

- 一 地形圖(接續道路其ノ他ノ道路系統ヲ記入スヘシ)

二 工事方法書及圖面(橋梁縱斷面圖又ハ渡船位置河川關係、河底、平水位及最高水位ヲモ記入スヘシ)

三 工費豫算書

四 收入豫算明細書

五 橋錢又ハ渡錢ノ額

六 徵收期間

七 元資銷却年次表

八 工事著手及竣功ノ年月日

第二條 道路法第五十二條第三號第五號ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 前條申請書及其ノ添付圖書ノ謄本

二 道路法第二十條及第二十七條ノ規定ニ依ルコトヲ得サル事由

三 申請人私人ナルトキハ地元公共團體ニ於テ之ヲ經營スルコトヲ得サル事由(管理者ト地元公共團體トノ交渉願末書ヲ添付スヘシ)

四 申請人私人ナルトキハ其ノ信用及資産ノ狀態

五 許可又ハ承認ニ付スル條件

他ノ法令ニ依リ許可、認可其ノ他ノ手續ヲ要スルトキハ

前項認可申請ト同時ニ管理者之ヲ爲スヘシ

第三條 橋梁又ハ渡船場設置ノ許可承認ニ關シ道路法第五十二條但書ノ規定ニ基テ命令ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ要セサルモノハ處分ノ日ヨリ十日內ニ申請書及附屬圖書ノ謄本ヲ添附シ處理ノ要領ヲ監督官廳ニ報告スヘシ

第四條 橋梁又ハ渡船場ノ工事竣功シタルトキハ工費精算書ヲ添ヘ道路管理者ノ検査ヲ受クヘシ

第五條 管理者ハ橋梁又ハ渡船場ノ工事其ノ他必要ト認ムル事項ヲ隨時監査スヘシ

管理者ハ許可ヲ受ケタル者ニ説明ヲ求メ關係帳簿、書類、圖面等ヲ檢閲スルコトヲ得

第六條 管理者橋錢又ハ渡錢徵收期間中公益上ノ必要ニ依リ道路法第二十六條ノ規定ニ依ル許可又ハ承認ヲ取消シタルトキハ元資銷却年次表ニ依ル未銷却額ヲ補償スヘシ

道路法第二十六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ國又ハ公共團體ヨリ請求アリタルトキハ許可ニ依リ生スル權利義務ノ移轉ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ國又ハ公共團體ハ前項ノ規定ニ依ル金額ヲ補償スヘシ但シ協議ニ依リ之ニ異ナル補償金額ヲ定ムルコトヲ得

第七條 管理者橋錢又ハ渡錢徵收期間中公益上ノ必要ニ依

第六編 交通及通信 第一款 交通 第五項 道路鐵道及軌道

五〇一

第一條 本法ニ於テ自動車運輸事業トハ一般交通ノ用ニ供スル爲路線ヲ定メ定期ニ自動車ヲ運行シテ旅客又ハ物品ヲ運送スル事業ヲ謂フ

第二條 自動車運輸事業ノ路線ハ一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路ニ依ルベシ

第三條 主務大臣ハ命令ヲ以テ自動車運輸事業ニ付路線ニ應ジテ使用スベキ自動車ノ輛數其ノ他事業ノ基準ヲ定ムルコトヲ得

第四條 自動車運輸事業ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ運賃其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ定メ主務大臣

第一條 本法ニ於テ自動車運輸事業トハ一般交通ノ用ニ供スル爲路線ヲ定メ定期ニ自動車ヲ運行シテ旅客又ハ物品ヲ運送スル事業ヲ謂フ

第二條 自動車運輸事業ノ路線ハ一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路ニ依ルベシ

第三條 主務大臣ハ命令ヲ以テ自動車運輸事業ニ付路線ニ應ジテ使用スベキ自動車ノ輛數其ノ他事業ノ基準ヲ定ムルコトヲ得

第四條 自動車運輸事業ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ運賃其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ定メ主務大臣

第一條 本法ニ於テ自動車運輸事業トハ一般交通ノ用ニ供スル爲路線ヲ定メ定期ニ自動車ヲ運行シテ旅客又ハ物品ヲ運送スル事業ヲ謂フ

第二條 自動車運輸事業ノ路線ハ一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路ニ依ルベシ

第三條 主務大臣ハ命令ヲ以テ自動車運輸事業ニ付路線ニ應ジテ使用スベキ自動車ノ輛數其ノ他事業ノ基準ヲ定ムルコトヲ得

第四條 自動車運輸事業ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ運賃其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ定メ主務大臣

第一條 本法ニ於テ自動車運輸事業トハ一般交通ノ用ニ供スル爲路線ヲ定メ定期ニ自動車ヲ運行シテ旅客又ハ物品ヲ運送スル事業ヲ謂フ

第二條 自動車運輸事業ノ路線ハ一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路ニ依ルベシ

第三條 主務大臣ハ命令ヲ以テ自動車運輸事業ニ付路線ニ應ジテ使用スベキ自動車ノ輛數其ノ他事業ノ基準ヲ定ムルコトヲ得

第四條 自動車運輸事業ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ運賃其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ定メ主務大臣

第一條 本法ニ於テ自動車運輸事業トハ一般交通ノ用ニ供スル爲路線ヲ定メ定期ニ自動車ヲ運行シテ旅客又ハ物品ヲ運送スル事業ヲ謂フ

第二條 自動車運輸事業ノ路線ハ一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路ニ依ルベシ

第三條 主務大臣ハ命令ヲ以テ自動車運輸事業ニ付路線ニ應ジテ使用スベキ自動車ノ輛數其ノ他事業ノ基準ヲ定ムルコトヲ得

第四條 自動車運輸事業ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ運賃其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ定メ主務大臣



ノ免許ヲ受クベシ

主務大臣ハ前項ノ免許ヲ爲スニ當リ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ有効期間ヲ指定スルコトヲ得

**第五條** 主務大臣ハ自動車運輸事業者ガ免許ノ有効期間満了後仍引續キ其ノ事業ヲ經營センコトヲ申請シタルトキハ當該路線ニ依ル自動車運輸事業ノ不必要其ノ他特別ノ事由ナキ限り期間更新ノ免許ヲ爲スベシ

**第六條** 自動車運輸事業經營ノ免許ヲ受ケタル者ハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ運輸開始ノ認可ヲ申請スベシ

第十七條第一項ノ専用自動車道ヲ開設シテ自動車運輸事業ヲ經營スル場合ニ在リテハ工事方法ヲ定メ前項ノ認可申請前主務大臣ノ指定スル期間内ニ工事施行ノ認可ヲ申請スベシ

天災其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ前二項ノ期間内ニ認可ヲ申請スルコト能ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣ハ期間ヲ伸長スルコトヲ得

**第七條** 自動車運輸事業者事業計畫又ハ専用自動車道ノ工事方法ヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

**第八條** 自動車運輸事業ノ自動車ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

登録ヲ受クルコトヲ要ス

**第九條** 自動車運輸事業ノ運輸、設備及會計ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

**第十條** 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ自動車運輸事業者ニ對シ左ニ掲グル事項ヲ命ズルコトヲ得

- 一 運賃其ノ他ニ關スル事業計畫又ハ専用自動車道ノ工事方法ヲ變更セシムルコト
- 二 路線ヲ延長又ハ變更セシムルコト但シ専用自動車道ノ延長及變更ハ此ノ限ニ在ラズ
- 三 他ノ運送事業者ト連絡運輸ヲ爲サシムルコト
- 四 全部又ハ一部ノ路線ヲ共通ニスル數人ノ自動車運輸事業者アル場合ニ共同經營ヲ爲サシムルコト
- 五 旅客又ハ物品ノ運送ニ關スル損害ニ付保險ニ付セシムルコト
- 六 前各號ノ外事業ノ改善ヲ爲サシムルコト

前項第三號及第四號ノ場合ニ於テ其ノ實施方法又ハ各事業ノ收得シ若ハ負擔スベキ金額ニ付協議調ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

**第十一條** 免許、許可又ハ認可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得前項ノ條件ハ公益上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ

得

前條第二項ノ規定ハ第一項ノ條件ニ於テ他ノ運送事業者ヨリ事業ノ讓渡又ハ共同經營、會社ノ合併等ヲ求メタルトキハ之ニ應ズベキコトヲ命ジタル場合ニ於ケル實施方法及收得又ハ負擔金額ニ之ヲ準用ス

**第十二條** 自動車運輸事業ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ休止シ又ハ廢止スルコトヲ得ズ

**第十三條** 自動車運輸事業ノ讓渡ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

會社ノ合併ニ因ル自動車運輸事業ノ承繼ニ付テハ合併前主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

自動車運輸事業者死亡シタルトキハ相續人ハ其ノ事業ヲ承繼ス

自動車運輸事業ヲ營ム會社ノ解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

**第十四條** 左ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ自動車運輸事業經營ノ免許ノ全部若ハ一部ヲ取消シ又ハ事業ノ全部若ハ一部ヲ停止セシムルコトヲ得

一 法令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキ

二 法令ニ基キテ爲シタル處分又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

三 許可又ハ認可ヲ受ケタル事項ヲ故ナク實施セザルトキ

四 事業ノ經營不確實又ハ資産狀態ノ著シキ不良其ノ他ノ爲事業ヲ繼續スルニ適セズト認メタルトキ

五 公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキ

**第十五條** 左ノ場合ニ於テハ自動車運輸事業經營ノ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

- 一 運輸開始ノ認可申請期間内ニ認可ヲ申請セザルトキ
- 二 運輸開始ノ認可ナキトキ
- 三 事業經營ノ免許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ運輸開始ノ認可申請期間内(路線ノ全部又ハ一部ニ付専用自動車道ヲ開設スル場合ニ在リテハ工事施行ノ認可申請期間内)ニ會社設立ノ登記ヲ爲サザルトキ



四 専用自動車道ニ付工事施行ノ認可申請期間内ニ認可ヲ申請セザルトキ

五 専用自動車道ニ付工事施行ノ認可ナキトキ

六 事業ノ廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

七 事業ヲ營ム會社解散シタルトキ

**第十六條** 自動車運輸事業以外ノ自動車ニ依ル運送事業ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

**第二章** 自動車道及自動車道事業

**第十七條** 本法ニ於テ自動車道トハ専用自動車ノ一般交通ノ用ニ供スル道路(一般自動車道)及自動車運輸事業者ガ其ノ事業用自動車ノ専用ニ供スル通路(専用自動車道)ヲ謂フ

本法ニ於テ自動車道事業トハ一般自動車道ヲ開設シ有償又ハ無償ニテ之ヲ専用自動車ノ一般交通ノ用ニ供スル事業ヲ謂フ

**第十八條** 自動車道事業ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ使用料金其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ定メ主務大臣ノ免許ヲ受クベシ

**第十九條** 自動車道事業經營ノ免許ヲ受ケタル者ハ工事方法ヲ定メ主務大臣ノ指定スル期間内ニ工事施行ノ認可ヲ

申請スベシ

天災其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ前項ノ期間内ニ認可ヲ申請スルコト能ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣ハ期間ヲ伸長スルコトヲ得

**第二十條** 自動車道事業者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ一般自動車道ノ工事ニ著手シ之ヲ竣功セシムベシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ノ伸長ニ之ヲ準用ス

**第二十一條** 自動車道事業者事業計畫又ハ一般自動車道ノ工事方法ヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

**第二十二條** 自動車道ニ關スル工事ノ爲必要アルトキハ自動車道事業者又ハ自動車運輸事業者ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ沿道ノ土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ一時材料置場トシテ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ立入又ハ使用ヲ爲サントスルトキハ已ムヲ得ザル事由アル場合ヲ除クノ外豫メ土地ノ占有者ニ其ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第一項ノ規定ニ依リ立入又ハ使用ニ因リテ生ジタル損害ハ立入又ハ使用ノ後遲滞ナク事業者ニ於テ之ヲ補償スベシ

シ  
前項ノ補償ニ付協議調ハザルトキハ地方長官之ヲ裁定ス

前項ノ規定ニ依ル裁定中補償金額ニ不服アル者ハ裁定ノ通知ヲ受ケタル日より三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

**第二十三條** 一般自動車道ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ供用ヲ開始スルコトヲ得ズ

**第二十四條** 一般自動車道ノ構造、維持、修繕若ハ使用又ハ其ノ交通ノ保全ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

**第二十五條** 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ自動車道事業者ニ對シ左ニ掲グル事項ヲ命ズルコトヲ得  
一 使用料金其ノ他ニ關スル事業計畫又ハ一般自動車道ノ工事方法ヲ變更セシムルコト  
二 一般自動車道又ハ其ノ附屬物件ノ改善ヲ爲サシムルコト

**第二十六條** 免許、許可又ハ認可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

前項ノ條件ハ公益上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

**第二十七條** 自動車道事業者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ

非ザレバ其ノ事業ニ屬スル一般自動車道ノ全部又ハ一部ノ供用ヲ休止シ又ハ廢止スルコトヲ得ズ

**第二十八條** 自動車道事業ノ讓渡ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

會社ノ合併ニ因リ自動車道事業ノ承繼ニ付テハ合併前主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

自動車道事業者死亡シタルトキハ相續人ハ其ノ事業ヲ承繼ス

自動車道事業者ヲ營ム會社ノ解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

**第二十九條** 左ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ自動車道事業經營ノ免許ノ全部又ハ一部ヲ取消シ又ハ事業ノ全部又ハ一部ヲ停止セシムルコトヲ得  
一 法令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反タルトキ  
二 法令ニ基キテ爲シタル處分又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ  
三 主務大臣ノ指定スル期間内ニ工事ヲ竣功セズ其ノ他許可又ハ認可ヲ受ケタル事項ヲ故ナク實施セザルトキ  
四 事業ノ經營不確實又ハ資産狀態ノ著シキ不良其ノ他



ノ爲事業ヲ繼續スルニ適セズト認めタルトキ

第五 公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキ

第三十條 左ノ場合ニ於テハ自動車道事業經營ノ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

- 一 工事施行ノ認可申請期間内ニ認可ヲ申請セザルトキ
- 二 工事施行ノ認可ナキトキ
- 三 事業經營ノ免許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキ
- ハ 工事施行ノ認可申請期間内ニ會社設立ノ登記ヲ爲サザルトキ
- 四 一般自動車道ノ供用ノ廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ
- 五 事業ヲ營ム會社解散シタルトキ

第三十一條 政府又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者が自動車道

ニ接續シ若ハ接近シ又ハ之ヲ横斷シテ一般ノ道路、自動車道、橋梁、河川、運河、溝渠、鐵道、軌道、索道等ヲ造設セントスルトキハ自動車道事業者又ハ自動車運輸事業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テ公益上必要アリト認めルトキハ主務大臣ハ自動車道事業者又ハ自動車運輸事業者ニ對シ設備ノ共用又ハ變更ヲ命ズルコトヲ得

第三十五條 本法ニ規定スル主務大臣ノ職權ノ一部ハ命令

面ヲ檢閱スルコトヲ得

第三十四條 主務大臣又ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警

視總監ヲ含ム、以下同ジ）ハ必要アリト認めルトキハ自動車運輸事業者又ハ自動車道事業者ヲシテ事業上ノ報告ヲ爲サシメ、書類ヲ提出セシメ又ハ監査員ヲ派遣シテ事業ノ狀況ヲ監査セシムルコトヲ得

第三十三條 同一ノ一般自動車道ニ依ル自動車道事業及自動車運輸事業ノ兼營ノ場合ニ於ケル免許、許可及認可ニ

關シテハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 自動車交通事業財團ハ左ニ掲グルモノニシテ

- 一 自動車道ノ敷地及其ノ上ニ存スル工作物並ニ之ニ屬スル器具機械
- 二 發着場、駐車場其ノ他自動車運行ノ爲必要ナル沿線土地及其ノ上ニ存スル工作物並ニ之ニ屬スル器具機械
- 三 自動車庫、停留所、貨物庫、給油所、附屬工場、事務所、事務員駐在所其ノ他事業ノ爲必要ナル建物及其ノ敷地並ニ之ニ屬スル器具機械
- 四 通信又ハ信號ニ要スル工作物及其ノ敷地並ニ之ニ屬スル器具機械
- 五 前四號ニ掲グル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人

ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第三十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付主務大臣又ハ地方長官ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 國ニ於テ經營スル自動車運輸事業及自動車道

事業ニ付テハ第一條乃至第三條、第九條（會計ニ關スル規定ヲ除ク）、第十七條、第二十二條、第二十四條及第五十四條乃至第五十七條ノ規定ニ限リ本法ヲ適用ス

國ニ於テ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ヲ經營セントスルトキハ當該官廳ハ主務大臣ニ協議ヲ爲スベシ

第四章 自動車交通事業抵當

第三十八條 自動車運輸事業又ハ自動車道事業ヲ營ム株式會社ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲自動車運輸事業又ハ自動車道事業ノ全部又ハ一部ニ付自動車交通事業財團ヲ設定ス



ノ不動産ノ上ニ存スル地上權及第三者ニ對抗シ得ベキ賃借權並ニ前四號ニ掲グル土地ノ爲ニ存スル地役權

六 自動車運輸事業ノ爲登録ヲ受ケタル自動車及其ノ附屬品

七 事業經營ノ爲必要ナル貯藏物品及器具機械

**第四十條** 前條第一號乃至第三號ニ掲グル不動産ノ何レモガ存セザルトキハ自動車運輸事業ノ爲ニ自動車交通事業財團ヲ設定スルコトヲ得ズ

自動車交通事業財團ヲ目的トスル抵當權ハ之ノミニ依リテ擔保セラルル債務ノ額ガ三萬圓以上ナラザルトキハ之ヲ設定スルコトヲ得ズ但シ第二以下ノ順位ノ抵當權設定ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

**第四十一條** 自動車運輸事業又ハ自動車道事業ノ一部ニ付自動車交通事業財團ヲ設定スル場合ニ於テハ自動車運輸事業ニ在リテハ獨立ノ路線ニ付、自動車道事業ニ在リテハ獨立ノ一般自動車道ニ付之ヲ爲スコトヲ要ス

**第四十二條** 同一事業者ガ自動車運輸事業ト自動車道事業トヲ兼營スル場合ニ於テハ兩事業ニ關スルモノヲ合シテ一個ノ自動車交通事業財團ヲ設定スルコトヲ得但シ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ノ何レカ一方ニ付自動車交

通事業財團ノ設定アリタル後ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ事業者ガ各事業ニ付各別ニ自動車交通事業財團ヲ設定スル場合ニハ一般自動車道ノ敷地其ノ他專ラ自動車道事業ニ關スルモノハ自動車運輸事業ノ爲ノ自動車交通事業財團ニ屬スルコトナシ

**第四十三條** 自動車交通事業財團ノ設定ハ自動車交通事業財團登記簿ニ所有權保存ノ登記ヲ爲スニ依リテ之ヲ爲ス自動車交通事業財團登記簿ニ所有權保存ノ登記ヲ爲シタルトキハ第三十九條ニ規定スルモノハ當然自動車交通事業財團ニ屬ス但シ第三者ニ對抗シ得ベキ他人ノ權利ノ目的タルモノ又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

自動車交通事業財團ノ設定後新ニ其ノ財團ノ所有者ニ屬シタルモノ亦前項ニ同ジ

**第四十四條** 自動車交通事業財團ハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權及抵當權以外ノ權利、差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ズ但シ抵當權者ノ同意ヲ得テ之ヲ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ヲ營ム株式会社ニ讓渡スハ此ノ限ニ在ラズ

自動車交通事業財團ニ屬スルモノハ之ヲ讓渡シ又ハ所有

權以外ノ權利、差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ズ但シ抵當權者ノ同意ヲ得テ之ヲ讓渡シ又ハ貸付クルハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ依リ自動車交通事業財團ニ屬スルモノヲ讓渡シタルトキハ抵當權ハ其ノモノニ付消滅ス

**第四十五條** 自動車交通事業財團ヲ目的トスル抵當權ノ設定又ハ變更ハ總株金四分ノ一以上ノ拂込アリタル後定款變更ト同一方法ノ株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

**第四十六條** 自動車交通事業財團ノ登記ニ付テハ其ノ財團ノ所有者タル會社ノ本店所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ其ノ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

自動車交通事業財團ノ所有者タル會社ガ本店ヲ一登記所ノ管轄地ヨリ他ノ登記所ノ管轄地ニ移シタル場合ニ於ケル登記手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

左ノ場合ニ於テハ登記所ハ直ニ其ノ旨ヲ主務大臣ニ通知スベシ

一 第一順位ノ抵當權ノ設定ヲ登記シタルトキ

二 自動車交通事業財團ノ用紙ヲ閉鎖シタルトキ

**第四十七條** 自動車交通事業財團ニ關シテハ工場抵當法第十條、第十二條、第十八條乃至第二十條、第二十二條乃至

至第四十四條、第四十七條及第四十八條ノ規定ヲ準用ス

本法ニ規定スルモノヲ除クノ外自動車交通事業財團ノ登記ニ關シテハ不動産登記法ヲ準用ス

登記ノ申請書ニハ不動産登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ掲グル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スベシ

一 自動車交通事業財團ノ設定セラルル事業ノ表示

二 自動車運輸事業ノ爲ノ自動車交通事業財團ニ在リテハ其ノ事業ノ行ハルル路線ノ表示

三 自動車道事業ノ爲ノ自動車交通事業財團ニ在リテハ之ニ屬スル一般自動車道ノ表示

四 免許ニ有効期間ノ指定アルトキハ其ノ期間

五 免許ニ條件ガ附セラレタルトキハ其ノ條件

**第四十八條** 第四十二條第一項ノ規定ニ依リテ自動車交通事業財團ヲ設定シタル場合ニ於テ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ノ何レカニ付事業經營ノ免許ノ失効又ハ取消アリタルトキハ抵當權者ハ一事業ニ付自動車交通事業財團ノ設定セラレタル場合ニ準ジ財團ノ全部ニ對シ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得

**第四十九條** 自動車交通事業財團ニ對スル抵當權ノ強制執行ニ付テハ執行シ得ベキ一定ノ債務名義ヲ要セズ

第六編 交通及通信 第一款 交通 第五項 道路鐵道及軌道



強制管理ノ開始ハ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ニ對スル主務大臣ノ監督ヲ妨グズ  
強制管理ノ管理人ノ任免ニ付テハ裁判所ハ主務大臣ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス  
強制管理終了シタルトキハ裁判所ハ其ノ旨ヲ主務大臣ニ通知スベシ

第五章 罰則

第五十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 免許ヲ受ケズシテ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ヲ經營シタルトキ
- 二 認可ヲ受ケズシテ一般自動車道ノ供用ヲ開始シタルトキ

第五十一條 免許ヲ受ケタル者ノ名義ヲ利用シテ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ヲ經營シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス名義ヲ利用セシメタル者亦同ジ

第五十二條 自動車運輸事業者又ハ自動車道事業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

- 一 第五十條ニ規定スル場合ヲ除クノ外本法又ハ本法ニ

基キテ發スル命令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケテ爲スベキ事項ヲ之ヲ受ケズシテ爲シタルトキ

二 免許、許可又ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキ

三 本法ニ基キテ爲シタル處分又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

四 第八條ノ規定ニ依ル登録ヲ受ケザル自動車ヲ自動車運輸事業ノ用ニ供シタルトキ又ハ自動車ニ付不實ノ事項ノ登録ヲ申請シタルトキ

五 正當ノ事由ナクシテ一般自動車道ノ使用ヲ拒ミタルトキ

六 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ届出又ハ報告ヲ爲スベキ事項ニ付虚偽ノ届出又ハ報告ヲ爲シタルトキ

七 監査員ノ監査ヲ妨ゲタルトキ

第五十三條 自動車運輸事業者又ハ自動車道事業者ガ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

自動車運輸事業者又ハ自動車道事業者ハ其ノ代理人、主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

會社ノ代表者其ノ他ノ從業者會社ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ會社ニ適用ス

第五十四條 自動車道若ハ其ノ標識ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ自動車道ニ於ケル自動車ノ往來ノ危険ヲ生ゼシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五十五條 人ノ現在スル自動車運輸事業ノ自動車ヲ顛覆シ又ハ破壊シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ傷ニ致シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五十六條 第五十四條ノ罪ヲ犯シ因テ自動車ノ顛覆又ハ破壊ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同ジ

第五十七條 過失ニ因リ第五十四條第一項又ハ第五十五條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ

業務ニ從事スル者犯シタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(昭和八年九月勅令第二百五十號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

本法施行前自動車運輸事業又ハ自動車道事業ニ該當スル事業ニ付地方長官ノ爲シタル事業經營ノ免許又ハ許可ハ之ヲ本法ニ依ル自動車運輸事業又ハ自動車道事業經營ノ免許ト看做ス

主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ前項ノ自動車運輸事業ニ付新ニ免許ノ有効期間、運輸開始ノ認可申請期間又ハ事業ノ休止期間ヲ指定スルコトヲ得

登録稅法第三條ノ六中「又ハ漁業財團登記簿」ヲ「漁業財團登記簿又ハ自動車交通事業財團登記簿」ニ改ム

印紙稅法第四條第一項第一號中「軌道財團」ノ下ニ「自動車交通事業財團」ヲ加フ

◎自動車交通事業法施行令(昭和八年八月二日勅令第二百十九號)

第一條 自動車交通事業法中主務大臣トアルハ自動車運輸



事業ニ關シテハ鐵道大臣、自動車道事業ニ關シテハ内務大臣及鐵道大臣トス

第二條 左ニ掲グル場合ニ於テハ鐵道大臣ハ内務大臣ニ協議スベシ

一 自動車交通事業法第四條ノ規定ニ依リ免許ヲ爲サントスルトキ

二 公共團體ニ對シ自動車交通事業法第十條、第十一條

第三項、第十三條第一項又ハ第十四條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲サントスルトキ

三 自動車交通事業法第三十七條第二項ノ規定ニ依リ爲サレタル自動車運輸事業經營ノ協議ニ應ゼントスルトキ

附 則

本令ハ自動車交通事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎鐵道國有法(明治三十九年三月三十一日法律第十七號) (抄)

第一條 一般運送ノ用ニ供スル鐵道ハ總テ國ノ所有トス但シ一地方ノ交通ヲ目的トスル鐵道ハ此ノ限ニ在ラス

◎鐵道敷設法(大正十一年四月十一日法律第三十七號)

鐵道線路ハ本法ニ依リ敷設スルモノト看做ス

(別表)

本州ノ部

- 一 青森縣田名部ヨリ大畑ヲ經テ大間ニ至ル鐵道
- 二 青森縣青森ヨリ三厩、小泊ヲ經テ五所川原ニ至ル鐵道
- 三 青森縣弘前ヨリ田代ニ至ル鐵道
- 四 青森縣三戸ヨリ七戸ヲ經テ千曳ニ至ル鐵道
- 五 青森縣三戸ヨリ秋田縣毛馬内ヲ經テ花輪ニ至ル鐵道
- 六 岩手縣久慈ヨリ小本ヲ經テ宮古ニ至ル鐵道
- 七 岩手縣山田ヨリ釜石ヲ經テ大船渡ニ至ル鐵道
- 八 岩手縣小島谷ヨリ葛卷ヲ經テ斐野附近ニ至ル鐵道及落合附近ヨリ分岐シテ茂市ニ至ル鐵道
- 八ノ二 岩手縣花卷ヨリ遠野ヲ經テ釜石ニ至ル鐵道
- 九 岩手縣川井ヨリ遠野ヲ經テ高田ニ至ル鐵道
- 十 岩手縣一戸ヨリ荒屋ニ至ル鐵道
- 十一 岩手縣雫石ヨリ川尻ニ至ル鐵道
- 十二 岩手縣一ノ關ヨリ槻木附近ニ至ル鐵道
- 十三 秋田縣鷹ノ巣ヨリ阿仁合ヲ經テ角館ニ至ル鐵道
- 十四 秋田縣生保内ヨリ鳩ノ湯附近ニ至ル鐵道

- 第一條 帝國ニ必要ナル鐵道ヲ完成スル爲政府ノ敷設スヘキ豫定鐵道線路ハ別表ニ掲クル所ニ依ル
- 第二條 政府ハ前條豫定鐵道線路ヲ調査敷設セムトスルトキハ經費ノ豫算ヲ定メ漸次繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムヘシ
- 第三條 豫定鐵道線路ニ該當スルモノト雖一地方ノ交通ヲ目的トスルモノニ在リテハ政府ハ地方鐵道トシテ其ノ敷設ヲ免許スルコトヲ得
- 第四條 豫定鐵道線路ヲ變更シ又ハ豫定鐵道線路中新ニ工事ニ著手スルモノヲ定ムルトキハ鐵道會議ノ諮詢ヲ經ヘシ
- 第五條 鐵道會議ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

- 明治二十五年法律第四號鐵道敷設法、北海道鐵道敷設法、明治二十七年法律第六號乃至第十號、同年法律第十二號乃至第十五號、明治二十九年法律第七十二號乃至第七十七號、明治三十年法律第十一號、同年法律第三十二號、同年法律第三十三號及同年法律第三十五號ハ之ヲ廢止ス
- 本法施行前鐵道建設費豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經タル
- 十五 秋田縣本莊ヨリ矢島ヲ經テ院内ニ至ル鐵道
- 十六 秋田縣十文字ヨリ檜山臺附近ニ至ル鐵道
- 十七 宮城縣仙沼ヨリ津谷、志津川ヲ經テ前谷地ニ至ル鐵道及津谷ヨリ分岐シテ佐沼ヲ經テ田尻ニ至ル鐵道
- 十八 宮城縣松島ヨリ石卷ヲ經テ女川ニ至ル鐵道
- 十九 宮城縣仙臺ヨリ古川ニ至ル鐵道
- 二十 宮城縣仙臺ヨリ山形縣山寺ヲ經テ山形ニ至ル鐵道及宮城縣川崎附近ヨリ分岐シテ山形縣神町ニ至ル鐵道
- 二十一 宮城縣長町ヨリ青根附近ニ至ル鐵道
- 二十二 宮城縣白石ヨリ山形縣上ノ山ニ至ル鐵道
- 二十三 山形縣鶴岡ヨリ大島ニ至ル鐵道
- 二十四 山形縣楯岡ヨリ寒河江ニ至ル鐵道
- 二十五 山形縣左澤ヨリ荒砥ニ至ル鐵道
- 二十六 山形縣米澤ヨリ福島縣喜多方ニ至ル鐵道
- 二十七 福島縣福島ヨリ宮城縣丸森ヲ經テ福島縣中村ニ至ル鐵道及丸森ヨリ分岐シテ白石ニ至ル鐵道
- 二十八 福島縣川俣ヨリ浪江ニ至ル鐵道
- 二十九 福島縣柳津ヨリ只見ヲ經テ新潟縣小出ニ至ル鐵道及只見ヨリ分岐シテ古町ニ至ル鐵道
- 三十 福島縣須賀川ヨリ長沼ニ至ル鐵道



- 三十一 福島縣平ヨリ小名濱ニ至ル鐵道
- 三十二 福島縣石川ヨリ植田ニ至ル鐵道
- 三十三 栃木縣今市ヨリ高德ヲ經テ福島縣田島ニ至ル鐵道及高德ヨリ分岐シテ矢板ニ至ル鐵道
- 三十四 栃木縣日光ヨリ足尾ニ至ル鐵道
- 三十五 栃木縣鹿沼ヨリ栃木ヲ經テ茨城縣古河ニ至ル鐵道
- 三十六 栃木縣茂木ヨリ烏山ヲ經テ茨城縣大子ニ至ル鐵道及栃木縣大桶附近ヨリ分岐シテ黑磯ニ至ル鐵道
- 三十七 栃木縣市塙ヨリ寶積寺ニ至ル鐵道
- 三十八 茨城縣水戸ヨリ阿野澤ヲ經テ東野附近ニ至ル鐵道及阿野澤ヨリ分岐シテ栃木縣茂木ニ至ル鐵道
- 三十九 茨城縣水戸ヨリ鉦田ヲ經テ鹿島ニ至ル鐵道
- 四十 茨城縣常陸大宮ヨリ太田ヲ經テ大甕ニ至ル鐵道
- 四十一 茨城縣勝田ヨリ上菅谷ニ至ル鐵道
- 四十二 茨城縣高濱ヨリ玉造ヲ經テ延方ニ至ル鐵道及玉造ヨリ分岐シテ鉦田ニ至ル鐵道
- 四十三 茨城縣土浦ヨリ水海道、境、埼玉縣久喜、鴻巣、坂戸ヲ經テ飯能ニ至ル鐵道及水海道ヨリ分岐シテ佐貫ニ至ル鐵道並境ヨリ分岐シテ古河ニ至ル鐵道
- 四十四 茨城縣土浦ヨリ江戸崎ニ至ル鐵道
- 四十五 茨城縣古河ヨリ栃木縣佐野ニ至ル鐵道
- 四十六 千葉縣佐原ヨリ小見川ヲ經テ松岸ニ至ル鐵道及小見川ヨリ分岐シテ八日市場ニ至ル鐵道
- 四十七 千葉縣八幡宿ヨリ大多喜ヲ經テ小湊ニ至ル鐵道
- 四十八 千葉縣木更津ヨリ久留里、大多喜ヲ經テ大原ニ至ル鐵道
- 四十九 千葉縣上總湊ヨリ鴨川ニ至ル鐵道
- 五十 千葉縣船橋ヨリ佐倉ニ至ル鐵道
- 五十一 千葉縣我孫子ヨリ埼玉縣大宮ニ至ル鐵道
- 五十二 埼玉縣與野ヨリ東京府立川ニ至ル鐵道
- 五十三 埼玉縣大宮ヨリ川越ヲ經テ飯能附近ニ至ル鐵道
- 五十四 東京府八王子ヨリ埼玉縣飯能ヲ經テ群馬縣高崎ニ至ル鐵道
- 五十五 東京府大崎ヨリ神奈川縣長津田ヲ經テ松田ニ至ル鐵道
- 五十六 神奈川縣橫須賀ヨリ浦賀ニ至ル鐵道
- 五十七 群馬縣澁川ヨリ中之條ヲ經テ長野原ニ至ル鐵道
- 五十八 新潟縣來迎寺ヨリ小千谷ヲ經テ岩澤ニ至ル鐵道
- 五十九 富山縣水見ヨリ石川縣羽咋ニ至ル鐵道
- 六十 石川縣羽咋ヨリ高濱ヲ經テ三井附近ニ至ル鐵道
- 六十一 石川縣穴水ヨリ宇出津ヲ經テ飯田ニ至ル鐵道
- 六十二 愛知縣千種ヨリ舉母ヲ經テ武節ニ至ル鐵道
- 六十三 愛知縣豐橋ヨリ伊良湖岬ニ至ル鐵道
- 六十四 愛知縣岡崎ヨリ舉母ヲ經テ岐阜縣多治見ニ至ル鐵道
- 六十五 愛知縣武豐ヨリ師崎ニ至ル鐵道
- 六十六 愛知縣名古屋ヨリ岐阜縣太田ニ至ル鐵道
- 六十七 岐阜縣中津川ヨリ下呂附近ニ至ル鐵道
- 六十八 岐阜縣大垣ヨリ福井縣大野ヲ經テ石川縣金澤ニ至ル鐵道
- 六十九 三重縣四日市ヨリ岐阜縣關ヶ原ヲ經テ滋賀縣木ノ本ニ至ル鐵道
- 七十 滋賀縣貴生川ヨリ京都府加茂ニ至ル鐵道
- 七十一 滋賀縣濱大津ヨリ高城ヲ經テ福井縣三宅ニ至ル鐵道及高城ヨリ分岐シテ京都府二條ニ至ル鐵道
- 七十二 京都府園部ヨリ兵庫縣篠山附近ニ至ル鐵道
- 七十三 京都府殿田附近ヨリ福井縣小濱ニ至ル鐵道
- 七十四 京都府山田ヨリ兵庫縣出石ヲ經テ豐岡ニ至ル鐵道

- 五十五ノ二 新潟縣白山ヨリ新發田ニ至ル鐵道
- 五十六 佐渡國夷ヨリ河原田ヲ經テ相川ニ至ル鐵道
- 五十七 長野縣豐野ヨリ飯山ヲ經テ新潟縣十日町ニ至ル鐵道及飯山ヨリ分岐シテ屋代ニ至ル鐵道
- 五十八 長野縣小海附近ヨリ山梨縣小淵澤ニ至ル鐵道
- 五十九 長野縣松本ヨリ岐阜縣高山ニ至ル鐵道
- 六十 長野縣辰野ヨリ飯田ヲ經テ靜岡縣濱松ニ至ル鐵道及飯田ヨリ分岐シテ三留野ニ至ル鐵道
- 六十一 靜岡縣熱海ヨリ下田、松崎ヲ經テ大仁ニ至ル鐵道
- 六十二 靜岡縣御殿場ヨリ山梨縣吉田ヲ經テ靜岡縣大宮ニ至ル鐵道及吉田ヨリ分岐シテ大月ニ至ル鐵道
- 六十三 靜岡縣掛川ヨリ二俣、愛知縣大野、靜岡縣浦川、愛知縣武節ヲ經テ岐阜縣大井ニ至ル鐵道及大野附近ヨリ分岐シテ長篠ニ至ル鐵道並浦川附近ヨリ分岐シテ靜岡縣佐久間附近ニ至ル鐵道
- 六十四 靜岡縣二俣ヨリ愛知縣豐橋ニ至ル鐵道
- 六十五 富山縣猪谷ヨリ岐阜縣船津ニ至ル鐵道
- 六十六 富山縣八尾ヨリ福光ヲ經テ石川縣金澤附近ニ至ル鐵道



- 八十一 奈良縣櫻井ヨリ榛原、三重縣名張ヲ經テ松阪ニ至ル鐵道及名張ヨリ分岐シテ伊賀上野附近ニ至ル鐵道
- 並榛原ヨリ分岐シ松山ヲ經テ吉野ニ至ル鐵道
- 八十二 奈良縣五條ヨリ和歌山縣新宮ニ至ル鐵道
- 八十三 兵庫縣谷川ヨリ西脇、北條ヲ經テ姫路附近ニ至ル鐵道
- 八十四 兵庫縣姫路ヨリ岡山縣江見ヲ經テ津山ニ至ル鐵道
- 八十五 兵庫縣上郡ヨリ佐用ヲ經テ鳥取縣智頭ニ至ル鐵道
- 八十六 兵庫縣有年ヨリ岡山縣伊部ヲ經テ西大寺附近ニ至ル鐵道及赤穂附近ヨリ分岐シテ那波附近ニ至ル鐵道
- 八十七 淡路國岩屋ヨリ洲本ヲ經テ福良ニ至ル鐵道
- 八十八 鳥取縣郡家ヨリ若櫻ヲ經テ兵庫縣八鹿附近ニ至ル鐵道
- 八十九 岡山縣勝山ヨリ鳥取縣倉吉ニ至ル鐵道
- 九十 岡山縣倉敷ヨリ茶屋町ニ至ル鐵道
- 九十一 廣島縣福山ヨリ府中、三次、島根縣來島ヲ經テ出雲今市ニ至ル鐵道及來島附近ヨリ分岐シテ木次ニ至ル鐵道
- 九十二 廣島縣吉田口附近ヨリ大朝附近ニ至ル鐵道
- 九十三 廣島縣三原ヨリ竹原ヲ經テ吳ニ至ル鐵道
- 九十四 廣島縣廣島附近ヨリ加計ヲ經テ島根縣濱田附近ニ至ル鐵道
- 九十五 島根縣瀧原附近ヨリ大森ヲ經テ石見大田ニ至ル鐵道
- 九十六 山口縣岩國ヨリ島根縣日原ニ至ル鐵道
- 九十七 山口縣岩國ヨリ玖珂ヲ經テ徳山ニ至ル鐵道
- 九十八 山口縣徳佐ヨリ大井ニ至ル鐵道
- 九十九 山口縣小郡ヨリ大田ヲ經テ萩ニ至ル鐵道及大田附近ヨリ分岐シテ於福ニ至ル鐵道
- 四國ノ部
- 百 香川縣高松ヨリ琴平ニ至ル鐵道
- 百一 愛媛縣川之江ヨリ徳島縣阿波池田附近ニ至ル鐵道
- 百二 愛媛縣松山附近ヨリ高知縣越知ヲ經テ佐川ニ至ル鐵道
- 百三 愛媛縣八幡濱ヨリ卯之町、宮野下、宇和島ヲ經テ高知縣中村ニ至ル鐵道及宮野下ヨリ分岐シテ高知縣中村ニ至ル鐵道
- 百三ノ二 愛媛縣卯之町ヨリ吉田ヲ經テ宇和島ニ至ル鐵道

百四 愛媛縣大洲附近ヨリ近永附近ニ至ル鐵道

百五 高知縣江川崎附近ヨリ窪川ヲ經テ崎山附近ニ至ル鐵道

鐵道

百五ノ二 高知縣須崎ヨリ窪川ニ至ル鐵道

百六 高知縣川内附近ヨリ高岡ヲ經テ宇佐ニ至ル鐵道

百七 高知縣後免ヨリ安藝、徳島縣日和佐ヲ經テ古庄附近ニ至ル鐵道

九州ノ部

百八 高知縣山田ヨリ藤野附近ニ至ル鐵道

九州ノ部

百九 福岡縣博多ヨリ佐賀縣山本ニ至ル鐵道

百十 福岡縣篠栗ヨリ長尾附近ニ至ル鐵道

百十ノ二 福岡縣添田ヨリ大分縣日田附近ニ至ル鐵道

百十一 福岡縣久留米ヨリ熊本縣山鹿ヲ經テ宮原附近ニ至ル鐵道

至ル鐵道

百十一ノ二 福岡縣羽犬塚ヨリ矢部ニ至ル鐵道

百十二 佐賀縣岸嶽ヨリ伊萬里ニ至ル鐵道

百十二ノ二 佐賀縣基山ヨリ福岡縣太刀洗ヲ經テ甘木ニ至ル鐵道

百十三 佐賀縣佐賀ヨリ福岡縣矢部川、熊本縣隈府ヲ經テ肥後大津ニ至ル鐵道及隈府ヨリ分岐シテ大分縣森附

近ニ至ル鐵道

百十四 佐賀縣肥前山口附近ヨリ鹿島ヲ經テ長崎縣諫早ニ至ル鐵道

至ル鐵道

百十四ノ二 長崎縣喜々津ヨリ矢上ヲ經テ浦上ニ至ル鐵道

百十五 大分縣中津ヨリ日田ニ至ル鐵道

百十六 大分縣杵築ヨリ富來ヲ經テ宇佐附近ニ至ル鐵道

百十七 大分縣幸崎ヨリ佐賀關ニ至ル鐵道

百十八 大分縣臼杵ヨリ三重ニ至ル鐵道

百十九 熊本縣高森ヨリ宮崎縣三田井ヲ經テ延岡ニ至ル鐵道

鐵道

百二十 熊本縣高森ヨリ瀧水附近ニ至ル鐵道

百二十一 熊本縣宇土ヨリ濱町ヲ經テ宮崎縣三田井附近ニ至ル鐵道

至ル鐵道

百二十二 熊本縣湯前ヨリ宮崎縣杉安ニ至ル鐵道

百二十三 宮崎縣小林ヨリ宮崎ニ至ル鐵道

百二十四 鹿兒島縣山野ヨリ熊本縣水俣ニ至ル鐵道

百二十五 鹿兒島縣國分ヨリ宮崎縣都城ニ至ル鐵道

百二十六 鹿兒島縣國分ヨリ高須、志布志、宮崎縣福島ヲ經テ内海附近ニ至ル鐵道及高須ヨリ分岐シテ鹿兒島



縣川北附近ニ至ル鐵道

百二十七 鹿兒島縣鹿兒島附近ヨリ指宿、枕崎ヲ經テ加

世田ニ至ル鐵道

北海道ノ部

百二十八 渡島國函館ヨリ戸井ニ至ル鐵道

百二十九 渡島國上磯ヨリ木古内ヲ經テ江差ニ至ル鐵道

及木古内ヨリ分岐シテ福山ニ至ル鐵道

百三十 膽振國八雲ヨリ後志國利別ニ至ル鐵道

百三十一 膽振國京極ヨリ喜茂別、壯瞥ヲ經テ紋釐ニ至

ル鐵道

百三十二 膽振國京極ヨリ留壽都ヲ經テ壯瞥ニ至ル鐵道

百三十三 膽振國苫小牧ヨリ鵝川、日高國浦河、十勝國

廣尾ヲ經テ帶廣ニ至ル鐵道

百三十四 膽振國鵝川ヨリ石狩國金山ニ至ル鐵道及「ベ

ンケオロロツプナイ」附近ヨリ分岐シテ石狩國登川ニ

至ル鐵道

百三十五 石狩國札幌ヨリ石狩ヲ經テ天鹽國増毛ニ至ル

鐵道

百三十六 石狩國札幌ヨリ當別ヲ經テ沼田ニ至ル鐵道

百三十七 石狩國白石ヨリ膽振國廣島ヲ經テ追分ニ至ル

百五十 根室國中標津ヨリ釧路國標茶ニ至ル鐵道

◎鐵道營業法(明治三十三年三月十六日  
法律第六十五號)

第一章 鐵道ノ設備及運送

第一條 鐵道ノ建設、車輛器具ノ構造及運轉ハ命令ヲ以テ定ムル規程ニ依ルヘシ

第二條 本法其ノ他特別ノ法令ニ規定スルモノノ外鐵道運送ニ關スル特別ノ事項ハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依ル鐵道運輸規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 運賃其ノ他ノ運送條件ハ關係停車場ニ公告シタル後ニ非サレハ之ヲ實施スルコトヲ得ス

第四條 傳染病患者ハ主務大臣ノ定ムル規程ニ依ルニ非サレハ乗車セシムルコトヲ得ス

第五條 火藥其ノ他爆發質危險品ハ鐵道カ其ノ運送取扱ノ公告ヲ爲シタル場合ノ外其ノ運送ヲ拒絶スルコトヲ得

第六條 鐵道ハ左ノ事項ノ具備シタル場合ニ於テハ貨物ノ運送ヲ拒絶スルコトヲ得ス

第六編 交通及通信 第一款 交通 第五項 道路鐵道及軌道

鐵道及廣島ヨリ分岐シテ苫小牧ニ至ル鐵道

百三十八 石狩國比布ヨリ下愛別附近ニ至ル鐵道

百三十九 石狩國「ルベシベ」ヨリ北見國瀧ノ上ニ至ル鐵道

百四十 日高國高江附近ヨリ十勝國帶廣ニ至ル鐵道

百四十一 十勝國上士幌ヨリ石狩國「ルベシベ」ニ至ル鐵道

百四十二 十勝國芽室ヨリ「トムラウシ」附近ニ至ル鐵道

百四十二ノ二 十勝國御影附近ヨリ日高國右左府ヲ經テ

膽振國邊富内ニ至ル鐵道

百四十三 天鹽國名寄ヨリ石狩國雨龍ヲ經テ天鹽國羽幌

ニ至ル鐵道

百四十四 天鹽國羽幌ヨリ天鹽ヲ經テ下沙流別附近ニ至

ル鐵道

百四十五 北見國興部ヨリ幌別、枝幸ヲ經テ濱頓別ニ至

ル鐵道及幌別ヨリ分岐シテ小頓別ニ至ル鐵道

百四十六 北見國中湧別ヨリ常呂ヲ經テ網走ニ至ル鐵道

百四十七 北見國留邊藁ヨリ伊頓武華ニ至ル鐵道

百四十八 釧路國釧路ヨリ北見國相生ニ至ル鐵道

百四十九 根室國厚床附近ヨリ標津ヲ經テ北見國斜里ニ

至ル鐵道

一 荷送人カ法令其ノ他鐵道運送ニ關スル規定ヲ遵守スルコト

二 貨物ノ運送ニ付特別ナル責務ノ條件ヲ荷送人ヨリ求メサルトキ

三 運送カ法令ノ規定又ハ公ノ秩序若ハ善良ノ風俗ニ反セサルトキ

四 貨物カ成規ニ依リ其ノ線路ニ於ケル運送ニ適スルトキ

五 天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ基因シタル運送上ノ支障ナキトキ

前項ノ規定ハ旅客運送ニ之ヲ準用ス

第七條 運送ニ付特別ノ設備ヲ要スル貨物ニ關シテハ鐵道

ハ其ノ設備アル場合ニ限り之ヲ引受クルノ義務ヲ負フ

第八條 鐵道ハ直ニ運送ヲ爲シ得ヘキ場合ニ限り貨物ヲ受取ルヘキ義務ヲ負フ

第九條 貨物ハ運送ノ爲受取リタル順序ニ依リ之ヲ運送スルコトヲ要ス但シ運輸上正當ノ事由若ハ公益上ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 鐵道ハ貨物ノ種類及性質ヲ明告スヘキコトヲ荷送人ニ求ムルコトヲ得若シ其ノ種類及性質ニ付疑アルトキ



ハ荷送人ノ立會ヲ以テ之ヲ點檢スルコトヲ得

點檢ニ因リ貨物ノ種類及性質カ荷送人ノ明告シタル所ト異ナラサル場合ニ限り鐵道ハ點檢ニ關スル費用ヲ負擔シ且之カ爲生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

前二項ノ規定ハ火藥其ノ他爆發質危險品ヲ成規ニ反シ手荷物中ニ收納シタル疑アル場合ニ之ヲ準用ス

**第十一條** 旅客又ハ荷送人ハ手荷物又ハ運送品託送ノ際鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ表示料ヲ支拂ヒ要償額ヲ表示スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル表示額カ託送手荷物又ハ運送品ノ引渡期間末日ニ於ケル到達地ノ價格及引渡ナキ場合ニ於テ旅客又ハ荷送人カ受クヘキ其ノ他ノ損害ノ合計額ヲ超ユルトキハ其ノ超過部分ニ付テハ其ノ表示ハ之ヲ無効トス

**第十一條ノ二** 要償額ノ表示アル託送手荷物又ハ運送品ノ滅失又ハ毀損ニ因ル損害ニ付賠償ノ責ニ任スル場合ニ於テハ鐵道ハ表示額ヲ限度トシテ一切ノ損害ヲ賠償スル責ニ任ス此ノ場合ニ於テ鐵道ハ損害額カ左ノ額ニ達セサルコトヲ證明スルニ非サレハ左ノ額ノ支拂ヲ免ルルコトヲ得ス

一 全部滅失ノ場合ニ於テハ表示額

二 一部滅失又ハ毀損ノ場合ニ於テハ引渡アリタル日(延著シタルトキハ引渡期間末日)ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リ計算シタル價格ノ減少割合ヲ表示額ニ乗シタル額

託送手荷物、高價品又ハ動物ニ付テハ託送ノ際旅客又ハ荷送人カ要償額ノ表示ヲ爲ササル場合ニ於テハ鐵道ハ鐵道運輸規程ノ定ムル最高金額ヲ超エ其ノ滅失又ハ毀損ニ因ル損害ヲ賠償スル責ニ任セス

前二項ノ賠償額ノ制限ハ託送手荷物又ハ運送品カ鐵道ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ滅失又ハ毀損シタル場合ニハ之ヲ適用セス

**第十二條** 引渡期間滿了後託送手荷物又ハ運送品ノ引渡ヲ爲シタル場合ニ於テハ延著トス

引渡期間ハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依ル延著ニ因ル損害ニ付賠償ノ責ニ任スル場合ニ於テハ鐵道ハ左ノ額ヲ限度トシテ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ一切ノ損害ヲ賠償スル責ニ任ス

一 要償額ノ表示アルトキハ其ノ表示額  
二 要償額ノ表示ナキトキハ其ノ運賃額  
前項ノ賠償額ノ制限ハ託送手荷物又ハ運送品カ鐵道ノ惡

意又ハ重大ナル過失ニ因リテ延著シタル場合ニハ之ヲ適用セス

**第十三條** 鐵道カ引渡期間滿了後一月ヲ經過スルモ託送手荷物又ハ運送品ノ引渡ヲ爲ササル場合ニ於テハ旅客又ハ貨主ハ滅失ニ因ル損害賠償ヲ請求スルコトヲ得但シ鐵道ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ引渡ヲ爲ササル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ賠償ヲ受ケタル者ハ其ノ請求ノ際留保ヲ爲シタルトキハ到達ノ通知ヲ受ケタル後一月内ニ限り賠償金ヲ返還シテ託送手荷物又ハ運送品ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

**第十三條ノ二** 荷受人 荷送人ヲ確知スルコト能ハサル運送品ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ公告ヲ爲シタル後六月内ニ其ノ權利者ヲ知ル能ハサル場合ニ於テハ鐵道其ノ所有權ヲ取得ス託送手荷物及一時預リ品ニ付亦同シ

**第十三條ノ三** 鐵道カ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ貨物ノ引渡ヲ爲スコト能ハサルトキハ貨主ノ費用ヲ以テ之ヲ倉庫營業者ニ寄託スルコトヲ得

貨物ヲ寄託シタルトキハ鐵道ハ遲滞ナク荷送人及荷受人ニ對シ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第六編 交通及通信 第一款 交通 第五項 道路鐵道及軌道

貨物ヲ寄託シタル場合ニ於テ倉庫證券ヲ作製セシメタルトキハ其ノ證券ノ交付ヲ以テ貨物ノ引渡ニ代フルコトヲ得

鐵道ハ第一項ノ費用ノ辨濟ヲ受クル迄倉庫證券ヲ留置スルコトヲ得

前四項ノ規定ハ貨物ノ引取期間内ニ其ノ引取ナキ場合ニ之ヲ準用ス

**第十四條** 運賃償還ノ債權ハ一年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

**第十五條** 旅客ハ營業上別段ノ定アル場合ノ外運賃ヲ支拂ヒ乗車券ヲ受クルニ非サレハ乗車スルコトヲ得ス

乗車券ヲ有スル者ハ列車中座席ノ存在スル場合ニ限り乗車スルコトヲ得

**第十六條** 旅客カ乗車前旅行ヲ止メタルルキハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

乗車後旅行ヲ中止シタルトキハ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

**第十七條** 天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ運送ニ著手シ又ハ之ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ旅客及荷送人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於



テ鐵道ハ既ニ爲シタル運送ノ割合ニ應シ運賃其ノ他ノ費用ヲ請求スルコトヲ得

**第十八條** 旅客ハ鐵道係員ノ請求アリタルトキハ何時ニテモ乗車券ヲ呈示シ検査ヲ受クヘシ

有效ノ乗車券ヲ所持セス又ハ乗車券ノ検査ヲ拒ミ又ハ取集ノ際之ヲ渡ササル者ハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ割増賃金ヲ支拂フヘシ

前項ノ場合ニ於テ乗車停車場不明ナルトキハ其ノ列車ノ出發停車場ヨリ運賃ヲ計算ス乗車等級不明ナルトキハ其ノ列車ノ最優等級ニ依リ運賃ヲ計算ス

**第十八條ノ二** 第三條、第六條乃至第十三條、第十四條、第十五條及第十八條ノ規定ハ鐵道ト通シ運送ヲ爲ス場合ニ於ケル船舶、軌道、自動車又ハ索道ニ依ル運送ニ付之ヲ準用ス

**第十八條ノ三** 鐵道ト船舶ト通シ運送ヲ爲ス場合ノ運送ニ付テハ請求ニ因リ荷送人ハ全運送ニ對シ運送狀ヲ交付スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ荷送人ノ請求ニ因リ全運送ニ對シ貨物引換證ヲ交付スルコトヲ要ス

前二項ノ運送狀又ハ貨物引換證ニ付テハ鐵道運送ニ於ケ

ル運送狀又ハ貨物引換證ニ關スル規定ヲ準用ス

**第十八條ノ四** 前二條ノ規定ノ適用ヲ受クヘキ船舶ニ依ル運送ノ區間及其ノ運送業者ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

**第二章 鐵道係員**

**第十九條** 鐵道係員ノ職制ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

**第二十條** 地方鐵道業者ハ鐵道係員ノ服務規程ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

**第二十一條** 主務大臣ハ鐵道係員タルニ要スル資格ヲ定ムルコトヲ得

**第二十二條** 旅客及公衆ニ對スル職務ヲ行フ鐵道係員ハ一定ノ制服ヲ著スヘシ

**第二十三條** 地方鐵道係員ハ職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リ又ハ失行アリタルトキハ懲戒ヲ受ク

地方鐵道業者ハ懲戒ニ關スル規程ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

懲戒ヲ爲スヘキ場合ニ於テ地方鐵道業者之ヲ爲ササルトキハ監督官廳ニ於テ懲戒ヲ爲スコトヲ得

**第二十四條** 鐵道係員職務取扱中旅客若ハ公衆ニ對シ失行アリタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

**第二十五條** 鐵道係員職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠

リ旅客若ハ公衆ニ危害ヲ醸スノ虞アル所爲アリタルトキハ三月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

**第二十六條** 鐵道係員旅客ヲ強ヒテ定員ヲ超エ車中ニ乗込マシメタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

**第二十七條** (削除)

**第二十八條** 鐵道係員道路踏切ノ開通ヲ怠リ又ハ故ナク車輛其ノ他ノ器具ヲ踏切ニ留置シ因テ往來ヲ妨害シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

**第二十八條ノ二** 第十九條及第二十一條ノ規定ハ政府及公共團體ノ鐵道ニ、第二十條及第二十三條ノ規定ハ公共團體ノ鐵道ニ之ヲ適用セス

**第三章 旅客及公衆**

**第二十九條** 鐵道係員ノ許諾ヲ受ケスシテ左ノ所爲ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 有效ノ乗車券ヲクシテ乗車シタルトキ

二 乗車券ニ指示シタルモノヨリ優等ノ車ニ乗リタルトキ

三 乗車券ニ指示シタル停車場ニ於テ下車セサルトキ

**第三十條** 託送手荷物又ハ運送品ノ種類又ハ性質ヲ詐稱シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス記名乗車券ヲ

買求ムル際氏名ヲ詐稱シタル者亦同シ

**第三十條ノ二** 前二條ノ所爲ハ鐵道ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

**第三十一條** 鐵道運送ニ關スル法令ニ背キ火藥類其ノ他爆發質危險品ヲ託送シ又ハ車中ニ携帯シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

**第三十二條** 列車警報機ヲ濫用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

**第三十三條** 旅客左ノ所爲ヲ爲シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 列車運轉中乗降シタルトキ

二 列車運轉中車輛ノ側面ニ在ル車扉ヲ開キタルトキ

三 列車中旅客乗用ニ供セサル箇所ニ乗リタルトキ

**第三十四條** 制止ヲ肯セスシテ左ノ所爲ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ科料ニ處ス

一 停車場其ノ他鐵道地内吸煙禁止ノ場所及吸煙禁止ノ車内ニ於テ吸煙シタルトキ

二 婦人ノ爲ニ設ケタル待合室及車室等ニ男子妄ニ立入りタルトキ

**第三十五條** 鐵道係員ノ許諾ヲ受ケスシテ車内、停車場其



ノ他鐵道地内ニ於テ旅客又ハ公衆ニ對シ寄附ヲ請ヒ、物品ノ購買ヲ求メ、物品ヲ配付シ其ノ他演說勸誘等ノ所爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

**第三十六條** 車輛、停車場其ノ他鐵道地内ノ標識揭示ヲ改竄、毀棄、撤去シ又ハ燈火ヲ滅シ又ハ其ノ用ヲ失ハシメタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
信號機ヲ改竄、毀棄、撤去シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

**第三十七條** 停車場其ノ他鐵道地内ニ妄ニ立入りタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

**第三十八條** 暴行脅迫ヲ以テ鐵道係員ノ職務ノ執行ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

**第三十九條** 車内、停車場其ノ他鐵道地内ニ於テ發砲シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

**第四十條** 列車ニ向テ瓦石類ヲ投擲シタル者ハ科料ニ處ス  
**第四十一條** 第四條ノ規定ニ違反シ傳染病患者ヲ乗車セシメタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス傳染病患者其ノ病症ヲ隱蔽シテ乗車シタルトキ亦同シ  
前項ノ場合ニ於テ途中下車セシメタルトキト雖既ニ支拂ヒタル運賃ハ之ヲ還付セス

**第四十二條** 左ノ場合ニ於テ鐵道係員ハ旅客及公衆ヲ車外又ハ鐵道地外ニ退去セシムルコトヲ得  
一 有效ノ乗車券ヲ所持セス又檢査ヲ拒ミ運賃ノ支拂ヲ肯セサルトキ  
二 第三十三條第三號ノ罪ヲ犯シ鐵道係員ノ制止ヲ肯セサルトキ又ハ第三十四條ノ罪ヲ犯シタルトキ  
三 第三十五條、第三十七條ノ罪ヲ犯シタルトキ  
四 其ノ他車内ニ於ケル秩序ヲ紊ルノ所爲アリタルトキ  
前項ノ場合ニ於テ既ニ支拂ヒタル運賃ハ之ヲ還付セス

**第四十三條** (削除)  
**第四十四條** (削除)  
**第四十五條** 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
(明治三十三年八月勅令第三百三十號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

**附 則**  
**第一條** 本法ハ軌道法ニ規定スルモノヲ除クノ外道府縣其

可ヲ受ケ線路ノ延長又ハ改良ノ費用ニ充ツル爲其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得但シ軌道會社ニ非サル會社カ兼業トシテ地方鐵道ヲ敷設スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

**地方鐵道法** (大正八年四月十日 法律第五十二號)  
**第六條ノ二** 地方鐵道會社ハ線路延長ノ費用ニ充ツル爲其ノ資本ヲ增加スル場合ニ限り監督官廳ノ認可ヲ受ケ利益配當ニ關シ一定ノ期間内普通株ニ劣ル株式(後配株)ヲ發行スルコトヲ得

**第六條ノ三** 後配株ヲ發行スル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ定款ニ記載シ且株式申込證ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス  
一 後配株ノ種類及其ノ各種ノ株式ノ數  
二 後配株ノ利益配當ニ關スル事項  
三 延長線ノ工事ノ大要殊ニ其ノ開業豫定期

**第六條ノ四** 後配株ノ發行ニ依リテ得タル資金ハ當該線路延長ノ費用以外ニ之ヲ充ツルコトヲ得ス  
會社カ後配株ヲ發行シタル場合ニ於テ定款又ハ株式申込證ニ記載シタル事項ニ付特ニ後配株主ニ不利益ナル變更ヲ爲サムトスルトキハ後配株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス但シ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テ裁判所ノ許可アルトキハ此ノ限ニ在ラス  
後配株主總會ニハ株主總會ニ關スル規定ヲ準用ス

ノ他ノ公共團體又ハ私人カ公衆ノ用ニ供スル爲敷設スル地方鐵道ニ之ヲ適用ス  
地方鐵道業者カ運送營業ノ爲支線ヲ敷設スルトキハ公衆ノ用ニ供セサル場合ト雖本法ヲ適用ス  
道府縣其ノ他ノ公共團體又ハ私人カ專用ニ供スル爲敷設スル鐵道ニシテ政府ノ鐵道又ハ地方鐵道ニ接續スルモノニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

**第二條** 地方鐵道ハ人力又ハ馬力其ノ他之ニ類スルモノヲ以テ動力ト爲スコトヲ得ス

**第三條** 地方鐵道ノ軌間ハ三呎六吋トス特別ノ場合ニ在リテハ四呎八吋半又ハ二呎六吋ト爲スコトヲ得  
前項ノ軌間ノ制限ハ命令ヲ以テ定ムル特殊ノ地方鐵道ニ付テハ之ヲ適用セス

**第四條** 地方鐵道ハ之ヲ道路ニ敷設スルコトヲ得ス但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

**第五條** 地方鐵道會社ノ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得但シ兼業トシテ地方鐵道ヲ敷設スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

**第六條** 地方鐵道會社ハ株金全額拂込前ト雖監督官廳ノ認



第六條ノ五 商法第九十七條但書、第二百十二條ノ三第

二項、第二百十七條第一項第四號及第二百十八條第二項ノ規定ハ後配株ニ之ヲ準用ス

第七條 地方鐵道會社ノ社債ハ總株金四分ノ一以上ノ拂込

アリタル後ニ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ス

社債ノ額ハ鐵道抵當法ニ依ル債務ノ額ト併セテ總株金拂込額ヲ超ユルコトヲ得ス但シ舊債償還ノ爲ニスル場合ニ

於テハ舊債務ノ額ハ之ヲ算入セス

第八條 鐵道及其ノ附屬物件ハ鐵道抵當法ニ依ルニ非サレ

ハ之ヲ擔保ト爲スコトヲ得ス

第九條 (削除)

第十條 地方鐵道會社ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレ

ハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ

合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ免許ニ屬スル權利義務ヲ

承繼ス

第十一條 免許、許可又ハ認可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

第十二條 地方鐵道業ヲ營マムトスル者ハ左ノ書類及圖面

ヲ提出シ主務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

一 起業目論見書

二 線路豫測圖

三 建設費概算書

四 運送營業上ノ收支概算書

免許ニハ工事施行ノ認可ヲ申請スヘキ期限ヲ附ス

第十三條 免許ヲ受ケタル者ハ左ノ書類及圖書ヲ監督官廳

ニ提出シ工事施行ノ認可ヲ受クヘシ

一 線路實測圖

二 工事方法書

三 建設費豫算書

四 免許ヲ受ケタル者カ會社ノ發起人ナルトキハ定款及

會社ノ設立登記簿本

工事施行ノ認可ニハ工事ノ著手及竣功ノ期限ヲ附ス

第十四條 地方鐵道業者ハ天災事變其ノ他已ムコトヲ得サ

ル事由アル場合ニ限り第十二條第二項又ハ前條第二項ノ

規定ニ依リテ附セラレタル期限ノ伸長ヲ申請スルコトヲ

得

第十五條 左ニ掲クル土地ヲ以テ鐵道用地トス

一 線路用地

二 停車場、信號所、車庫及貨物庫等ノ建設ニ要スル土

地

三 鐵道專用ニ供スル發電所、變電所及配電所等ノ建設

ニ要スル土地

四 鐵道構内ニ職務上常住ヲ要スル鐵道係員ノ舍宅及運

輸保線ノ職務ニ従事スル鐵道係員ノ駐在所等ノ建設ニ

要スル土地

五 鐵道ニ要スル車輛、器具、機械ヲ修理製作スル工場

及其ノ資材、器具、機械ヲ貯藏スル倉庫等ノ建設ニ要

スル土地

第十六條 道路、橋梁、河川、運河及溝渠等ニ關スル工事

ノ施設ハ所管行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十七條 政府又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ地方鐵

道ニ接續シ若ハ之ヲ横斷シテ鐵道若ハ軌道ヲ敷設シ又ハ

地方鐵道ニ接近シ若ハ之ヲ横斷シテ道路、橋梁、河川、

運河及溝渠等ヲ造設スルトキハ地方鐵道業者ハ之ヲ拒ム

コトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキハ主務大

臣ハ地方鐵道業者ニ設備ノ共用又ハ變更ヲ命スルコトヲ

得

設備ノ共用又ハ變更ニ要スル費用ノ負擔ニ付協議調ハサ

ルトキハ申請ニ因リ主務大臣ノ裁定ス

第十八條 地方鐵道業者ハ監督官廳ノ許可ヲ受ケタル場合

ニ限り免許ニ屬スル權利義務ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得

第十九條 左ノ場合ニ於テハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

一 工事施行ノ認可ヲ申請スヘキ期限迄ニ認可ヲ申請セ

サルトキ

二 工事施行ノ認可ヲ受ケサルトキ

三 工事施行ノ認可ニ附シタル工事著手ノ期限迄ニ工事

ニ著手セサルトキ

四 營業廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

免許ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ相續人ハ免許ニ屬ス

ル權利義務ヲ承繼スルコトヲ得

第二十條 地方鐵道業者ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サ

レハ運輸ヲ開始スルコトヲ得ス

第二十一條 地方鐵道業者ハ旅客及荷物ノ運賃其ノ他運輸

ニ關スル料金ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

監督官廳ハ公益上必要アリト認ムルトキハ運賃及料金ノ

變更ヲ命スルコトヲ得

第二十二條 地方鐵道業者ハ旅客列車及混合列車ノ運轉速

度及度數ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

監督官廳ハ公益上必要アリト認ムルトキハ列車ノ運轉速



度、度數及發著時刻ノ變更ヲ命スルコトヲ得

**第二十三條** 監督官廳ハ監督員ヲ派遣シテ鐵道ノ工事、運輸保線ノ狀態、會計及財産ノ實況ヲ監査セシムルコトヲ得

鐵道ノ工事、運輸保線ノ狀態及會計ノ整理ニ付法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ違ヒ又ハ不適當ナリト認ムルモノアルトキハ監督官廳ハ其ノ改善又ハ改善ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ工事、運輸又ハ設備使用ノ停止ヲ命スルコトヲ得

監査員ハ地方鐵道業者又ハ其ノ役員若ハ使用人ニ説明ヲ求メ金櫃、帳簿、書類及圖面ヲ檢閲スルコトヲ得

**第二十四條** 地方鐵道業者ハ地方鐵道ノ監督事務ニ關シ往復スル吏員ニシテ監督官廳ノ發行スル證券ヲ携帯スル者ヲ無賃ニテ乗車セシムヘシ

**第二十五條** 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ地方鐵道業者ニ他ノ鐵道又ハ軌道トノ連絡運輸又ハ直通運輸ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ設備ノ共用又ハ變更、運輸ノ手續、運賃ノ割合及費用ノ負擔ニ付協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

鐵道業者ハ殘存開業線路及其ノ附屬物件ノ買收ヲ申請スルコトヲ得

**第三十一條** 買收價額ハ左ニ掲グルモノトス

一 最近ノ營業年度末迄ニ運輸開始後三年ヲ經過シタル線路ヲ含ム開業線路ニ付テハ其ノ營業年度末ヨリ遡リ既往三年間ニ於ケル開業線建設費ニ對スル益金ノ平均割合ヲ買收ノ日ニ於ケル開業線建設費ニ乗シタル額ヲ二十倍シタル金額

二 最近ノ營業年度末迄ニ運輸開始後三年ヲ經過シタル線路ヲ含マサル開業線路ニ付テハ買收ノ日ニ於ケル開業線建設費ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル金額以內ニ於テ協定シタル金額

三 工事中ノ線路及買收ノ日迄ニ未タ使用開始ニ至ラサル改良施設ニ付テハ買收ノ日ニ於ケル建設費ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル金額以內ニ於テ協定シタル金額

前項第一號ノ規定ニ依ル金額カ買收ノ日ニ於ケル建設費ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル金額ニ達セサルトキハ其ノ換算シタル金額以內ニ於テ協定シタル金額ヲ以テ買收價額トス

第六編 交通及通信 第一款 交通 第五項 道路鐵道及軌道

**第二十六條** 地方鐵道業者ハ監督官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鐵道ノ貸借又ハ營業若ハ運輸ノ管理ノ委託若ハ受託ヲ爲スコトヲ得ス

營業又ハ運輸ノ管理ノ委託ヲ受ケタル地方鐵道ハ業者其ノ管理ニ付監督官廳ニ對シ委託ヲ爲シタル者ト共ニ其ノ責ニ任ス

**第二十七條** 地方鐵道業者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ運輸營業ノ全部又ハ一部ヲ休止シ又ハ廢止スルコトヲ得ス

地方鐵道會社ノ解散ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

**第二十八條** 主務大臣ハ地方鐵道ノ會計及運賃ノ割引ニ關シ特別ノ規定ヲ設タルコトヲ得

**第二十九條** 地方鐵道業者ハ法令ノ定ムル所ニ依リ平時及戰時ニ於テ鐵道ヲ軍用ニ供スル義務ヲ負フ

**第三十條** 政府カ公益上ノ必要ニ因リ地方鐵道（工事中ノ線路ヲ含ム）ノ全部又ハ一部及其ノ附屬物件ヲ買收セムトスルトキハ地方鐵道業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リテ一部買收セラレタル爲殘存線路ノミニ付營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ地方

**第三十二條** 前條ノ規定ニ於テ益金トハ營業收入ヨリ營業費及賞與金ヲ控除シタルモノヲ謂ヒ益金ノ平均割合トハ

三年間ニ於ケル每營業年度末ノ開業線建設費ノ合計ヲ以テ同期間ニ於ケル益金ノ合計ヲ除シタルモノニ一年間ニ於ケル營業年度ノ數ヲ乘シタルモノヲ謂フ

建設費、營業收入及營業費ハ命令ノ定ムル所ニ依リテ算出シタル金額ニ依ル

**第三十三條** 政府ノ買收スル鐵道又ハ其ノ附屬物件ニ付買收ノ日ニ於テ補修ヲ要スルモノアルトキハ之ニ要スル金額ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シ買收價額ヨリ控除ス

最近ノ營業年度末迄ニ爲スヘキ補修ヲ其ノ營業年度末迄ニ爲ササリシトキハ前項ノ規定ニ依ルノ外之ニ要スル金額ヲ買收價額計算上ノ營業費ニ加算ス

**第三十四條** 買收ヲ受クヘキ地方鐵道業者カ兼業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ兼業ニ屬スル資産ヲ併セテ買收スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ買收價額ハ協定ニ依ル

**第三十五條** 買收代價ハ券面金額ニ依リ五十五年内ニ償還スヘキ五分利付國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス此ノ場合ニ於



テ五十圓未満ノ端數ハ之ヲ券面金額五十圓トス

**第三十五條ノ二** 政府ハ買收ノ日ヨリ買收代價交付ノ日ニ至ル迄買收代價トシテ交付スヘキ國債ノ利子ニ相當スル金額ヲ概算ヲ以テ從前ノ決算期毎ニ買收セラレタル者ニ交付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ交付シタル金額ハ清算中ト雖主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ株主ニ配當スルコトヲ得

**第三十五條ノ三** 第三十條第一項ノ規定ニ依リテ一部買收セラレタル爲殘存線路ノミニ付營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ地方鐵道業者ハ未タ運輸開始ニ至ラサル殘存線路ニ付其ノ營業廢止ニ因リテ生スル損失ノ補償ヲ申請スルコトヲ得

**第三十六條** 政府ニ於テ地方鐵道ニ接近シ又ハ並行シテ鐵道ヲ敷設シタル爲地方鐵道業者カ其ノ接近シ又ハ並行スル區間ノ營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ政府ハ其ノ營業廢止ニ因リテ生スル損失ヲ補償スルコトヲ得殘存線路ノミニ付營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ未タ運輸開始ニ至ラサル線路ニ付之ヲ準用ス

屬スル營業年度ノ前營業年度末ヨリ遡リ既往三年間ニ於ケル毎營業年度ノ開業線建設費ノ合計ヲ以テ同期間ニ於ケル營業收入ヨリ營業費及賞與金ヲ控除シタル殘額ノ合計ヲ除シタルモノヲ謂フ

第三十二條ノ規定ハ前二項ノ益金、建設費、營業收入及營業費ニ、地方鐵道補助法第六條及第七條ノ規定ハ第一項ノ補償ニ付之ヲ準用ス

**第三十六條ノ四** 主務大臣ハ地方鐵道ノ買收又ハ補償ニ關シ必要アリト認ムルトキハ當該地方鐵道業者ヲシテ建設費ノ増減ヲ來スヘキ事項ニ付認可ヲ受ケケシムルコトヲ得前項ノ規定ニ依リテ認可ヲ受ケヘキ場合ニ於テ之ヲ受ケサルモノニ付テハ政府ハ其ノ額ヲ査定スルコトヲ得

**第三十六條ノ五** 第三十一條、第三十三條及第三十六條ノ二ノ國債時價ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

**第三十七條** 地方鐵道業者カ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 取締役其ノ他ノ役員ヲ解任スルコト
- 二 政府ニ於テ又ハ他ノ地方鐵道業者ヲシテ地方鐵道業

**第三十六條ノ二** 前二條ノ補償金額ハ第三十一條乃至第三十三條ノ規定ニ準シテ算出シタル金額ヨリ殘存物件ノ價額ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル金額ヲ控除シタル殘額以內ニ於テ政府之ヲ定ム

未タ工事ニ著手セサル線路ニ對スル補償金額ハ測量其ノ他ノ費用ヨリ殘存物件ノ價額ヲ控除シタル殘額ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル金額以內ニ於テ政府之ヲ定ム

第三十五條及第三十五條ノ二ノ規定ハ前二項ノ補償金ノ支拂ニ付之ヲ準用ス

**第三十六條ノ三** 政府ニ於テ地方鐵道ニ接近シ又ハ並行シテ鐵道ヲ敷設シタル爲地方鐵道ノ每營業年度ニ於ケル益金又ハ益金ト地方鐵道補助法ニ依リ受ケル補助金トノ合計カ當該營業年度ノ建設費ニ益金ノ平均割合ヲ乘シタル額ニ不足スルトキハ政府ハ政府ノ該鐵道運輸開始ノ日ヨリ五年ヲ限リ帝國鐵道特別會計收益勘定歳出豫算ノ範圍內ニ於テ其ノ不足額ヲ補償スルコトヲ得但シ每營業年度ニ於ケル補償額ハ益金又ハ益金及補助金ト合セ建設費ノ百分ノ七ニ相當スル額ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ益金ノ平均割合トハ政府ノ該鐵道運輸開始ノ日ノ

者ノ計算ニ於テ必要ナル施設若ハ營業ノ管理ヲ爲シ又ハ爲サシムルコト

三 免許ノ全部又ハ一部ヲ取消スコト

前項ノ規定ニ依リテ解任セラレタル取締役其ノ他ノ役員ハ再任セラレルコトヲ得ス

**第三十八條** 免許ヲ受ケシテ地方鐵道ヲ敷設シ又ハ認可ヲ受ケシテ運輸ヲ開始シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

**第三十九條** 左ノ場合ニ於テハ地方鐵道業者又ハ其ノ役員若ハ使用人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 前條ノ場合ヲ除クノ外本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケヘキ事項ヲ許可又ハ認可ヲ受ケシテ爲シタルトキ
- 二 法令ニ基キテ爲シタル命令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ
- 三 監査員ノ職務ノ執行ヲ妨ケタルトキ
- 四 法令又ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ依リテ爲スヘキ届出、報告其ノ他ノ書類、圖面ノ提出若ハ調製ヲ怠リ又ハ虚偽ノ届出、報告若ハ記載ヲ爲シタルトキ
- 五 第六條ノ四第一項ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ同條



第二項ノ規定ニ違反シテ後配株主ニ不利益ヲ及ホシタルトキ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第四十條 前二條ノ規定ハ公共團體カ地方鐵道業ヲ營ム場合ニ之ヲ適用セス

附 則

第四十一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(大正八年八月勅令第三百七十四號ヲ以テ同年同月十五日ヨリ施行)

第四十二條 私設鐵道法及輕便鐵道法ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リテ爲シタル免許若ハ指定、許可又ハ認可ハ本法ニ依リテ爲シタル免許、許可又ハ認可ト看做ス但シ其ノ免許若ハ指定、許可又ハ認可ニ附シタル條件ニシテ本法ニ牴觸スルモノハ其ノ救力ヲ失フ

第二條及第三條ノ規定ハ舊法ニ依リテ免許又ハ指定ヲ受ケタルモノニ之ヲ適用セス

第四十三條 輕便鐵道法ニ依リテ輕便鐵道抵當原簿ニ登錄セラレタル事項ハ之ヲ鐵道抵當法ニ依リ鐵道抵當原簿ニ登錄セラレタルモノト看做シ輕便鐵道抵當原簿ハ鐵道抵

當原簿ト看做ス

第四十四條 輕便鐵道法ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四十五條 軌道又ハ專用鐵道ヲ地方鐵道ニ變更セムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

◎專用鐵道規程(大正八年八月十三日勅令第十九號)

第一條 本規程ハ道府縣其ノ他ノ公共團體又ハ私人カ專用ニ供スル爲敷設スル鐵道ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ之ヲ適用ス

- 一 公衆ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道ト直通スルモノ
- 二 公衆ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道ト連絡スルモノ但シ人力又ハ馬力ヲ動力トスルモノヲ除ク
- 三 前各號ノ專用鐵道ト直通スルモノ

第二條 專用鐵道ヲ敷設セムトスル者ハ申請書ニ使用ノ目的ヲ記載シ鐵道ヲ敷設セムトスル地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シ左ノ書類及圖面ヲ提出シ主務大臣ノ免許ヲ受ク

第九條 專用鐵道ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用ノ目的ニ屬セサル物品運送ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第十條 監督官廳ハ公益上必要アリト認ムルトキハ工事方法、運輸、信號又ハ列車保安方法ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十一條 免許ヲ受ケスシテ專用鐵道ヲ敷設シ又ハ認可ヲ受ケスシテ運輸ヲ開始シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス前項ノ規定ハ公共團體カ專用鐵道ヲ敷設スル場合ニ之ヲ適用セス

第十二條 地方鐵道法第十一條、第十六條、第十七條、第十九條第一項第三號、同條第二項、第二十條、第二十三條、第二十五條、第三十七條第一項、第三十九條、第四十條、地方鐵道法施行規則第三條、第十一條、第十二條、第十七條、第十八條、第二十條、第二十一條、第二十六條、第五十二條、地方鐵道建設規程第十九條、第二十一條、第三十條ノ規定ハ專用鐵道ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ大正八年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス  
專用鐵道規則ハ之ヲ廢止ス  
本令ニ依リ免許、許可又ハ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ舊規

- 二 工事方法書
- 三 建設費豫算書
- 四 他ノ鐵道又ハ軌道ト連絡又ハ直通ニ關スル協定書ノ謄本

第三條 免許ニハ工事ノ著手及竣功ノ期限ヲ附ス前項ノ期限ハ天火事變其ノ他已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限り其ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得

第四條 工事ニ著手シタルトキハ一週間以内ニ監督官廳ニ之ヲ届出ツヘシ

第五條 免許ヲ受ケタル者ハ運輸、信號及列車保安ニ關スル規定ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第六條 專用鐵道ノ運輸ノ管理ノ委託ヲ爲サムトスルトキハ申請書ニ運輸ノ管理ノ委託ニ關スル協定書ノ謄本ヲ添附シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 運輸ヲ開始シタルトキハ遲滯ナク監督官廳ニ之ヲ届出ツヘシ

第八條 專用鐵道ヲ讓渡セムトスルトキハ讓受人ト連署シ鐵道ヲ敷設スル地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ



一 線路實測圖

則ニ依リ免許、許可又ハ認可ヲ受ケタルモノハ本令ニ依リ  
免許、許可又ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス  
舊規則ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中  
之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リテ之ヲ爲シ  
タルモノト看做ス

◎軌道法 (大正十年四月十四日  
法律第七十六號)

第一條 本法ハ一般交通ノ用ニ供スル爲敷設スル軌道ニ之  
ヲ適用ス

一般交通ノ用ニ供セサル軌道ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ  
之ヲ定ム

第二條 軌道ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ道路ニ  
敷設スヘシ

第三條 軌道ヲ敷設シテ運輸事業ヲ經營セムトスル者ハ主  
務大臣ノ特許ヲ受クヘシ

第四條 前條ノ規定ニ依リ特許ヲ受ケタル軌道經營者ハ軌  
道敷設ニ要スル道路ノ占用ニ付道路管理者ノ許可又ハ承

認ヲ受ケタルモノト看做ス此ノ場合ニ於ケル道路ノ占用  
料ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第五條 軌道經營者ハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ工事施  
行ノ認可ヲ申請スヘシ

天災事變其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ前項ノ期間  
内ニ工事施行ノ認可ヲ申請スルコト能ハサル場合ニ於テ  
ハ其ノ期間ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得

第六條 軌道經營者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ道路  
ニ關スル工事ニ付道路管理者ノ許可又ハ承認ヲ受ケタル  
モノト看做ス河川法、砂防法及之ニ基キテ發スル命令ニ  
依ル許可又ハ認可ニ付亦同シ

第七條 軌道經營者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ主務  
大臣ノ指定スル期間内ニ工事ニ著手シ之ヲ竣工セシムヘ  
シ

第五條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ニ付之ヲ準用ス

第八條 地方長官必要アリト認ムルトキハ道路管理者ヲシ  
テ道路ニ敷設スル軌道工事及之カ爲必要ヲ生シタル道路  
ニ關スル工事ノ全部又ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ工事ニ要スル費用ノ負擔ニ付道路管理  
者及軌道經營者ノ協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大

臣之ヲ裁定ス

第九條 道路管理者道路ノ新設又ハ改築ノ爲必要アリト認  
ムルトキハ軌道經營者ノ新設シタル軌道敷地ヲ無償ニテ  
道路敷地ト爲スコトヲ得

第十條 軌道經營者ハ地方長官ノ認可ヲ受ケタルニ非サレハ  
運輸ヲ開始スルコトヲ得ス

第十一條 軌道經營者ハ旅客及荷物ノ運賃其ノ他運輸ニ關  
スル料金並運輸速度及度數ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受ク  
ヘシ

主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ運賃、料金、  
運輸速度、度數又ハ發著時刻ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十二條 軌道經營者ハ軌道間ノ全部及其ノ左右各二尺ヲ  
限リ道路ノ維持及修繕ヲ爲スヘシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ道路管理者ヲシテ前項  
ノ維持及修繕ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル費  
用ノ負擔ニ付テハ第八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第九條ノ規定ニ依リ道路敷地ト爲シタルモノニ付テハ第  
一項ノ維持及修繕ハ道路管理者之ヲ爲スヘシ

第十三條 主務大臣又ハ地方長官ハ監督上必要アリト認ム  
ルトキハ軌道經營者ヲシテ帳簿、書類及圖面ヲ提出セシ

メ又ハ監査員ヲ派遣シテ軌道ノ設備、事業ノ狀況並會計

及財産ノ實況ヲ監査セシムルコトヲ得

第十四條 軌道ノ建設、運輸、運轉、係員及會計ニ關スル  
規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 軌道經營者ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ニ  
限リ特許ニ因リテ生スル權利義務ヲ他人ニ讓渡スルコト  
ヲ得

第十六條 軌道經營者ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ニ  
限リ軌道ノ讓渡又ハ事業若ハ運轉ノ管理ノ委託若ハ受託  
ヲ爲スコトヲ得

前項ノ管理ノ委託ヲ受ケタル者ハ其ノ管理ニ付主務大臣  
ニ對シ委託ヲ爲シタル者ト共ニ其ノ責ニ任ス

第十七條 公共團體ニ於テ公益上ノ必要ニ因リ軌道(未タ  
運輸開始ニ至ラサル線路ヲ含ム)ノ全部又ハ一部及其ノ  
附屬物件ヲ買収セムトスルトキハ軌道經營者ハ之ヲ拒ム  
コトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リテ一部買収セラレタル爲殘存線路ノミ  
ニ付事業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ軌道  
經營者ハ殘存開業線路ニ付テハ該線路及其ノ附屬物件ノ  
買収ヲ求メ未タ運輸開始ニ至ラサル殘存線路ニ付テハ其



ノ事業廢止ニ因リテ生スル損失ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

**第十八條** 公共團體ニ於テ前條ノ規定ニ依ル買收ヲ爲サム

トスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

公共團體ニ於テ前條ノ規定ニ依ル買收ヲ爲シタルトキハ

特許ニ因リテ生スル權利義務ヲ承繼ス

**第十九條** 公共團體カ第十七條ノ規定ニ依ル買收又ハ補償

ヲ爲ス場合ニ於テハ買收價額又ハ補償金額ハ協定ニ依ル

協議調ハサルトキハ申請ニ因リ地方鐵道法第三十一條乃

至第三十三條ノ二又ハ第三十六條ノ二ノ規定ニ準シ算出

シタル金額ヲ標準トシテ主務大臣之ヲ裁定ス

**第二十條** 公共團體カ第十七條ノ規定ニ依ル買收ヲ爲ス場

合ニ於テ公益上ノ必要ニ因リ兼業ニ屬スル資産及軌道經

營ニ必要ナル貯藏物品ヲ買收セムトスルトキハ軌道經營

者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

公共團體カ第十七條ノ規定ニ依ル買收ヲ爲ス場合ニ於テ

ハ軌道經營者ハ兼業ニ屬スル資産及軌道經營ニ必要ナル

貯藏物品ノ買收ヲ求ムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ買收價額ニ付協議調ハサルトキハ申

請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

**第二十一條** 軌道會社ノ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十

分ノ一迄下ルコトヲ得

軌道會社ハ株金金額拂込前ト雖主務大臣ノ認可ヲ受ケ線

路ノ延長又ハ改良ノ費用ニ充ツル爲其ノ資本ヲ増加スル

コトヲ得

前二項ノ規定ハ地方鐵道會社ニ非サル會社カ兼業トシテ

軌道ヲ敷設スル場合ニハ之ヲ適用セス

**第二十二條** 軌道會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレ

ハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

**第二十三條** 左ノ場合ニ於テハ特許ハ其ノ效力ヲ失フ

一 工事施行ノ認可申請期間内ニ認可ヲ申請セサルトキ

二 工事施行ノ認可ヲ受ケサルトキ

三 事業廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

四 特許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ工事施行

ノ認可申請期間内ニ會社設立ノ登記ヲ爲ササルトキ

**第二十四條** 軌道經營者軌道ニ關スル工作物ノ使用ヲ廢止

シタルトキハ地方長官ノ指示スル所ニ從ヒ道路ヲ原狀ニ

回復スヘシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ軌道經營者ノ負擔ニ於

テ道路管理者ヲシテ前項ノ規定ニ依ル工事ヲ爲サシムル

コトヲ得

**第二十五條** 本法ニ規定スル主務大臣ノ職權ノ一部ハ命令

ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

**第二十六條** 地方鐵道法第六條ノ二乃至第八條、第十條第

二項、第十一條、第十五條、第十七條、第十九條第二

項、第二十三條第二項第三項、第二十五條、第二十七

條、第三十條乃至第三十六條ノ二、第三十六條ノ四及第

三十六條ノ五ノ規定ハ軌道ニ之ヲ準用ス但シ地方鐵道法

第七條第二項及第八條中鐵道抵當法トアルハ明治四十二

年法律第二十八號トス

**第二十七條** 軌道經營者カ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令

又ハ特許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シ其ノ他

公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ左ノ處分

ヲ爲スコトヲ得

一 取締役其ノ他ノ役員ヲ解任スルコト

二 他人ヲシテ軌道經營者ノ計算ニ於テ必要ナル施設又

ハ事業ノ管理ヲ爲サシムルコト

三 特許ノ全部又ハ一部ヲ取消スコト

前項ノ規定ニ依リテ解任セラレタル取締役其ノ他ノ役員

ハ再任セラレルコトヲ得ス

第一項第二號ノ規定ニ依リ事業ノ管理ヲ爲ス者ハ其ノ管

第六編 交通及通信 第一款 交通 第五項 道路鐵道及軌道

理ニ付主務大臣ニ對シ當該軌道經營者ト共ニ其ノ責ニ任

ス

**第二十八條** 特許ヲ受ケスシテ軌道ヲ敷設シ又ハ認可ヲ受

ケスシテ運輸ヲ開始シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰

金ニ處ス

**第二十九條** 左ノ場合ニ於テハ軌道經營者又ハ其ノ役員若

ハ使用人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 前條ノ場合ヲ除クノ外本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受

クヘキ事項ヲ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ爲シタルトキ

ニ 法令ニ基キテ爲シタル命令又ハ特許、許可若ハ認可

ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルト

キ

三 監査員ノ職務ノ執行ヲ妨ケタルトキ

四 法令又ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ依リテ爲スヘキ届

出、報告其ノ他ノ書類圖面ノ提出若ハ調製ヲ怠リ又ハ

虚偽ノ届出、報告若ハ記載ヲ爲シタルトキ

五 第二十六條ニ於テ準用スル地方鐵道法第六條ノ四第

一項ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ同條第二項ノ規定ニ

違反シテ後配株主ニ不利益ヲ及ボシタルトキ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項



ノ過料ニ之ヲ準用ス

**第三十條** 前二條ノ規定ハ公共團體カ軌道ヲ經營スル場合ニ之ヲ適用セス

**第三十一條** 本法ハ一般交通ノ用ニ供スル軌道ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

前項ノ軌道ニ準スヘキモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

**第三十二條** 國ニ於テ軌道ヲ敷設シテ運輸事業ヲ經營セムトスルトキハ當該官廳ハ主務大臣ニ協議ヲ爲スヘシ其ノ工事施行ニ付亦同シ

國ニ於テ經營スル軌道ニ付テハ第二條、第十二條第一項、第十四條及第二十四條第一項ノ規定ヲ除クノ外本法ヲ適用セス但シ第十四條中軌道ノ係員及會計ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ規定ニ依リ主務大臣ニ協議ヲ了シタルトキハ第四條及第六條ノ規定ヲ準用ス

**附 則**

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(大正十二年十二月勅令第五百八號ヲ以テ大正十三年一月一日ヨリ施行)

軌道條例ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リテ爲シタル特許、認可、處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ其ノ特許、認可其ノ他ノ處分ニ附シタル條件ニシテ本法ニ牴觸スルモノハ其ノ效力ヲ失フ

他ノ法令中軌道條例トアルハ軌道法トス

**附 則** (昭和四年法律第六十一號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(昭和四年勅令第三百三十七號ヲ以テ昭和四年十二月五日ヨリ施行)

**第六項 航空**

◎航空法 (大正十年四月九日法律第五十四號)

**第一章 總 則**

**第一條** 本法ニ於テ航空機トハ人ノ搭乘シ得ル飛行機、航

得

**第四條** 航空ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

**第二章 航空機ノ検査及登録**

**第五條** 航空機ヲ製造スル者ハ其ノ設計、材料、部分品、技巧及製品ニ付行政官廳ノ検査ヲ受クヘシ

堪航證明書ナキ航空機ノ所有者ハ其ノ航空機ニ付行政官廳ノ検査ヲ受クヘシ

前二項ノ検査ニ合格シタル航空機ニ對シテハ堪航證明書ヲ交付ス

第一項及第二項ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル航空機ニ之ヲ適用セス

**第六條** 堪航證明書ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

- 一 堪航證明書ニ記載シタル有効期間ヲ經過シタルトキ
- 二 第十四條第一項ノ規定ニ依リ航空機ノ使用ノ禁止ヲ命シタルトキ

前項第一號ノ有効期間ハ前條ノ検査ニ合格シタル日ヨリ起算シ六月以内ニ於テ行政官廳之ヲ定ム有効期間ハ第十

空船、氣球、滑空機其ノ他航空ノ用ニ供スル機器ヲ謂フ  
本法ニ於テ航空ニハ陸上又ハ水上ノ滑走ヲ、離陸又ハ著陸ニハ離水又ハ著水ヲ包含ス

**第二條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ所有スル航空機ハ之ヲ日本航空機トス

- 一 日本國又ハ日本ノ公共團體
- 二 日本臣民
- 三 日本法令ニ依リ設立シタル會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民タルモノ
- 四 前號ニ掲グル法人以外ノ法人ニシテ日本法令ニ依リ設立シ其ノ代表者ノ全員カ日本臣民タルモノ

**第三條** 本法ハ本章及第四十一條乃至第四十三條ノ規定ヲ除クノ外軍用航空機ニ之ヲ適用セス

國ノ使用ニ供スル航空機ニ付テハ第二十一條、第二十八條乃至第三十條、第三十三條、第三十四條及第四十條ノ規定ニ關シ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得  
勅令ヲ以テ指定スル航空機ニ付テハ第二章乃至第四章ニ規定スル事項ニ關シ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ



一條ノ検査ノ結果ニ依リ検査ノ日ヨリ起算シ六月以内ニ於テ行政官廳之ヲ延長スルコトヲ得

**第七條** 第五條ノ検査ニ合格シタル航空機ノ所有者ハ行政官廳ニ其ノ航空機ノ登録ヲ申請スルコトヲ得

航空機ノ登録事項ハ航空機ノ所有者ノ氏名名稱、登録記號其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項トス

登録シタル事項ニ變更アリタルトキハ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ變更ノ登録ヲ申請スヘシ

登録シタル航空機ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空機ノ所有者ノ氏名名稱、登録記號其ノ他ノ登録事項ヲ記載シタル登録證明書ヲ交付ス

**第八條** 航空機カ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ際ノ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ堪航證明書ヲ返付スヘシ

一 滅失又ハ破壊シタルトキ

二 解撤セラレタルトキ

三 其ノ堪航證明書カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

登録シタル航空機カ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ際ノ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ堪航證明書ヲ返付スヘシ

内ニ行政官廳ニ登録證明書ヲ返付スヘシ

一 滅失又ハ破壊シタルトキ

二 解撤セラレタルトキ

三 日本國籍ヲ喪失シタルトキ

四 其ノ堪航證明書カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ同時ニ抹消登録ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ抹消登録ノ申請ナキトキ又ハ第二項第四號ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲スコトヲ得

**第九條** 登録シタル航空機ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ國籍記號、登録記號並所有者ノ氏名名稱及住所ヲ表示スヘシ

**第十條** 航空機ハ前條ノ規定ニ依ル表示ヲ爲シ且堪航證明書及登録證明書ヲ備附クルニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス

**第十一條** 行政官廳ハ定期又ハ臨時ニ航空機ノ検査ヲ爲スコトヲ得

**第十二條** 第五條第一項第二項及第十條ノ規定ハ航空機ノ試験ノ爲飛行場又ハ命令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ航空ス

ル航空機ニ關シテハ之ヲ適用セス

**第十三條** 第五條、第七條、第八條及第十一條ニ規定スルモノノ外航空機ノ検査又ハ登録ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

**第十四條** 行政官廳ハ第十一條ノ検査ノ結果ニ基キ其ノ他航空機ノ現狀ニ因リ必要アルトキハ航空機ノ使用ノ制限、停止又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ規定ニ依リ制限ヲ命シタルトキハ堪航證明書ニ制限事項ヲ附記シ停止ヲ命シタルトキハ停止中堪航證明書ヲ領置ス

**第十五條** 航空機ノ乗員ニ非サレハ航空機ニ搭乘シテ其ノ運航ニ從事スルコトヲ得ス

乗員ハ技術證明書及航空免狀ヲ有スルコトヲ要ス

**第十六條** 技術證明書ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ行フ検査ニ合格シタル者ニ之ヲ交付ス技術證明書ヲ有スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空免狀ノ交付ヲ受クルコトヲ得

**第十七條** 乗員ハ航空免狀ヲ携帯スルニ非サレハ運航ニ從事スルコトヲ得ス

**第十八條** 行政官廳ハ乗員ニ對シ定期又ハ臨時ニ検査ヲ爲スコトヲ得

**第十九條** 第十五條第一項ノ規定ハ飛行場又ハ命令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ航空機ニ搭乘シテ運航練習ヲ爲ス者及運航練習ノ爲乗員ト同乗シ共同シテ運航ニ從事スル者ニ之ヲ適用セス

**第二十條** 行政官廳ハ乗員引續キ六月以上運航ニ從事セザルトキ、第十八條ノ検査ノ結果ニ基キ必要アルトキ又ハ保安上必要アルトキハ就業ノ制限、停止又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ規定ニ依リ制限ヲ命シタルトキハ航空免狀ニ制限事項ヲ附記シ停止ヲ命シタルトキハ停止中航空免狀ヲ領置ス

第一項ノ規定ニ依リ禁止ヲ命セラレタル乗員ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ航空免狀ヲ返付スヘシ

**第四章** 飛行場及其ノ經營者

**第二十一條** 飛行場ヲ設置セムトスル者、其ノ區域ヲ變更セムトスル者又ハ公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ廢止セムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ公共ノ用ニ供セサル飛行場ニ變更シ又ハ公共ノ用



ニ供セサル飛行場ヲ公共ノ用ニ供スル飛行場ニ變更セムトスル者亦同シ

**第二十二條** 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ

**第二十三條** 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ飛行場ヲ他ノ目的ニ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ得ス

**第二十三條ノ二** 行政官廳ハ航空ノ安全保持ノ爲公共ノ用ニ供スル飛行場又ハ公示セラレタル飛行場豫定地ノ境界ヨリ外方千「メートル」ノ區域内ニ於テ特別地域ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ特別地域内ニ於テ工作物、船舶、竹木其ノ他ノ物件ヲ設置、定繋又ハ植栽セムトスル者ハ該物件力其ノ存スル地點ヨリ最短距離ニ在ル飛行場ノ境界地點ヲ基準トスル水平面上左ノ各號ノ高サヲ超ユル場合ニ於テハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ「メートル」ヲ超エサル農作物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域内ニ在リテハ物件ノ存スル地點ト其ノ地點ヨリ最短距離ニ在ル飛行場ノ境界地點トノ水平距離ノ三十分ノ一ノ高サ

二 前號ノ區域ノ外方ノ特別地域内ニ在リテハ物件ノ存スル地點ト其ノ地點ヨリ最短距離ニ在ル前號ノ區域ノ外方境界地點トノ水平距離ノ二十分ノ一ニ十七「メートル」ヲ加ヘタル高サ

**第二十三條ノ三** 行政官廳ハ前條ノ規定ニ違反シテ設置、定繋又ハ植栽シタル工作物、船舶、竹木其ノ他ノ物件ニ付其ノ所有者又ハ之ニ代リ其ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル者ニ對シ期限ヲ定メ前條第二項ニ規定スル高サヲ超ユル部分ノ除去其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得竹木ニシテ前條第二項ニ規定スル高サヲ超ユルニ至リタルモノニ付亦同シ

前條第一項ノ規定ニ依ル特別地域指定ノ場合ニ於テ現ニ存スル物件力前條第二項ニ規定スル高サヲ超ユルトキハ行政官廳ハ其ノ所有者又ハ之ニ代リ其ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル者ニ對シ期限ヲ定メ其ノ高サヲ超ユル部分ノ除去其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

**第二十四條** 行政官廳ハ飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域内ニ於テ航空ノ障礙ト爲ルヘキモノアルトキハ飛行場ノ經營者ニ對シ必要ナル航空標識ノ設置ヲ命スルコトヲ得

行政官廳ノ決定ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

**第二十六條** 第二十三條ノ二、第二十三條ノ三、前條及第五十九條第一號ノ規定ハ軍用ニ供スル飛行場又ハ公示セラレタル飛行場豫定地ニ付特別地域ヲ指定スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條第二項第三項及前條ノ規定ハ許可又ハ届出ニ關スル規定ヲ除クノ外軍用ニ供スル飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域内ニ於テ航空ノ障礙ト爲ルヘキモノアルトキ必要ナル航空標識ヲ設置又ハ維持スル場合ニ之ヲ準用ス

**第二十七條** 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ他人ノ運航スル航空船又ハ飛行機ニ對シ其ノ飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スルコトヲ拒ムコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ經營者其ノ飛行場ノ使用ニ對シ使用料ヲ請求セムトスルトキハ豫メ其ノ額ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

**第二十八條** 公共ノ用ニ供セサル飛行場ノ經營者ハ行政官

飛行場ノ經營者ハ前項ノ航空標識ノ設置又ハ維持ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ日出後日没前ニ限り他人ノ土地ニ立入り若ハ障礙ト爲ルヘキ物件ヲ除去シ又ハ必要ナル土地若ハ物件ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ經營者ハ豫メ其ノ土地又ハ物件ノ占有者ニ其ノ旨通知スヘシ

飛行場ノ經營者ハ第一項ノ航空標識ノ維持ノ爲緊急ノ必要アルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス他人ノ土地ニ立入り若ハ障礙ト爲ルヘキ物件ヲ除去シ又ハ必要ナル土地若ハ物件ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ經營者ハ遲滞ナク其ノ旨行政官廳ニ届出テ且其ノ土地又ハ物件ノ占有者ニ通知スヘシ

**第二十五條** 第二十三條ノ三第二項ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ基ク措置又ハ前條ノ規定ニ依ル立入、除去若ハ使用ニ因リ生シタル損害ハ飛行場ノ經營者之ヲ補償スヘシ第二十三條ノ二第一項ノ規定ニ依ル特別地域ノ指定アリタルカ爲既ニ著手シタル工作物其ノ他ノ設備ヲ廢止シ又ハ變更スルノ已ムナキニ至リタルニ因リ生シタル損害ニ付亦同シ

前項ノ規定ニ依ル補償ノ金額ニ關シ協議調ハサルトキハ



應ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他人ノ運航スル他人ニ屬スル航空機ヲシテ其ノ飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸セシムルコトヲ得ス

第五章 航空及運送

第二十九條 航空船及飛行機ハ陸上ニ在リテハ飛行場ニ非サル場所、水上ニ在リテハ命令ヲ以テ禁止スル場所ニ於テ離陸又著陸スルコトヲ得ス但シ故障若ハ避難ノ爲其ノ他已ムコトヲ得サル事由アルトキ又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 故ナク皇居、禁苑、離宮、行在所若ハ神宮ノ上空ニ於テ又ハ皇陵ノ上空千「メートル」以下ニ於テ航空機ノ運航ヲ爲スコトヲ得ス

前項ニ掲グル場所ノ外航空ニ關スル制限又ハ禁止ヲ必要トスル場所ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 戰時又ハ事變ニ際シ必要アルトキハ行政官廳ハ航空機ノ航空ヲ禁止スルコトヲ得

第三十二條 日本航空機ニ非サル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第三十三條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ若ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機又ハ日本國外

ヨリ發航シ著陸スルコトナクシテ日本國ヲ通過シ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ指定スル航空路ニ由リ航空スヘシ

第三十四條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ又ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至リ航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ指定スル飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スヘシ

第三十五條 日本航空機ニ非サル航空機ニ依リ有償ニテ日本各地ノ間ニ又ハ日本國外ト日本國內トノ間ニ於テ旅客又ハ貨物ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ日本航空機ニ依リ運送業ヲ營ムコトヲ得ス

第六章 雜 則

第三十七條 航空標識ノ用地又ハ公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地トスル爲必要ナル土地及水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ハ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ收用又ハ使用ニ關シテハ土地收用法ヲ

適用ス

第三十八條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ地租ヲ免除ス但シ一時ノ使用ニ供スルモノ又ハ有料借地ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條ノ二 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空ノ安全ヲ害スルノ虞アル航空標識類似ノ燈火ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第三十九條 關稅法中船舶、船長、船用品及海路運送並之ニ關スル犯則事件ノ調査、處分及處罰ニ付テノ規定ハ航空機、航空機ノ長、航空機ノ機用品及航空機ニ依ル外國貨物ノ運送並之ニ關スル犯則事件ノ調査、處分及處罰ニ付テノ規定ニ但シ關稅法中開港トアルハ第三十四條ノ飛行場トス

第四十條 第三十三條ノ航空機カ故障又ハ避難ノ爲其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ第三十四條ニ規定スル著陸ノ場所以外ニ著陸シタルトキハ稅關官吏其ノ地ニ在ル場合ニ於テハ稅關官吏ニ、稅關官吏其ノ地ニ在ラサル場合ニ於テハ警察官吏ニ遲滞ナク届出ツヘシ

第四十一條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至ル航空機ニ關シテハ傳染病豫防ノ爲檢疫ヲ施行ス

前項ノ檢疫ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條 前條ノ規定ハ内地、朝鮮、臺灣相互間ニ付之ヲ準用ス

前項ノ内地ニハ樺太ヲ包含ス

第四十三條 航空機ノ救難及之ニ關スル處罰ニ付テハ水難救護法ヲ準用ス

第四十四條 左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

- 一 航空機ニ備附クヘキ日誌其ノ他ノ帳簿書類及附屬品其ノ他ノ物件ニ關スル事項
- 二 保安上又ハ軍事上ノ必要ノ爲航空機ニ搭載スルコトヲ制限又ハ禁止スル火藥類、寫真機其ノ他ノ物件ニ關スル事項
- 三 航空機ニ關スル燈火及信號ニ關スル事項
- 四 航空ニ關スル保安上必要ナル制限及航空機ト航空機又ハ船舶トノ衝突豫防ニ關スル事項
- 五 航空標識及其ノ設置ニ關スル事項
- 六 飛行場ノ設備ニ關スル事項



**第四十五條** 當該官吏ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ナリト認ムルトキハ航空機ノ離陸差止又ハ著陸ヲ命スルコトヲ得

**第四十六條** 當該官吏ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ナリト認ムルトキハ航空機、飛行場又ハ格納庫ニ臨檢シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ備附ヲ要スル帳簿書類及物件ニ關シ檢査ヲ爲スコトヲ得

**第四十七條** 朝鮮及臺灣ニ於テハ第三十七條第二項、第三十八條及第四十三條ノ規定ニ關シ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

**第七章 罰 則**

**第四十八條** 航空標識ヲ損壞シタル者又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無効タラシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

**第四十九條** 詐偽ノ信號ヲ爲シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ航空ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

**第五十條** 現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ヲ墜落、顛覆若ハ覆没セシメ又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

前條ノ罪ヲ犯シ因テ現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ノ墜落、顛覆、覆没又ハ破壞ヲ致シタル者亦前項ノ例ニ同シ

示セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ虛偽ノ國籍記號若ハ登録記號ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

**第五十六條** 第十五條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十二條第一項ノ規定ニ依リ爲シタル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

以下ノ懲役ニ處ス

第三十條第二項ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止ニ違反シタル者、第三十一條ノ規定ニ依ル禁止ニ違反シタル者又ハ第三十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

**第五十八條** 第二十九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第四十五條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

**第五十九條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第二十三條ノ三又ハ第二十四條第一項ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者
- 二 故ナク當該官吏ノ臨檢若ハ檢査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌

**第五十一條** 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

**第五十二條** 過失ニリ航空ノ危險ヲ生セシメ又ハ現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ノ墜落、顛覆、覆没又ハ破壞ヲ致シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

**第五十三條** 詐術ヲ用キ第五條若ハ第十一條ノ檢査ヲ受ケ又ハ不實ノ事項ヲ登録セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

**第五十四條** 第四十九條、第五十條第一項及前條ノ未遂罪ハ之ハ之ヲ罰ス

**第五十五條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第五條又ハ第十一條ノ檢査ニ合格セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ第三十二條ノ規定ニ違反シタル者
- 二 第十四條第一項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ爲シタル命令ニ違反シタル者
- 三 第九條ノ規定ニ違反シテ國籍記號若ハ登録記號ヲ表

避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

**第六十條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第九條ノ規定ニ違反シテ航空機所有者ノ氏名名稱若ハ住所ヲ表示セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ虛偽ノ氏名稱若ハ住所ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者
- 二 第十條ノ規定ニ違反シテ堪航證明書又ハ登録證明書ヲ備付ケサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者
- 三 第十七條ノ規定ニ違反シタル者

**第六十一條** 第二十一條、第二十二條、第二十七條第一項、第二十八條、第三十四條乃至第三十六條又ハ第四十條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

**第六十二條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第二十三條ノ規定ニ違反シタル者
- 二 第二十七條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケシテ使用料ノ請水ヲ爲シタル者

**第六十三條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ過



料ニ處ス

- 一 第五條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シタル者
- 二 第七條第三項又ハ第八條第三項ノ規定ニ依ル登録ノ申請ヲ怠リタル者
- 三 第八條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル堪航證明書又ハ登録證明書ノ返付ヲ怠リタルモノ
- 四 第二十條第三項ノ規定ニ依ル航空免狀ノ返付ヲ怠リタル者
- 五 第四十條第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リタル者

前項ニ規定スル過料ハ法人ニ在リテハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用ス

**第六十四條** 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

**附 則**

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和二年五月勅令第四百號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（未施行）  
〔註〕 左ノ條項ヲ改正又ハ追加シタル昭和十一年法律第三十四號ハ未ダ施行セラルルニ至ラザルモ本書ニ於テ

航空ノ障害ト爲ルヘキモノア及附近交通圖  
ルトキハ之ヲ圖示スルコト

- 八 恒風位
- 九 設置期間
- 十 設置費
- 十一 設備維持方法
- 十二 既存設備ノ概要
- 十三 豫定設備ノ概要
- 十四 工事著手及竣功豫定期日
- 十五 工事設計書、仕様書及圖面

**第八十七條** 飛行場ノ區域ヲ變更セムトスル者ハ變更事項ヲ具シ許可申請書ヲ遞信大臣ニ提出シ且當該飛行場所在地ヲ管轄スル地方長官ニ其ノ副本ヲ提出スヘシ

**第八十八條** 飛行場ノ設置アリタルトキハ左ノ事項ヲ告示ス告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

- 一 設置ノ目的
- 二 經營者ノ氏名又ハ名稱及住所
- 三 用地所有者ノ氏名又ハ名稱及住所
- 四 飛行場名及所在地名
- 五 陸上、水上又ハ水陸兩用飛行場ノ別

ハ便宜上右改正法律ニ從ツテ掲載ス

- 第一條、第十七條、第二十五條第一項、第三十五條、第五十九條第一號（以上改正）
- 第三條第三項、第二十三條ノ二、第二十三條ノ三、第二十六條第一項、第三十八條ノ二（以上追加）

◎航空法施行規則（昭和二年五月五日）（抄）

第六章 飛行場

**第八十六條**

飛行場ヲ設置セムトスル者ハ許可申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ遞信大臣ニ之ヲ提出シ且當該飛行場豫定地ヲ管轄スル地方長官ニ其ノ副本ヲ提出スヘシ

- 一 設置ノ目的
- 二 經營者ノ氏名又ハ名稱及住所
- 三 飛行場豫定地所有者ノ氏名又ハ名稱及住所
- 四 飛行場名及所在地名
- 五 陸上、水上又ハ水陸兩用飛行場ノ別
- 六 面積及地形
- 七 實測圖 飛行場豫定地ノ境界ヨリ外方五百メートルノ區域内ニ於テ建物、煙突、電柱、電線其ノ他

六 面積及地形  
七 實測圖 飛行場ノ境界ヨリ外方五百メートルノ區域内ニ於テ建物、煙突、電柱、電線其ノ他航空ノ障害ト爲ルヘキモノアルトキハ之ヲ圖示スルコト及附近交通圖

- 八 恒風位
- 九 設備ノ概要
- 十 設置期間

飛行場廢止セラレタルトキハ其ノ旨告示ス

**第八十九條**

公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ廢止セムトスルトキハ飛行場ノ經營者ハ其ノ一月前迄ニ理由ヲ具シタル許可申請書ヲ遞信大臣ニ提出シ且其ノ副本ヲ當該飛行場所在地ヲ管轄スル地方長官ニ提出スヘシ公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ公共ノ用ニ供セサル飛行場ニ變更セムトスルトキ又ハ公共ノ用ニ供セサル飛行場ヲ公共ノ用ニ供スル飛行場ニ變更セムトスルトキ亦同シ

**第九十條**

公共ノ用ニ供セサル飛行場ヲ廢止セムトスルトキハ飛行場ノ經營者ハ豫メ其ノ旨ヲ遞信大臣及當該飛行場所在地ヲ管轄スル地方長官ニ届出ツヘシ

**第九十三條**

地方長官保安上必要アリト認ムルトキハ飛行場ノ經營者ニ對シ飛行場使用ノ制限ヲ命シ又ハ公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ニ對シ航空ニ必要ナル設備ヲ爲



サシムルコトヲ得

**第九十四條** 地方長官航空法第二十四條第二項ノ出願ヲ許可シタルトキハ出願者ニ許可證ヲ交付シ且其ノ旨土地又ハ物件ノ占有者ニ通知スヘシ其ノ通知ヲ爲シ難キトキハ其ノ旨公告スヘシ

**第九十五條** 前條ノ規定ニ依リ許可證ノ交付ヲ受ケタル者他人ノ土地ニ立入り若ハ障礙ト爲ルヘキ物件ヲ除去シ又ハ必要ナル土地若ハ物件ヲ使用セムトスルトキハ當該許可證ヲ携帶スヘシ

**第九十六條** 航空法第二十五條第二項ノ規定ニ依リ補償金額ノ決定ヲ求メムトスル者ハ相手方トノ交渉顛末ヲ記載シタル申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

地方長官前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ寫ヲ相手方ニ交付シ期限ヲ定メ答辯書ヲ提出セシムヘシ

**第九十七條** 前條第二項ノ規定ニ依リ地方長官ノ指定シタル期限内ニ答辯書ノ提出ナキトキ又ハ申請書寫ノ交付ヲ爲スコト能ハサルトキハ地方長官ハ申請書ノミニ依リ補償金額ノ決定ヲ爲スコトヲ得

**第九十八條** 地方長官補償金額ノ決定ヲ爲シタルトキハ決定書ニ理由ヲ附シ之ヲ申請者及相手方ニ交付スヘシ

目的地ニ於テ他ノ貨物ニ先チ陸揚スヘシ天災事變ノ爲航海ノ途中ニ於テ積替若ハ陸揚スルトキ亦同シ

**第十八條** 第九條又ハ第十一條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

◎外國郵便規則(大正十年十二月二十七日 逓信省令第五十六號) (抄)

第五章 通 關

**第八十五條** 滿洲國以外ノ外國來小形包裝物、價格表記箱物及小包郵便物ニ付テハ名宛人ヨリ郵便物一箇毎ニ通關料十錢ヲ徵收ス滿洲國以外ノ外國來印刷物及商品見本ニシテ税關検査ニ付スヘキモノニ付亦同シ

**第八十六條** 外國來印刷物、商品見本、小形包裝物、價格表記箱物又ハ小包郵便物ニシテ關稅又ハ内國稅ヲ課セラレタルモノハ之ヲ郵便官署ニ留置キ到着通知書ヲ名宛人ニ送付ス名宛人ハ通知書ノ日附ヨリ起算シ二十日以内ニ税金ヲ納付シテ其ノ郵便物ヲ受取ルコトヲ得

關稅ノ賦課又ハ内國稅ヲ課セラレタル織物ノ評定價格ニ關シ稅關ニ異議ノ申立ヲ爲ス者ハ同時ニ其ノ事由ヲ關係郵便官署ニ届出ツヘシ其ノ異議ノ判定アリタルトキハ直ニ其ノ書類ヲ該郵便官署ニ呈示スヘシ關稅若ハ内國稅ノ

**第九十九條** 航空法第二十三條第二十四條第二十七條第一項及第二十八條ニ規定スル行政官廳ハ地方長官トス

**第一百條** 飛行場ニハ別ニ定ムル所ニ依リ風向標示設備及信號設備ヲ爲スヘシ

**第一百一條** 公共ノ用ニ供スル飛行場ニハ別ニ定ムル所ニ依リ航空標識ヲ設置スヘシ

第二款 通 信

◎郵便法(明治三十三年三月十三日 法律第五十四號) (抄)

**第六條** 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便專用舟車馬等ニ對シテハ渡津、運河、道路、橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス

職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人ハ何時ニテモ渡津ノ出船ヲ求ムルコトヲ得

**第九條** 郵便物検査ヲ受クヘキ場合ニ於テハ他ノ物件ニ先チテ直ニ検査ヲ受ク

◎鐵道船舶郵便法(明治三十三年三月十三日 法律第五十六號) (抄)

**第十一條** 船舶運送業者ハ船舶ニ搭載シタル郵便物ヲ其ノ

賦課ニ關シ訴願ヲ提起シ又ハ内國稅ノ賦課ニ關シ行政訴訟ヲ提起シタルトキ及其ノ訴願ノ裁決又ハ訴訟ノ判決アリタルトキ亦同シ

**第八十七條** 前條第二項ノ場合ニ於テ郵便物留置期間ノ經過ハ郵便官署ヘノ申出ヨリ異議ノ判定ノ確定、訴願ノ裁決又ハ訴訟ノ判決迄之ヲ停止ス但シ條約ニ留置期間ヲ定ムルモノニ付テハ其ノ最高限ヲ超ユルコトナシ

**第八十八條** 外國來印刷物、商品見本、小形包裝物、價格表記箱物又ハ小包郵便物ノ名宛人郵便物受領前之ヲ積戻シ、再輸出スル爲免税ノ取扱ヲ受ケ又ハ保税地域ニ搬入セムコトヲ稅關ニ申請スルトキハ同時ニ其ノ旨ヲ關係郵便官署ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ爲ストキハ第八十五條ノ料金ノ外郵便物一個毎ニ十錢ヲ納付スヘシ

**第八十九條** 外國來印刷物、商品見本、小形包裝物、價格表記箱物又ハ小包郵便物ノ名宛人ハ第五十九條及第八十六條ニ依リ留置期間經過後ト雖該郵便物ノ返送又ハ轉送前ナルトキハ之カ交付ヲ請求スルコトヲ得

**第九十條** (削除)



◎日滿郵便規則(明治四十三年三月二十八日 逕信省令第十一號) (抄)

第十九條 關東局管内發帝國宛ノ小包郵便物ニシテ關稅又ハ内國稅ヲ課シタルモノハ之ヲ郵便官署ニ留置キ到着通知書ヲ受取人ニ交付ス受取人ハ通知書ノ日附ヨリ起算シ二十日内ニ郵便官署ニ税金ヲ納付シテ其ノ郵便物ヲ受取ルコトヲ得

第二十條 關稅ノ賦課又ハ内國稅ヲ課シタル織物ノ評定價格ニ關シ稅關ニ異議ノ申立ヲ爲ス者ハ同時ニ其ノ事由ヲ關係郵便官署ニ申出ツヘシ其ノ異議ノ判定アリタルトキハ其ノ書類ヲ該郵便官署ニ呈示スヘシ關稅若ハ内國稅ノ賦課ニ關シ訴願ヲ提起シ又ハ内國稅ノ賦課ニ關シ行政訴訟ヲ提起シタルトキ及其ノ訴願ノ裁決又ハ訴訟ノ決判アリタルトキ亦同シ

第二十一條 前條ノ場合ニ於テ郵便物留置期間ノ經過ハ郵便官署ヘノ申出ヨリ異議ノ判定ノ確定、訴願ノ裁決又ハ訴訟ノ判決迄之ヲ停止ス

第二十二條ノ二 内地ニ輸入スル小包郵便物ニシテ内地ヨリ再ヒ輸出スルモノニ付テハ差出人ニ於テ該郵便物ノ名宛面及其ノ送票ニ「再輸出」ナル文字ヲ記載スヘシ

第二十一條ノ三 關東局管内發内地宛小包郵便物ノ名宛人郵便物受領前之ヲ積戻シ再輸出スル爲免稅ノ取扱ヲ受ケ又ハ保稅地域ニ搬入セムコトヲ稅關ニ申請スルトキハ同時ニ其ノ旨ヲ關係郵便官署ニ届出ツヘシ  
前項ノ届出ヲ爲ストキハ郵便物一個毎ニ付料金十錢ヲ納付スヘシ

◎電信法(明治三十三年三月十四日 法律第五十九號) (抄)

第八條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等ニ對シテハ渡津、運河、道路、橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス  
前項ノ工夫及配達人ハ何時ニテモ渡津ノ出船ヲ求ムルコトヲ得

第三十條 第六條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第七條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第八條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ強要シ若ハ正當ノ理由ナクシテ渡津ノ出船ヲ拒ミタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

◎電報規則(大正十四年八月二十二日 逕信省令第四十七號) (抄)

第一百十二條 艦船ニ宛テタル電報ニシテ舢船ヲ以テ配達ヲ

要スルモノニ付テハ舢船配達ノ取扱ヲ請求スルコトヲ得其ノ電報ニハ舢船配達ト指定スヘシ但シ受信人ヨリ舢船配達料ヲ徵收スル電報ニハ舢船配達ノ指定ニ代ヘ舢船配達料受信人拂ト指定スヘシ

舢船配達料三十錢ヲ超ユル場合ニ於テ發信人ハ配達ニ要スル實費額ヲ豫定シ之ニ相當スル舢船配達料ヲ納付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ納付金額ヲ指定略號ニ附記スヘシ

發信人ノ納付シタル舢船配達料カ舢船配達ニ要スル實費ニ滿タサル場合ニ於ケル其ノ不足額及舢船配達料受信人拂電報ノ舢船配達料ハ受信人ニ於テ之ヲ追納スヘシ

第一百十三條 艦船ニ宛テタル電報ニシテ別使配達及舢船配達ヲ要スル場合ニ於テ發信人其ノ一方ノミヲ指定シタルトキト雖之ヲ配達シ其ノ不足料金ハ受信人ヨリ之ヲ追徴ス

◎岩壁又ハ棧橋ニ繫留スル船舶ト陸上トノ間ノ電話連絡ニ關スル件(大正十五年四月九日 逕信省令第十三號)

第一條 公衆電話ノ用ニ供スル爲岸壁又ハ棧橋ニ繫留スル船舶ト陸上トノ間ノ電話連絡ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ適宜ノ方法ニ依リ左ノ事項ヲ受持電話官署ニ申出ツヘシ  
一 船舶繫留位置  
二 船舶名  
三 使用期間ヲ開始及終了ノ日時  
四 申請者ノ氏名又ハ名稱及住居又ハ事務所ノ所在地  
前項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦前項ノ例ニ依ル  
第二條 本令ニ依ル施設ヲ爲スヘキ場所及受持電話官署ハ別ニ之ヲ告示ス  
第三條 船舶内ニ裝置スヘキ電話機及附屬物品ノ設備及維持ハ申請者ヲシテ之ヲ行ハシム但シ特別ノ事由アルトキハ申請者ヨリ受持電話官署ヘノ申出ニ依リ所轄遞信局ニ於テ其ノ設備及維持ヲ爲スコトアルヘシ  
前項ノ規定ニ依リ申請者ニ於テ設備スヘキ電話機及附屬物品ハ別ニ告示スル遞信省所定ノ仕様書ニ該當シ又ハ電氣試驗所ノ型式證明ヲ受ケタルモノニ限ル  
第四條 申請者ハ左ノ區別ニ依ル料金ヲ受持電話官署ノ指定ニ從ヒ通貨ヲ以テ納付スヘシ  
一 使用料 使用期間内一回線毎ニ



一日未滿ハ  
一日之ヲ一日ト  
看做ス

四圍  
所轄逓信局ニ於テ電話機及附屬  
物品ノ設備及維持ヲ爲ス場合ニ  
ハ尙一圍ヲ附加ス

二 電話通話規則第二十七條ノ規定ニ依ル通話ニ關スル  
料金

第五條 本令ニ依ル電話機設置場所ハ受持電話官署ノ加入  
區域内ニ在ルモノト看做ス

第六條 電話規則第六十一條第一項、第七十條、第七十一  
條、第七十三條乃至第七十六條、第七十八條及第八十二  
條ノ規定及電話通話規則中加入者ニ關スル規定ニ同規則第  
ノ規定ハハ之ヲ本令ニ依ル申請者ニ準用ス  
之ヲ除ク

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎大正十五年逓信省令第十三號第二條  
ノ規定ニ依ル施設場所及受持局所

昭和二年十一月一日  
逓信省告示第二千四百三十三號

大正十五年四月 逓信省令第十三號第二條ノ規定ニ依ル施設場  
所及受持局所ヲ左ノ通定メ昭和二年十一月五日ヨリ之ヲ施

施設場所 受持局所

大阪港棧橋 天保山棧橋  
櫻島第一棧橋 櫻島第二棧橋  
第一繫船岸 第二繫船岸 第六繫船岸 第七繫船岸  
大阪中央電話局

昭和九年四月四日  
逓信省告示第八百三十一號

大正十五年四月 逓信省令第十三號第二條ノ規定ニ依ル施設場  
所及受持局所ヲ左ノ通定メ昭和九年四月三日ヨリ之ヲ施行  
ス

施設場所 受持局所

横濱港表高島町内國貿易棧橋  
A、B、C、D 横濱中央電話局

昭和十一年五月十一日  
逓信省告示第二千二十七號

大正十五年四月 逓信省令第十三號第二條ノ規定ニ依ル施設場  
所及受持局所ヲ左ノ通定メ本日ヨリ之ヲ施行ス

第六編 交通及通信 第二款 通信

行ス

施設場所 受持局所  
横濱港第四號岸壁 横濱中央電話局

昭和三年九月十一日  
逓信省告示第二千九十八號

大正十五年四月 逓信省令第十三號第二條ノ規定ニ依ル施設場  
所及受持局所ヲ左ノ通定メ本日ヨリ之ヲ施行ス

施設場所 受持局所

横濱港棧橋 A、B、C、D  
横濱港岸壁 自一至三號 自五至十二號  
横濱中央電話局

昭和九年二月三日  
逓信省告示第二百二十二號

大正十五年四月 逓信省令第十三號第二條ノ規定ニ依ル施設場  
所及受持局所ヲ左ノ通定メ昭和九年二月十五日ヨリ之ヲ施  
行ス

施設場所 受持局所

横濱港瑞穂町外國貿易岸壁  
A、B、C、D 横濱中央電話局  
横濱港山内町内國貿易棧橋  
E、F、G



第七編 雜

Faint, illegible text on the left page, likely bleed-through from the reverse side.

Faint, illegible text on the right page, likely bleed-through from the reverse side.